

墓地公園及び名地造成に伴う歴史文化財発掘調査報告書

# 久保上ノ平遺跡

1997

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

墓地公園及び宅地造成に伴う歴史文化財発掘調査報告書

# 久保上ノ平遺跡

1997

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会



图二

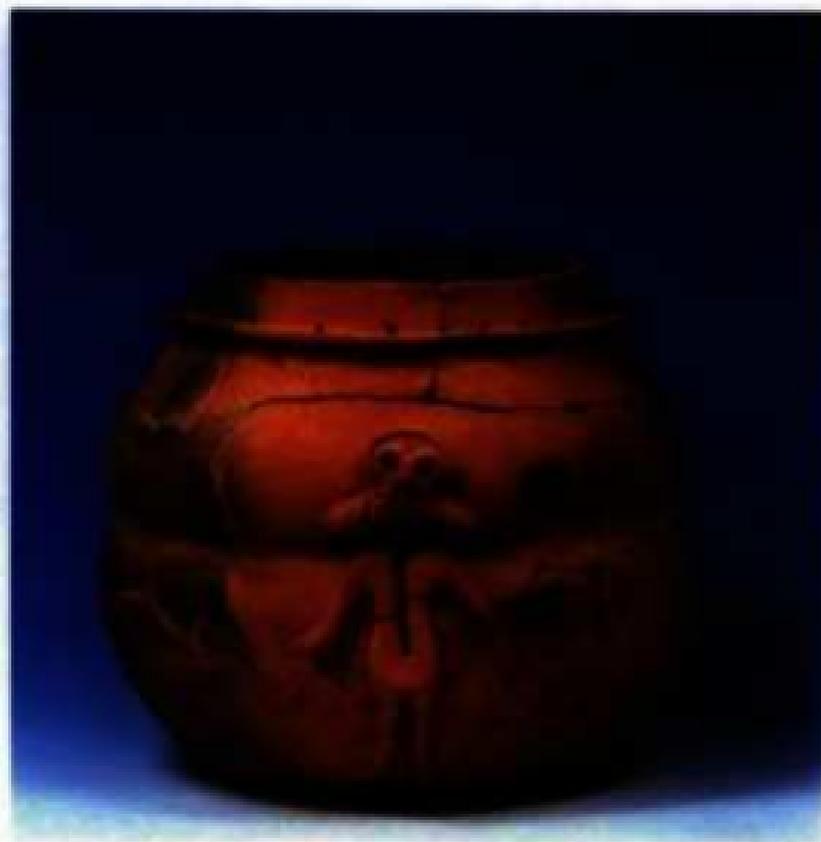


图 1-1-1 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)



人の手をもチーフにもつ土層片（土層観察用土）



土層観察用土層片（土層観察用土）



岩壁に刻まれた文字



大原上ノ平遠眺望 (明治29)

## 序

本報告書は、久保上ノ平地域に、高良郷村が墓地公園の造成工事を、続いて高良郷村土曜民衆会社が地味造成工事を行うに当たり、平成7年4月から9月まで、遺跡の記録調査のための実施した調査発掘調査の記録であります。発掘は墓地公園予定地の約1,000㎡、地味開発予定地の約1,000㎡を対象として行いました。

調査の結果、この遺跡は縄文時代中期、弥生時代前期、奈良平安時代の3時期にあたる複合遺跡であることが明らかとなりました。縄文中期の遺跡では、古付陶器や土器を中心とした祭祀行為を思わせる土器配列、建物には人の手を写真的に表現した土器破片、人形文様の付いた青瓦筒付土器など、特徴のあるものが出土しました。高良郷が影響を受けて発見されたことも特筆すべきことと思います。また、平安時代の住居跡からは瓦葺陶器がまとまって出土しており、当時の生活を知覚するのに大きな手がかりを考えてくれることでしょう。このような特徴をもつもの以外にも、遺跡・建物が多く、高い密度で出土しており、瓦葺・板葺に板道を敷き、たいへんな時間を必要としました。本報告書は記録性に重点を置いて記述・編纂しておりますので、村西土館に保管してある出土品や発掘記録とともに、研究の資料として活用していただければ幸いです。

発掘調査にお付き合いした明治大学教授（現学長）の伊藤克典先生は「この遺跡の立地、地層からして地域の中心となる大規模な集落的集落であると想定できる。集落はどのような広がりをもっているか、特殊遺跡は集落全体の中でどう位置づくか、土器の配列はどうなっているかなど、全体として解明されて、そのもつ意味がわかってくるであろう」と、今後の調査、発掘分析についてのご期待をいただきました。今後の課題として取り組みたいと思います。

3月末、調査の作業を終了するに当たり、私は調査員の皆さんに「今、こうして地表に露を現した遺跡を眺めて思うことは、およそ1,000年も前にこの土地に暮らしたい人々のことです。争いもなく、おたからかで、自然の恵みに感謝し、自然の偉大さへの畏れと敬みをもって生活していたことであろうと思います。祭祀場と集落される特殊遺跡をみて、その思いをさらに深くしました。また、高良郷に就いていた人達には、お墓がやせして申し訳ありませんでした。懐しくてくれた物は、大切に保存し子孫に伝えてまいります」と挨拶しました。そのあと、特殊遺跡と高良郷に道を通じ、調査区の前まで無邪気な挨拶をしました。目の届いた発掘現場に祭祀の一角が現れ、目をあげると、昔の人達も輝いていたであろう高アールズの山々が夕日に輝き、くっきりと見えておりました。

試掘からははじめて、発掘、出土品の整理、復元、報告書の作成に携わっていただいた調査員、作業員の皆さん、幸甚にありがとうございます。発掘現場に何回となく足を運んでご指導いただいた松文浩樹・藤田歴史館をはじめとする関係者方、発掘に手を貸していただいた近隣の学生の方々、その他多くの皆さんにたいへんお世話になりました。心から感謝申し上げます。

高良郷村教育委員会

理事長 杉 澤 崇

## 例 言

- 1 本書は長野県上伊那郡南箕輪村1164-1地丁敷に所在する久保上ノ平遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は南箕輪村による墓地公園の造成と南箕輪村土地開発公社による宅地造成に伴い、南箕輪村教育委員会が行ったものである。
- 3 この遺跡の名称を大和、大和遺跡として調査を行ったが、調査地の地字名から久保上ノ平遺跡と名称変更した。このことから本書全体では旧称を使用せず、久保上ノ平遺跡と記述している。
- 4 本書全体は発掘調査の結果を公開することに重点をおき、作成・編集した。
- 5 発掘調査は平成7年4月6日から平成7年5月20日まで行い、引き続き整理作業及び報告書の執筆・編集を行った。
- 6 本書作成における作業は以下のように行われた。
  - 遺構図の整理・トレース 五十嵐正子・藤澤京子・佐松 隆
  - 遺物の整理・トレース 太田洋二・小澤よね子・藤澤京子・平澤北久・佐松 隆
  - 撮影図作成 藤澤京子・松浦美佐枝・佐松 隆
  - 写真図面作成 松浦美佐枝・佐松 隆
- 7 本書の執筆・編集は佐松 隆が行った。
- 8 本書で掲載した図面の縮尺は、遺構図1:40、1:60、1:80に統一した。
- 9 遺物実測図は1:3、1:4を基準としているが、小規模の場合に2:3、1:2を用いた。
- 10 土器の復元は福沢幸一氏に委託し行った。
- 11 紙芝居原の複製は朝ジュスティックに委託し行った。
- 12 印刷費から半額の作成までの間、下記の機関、個人の方々にご協賛、ご協力を頂いた。
  - 機関 長野県教育委員会・長野県立歴史館・南箕輪村久保区  
南箕輪村文化財専門委員会
  - 個人 佐松 茂・藤澤政典・伊藤 啓・神村 達・藤本孝雄・小池 幸・小平和夫  
関 豊仁夫・高田哲男・高島新一郎・野谷裕孝・戸澤武則・藤島 圭・松原和也  
久山新一郎・正上隆徳・宮下健司・宮脇正実 (後掲巻 五十音順)
- 13 本書で報告した各記録、出土遺物は南箕輪村教育委員会にて保管している。

# 本文目次

目 録  
序 文  
解 説

第1章 遺跡の立場と環境	1
第1節 遺跡の位置	1
第2節 自然環境	2
第3節 歴史的環境	2
第4節 基本用語	6
第2章 調査の経緯	8
第1節 調査の経緯と経過	8
調査計画	11
第2節 調査の体制	15
第3章 調査結果	16
第1節 縄文時代の遺構と遺物	16
住居の位置	16
3号住居址  5号住居址  12号住居址  14号住居址  25号住居址	
27号住居址  28号住居址  29号住居址  30号住居址  31号住居址	
32号住居址  33号住居址  34号住居址  35号住居址  37号住居址	
38号住居址  40号住居址  41号住居址	
竪穴式住居址	41
竪穴式遺構	41
竪穴式遺構	48
竪穴 坑	49
第2節 弥生時代の遺構と遺物	111
住居の位置	111
4号住居址  14号住居址  15号住居址  19号住居址  21号住居址	
住居遺構	122
1号住居遺  2号住居遺  3号住居遺  4号住居遺  5号住居遺	
6号住居遺  7号住居遺  8号住居遺  9号住居遺	
住居遺址	123

第3章 奈良・平安時代の遺跡と遺物	133
石室の遺跡	133
1号位部址  2号位部址  4号位部址  5号位部址  9号位部址	
10号位部址  11号位部址  12号位部址  13号位部址  17号位部址	
20号位部址  21号位部址  22号位部址  26号位部址  29号位部址	
30号位部址	
第4章 千代田の遺跡と遺物	168
石室の遺跡	168
7号位部址  14号位部址	
石室立石跡部址	168
1号立石跡部址  2号立石跡部址	
石室の遺物	171
石室の遺物	171
石室内外出土遺物	171
第4章 結 語	174

引用参考文献

目 録

## 插图目录

第1图 逻辑位置图	1	第32图 20号位层出土器物类群图	39
第2图 地形、地貌区分图	3	第33图 20号位层出土土器类群图	40
第3图 周代墓葬分布图	5	第34图 20号位层出土器物类群图	40
第4图 土层状况图	7	第35图 20号位层出土器物	41
第5图 铜器类群图	9	第36图 20号位层出土器物类群图①	42
第6图 透孔金带图	10	第37图 20号位层出土器物类群图②	43
第7图 3号位层出土器物图	16	第38图 20号位层出土器物类群图③	44
第8图 3号位层出土土器类群图	17	第39图 20号位层出土器物	46
第9图 5号位层出土器物图	17	第40图 20号位层出土器物类群图	47
第10图 5号位层出土器物类群图	18	第41图 20号位层出土土器类群图	47
第11图 5号位层出土土器类群图	18	第42图 20号位层出土器物位置图	48
第12图 12号位层出土器物图	19	第43图 20号位层出土器物类群图①	49
第13图 12号位层出土器物类群图①	20	第44图 20号位层出土器物类群图②	50
第14图 12号位层出土器物类群图②	21	第45图 20号位层出土器物类群图③	51
第15图 12号位层出土土器类群图	21	第46图 20号位层出土器物类群图④	52
第16图 24号位层出土器物图	22	第47图 20号位层出土器物类群图⑤	53
第17图 24号位层出土器物类群图	23	第48图 20号位层出土器物类群图⑥	54
第18图 25号位层出土器物类群图①	24	第49图 20号位层出土器物类群图⑦	55
第19图 25号位层出土器物图	25 - 26	第50图 20号位层出土器物类群图⑧	56
第20图 25号位层出土器物类群图②	27	第51图 20号位层出土器物类群图⑨	57
第21图 25号位层出土器物类群图③	28	第52图 20号位层出土器物类群图⑩	58
第22图 25号位层出土器物类群图④	29	第53图 20-22号位层墓葬图	59 - 60
第23图 25号位层出土土器类群图	30	第54图 20号位层出土器物类群图⑪	61
第24图 25号位层出土器物类群图①	31	第55图 20号位层出土土器类群图	62
第25图 27号位层出土器物图	32	第56图 24号位层出土器物类群图	62
第26图 27号位层出土器物类群图①	34	第57图 24号位层出土器物	63
第27图 27号位层出土器物类群图②	35	第58图 24号位层出土器物类群图①	64
第28图 27号位层出土器物类群图③	36	第59图 24号位层出土器物类群图②	65
第29图 27号位层出土土器类群图	37	第60图 24号位层出土器物类群图③	66
第30图 27号位层出土器物类群图④	37	第61图 24号位层出土器物类群图④	67
第31图 28-29号位层出土器物图	38	第62图 24号位层出土器物类群图⑤	68

第43图	10号位层状夹泥岩	60	第97图	特殊层状粘土质粉砂岩②	105
第44图	10号位层状粘土质粉砂岩①	70	第98图	特殊层状粘土质粉砂岩③	106
第45图	10号位层状粘土质粉砂岩②	71	第99图	特殊层状粘土质粉砂岩④	107
第46图	17号位层状粘土质粉砂岩①	72	第100图	灰岩层状夹泥岩	108
第47图	17-20号位层状夹泥岩	73-74	第101图	灰岩层状粘土质粉砂岩	109
第48图	17号位层状粘土质粉砂岩②	75	第102图	上灰岩层状粉砂岩	110
第49图	17号位层状粘土质粉砂岩③	76	第103图	4号位层状粘土质粉砂岩	111
第50图	17号位层状粘土质粉砂岩④	77	第104图	4号位层状夹泥岩	112
第51图	17号位层状粘土质粉砂岩⑤	78	第105图	14号位层状土质粉砂岩	113
第52图	17号位层状粘土质粉砂岩⑥	79	第106图	14号位层状夹泥岩	114
第53图	17号位层状粘土质粉砂岩⑦	79	第107图	14号位层状粘土质粉砂岩	115
第54图	17号位层状粘土质粉砂岩⑧	80	第108图	14号位层状夹泥岩	116
第55图	17号位层状粘土质粉砂岩⑨	81	第109图	14号位层状粘土质粉砂岩	117
第56图	17号位层状粘土质粉砂岩⑩	82	第110图	19号位层状夹泥岩	118
第57图	17号位层状粘土质粉砂岩⑪	83	第111图	19号位层状粘土质粉砂岩	119
第58图	49号位层状夹泥岩	84	第112图	23号位层状夹泥岩	120
第59图	49号位层状粘土质粉砂岩①-④	84-86	第113图	23号位层状粘土质粉砂岩①	121
第60图	41号位层状粘土质粉砂岩①	87	第114图	23号位层状粘土质粉砂岩②	122
第61图	41号位层状粘土质粉砂岩②	88	第115图	1号层状基岩夹泥岩	123
第62图	41号位层状夹泥岩	89	第116图	2号层状基岩夹泥岩	124
第63图	41号位层状粘土质粉砂岩③	90	第117图	3号层状基岩夹泥岩	126
第64图	土质层状粘土质粉砂岩	91	第118图	4号层状基岩夹泥岩	127
第65图	土质层状粉砂岩	92	第119图	5号层状基岩夹泥岩	128
第66图	土质层状粘土质粉砂岩①	93	第120图	6号层状基岩夹泥岩	128
第67图	土质层状粘土质粉砂岩②	94	第121图	7号层状基岩粘土质粉砂岩	129
第68图	土质层状粘土质粉砂岩③	95	第122图	7号层状基岩夹泥岩	129
第69图	土质层状粘土质粉砂岩④	96	第123图	8号层状基岩-层状夹泥岩	130
第70图	土质层状粘土质粉砂岩⑤	97	第124图	9号层状基岩夹泥岩	132
第71图	土质层状粘土质粉砂岩⑥	98	第125图	1号位层状夹泥岩	133
第72图	土质层状粘土质粉砂岩⑦	99	第126图	1号位层状粘土质粉砂岩	134
第73图	特殊层状粘土质粉砂岩①	101	第127图	2号位层状夹泥岩	134
第74图	特殊层状粘土质粉砂岩②	102	第128图	2号位层状粘土质粉砂岩	134
第75图	特殊层状粘土质粉砂岩③	103	第129图	4号位层状粘土质粉砂岩	135
第76图	特殊层状粘土质粉砂岩④	104	第130图	6号位层状夹泥岩	136

第128図 6号位層出土遺物実測図①	137	第150図 20号位層実測図	155
第129図 6号位層出土遺物実測図②	138	第151図 20号位層出土遺物実測図	156
第130図 8号位層実測図	138	第152図 21号位層出土ヤブ実測図	156
第134図 8号位層出土遺物実測図	139	第153図 21-22号位層実測図	157
第135図 8号位層出土遺物実測図	140	第154図 21号位層出土遺物実測図	158
第136図 9・10号位層実測図	141	第155図 22号位層出土遺物実測図	159
第137図 7・8号位層出土遺物実測図	142	第156図 26号位層実測図	160
第138図 10号位層出土ヤブ実測図	142	第157図 26号位層出土遺物実測図	162
第139図 10号位層出土遺物実測図	143	第158図 26-29号位層実測図	163
第140図 11号位層出土遺物位置図	144	第159図 26号位層出土遺物位置図	164
第141図 11号位層実測図	145	第160図 26号位層出土ヤブ実測図	164
第142図 11号位層出土遺物実測図①	146	第161図 26号位層出土遺物実測図①	165
第143図 11号位層出土遺物実測図②	147	第162図 26号位層出土遺物実測図②	166
第144図 12号位層実測図	148	第163図 26号位層出土遺物実測図	167
第145図 12号位層出土遺物実測図	149	第164図 1-7号位層出土遺物位置図(169-170)	170
第146図 15号位層実測図	150	第165図 遺構外出土土器実測図	171
第147図 15号位層出土遺物実測図	151	第166図 遺構外出土遺物実測図①	172
第148図 17号位層実測図	153	第167図 遺構外出土遺物実測図②	173
第149図 17号位層出土遺物実測図	154		

## 表 目 次

第1表 遺跡遺構一覧表	6
第2表 土器調査出土土器量一覧表	66
第3表 土坑一覧表	172
第4表 縄文時代の遺構出土土器調査表	178
第5表 弥生時代の遺構出土土器調査表	180
第6表 奈良・平安時代の遺構出土土器調査表	181
第7表 土器調査表	187
第8表 その他の土製品	187
第9表 縄文時代の遺構出土石器調査表	188
第10表 弥生時代の遺構出土石器調査表	190
第11表 弥生時代の遺構出土銅器調査表	190
第12表 奈良・平安時代の遺構出土銅器調査表	191



# 目 次

- 図版 1 1号位層址 1号位層址 24号位層址 24号位層址炉址
- 図版 2 25号位層址 25号位層址土層断面 25号位層址遺物出土状態 25号位層址炉址
- 図版 3 27号位層址 27号位層址遺物出土状態 27号位層址土坑34遺物出土状態 28号位層址 28号位層址遺物出土状態
- 図版 4 29号位層址 29号位層址炉址 29号位層址遺物出土状態 29号位層址 29号位層址炉址
- 図版 5 31-32号位層址 32号位層址炉址 32号位層址遺物出土状態 32号位層址土坑37遺物出土状態 32号位層址遺物出土状態
- 図版 6 34号位層址 34号位層址炉址 34号位層址遺物出土状態
- 図版 7 35号位層址 37号位層址 37号位層址遺物出土状態
- 図版 8 40-49号位層址 40号位層址遺物出土状態 40号位層址土層断面 41号位層址
- 図版 9 特殊遺物 特殊遺物遺物出土状態
- 図版 10 配石坑 4号位層址 4号位層址炉址 4号位層址遺物出土状態
- 図版 11 16号位層址 18号位層址 18号位層址炉址
- 図版 12 19号位層址遺物出土状態 19号位層址 20号位層址炉址 21号位層址 21号位層址炉址 22号位層址遺物出土状態
- 図版 13 1号位層址 2号位層址 3号位層址 4号位層址 5号位層址 6号位層址 7号位層址 8号位層址
- 図版 14 1号位層址 2号位層址 6号位層址 6号位層址コマノ周に遺物出土状態 6号位層址遺物出土状態
- 図版 15 8号位層址 9号位層址 9号位層址コマノ輪部分 9号位層址遺物出土状態
- 図版 16 10号位層址 10号位層址コマノ 11号位層址 11号位層址コマノ 11号位層址遺物出土状態
- 図版 17 12号位層址 15号位層址 15号位層址コマノ 15号位層址遺物出土状態
- 図版 18 17号位層址 17号位層址コマノ 20号位層址 20号位層址コマノ 20号位層址遺物出土状態 21-22号位層址 21号位層址遺物出土状態 21号位層址コマノ
- 図版 19 21号位層址コマノ 24号位層址 24号位層址コマノ 24-25号位層址 24号位層址コマノ 24号位層址遺物出土状態
- 図版 20 26号位層址遺物出土状態 26号位層址コマノ 土坑1 土坑1土層断面 遺文刻施物、柱穴遺物
- 図版 21 27号位層址出土土器 24号位層址炉址埋藏土器 25号位層址炉址埋藏土器 25号位層址出土土器

- 國標22 27号位用城土土土器 28号位用城土土土器
- 國標23 30号位用城土土土器 30号位用城土土土器 31号位用城土土土器
- 國標24 32号位用城土土土器 32号位用城土土土器
- 國標25 33号位用城土土土器 33号位用城土土土器 33号位用城土土土器 34号位用城土土土器
- 國標26 34号位用城土土土器 34号位用城土土土器 35号位用城土土土器 37号位用城土土土器
- 國標27 37号位用城土土土器
- 國標28 40号位用城土土土器 41号位用城土土土器 特殊遺構出土土器
- 國標29 特殊遺構出土土器 瓦石出土土器
- 國標30 土坑27出土土器 25号位用城土土土器把手 34号位用城土土土器把手 34号位用城土土土器土器與陶器出土土器 土器與陶器出土土器 25号位用城土土土器 34号位用城土土土器
- 國標31 4号位用城土土土器 4号位用城土土土器 16号位用城土土土器 16号位用城土土土器 18号位用城土土土器 18号位用城土土土器 18号位用城土土土器 18号位用城土土土器 23号位用城土土土器 23号位用城土土土器
- 國標32 1号位用城土土土器 6号位用城土土土器 6号位用城土土土器 6号位用城土土土器 6号位用城土土土器 6号位用城土土土器 11号位用城土土土器 11号位用城土土土器
- 國標33 11号位用城土土土器 11号位用城土土土器 12号位用城土土土器
- 國標34 15号位用城土土土器 15号位用城土土土器
- 國標35 17号位用城土土土器 20号位用城土土土器 21号位用城土土土器 22号位用城土土土器
- 國標36 26号位用城土土土器 26号位用城土土土器 26号位用城土土土器
- 國標37 5号位用城土土土器 23号位用城土土土器 24号位用城土土土器 25号位用城土土土器 27号位用城土土土器 28号位用城土土土器 30号位用城土土土器 32号位用城土土土器
- 國標38 32号位用城土土土器 32号位用城土土土器 34号位用城土土土器 36号位用城土土土器 37号位用城土土土器 41号位用城土土土器
- 國標39 土器與陶器出土土器 27号位用城土土土器 28号位用城土土土器 41号位用城土土土器 土器與陶器出土土器 25号位用城土土土器 34号位用城土土土器 土器與陶器出土土器 土器與陶器出土土器 10号位用城土土土器 10号位用城土土土器 18号位用城土土土器 20号位用城土土土器
- 國標40 12号位用城土土土器 34号位用城土土土器 36号位用城土土土器 陶器與出土土器 遺構出土土器 11号位用城土土土器 6号位用城土土土器 30号位用城土土土器 29号位用城土土土器 7号位用城土土土器

# 第1章 遺跡の立地と環境

## 第1節 遺跡の位置

久保上ノ平遺跡は南アルプスと中央アルプスに挟まれた伊那谷北縁の天竜川右岸の段丘の南縁、標高約250mにあり、面積約1164平方メートル(久保上ノ平)で、谷の北縁の急傾斜のすぐ西に位置している。段丘上縁から下段の比較的狭い段丘間で、段丘の西は切り開かれた段丘が山麓まで続き、東は急傾斜に続き水田が広がり、北には北沢川が流れている。遺跡からは南下に天竜川



図1節 遺跡位置図

1:10,000

により形成された沖積地に広がる水田地域と、南アルプスの山麓を一望することができ、景観のたいへん美しいところである。

## 第2節 自然環境

南沢輪村は長野県伊豆山地北部の広く開けた地域の天竜川右岸に位置している。地形的にみると西に位置する本倉山麓部と山地に属する越ヶ谷南沢部の境域を除いては、その置を扇頂とする扇状地と天竜川により形成された沖積地からなっている。

扇状地は一部天竜川、小沢川の侵食扇状地になっているが、ほとんどが天竜川により形成されたものである。山麓から越ヶ谷北麓部までの幅は最大で約4.5km、標高は700mから900mに及び、東へ約3kmのゆるやかな傾斜地となっている。古くは山林や原野だったが、現在では広大な自然環境域となっている。

扇状地扇頂部は、扇頂部に積石が形成されている。また、扇状地扇頂部の頂部からなる小沢川の侵食により形成された沢が10餘所みられる。

天竜川沿いに長く積石は最大で標高差約40mを誇り、一部には扇頂の影響を顕著できるところがあるため、その地形形成は天竜川や天竜川等、河川の浸食や侵食だけでないことが想定される。

自然水系としては西の山地より流れる大泉川・大瀧水川・戸谷川のほか、前述した段丘崖を扇頂とする北沢川・轟沢川・滝ノ沢川等の小沢川が天竜川に流れ込んでいる。

西の山麓から流れ出る河川は扇状地扇頂部では伏流し水量は減少するが、扇頂部付近で再び湧出する。また、扇頂部には多くの湧水がみられる。この湧水は水量及び水温が比較的安定しているため、現在ではそれを活用したアサヒ農場が行われている。

これら扇頂部からの湧水量と水質は、昭和3年に扇状地を調査する形でつくられた扇状地水田調査資料の西天竜水田調査結果とそれとともに大瀧川分岐田により調査したといわれる。

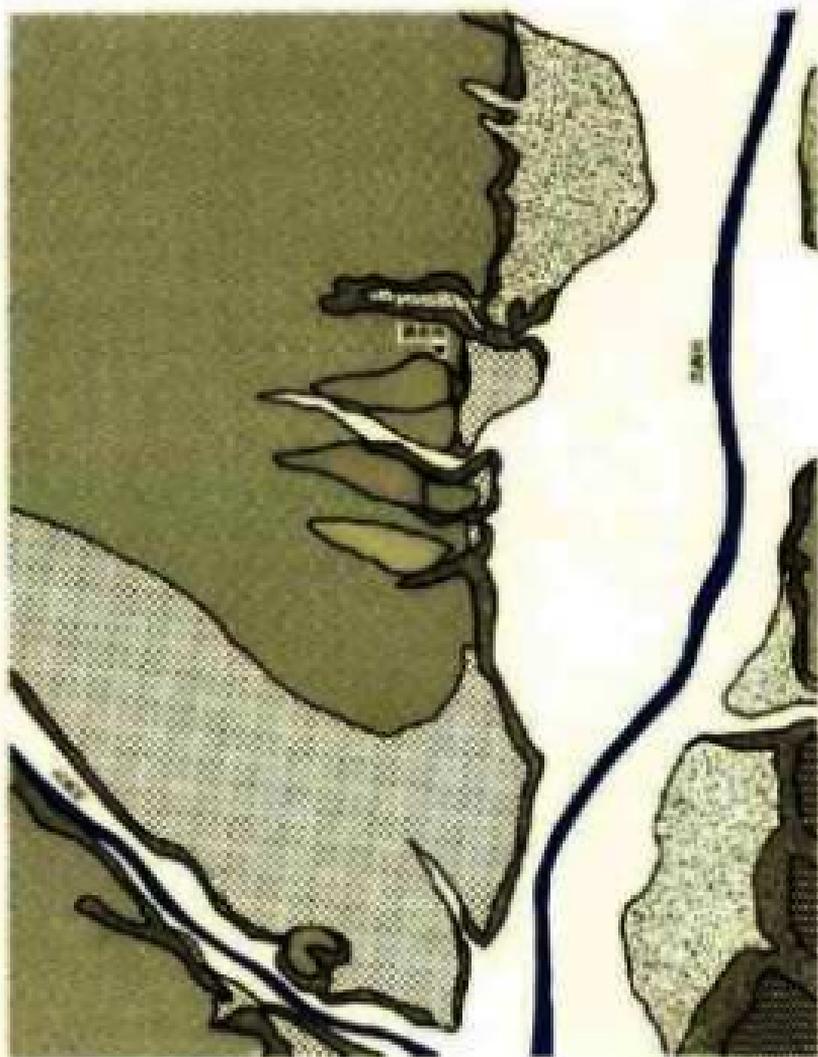
沖積地は昭和27年から30年にかけて実施された土地改良事業により水田地域となったが、それ以前は天竜川により形成された自然環境による後背扇状地と扇状地扇頂部からの湧水により、潤つた沢が点とする水田地域であった。近年この地域は宅地化がすすんでいる。

## 第3節 歴史的環境

南沢輪村には現在確認されているもので6の遺跡があるが、そのほとんどは扇状地を貫流する大泉川・戸谷川・大瀧水川の両岸と、扇状地扇頂部の天竜川右岸段丘上に位置している。

他に天竜川沖積地に遺跡遺構があり、北端の南輪跡と地蔵寺で大瀧川の一角を占めている。

これらの中でも重要なものは「神子飯遺跡」である。神子飯は大瀧水地帯に位置する神子飯は



SAND AND GRAVEL
  SAND
  CLAY
  SILT

WESTERN MICHIGAN

昭和12年に発見され、種子類型石第一種（遺跡文化研究所）の出土品とみた。

縄文時代ではこれまでに天竺遺跡・大芝東遺跡・北高根人遺跡・高根遺跡・高根橋遺跡などの調査で遺構、遺物が確認されている。これらの調査では早期・前期の遺物は確認されていないが、種子無遺跡の第3次調査で伴型文土器の破片が出土している。また、大芝東遺跡・高根橋遺跡・北高根人遺跡においても早期から前期にかけての上層片が出土している。住居址は天竺遺跡・大芝東遺跡・北高根人遺跡で確認されている。これらは前期末から後期にかけてのもので、量的には中期の遺構・遺物が多い。地層では遺構の確認はないが、種子無遺跡・高根橋遺跡で土器片が出土している。

舊石器時代では本村での遺跡の発出数は少なく、天竺遺跡・北高根人遺跡・北畑外遺跡でわずかにみられる。北畑外遺跡から中期の住居址が発出されているが、それはわずかでほとんどは後期にあたるものである。また、沖原地の天竺遺跡からは中期の出土品が多かったものの、土器・打製石器・石器等の遺物が出土している。

古墳時代では、子持町互と本刀が出土した丸山古墳が造られているほか、北畑外遺跡より圓形土器片が出土し、古墳時代前期前期関連の資料の追加をみた。また、天竺遺跡においては多くの住居址が発出され、そのなかから陶器を欠いてはいるが須恵器高坪が出土している。

なお、調査調査によるものではないが、宮ノ上遺跡より初期土器類高古付器や瓦片類など出土すべき遺物が出土している。

奈良・平安時代をみると、遺構はさらに各河川の河原段と周辺でも西の山麓付近にまで広がるようになる。古代東山遺との関連も含め、今後の検討課題の一つである。

また、宮ノ上遺跡からは平安時代中期の土器破片が確認された。しっかりとした石室みによる墳墓がほぼ完全な形で出土している。礎石を埋納してあった民権御霊塚遺構は瓦葺で出土し、村惣定文化財となっている。

中世には天竺町石原の成立跡にその地形を利用して、御本城・中込城・新田城・菅原城・内城などの城郭が築かれている。



表1表 調査箇所一覧表

番号	通 称 名	地 帯	地 質						備 考
			砂質	腐土	粘土	砂礫	中砂	中粒	
1	丸屋上ノ平	丸 塚		○	○	○	○		
2	丸 塚 下	丸 塚				○			
3	丸 塚 西	丸 塚		○	○				
4	丸 塚 東	丸 塚					○		
5	内 庭 池	堀ノ井		○	○	○	○		
6	裏 堀	堀ノ井・丸塚 東下・三浦町		○	○	○	○	○	昭和17年・平成4年調査
7	山 中 池	堀ノ井		○	○				
8	内 庭 池	丸 塚		○		○			
9	五 反 池	堀ノ井		○	○	○	○		昭和17年調査
10	堀 ノ 井	堀ノ井			○				平成4年調査
11	上 丸 塚	堀ノ井		○			○		
12	裏 堀	堀ノ井		○					
13	丸 塚 西	丸 塚			○	○			
14	丸 塚 東	丸 塚			○	○	○		
15	丸 塚 西	丸 塚		○					
16	丸 塚 東	丸 塚			○	○	○		平成17年調査
17	丸 塚 西	丸 塚		○	○		○		
18	裏 堀 池	丸 塚		○					
19	丸 塚 池	丸 塚		○	○				
20	堀 ノ 上	丸 塚		○		○			平成17年調査
21	裏 堀	丸 塚		○					
22	裏 堀	丸 塚		○					
23	神 子 池	神子池	○	○			○		昭和17年調査

## 第4節 基本層序

丸屋上ノ平遺跡は西から東方向に傾斜している段状段丘に位置している。調査地は長期間にわたる耕種として利用されており、土層構成状態も場所により大きく異なっている。

基本層序を必ずしも示されるものは入地区土層調査地点正に見られる。I層が赤土または腐土、II層が赤褐色土、III層が粘土、IV層が暗褐色土、V層がソフトローム層となる。

ソフトローム層から上の土層をみたとき、もっとも土層の厚みがみられるのは調査地の中央部から西側にかけての一部である。このことから調査地では、北方向から南方向にかけて厚積層がなだらかにくぼんだ状態となっていることが考えられる。

調査地東部の土層調査地点C・GではI層の下層部とII層の上層部に赤褐色土が混在に含まれる部分が見られることから、耕種の造成及び耕作による混在が認められる(図4節・表4節参照)。

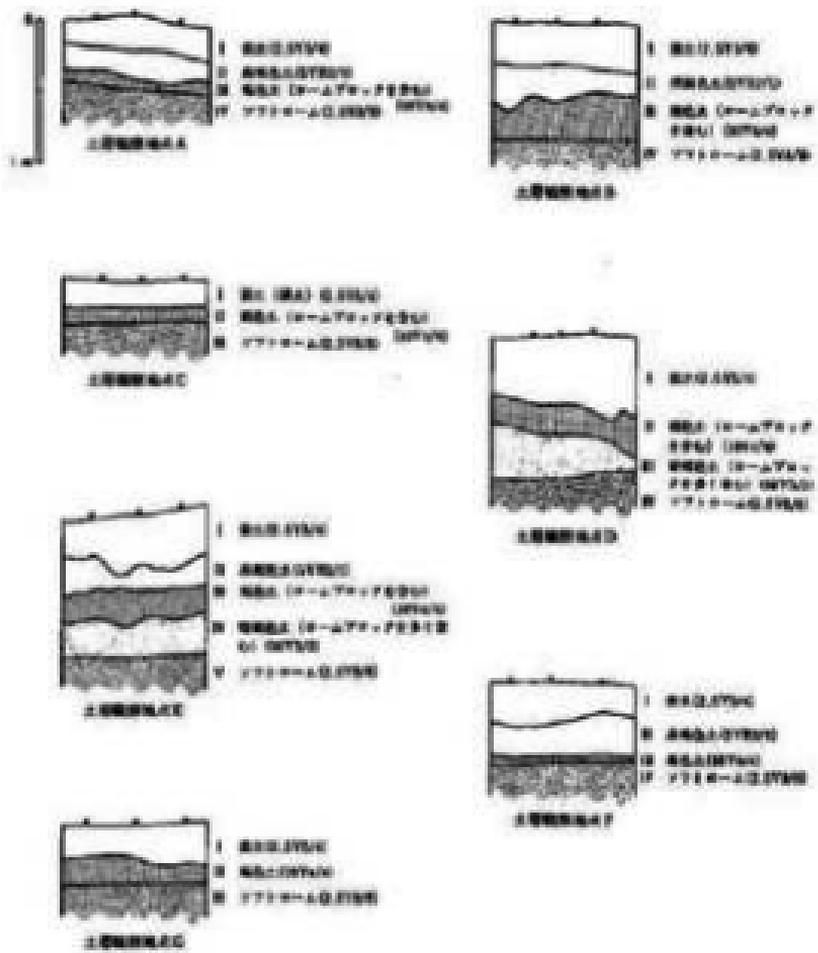


圖 4-2 土壤剖面圖

## 第2章 調査の経緯

### 第1節 調査の契機と経過

河内川流域の歴史上に位置する遺跡は、大抵遺跡中北部地域にみられるように縄文時代から平安時代にかけての遺跡が分布しているが、大塚川・戸田川などの河内川支流の河原段成り4に位置する遺跡と比較すると密度は非常に高い。

平成7年度に河内郡村で墓地公園の造成を大塚川の平上ノ平地部において計画したため、村教育委員会は造成予定地が河内川流域歴史上に位置し、過去に大塚川河原段成り4が行われていない、ほぼ自然の地形をとどめていることから、遺跡が埋没されていることを想定してトレンチによる試掘調査を平成8年12月に実施した。

調査の結果、平安時代の土器は遺跡とこれに伴う遺物を確認したほか、縄文土器・石器等の遺物も確認した。

これらの結果をもとに、翌年の平成7年4月上旬墓地公園駐車場部分を除く約1,000㎡の発掘調査を行った。

この調査期間中に開催する資料の遺跡において、河内郡村土地開発公社による宅地造成計画が具体化したため、墓地公園予定地の調査に引き続き約1,000㎡の発掘調査を実施することとなった。

宅地造成予定地内の遺跡の広がりを確認するため、墓地公園予定地に替えていない約1,000㎡をグリットによる試掘調査を実施した結果、遺跡が認められなかったため、宅地造成予定地の調査面積は1,000㎡とした。

これにより調査を円滑にすすめるために墓地公園予定地をA地区、宅地造成予定地をB地区とし、各区域ごとにグリットを設定した。グリットは3×3×3mとし、調査場所側から東側をA～Yのアルファベット、調査場所側より南側を数字順で表した(第4図参照)。

B地区の調査は、A地区の調査調査で確認した遺跡の位置を基として遺構で調査し、平安～平安時代の遺跡の上層確認・検出と進行して、トレンチによる縄文時代の遺跡の確認と検出を行った。

調査期間は、A地区の調査を4月6日から5月20日まで行い、B地区の調査は5月22日から7月20日まで行った。



圖 14 某某地

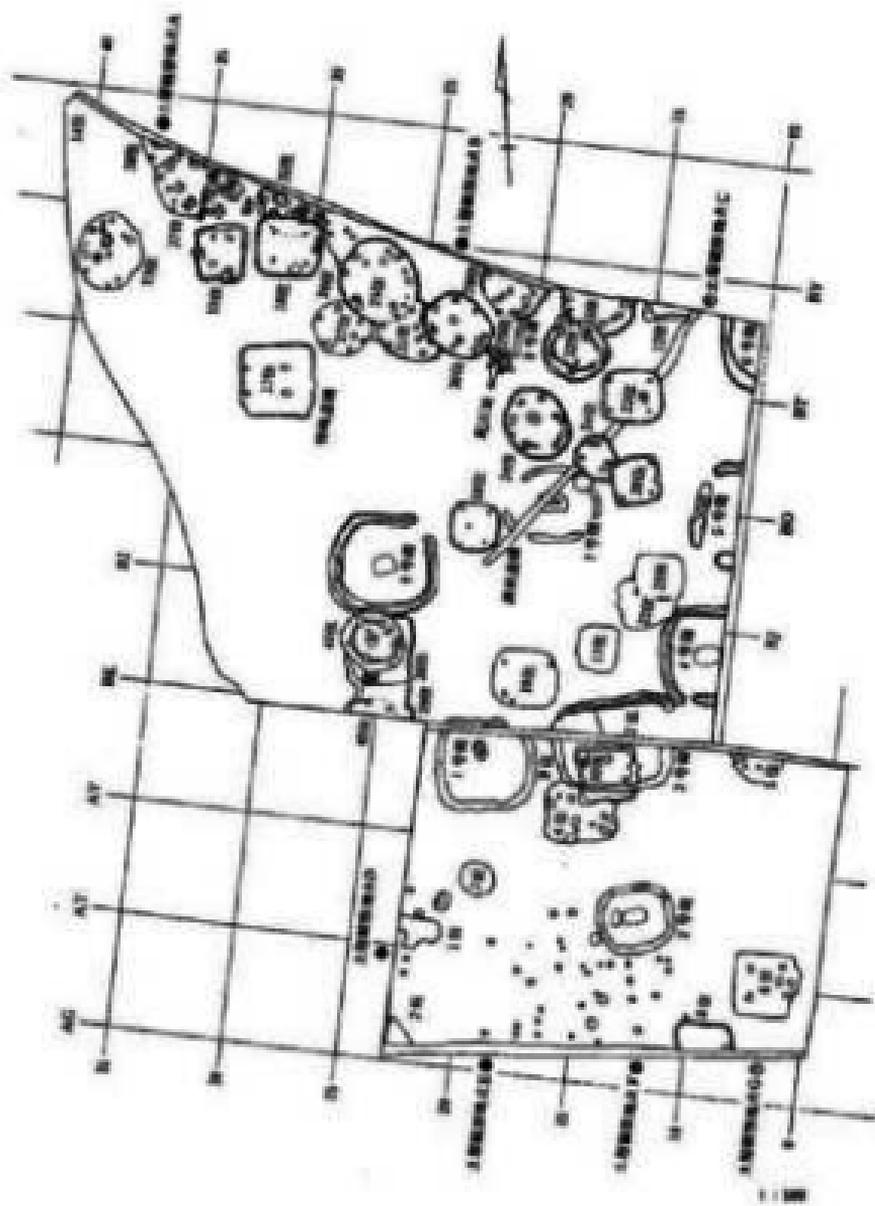


图 10 甲板图

## 調査日記

### 平成6年12月

- |        |   |        |   |
|--------|---|--------|---|
| 12月1日  | 調査地の案内を行う。                                      | 12月14日 | トレンチ1・5・6で位置図を確認する。続いてトレンチの上層確認を行う。                 |
| 12月5日  | 主要なトレンチの設定をする。                                  | 12月15日 | トレンチ2・5で位置図を確認する。続いてトレンチの分層を行う。                     |
| 12月9日  | サント・ペドロの掘入を行う。                                  | 12月19日 | トレンチの分層と記録を行う。                                      |
| 12月12日 | 遺構によりトレンチを掘削。続いて上層確認を行う。<br>副都土中より土器類・瓦文土器片が出土。 | 12月20日 | トレンチの分層と記録を行う。本日で記録を終了する。                           |
| 12月13日 | トレンチの上層確認を行う。午前中に雨が降り始めたため作業を中止する。              | 12月26日 | 鳥取県教育委員会文化課長と平塚、村松、福留、藤原、村松、教育委員会教育長及び担当者で現場の視察を行う。 |

### 平成7年4月

- |       |                             |       |                                 |
|-------|-----------------------------|-------|---------------------------------|
| 4月6日  | 遺構による遺土剥がと上層確認を行う。位置図3冊を確認。 | 4月17日 | 上層確認と実行して1号・2号・10号位置図の修正にはいる。   |
| 4月7日  | ブライットの設定と上層確認を行う。位置図3冊を確認。  | 4月18日 | ほぼ上層確認を終了する。1号・2号・4号位置図の修正にはいる。 |
| 4月10日 | 上層確認を行う。位置図3冊を確認。           | 4月19日 | 雨天のための作業中止。                     |
| 4月11日 | 上層確認と実行して南側壁面の調査及び分層を行う。    | 4月20日 | 3号位置図の修正にはいる。                   |
| 4月12日 | 雨天のための作業中止。                 | 4月21日 | 2号・3号位置図の修正にはいる。                |
| 4月13日 | 上層確認を行う。位置図1冊と柱穴図を確認。       | 4月24日 | 6号位置図の修正にはいる。                   |
| 4月14日 | 上層確認を行うが、午後になり雨天のための作業中止。   | 4月25日 | 雨天のための作業中止。                     |
|       |                             | 4月26日 | 各遺構の修正を行う。                      |
|       |                             | 4月27日 | 各遺構の修正及び記録を行う。                  |
|       |                             | 4月28日 | 各遺構の修正及び記録を行う。                  |
|       |                             | 4月30日 | 現地説明会を行う。                       |

### 平成7年5月

- |      |             |      |                  |
|------|-------------|------|------------------|
| 5月1日 | 雨天のための作業中止。 | 5月3日 | 各遺構の修正と記録。       |
| 5月2日 | 雨天のための作業中止。 | 5月5日 | 各遺構の修正と記録。現地調査終了 |

- を撮影する。
- 5月10日 尾瀬湖と柱状節の撮影にはいる。
- 5月11日 各遺跡の撮影と記録を行う。
- 5月12日 各遺跡の撮影と記録を行う。午後は大塚平塚のための作業中止。
- 5月13日 雨天のための作業中止。
- 5月14日 雨天のための作業中止。
- 5月15日 一日中、天気不順であったが調査を行う。
- 5月16日 住居跡の撮影をほぼ終了。記録を行う。
- 5月17日 あらたに尾瀬湖1層を撮影。撮影にはいる。
- 5月18日 雨天のための作業中止。
- 5月19日 遺跡の記録を行う。
- 5月20日 遺跡及び調査地北側の土層断面を記録する。
- 5月21日 遺跡の記録を行う。
- 5月22日 遺跡道の記録と調査地の片付けを行い、出土遺物の全数写真撮影して調査を終了する。午後にはに調査する尾瀬湖成層定地調査の作業を行う。
- 5月23日 尾瀬湖成層定地を日地区とし、湖底の調査作業を行う。調査土層片の他、各種特殊器具を採取する。
- 5月24日 遺跡により日地区知地区内の出土物と土層撮影を行う。

#### 平成7年6月

- 6月1日 遺跡での出土物と土層撮影を行う。尾地区で確認した尾瀬湖のつづきと、あらたに3層の調査箇所を確認する。
- 6月2日 遺跡による出土物と土層撮影を行う。尾瀬湖2層と住居跡4軒を確認する。
- 6月3日 遺跡による出土物と土層撮影を行う。調査地北西側に多量の縄文土層片が出土する。
- 6月4日 遺跡による出土物と土層撮影を行う。
- 6月7日 遺跡による出土物と土層撮影を行う。
- 6月8日 土層撮影を行う。午後にはグリの設定をして、土層撮影で出土した遺物の取り上げを行う。
- 6月9日 雨天のための作業中止。
- 6月10日 土層撮影を行う。住居跡2軒を確認する。
- 6月11日 雨天のための作業中止。
- 6月14日 土層撮影を行う。住居跡2軒と柱穴を確認する。
- 6月15日 土層撮影と先行してトレンチを4本設定し、うち2本を撮影する。1号住居跡の一角を埋戻し確認する。
- 6月16日 トレンチの掘削。出土層中で住居跡を1軒確認する。
- 6月18日 トレンチをあらたに4本設定して掘削する。縄文土層が露出して出土した部分の写真撮影をする。
- 6月20日 トレンチの掘削。ローママウンドを確認する。1号住居跡の状況にはいる。
- 6月21日 トレンチの掘削。住居跡3軒を確認

- する。また、規則的な配列がされた腐文土器の群体が3箇所で見出される。
- 6月22日 トレンチの掘削。配列が多れた腐文土器からほど近いところで土が打ち抜かれた合併浅型土器が見出される。
- 6月23日 雨天のため作業中止。
- 6月24日 トレンチの掘削。あらたに腐文土器を確認する。雨天不働のため午前中で作業を中止する。

#### 平成7年7月

- 7月3日 雨天のため作業中止。
- 7月4日 雨天のため作業中止。
- 7月5日 雨天のため作業中止。
- 7月6日 雨天のため作業中止。
- 7月7日 道中の雨天により遺物の発出は中止する。トレンチ掘削時の出土を移動する。
- 7月10日 各遺物の発出と記録を行う。トレンチの発掘と記録をする。雨により佐原城内に流れこんだ泥を取り除く作業をする。
- 7月11日 各遺物の発出と記録を行う。
- 7月12日 雨天のため作業中止。
- 7月13日 各遺物の発出と記録を行う。
- 7月14日 雨天のため作業中止。
- 7月17日 雨天のため作業中止。
- 6月17日 厚狭部の上層確認と佐原城の発出にはいる。
- 6月18日 遺物の発出を行う。11号佐原城は火災被害であることがわかる。
- 6月19日 遺物の発出を行う。佐原城の土層断面の記録をとる。
- 6月20日 遺物の発出を行う。土器の配列された遺物の調査を行う。
- 7月18日 各遺物の発出と記録を行う。午前中に小雨降で休止。
- 7月19日 各遺物の発出と記録を行う。午後に村瀬幸彦氏訪。
- 7月20日 雨天のため作業中止。
- 7月21日 雨天のため作業中止。
- 7月24日 各遺物の発出と記録を行う。遺物の取り上げをはじめる。
- 7月25日 各遺物の発出と記録を行う。
- 7月26日 各遺物の発出と記録を行う。12号佐原城であったために2軒の佐原城を確認。
- 7月27日 各遺物の発出と記録を行う。
- 7月28日 一時雨天となるが、作業をつづける。
- 7月29日 各遺物の発出と記録を行う。

#### 平成7年8月

- 8月1日 各遺物の発出と記録を行う。
- 8月2日 各遺物の発出と記録を行う。8号厚狭部上層確認。
- 8月3日 各遺物の発出と記録を行う。午前中に伊原北有紀歴史館見学。
- 8月4日 各遺物の発出と記録を行う。

- 8月7日 各道庁の検出と記録を行う。調査施設間でトレンチにより調査の位置統一等を確認する。
- 8月8日 各道庁の検出と記録を行う。現場のトレンチの記録をする。
- 8月9日 各道庁の検出と記録を行う。トレンチの試掘を引続き行う。位置統一等をあらたに確認する。
- 8月10日 各道庁の検出と記録を行う。午後、雨天のため作業中止。
- 8月11日 各道庁の検出と記録を行う。トレンチによりあらたに確認した位置は7割となる。群馬道県より人の手をかきだった土層片が出土する。
- 8月17日 各道庁の検出と記録を行う。県立歴史館を幸の三上史。調査報告のための風景。
- 8月18日 各道庁の検出と記録を行う。
- 8月21日 各道庁の検出と記録を行う。
- 8月22日 各道庁の検出と記録を行う。
- 8月23日 各道庁の検出と記録を行う。トレンチによる遺物の確認を完了し、検出に詳しい。
- 8月24日 各道庁の検出と記録を行う。
- 8月25日 各道庁の検出と記録を行う。
- 8月26日 各道庁の検出と記録を行う。
- 8月27日 各道庁の検出と記録を行う。墓域の遺物を集土層へ搬入する。
- 8月28日 各道庁の検出と記録を行う。惣掘遺物の配列された土層の取り上げ。
- 8月29日 各道庁の検出と記録を行う。
- 8月30日 各道庁の検出と記録を行う。
- 8月31日 雨天のため作業中止。

#### 平成7年9月

- 9月1日 各道庁の検出と記録を行う。
- 9月2日 各道庁の検出と記録を行う。
- 9月4日 各道庁の検出と記録を行う。
- 9月5日 各道庁の検出と記録を行う。
- 9月6日 各道庁の検出と記録を行う。
- 9月7日 各道庁の検出と記録を行う。
- 9月8日 各道庁の検出と記録を行う。7号調査基由より2号位置を確認する。
- 9月9日 各道庁の検出と記録を行う。明治大学戸田教授、村教育委員会関係者、遺跡を視察。
- 9月11日 各道庁の検出と記録を行う。
- 9月12日 各道庁の検出と記録を行う。2号位置を確認する。
- 9月13日 各道庁の検出と記録を行う。2号位置を確認する。
- 9月15日 雨天のため作業中止。
- 9月16日 雨天のため作業中止。
- 9月18日 各道庁の検出と記録を行う。20・40・45号位置を確認する。
- 9月19日 各道庁の検出と記録を行う。40号位置はより人骨文のあられる骨片露出土層が出土する。
- 9月20日 各道庁の検出と記録を行う。本日午後終了のため片付けを行う。
- 9月21日 調査地周辺地区の私立開校を行う。

## 第2節 調査の体制

○試案調査 調査担当 文松 謙 (奈良編制教育委員会社会教育係主任)

調査協力量 佐藤孝男 (奈良編制教育委員会社会教育係主任)

調査作業員 (五十名程度)

伊藤美子 小原よ七子 森口 正 藤原節子 山田武志

○調査調査 調査委員 杉原 敏 (奈良編制教育委員会教育課)

調査担当 文松 謙 (奈良編制教育委員会社会教育係主任)

調 査 員 福村幸一

調査作業員 (五十名程度)

菅野 信 藤原美智子 五十嵐正子 池上幸晴人 伊藤 忠

伊藤美子 伊藤美子 守谷由一 大崎祥二 小原よ七子

工藤 洋 工藤 孝 倉田しげ子 倉田睦子 森原正典 小松孝信

清水よし子 城倉正成 松岡謙悟 松矢あづ子 田中眞人

中野ひとみ 高橋裕司 坂 公也 坂 泰子 平澤正久 藤原孝子

藤村忠美子 藤原のり子 野間原 正 堀 五郎雄 堀 千恵子

平井秀明 松澤真太郎 山田武志

○事 務 員 (平成8年度)

杉 原 敏 (奈良編制教育委員会教育課)

藤 原 節 子 (奈良編制教育委員会教育課)

藤 原 由 二 (奈良編制教育委員会社会教育係)

佐 藤 孝 男 (奈良編制教育委員会社会教育係主任)

菅 野 信 (奈良編制教育委員会公民課主任)

松澤真太郎 (奈良編制社会教育係主任)

## 第3章 調査結果

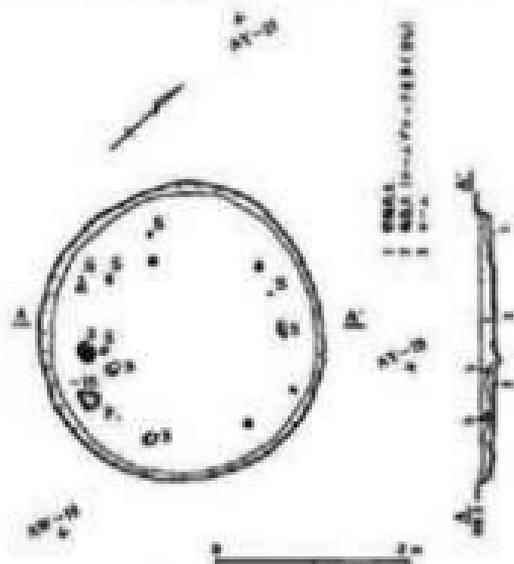
### 第1節 縄文時代の遺構と遺物

#### (1) 竪穴住居址

##### 3号住居址 (第7図)

A地区で検出した。長軸3.1m、短軸2.9mの平面形状を示す。壁残高は15cm～12cmである。断面は検出できなかった。断面はローム層まで掘り込まれ用を認められているが、掘り面は全体的に数層である。ピットは1基検出したのみで他には検出できなかった。このピットが土坑になるのかは判然としない。

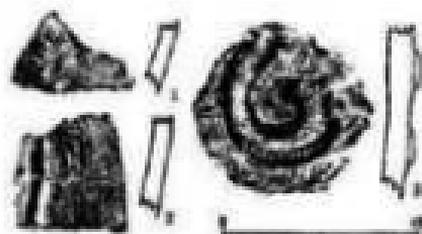
遺物は少なく、層土中層より縄文土器片(図8-1-1)が数点出土しているのみである。よって本址の時期は判然としないが、縄文時代中層中層であることが考えられる。



第7図 3号住居址平面図

##### 5号住居址 (第9図)

A地区で検出した。位置はのり3分の2は調査区外になるため方位は不明であるが、平面形状を示すとと思われる。壁残高は15cm～6cmである。断面は検出できなかった。断面はローム

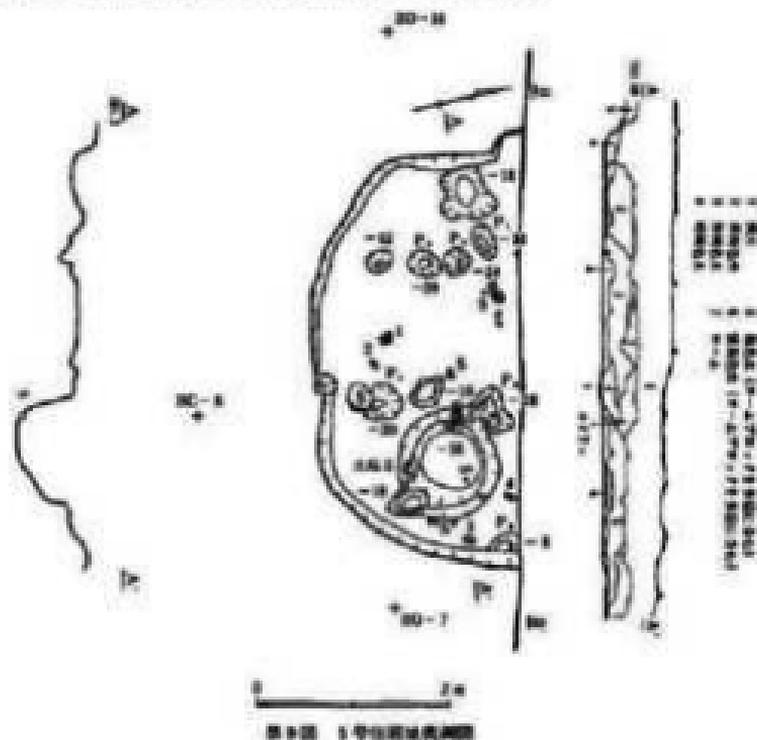


第3図 2号墳跡出土土器配置図

図の北側の境界の良好な部分の深下には長さ12m、幅約10m、厚さ50cmの土版工があり、この版土中層から多大の黒曜石が出土している。

伊は調査区内からは発見できなかった。遺物は土版片 (図30-1-4) が版土中層及び版土直上より出土しているが、数は少ない。他に打製石器 (図30-1-5) が出土している。

本址遺跡の時期は遺物等から縄文時代中期後葉であると思われる。



第4図 1号墳跡配置図

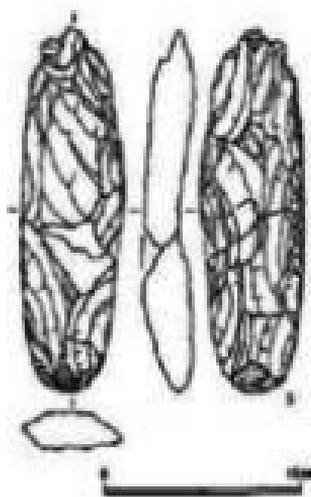


図1図 1号産卵器出土産物の形態

産卵器より取り出され、強く甲と硬められており、節よりは全体的にたいへん良好である。真面に張り出し部分が見られるが、腹面とのレベルがほぼ同一であることから半分に折うものと見られる。ゼットにはほぼ横置した。断面には伊豆が多数認められることから、産卵器には産卵管のあることが考えられ、位置的にみて、P<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>が産卵穴であると思われる。新しい産卵穴はP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>と思われ、旧産卵穴を再使用していることが考えられる。このうちP<sub>1</sub>とP<sub>2</sub>は腹面に張り度を出す。

伊豆は3個取り出した。伊豆1は長軸7mm、短軸5mmのほぼ楕円形で、長さ5mmに張りくぼめた産卵管である。内部には産卵管が認められる。伊豆2は産卵管中央よりやや北側に位置し、長軸11mm、短軸7mmのほぼ楕円形で長さ10mmに張りくぼめた産卵管と認められる。内部には産卵管が認められ、伊豆が張り取られた面が見られる。この2つの伊豆はほぼ同一のレベルにある。ゼットの位置及び2つの伊豆等から、この産卵器はほぼ完全に使用していることが考えられる。

産物は伊豆2の両側から産卵器土器(図10-1-7)、産土層及び中層より土層片(図10-1-10)が出土したほか、産土中層より産卵(図10-3-5)。また、P<sub>1</sub>より産卵(図10-1)、P<sub>2</sub>より産卵(図10-2、図10-7)の産卵が出土している。

本産卵器の産卵は産卵器から縄文時代中層中層から後層にかけてのものであると思われる。

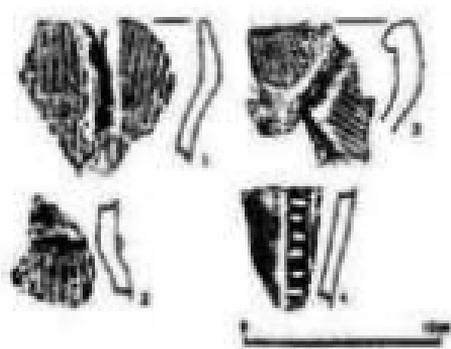


図2図 1号産卵器出土産物の形態

13号産卵器 (図12図)

真面に抽出した。長軸6.5mm、短軸5.5mmのほぼ楕円形を示す。産卵はP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>をのみ、産卵高は5mm-12mmである。産卵は抽出できなかった。断面はコーン型で張り込まれ、強く甲と硬められており、節よりは全体的にたいへん良好である。真面に張り出し部分が見られるが、腹面とのレベルがほぼ同一であることから半分に折うものと見られる。ゼットにはほぼ横置した。断面には伊豆が多数認められることから、産卵器には産卵管のあることが考えられ、位置的にみて、P<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>が産卵穴であると思われる。新しい産卵穴はP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>と思われ、旧産卵穴を再使用していることが考えられる。このうちP<sub>1</sub>とP<sub>2</sub>は腹面に張り度を出す。

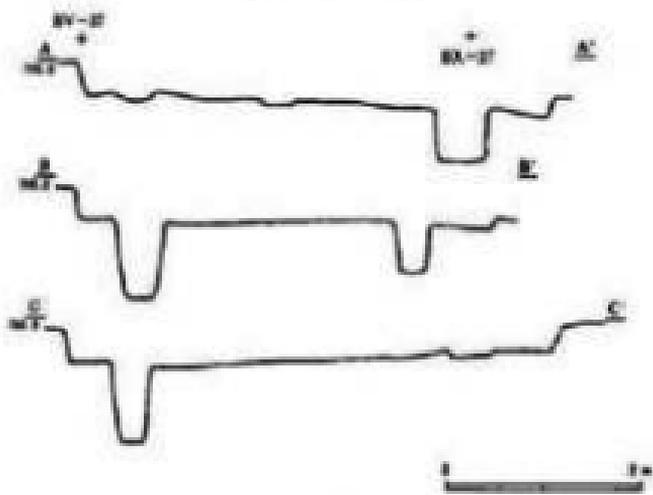
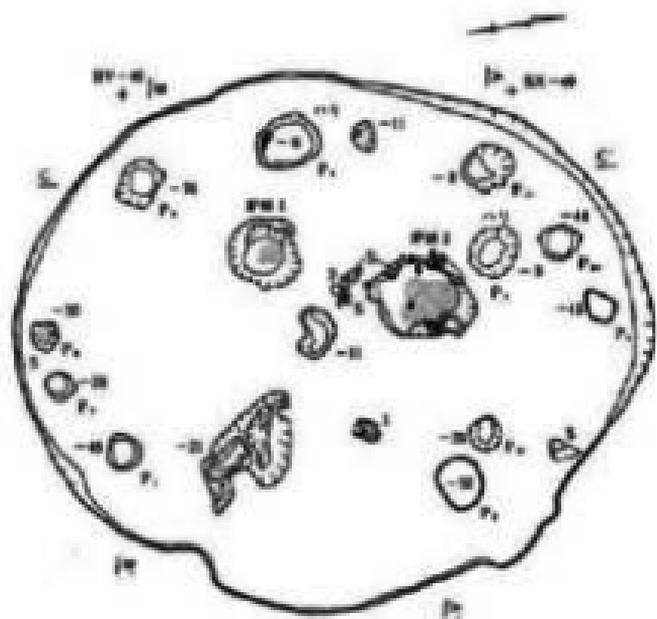


Figure 10. (Caption text in Chinese characters)

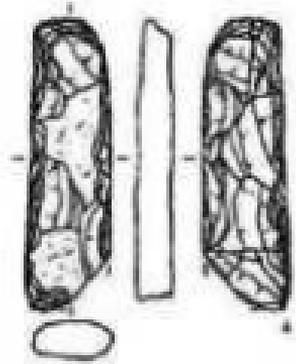
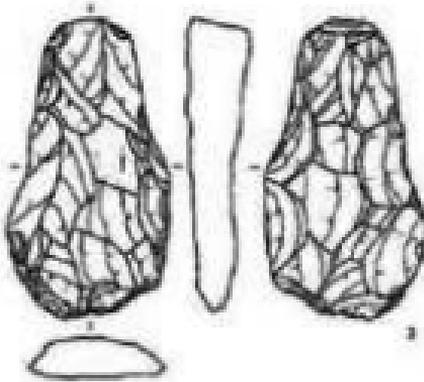
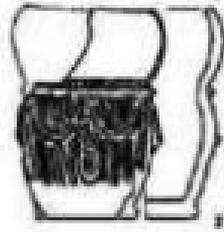
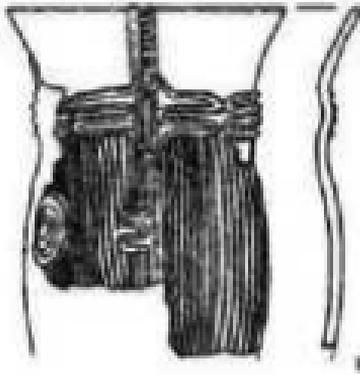


图 15 17 竹类植物茎的解剖图

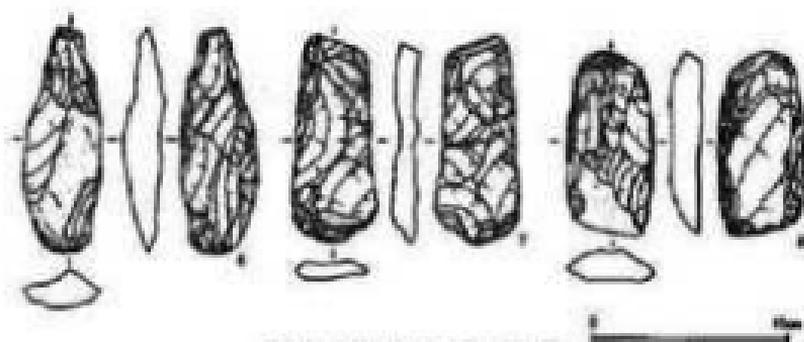


图148 日中世层状白土層植物化石(2)



图149 日中世层状白土層植物化石

24号植物化石(图149)

层状区で出土した。扇状殻部に東北の殻の一部と、20号化石部に深部部と側部の一部を連続している。長軸4.7cm、短軸3.5cmの不完全円形を呈する。主軸はN-47°-Wを示す。殻厚は0.5

20-25cmである。周壁は崩壊できなかった。内面はローム層まで掘り込まれ周く甲を埋められており、周まりは念珠的ないへん状である。ピットは多数掘したが、これらが全周式と思われる。伊豆は伊豆を穿する石室土層に於いて、位置は中央よりやや左側に位置しており、底部を欠いた筒状土層(図1-1)を掘削している。遺土は伊豆の層面にみられ、埋没土層内部の層土には認められない。

遺物は少なく、層土中層より石室(図1-1)が出土しているのみである。本址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。

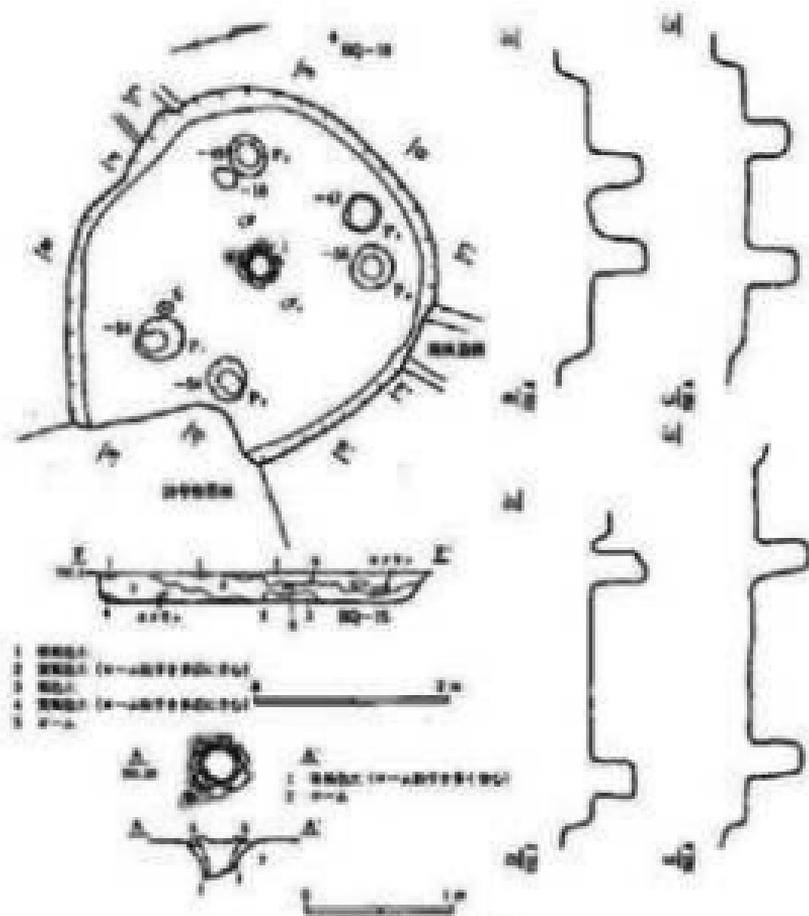


図10 24号古墳平面図

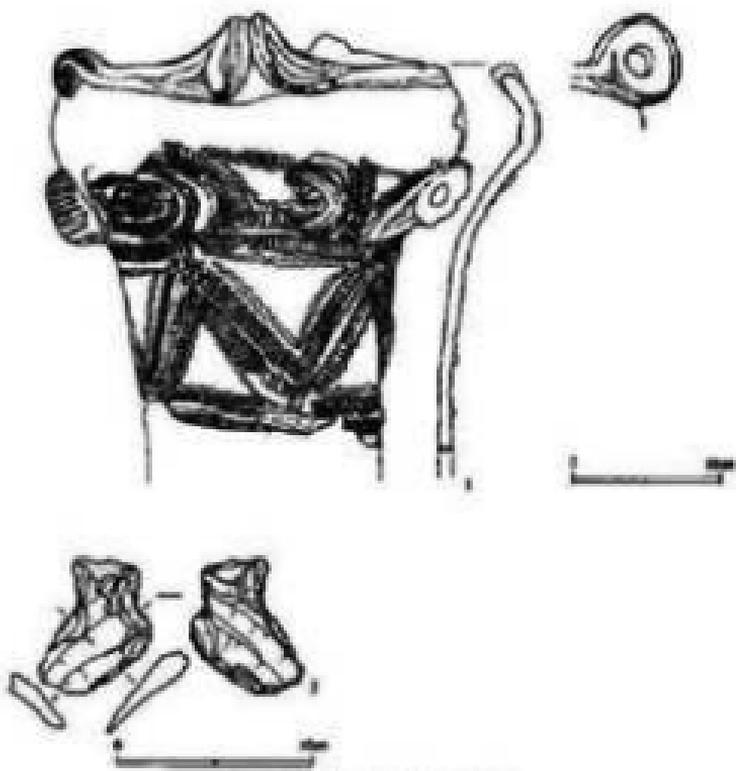


図17 24号位置出土の動物化石

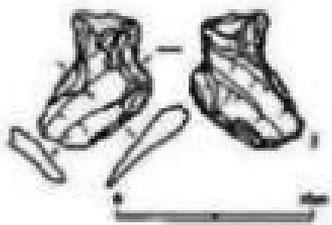


図18 25号位置出土の動物化石

25号位置 (第18図)

本層から抽出した、24号位置及び土佐宮に北側壁の一部、25号位置は西側壁の一部、26号位置は南側壁の一部をそれぞれ撮影されている。長軸0.5cm、短軸0.3cmのほぼ正方形を呈する。全軸は約12°傾斜を呈す。壁内高は24cm-26cmである。厚薄は抽出できなかった。表面はホーム層まで掘り込まれ深く突き穿たれており、壁よりは全体的にたいへん良好である。

ピットは約5mm抽出した。主軸式はP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>と思われ、P<sub>1</sub>とP<sub>2</sub>を軸と線と線として最初の見解になると考えられる。P<sub>1</sub>はP<sub>2</sub>との関連が考えられる。また、P<sub>1</sub>~P<sub>2</sub>~P<sub>3</sub>の位置から本壁は傾斜された可能性が有ると思われる。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は位置的にみて24号位置に由来するものであると思われる。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>・P<sub>4</sub>は傾斜面が傾斜となっている。

壁は伊豆を有する石炭層構造で、壁層はのびて中央に位置する。壁土層の内側は下層及び中層に粘土が認められ、その間には黒褐色土が充填している。伊豆の層構造及び、伊豆北東部

の表面にも土が認められる。埋設土層は下部分を打ち交いの黒褐色土層 (図10-1) を構成している。遺物は伊弉諾神社の河原道土より黒線型土器 (図10-2・3、図10-4・7)、黒土中層及び下部より黒線型土器 (図10-8)、有孔筒状土器片 (図10-10)、土器片 (図10-11-12、図10-13-14)、黒土中層より土器 (図10-15-16)、北新井村近の黒土中層より黒線型土器の地手部分 (図10-14) が出土している。

本墓の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。



図10 伊弉諾神社の河原道土層から出土した遺物(一部)

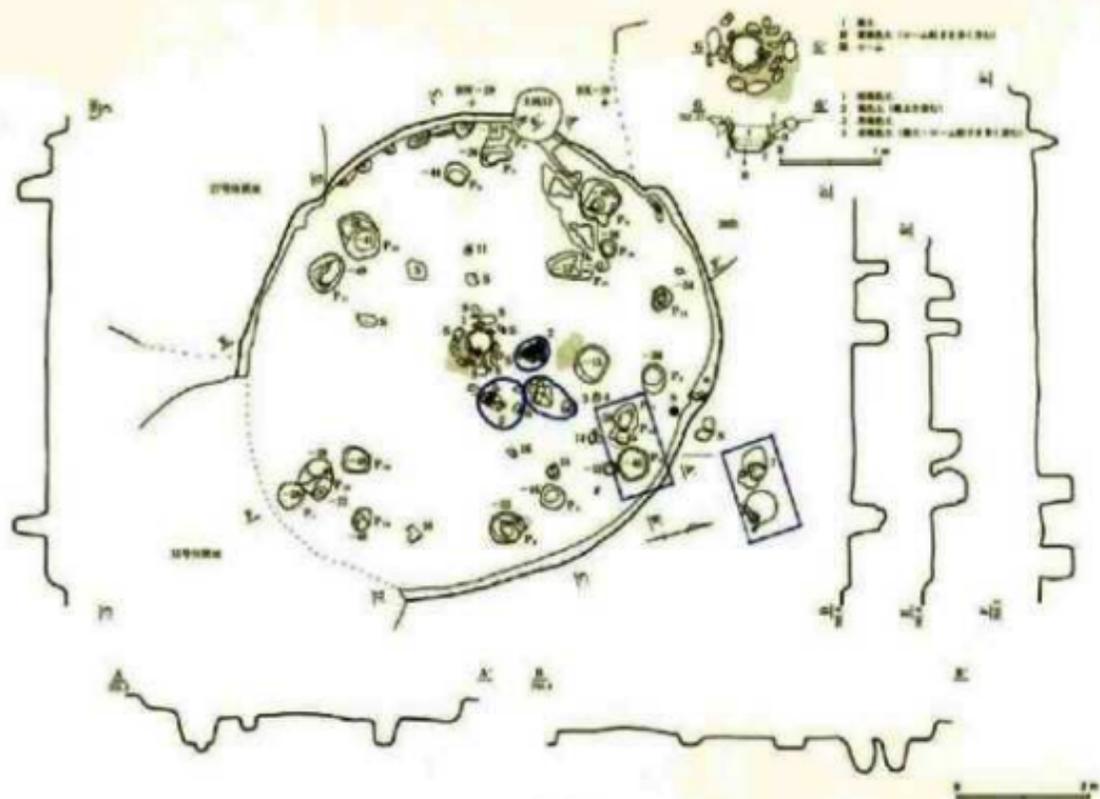
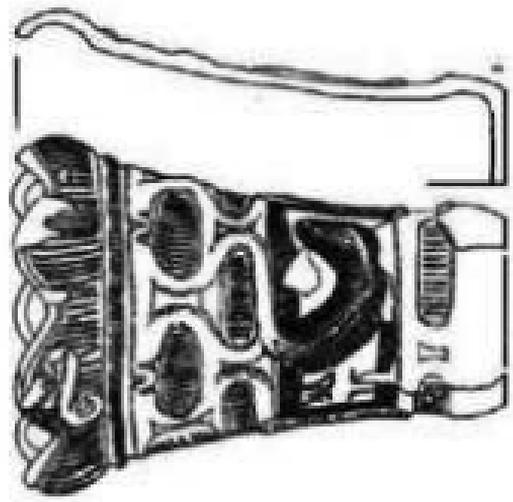
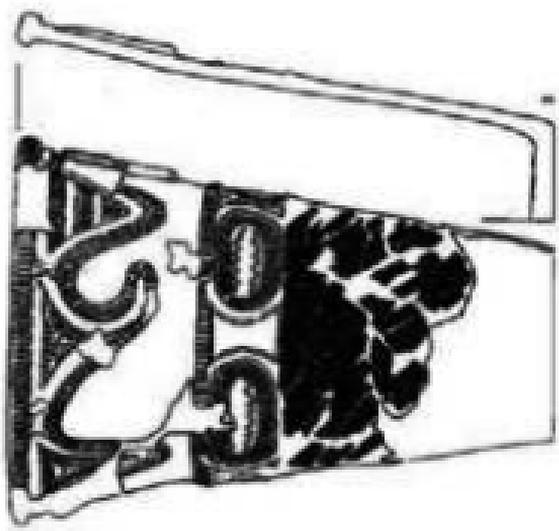
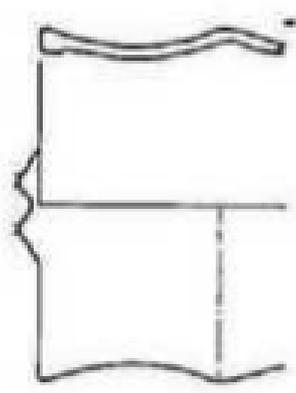
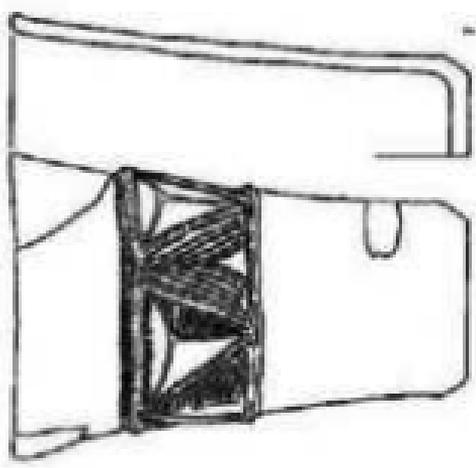


РИС. 1000000

Figure 1. The structure of the human eye.



CHURCHMASTER'S BIBLE



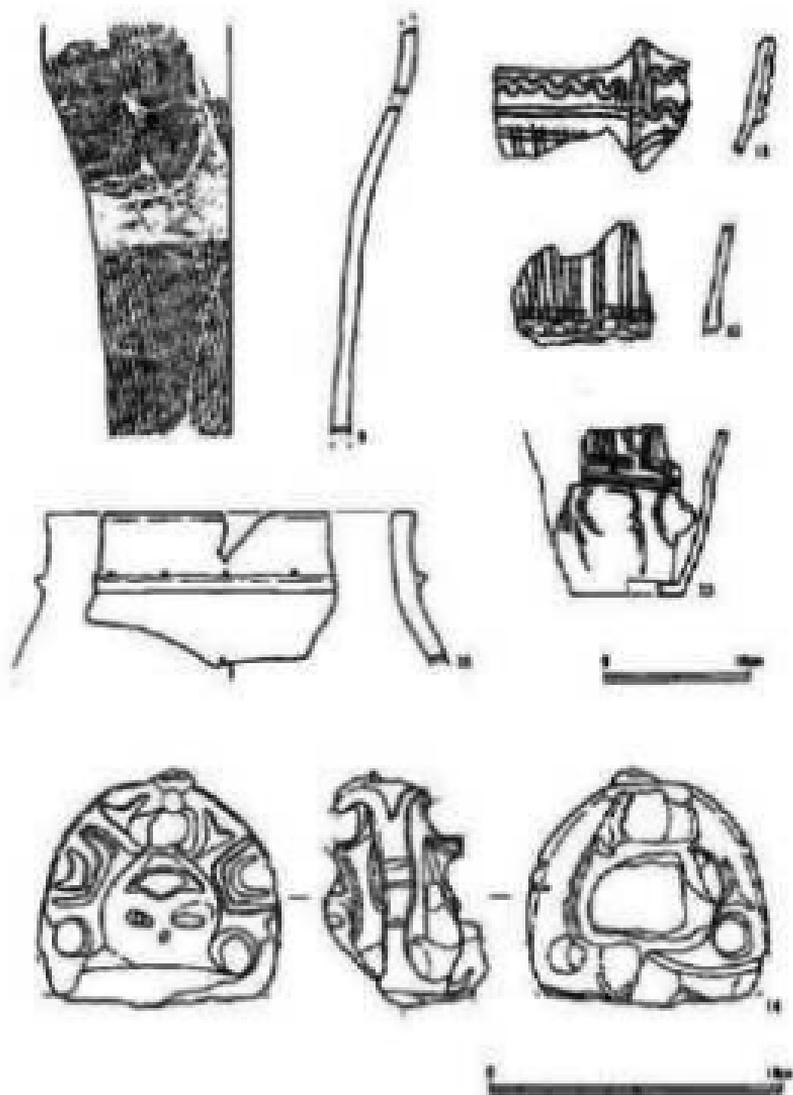


图 12 20 世纪 50 年代出土的文物

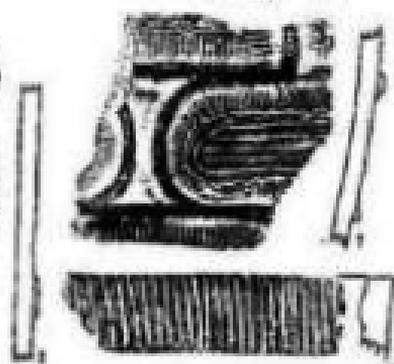
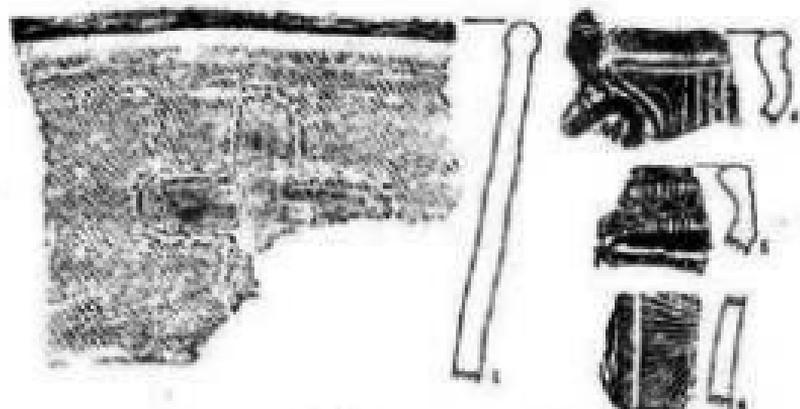
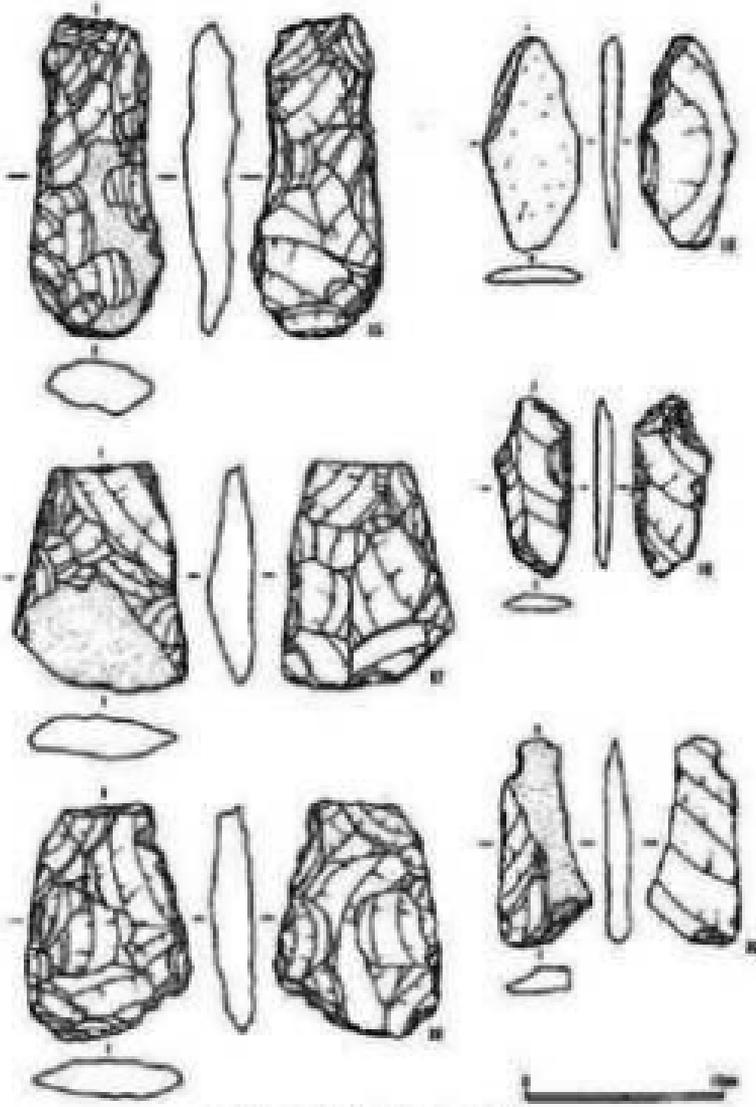


图 10 几何形纹彩陶片



CONGELATED FOSSILS

### 27号住居址（第22図）

本地区で検出した、27号住居址の南西側の壁の一部を破壊している。発掘中に竪穴型を掘削してしまっただけのプランははっきりしないが、長軸0.3mの不整地円形を呈すると思われる。土層はN-121層を示す。壁残高は18cm-11cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ、深く穿き通められており壁の一部を除く残りは全体的に良好である。ピットは7箇所検出したが、形状はP<sub>1</sub>-P<sub>7</sub>であると思われる。P<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>は断面が鉛直となっている。住居址北側にある土坑14の内壁には並列に置かれた竪穴型土器がみられた。

伊達は地層中で、住居址中よりやや北西よりのP<sub>1</sub>とP<sub>2</sub>の間に位置している。長軸0.6m、短軸0.5m、高さ14cmの不整地円形に掘りくぼめている。伊達内部及び周囲に敷土はみられない。伊達の縁辺には4箇所の石がみられるが、大形を受けた石が認められず、伊達に穿くものか判別としない。

遺物は伊達周囲の表層表土より竪穴型土器（図29-1-5、図29-1-10）、及び横穴型土器（図29-1-6-1）、土坑14より竪穴型土器（図29-1-1）、床面表土より石器（図29-1-10）、灰土中層より石器（図29-1-11）、石斧（図29-1-12）等が出土している。本住居址の時期は遺物等から縄土時代中期中葉であると思われる。

### 28号住居址（第23図）

本地区で検出した、28号住居址を破壊している。また、南溝址に南溝壁の一部を破壊されている。住居址の2分の1程は調査区外に入るとのプランは判然としないが、南東方向に土層をおく不整地円形を呈すると思われる。壁残高は23cm-13cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ、深く穿き通められており壁よりは全体的に良好である。ピットは7箇所検出したが、形状はP<sub>1</sub>-P<sub>7</sub>であると思われる。P<sub>1</sub>は断面が鉛直となっている。

伊達は石器中で2分の1程の検出であったため全容は判然としないが、長さ0.5mに掘りくぼめている。伊達には断片的に大形の石が認められる。伊達の縁辺には敷土がみられる。また、P<sub>1</sub>付近の床面に敷土がみられる。遺物は伊達周囲から竪穴型土器（図30-1-1）、灰土中層より石斧（図30-1-2-1）が出土している。

本址の時期は遺物等から縄土時代中期中葉であると思われる。

### 29号住居址（第24図）

本地区で検出した、29号住居址の南壁付近から床面の土が検出できたためプランは不明である。遺物は灰土中層より土器片（図31-1）と石器（図31-2）が出土しているが、本住居址に穿くものかは判然としない。よって本址の時期は不明である。

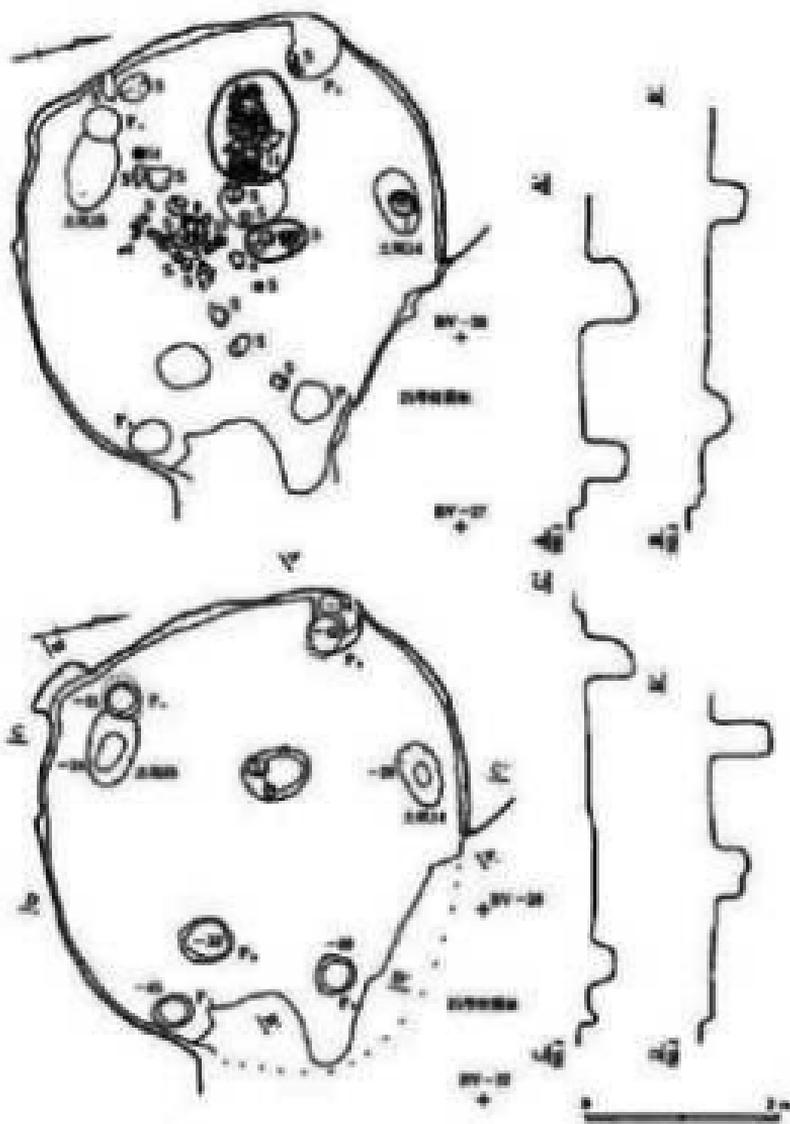
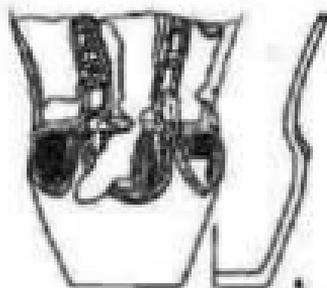
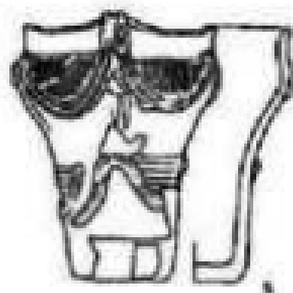
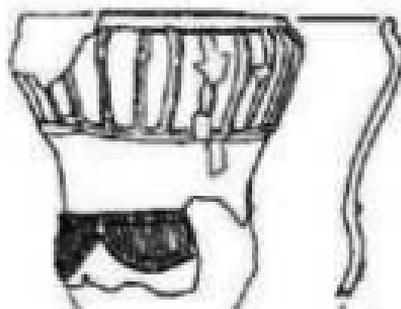
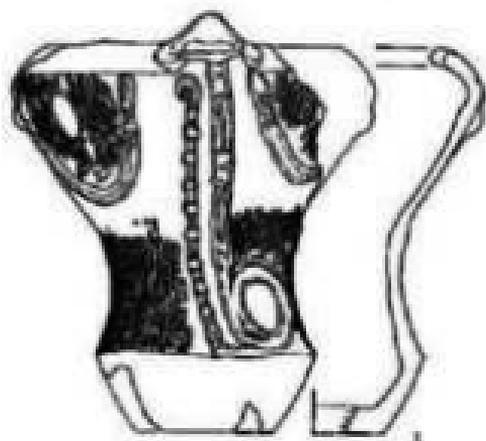


Figure 1. Diagrams of cell structure and profile graph.



CONSTRUCTION OF THE

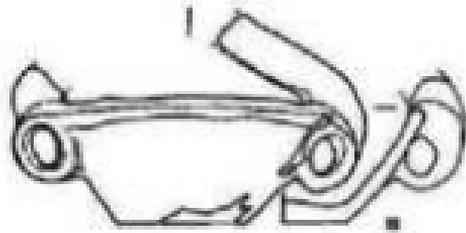
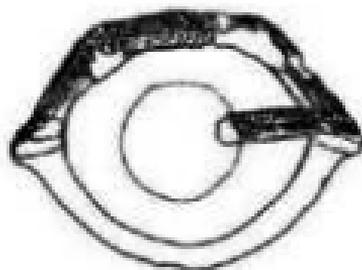
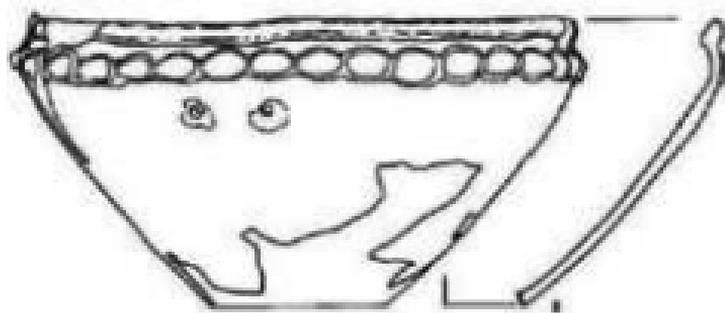
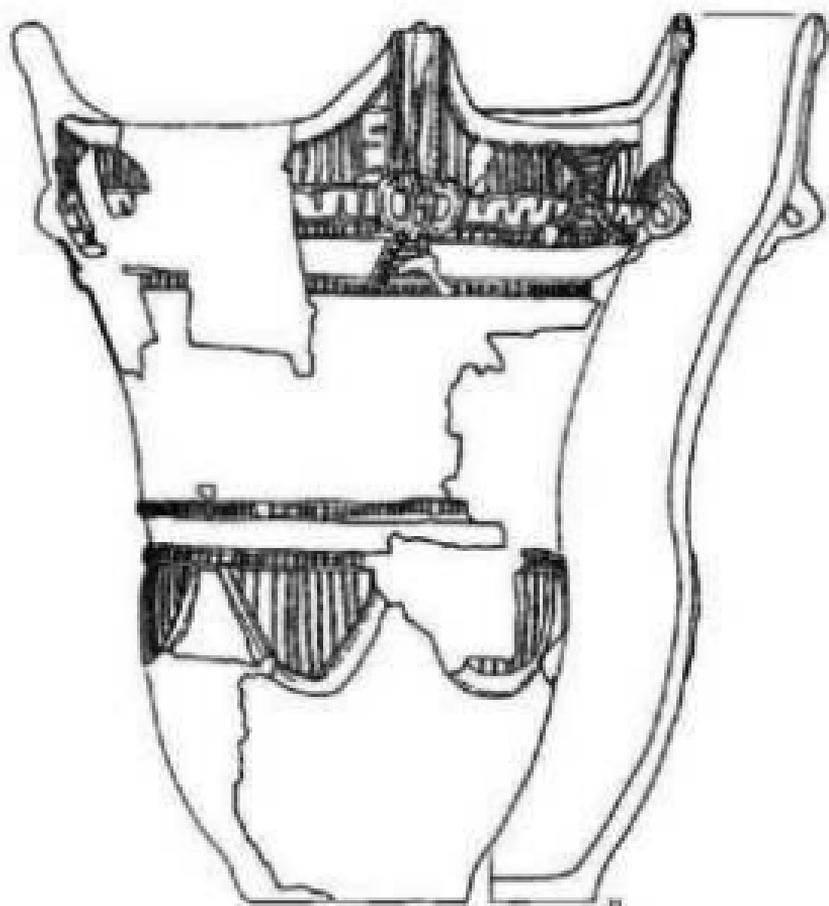


图10 1. 中 2. 中 3. 中 4. 中 5. 中



GENERAL VIEW OF THE CAPITAL

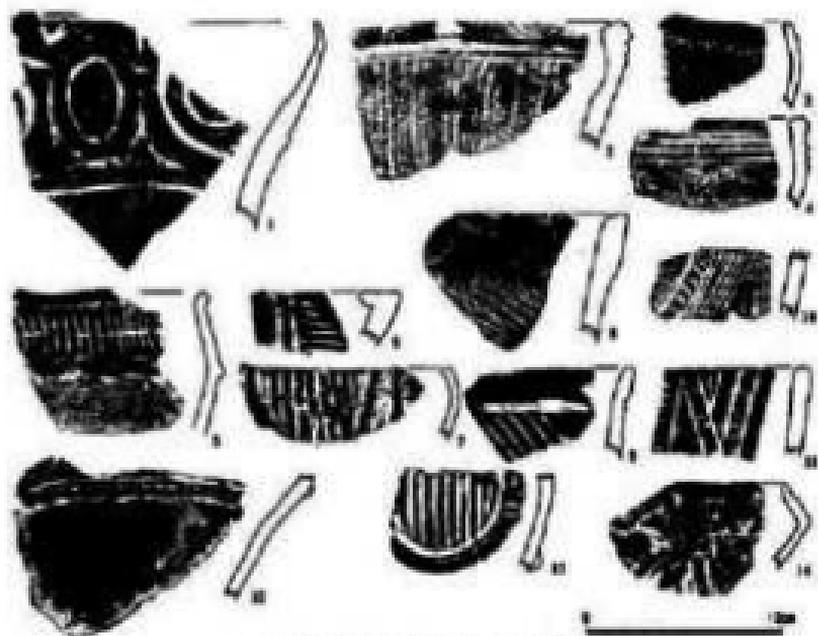


PLATE I

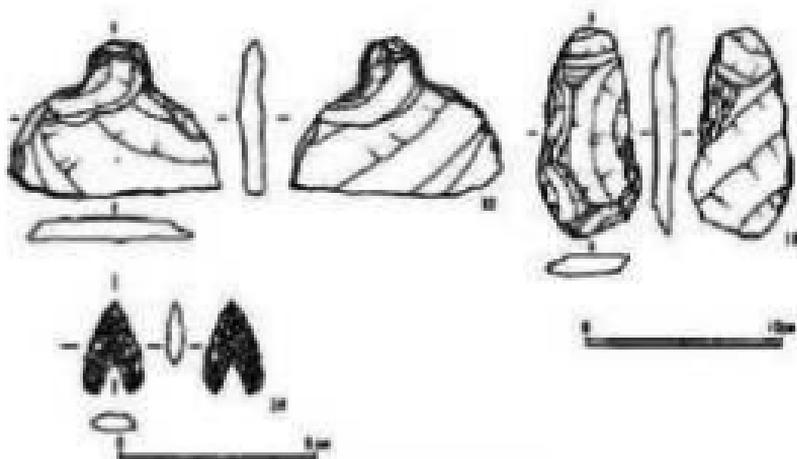
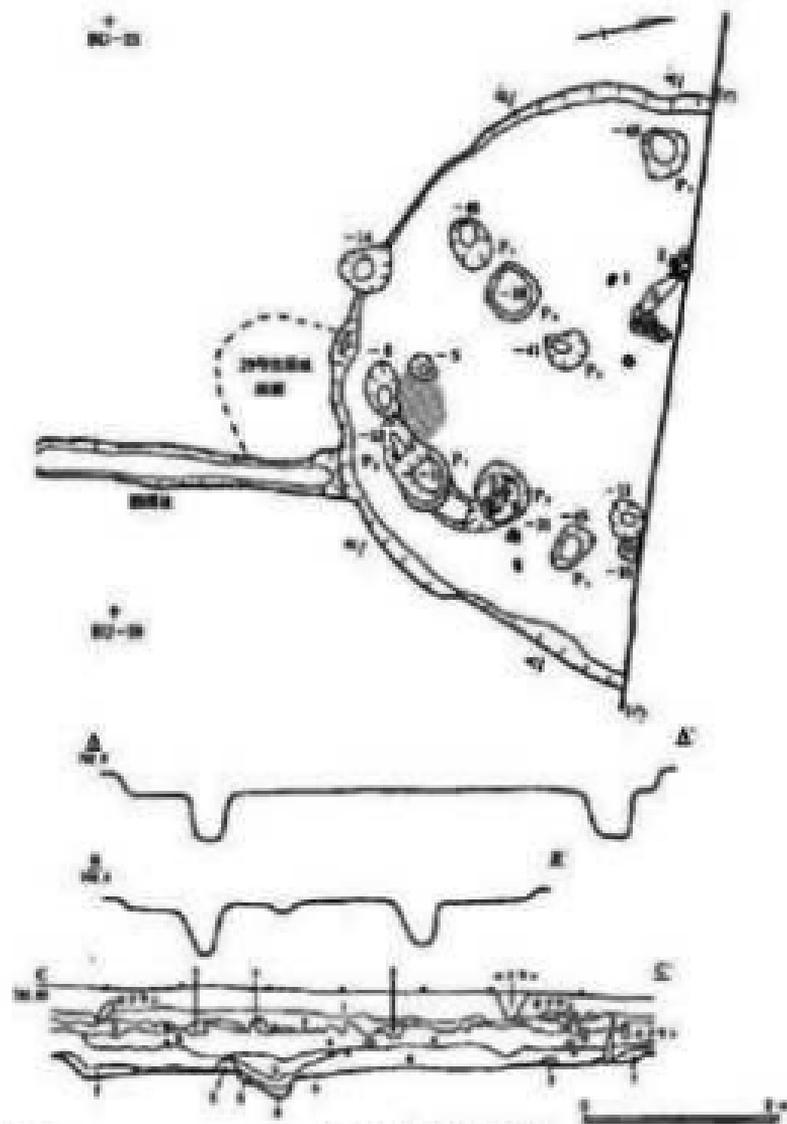


PLATE II



- |           |            |
|-----------|------------|
| 1 眼       | 6 鳃盖 (—)   |
| 2 鳃盖骨     | 7 鳃盖骨      |
| 3 鳃盖骨 (—) | 8 鳃盖骨 (—)  |
| 4 鳃盖骨 (—) | 9 鳃盖骨 (—)  |
| 5 鳃盖骨 (—) | 10 鳃盖骨 (—) |

图 20 21 22 头部的解剖图

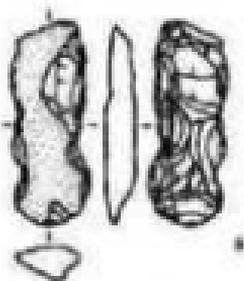
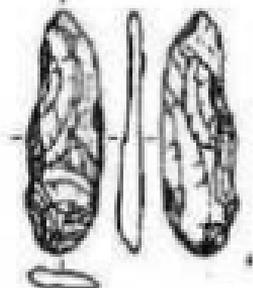
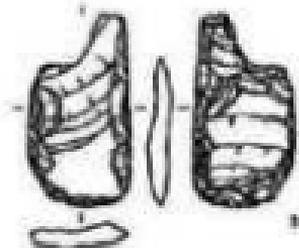
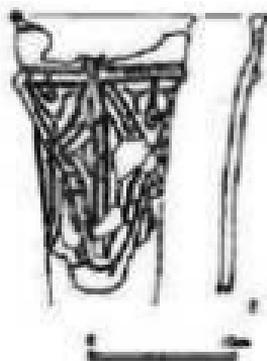
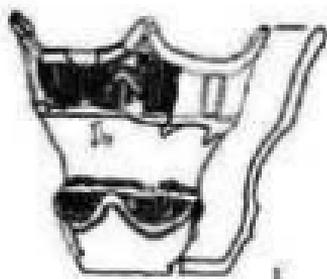


图 10 中华鳊的形态特征

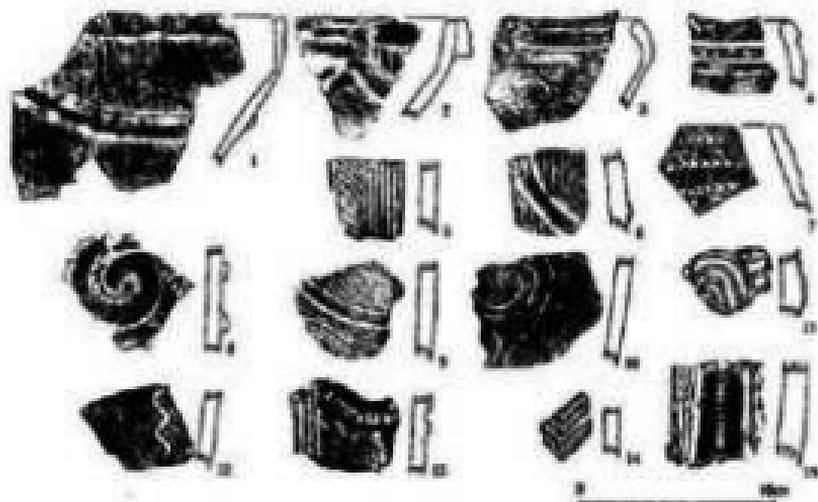


図22 20号住居跡出土土器断片類

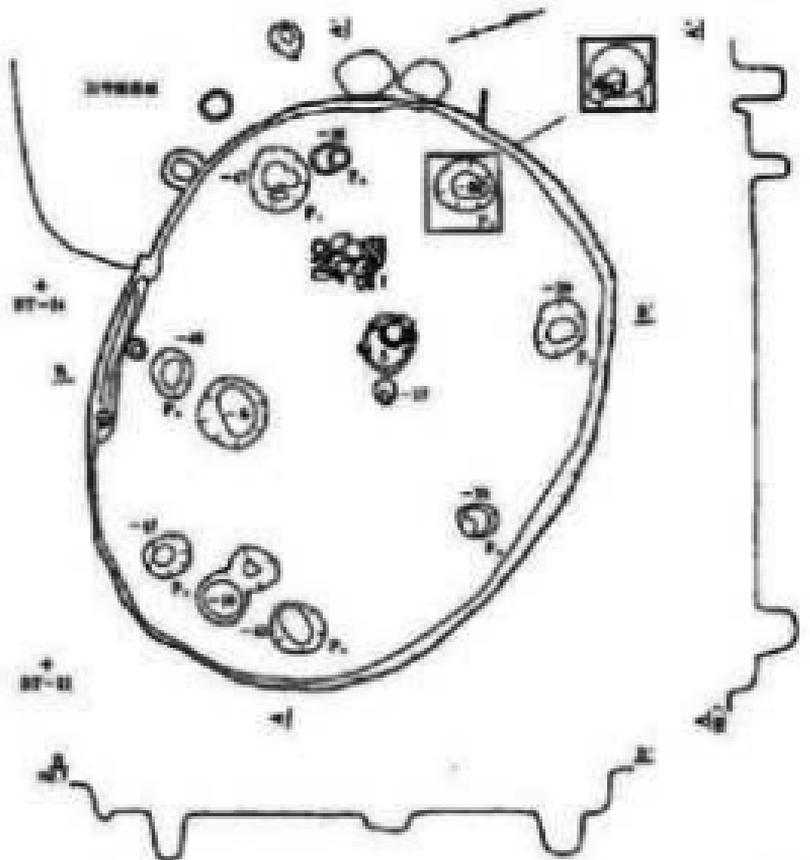


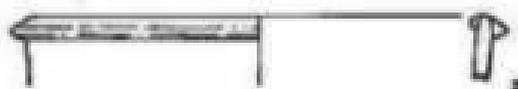
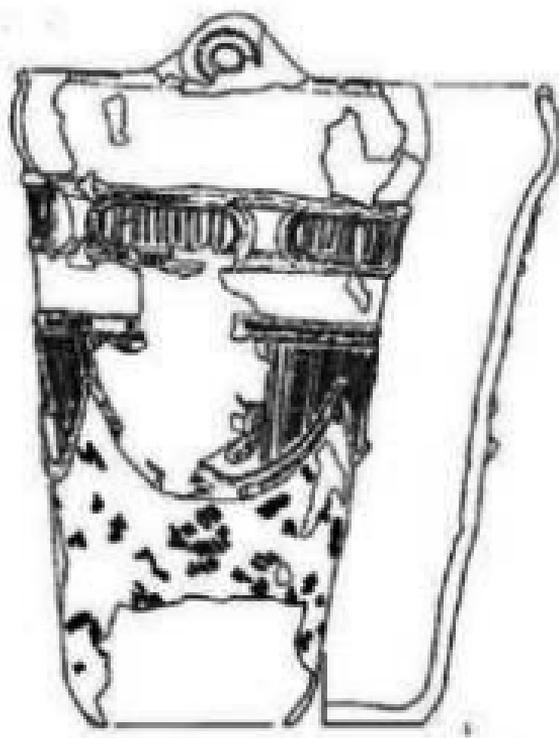
図23 20号住居跡出土遺物線図

30号住居跡 (第300)

調査区で検出した、20号住居跡に同類型の一部を破壊されている、長軸6.2m、短軸3.05mの矩形を呈する、土輪は北—南—西を示す。壁残高は45cm—25cmを測る。居室は南側壁下にわずかにみられ、長さ1.5m、幅2.0m—2.5m、高さ1.0m—1.5mである。床面は土間層まで掘り込まれ厚く平土層められており、壁まわりは全体的にたいへん良好である。ピットは平面図示した。支柱穴はF<sub>1</sub>—F<sub>2</sub>であると思われる。F<sub>1</sub>とF<sub>2</sub>の中間点とF<sub>3</sub>を柱位置を線として左右にそれぞれ配置になっている。F<sub>1</sub>は位置的にみて20号住居跡に伴うものであると考える。F<sub>2</sub>の東側には長軸74cm、短軸70cm、深さ15cmの平面円形に掘り込まれ周り床を有するピット状のくぼみが見られる。

貯蔵はが石を有する土器明器で、位置は中央よりやや北側に位置している。長軸42cm、短軸





THE VESSEL

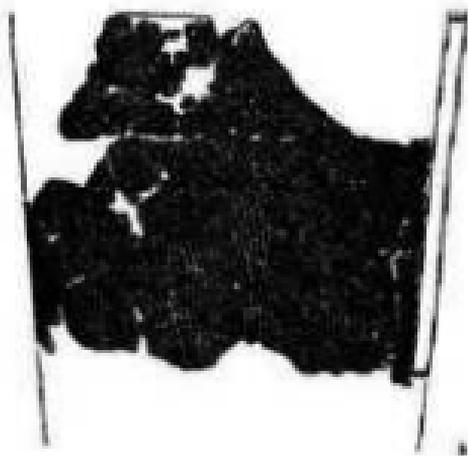
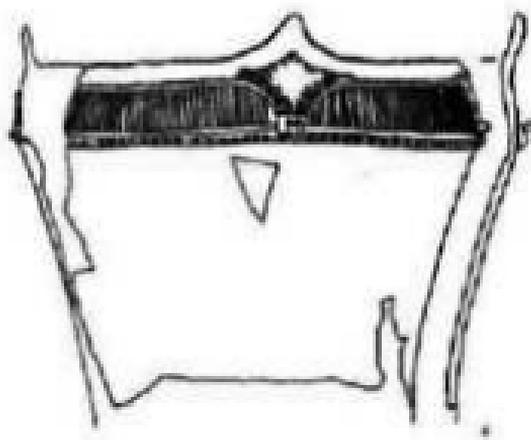


图 10 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.

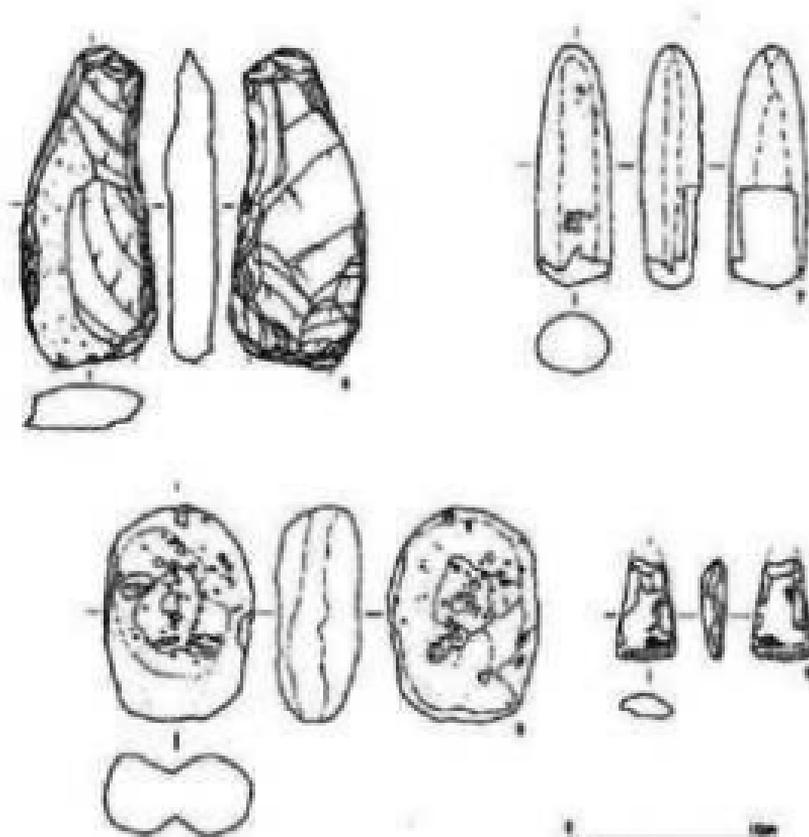


図10 中世の厚板状土器の断面図

図10の厚板状土器に類するものは、その北側に上部と下部を打ち欠いた厚板状土器(図11-1)の断面を模倣している。伊豆及び厚板状土器の内面には粘土はあまりみられない。また、伊豆においても大数の器は認められない。

遺物は、伊豆の南の厚板状土器(図11-1)が出土しているほか、厚土中層より石斧(図12-4・7・9)、石刀(図13-4)等が出土している。中世の地層は遺物等から縄文時代中期中層であると認められる。

### 25号住居址（表25B）

表地区で発出した。25号住居址の南東壁の一部と26号住居址の西東壁の一部と破壊している。発掘中に25号住居址と26号住居址との接り合い部分の壁を掘り崩してしまったため、プランははっきりしないが、北西方向に広軸を示す。構内形を呈していると思われる。壁残高は20m～23mである。扉道は壁面よりなかった。扉道はローム層まで掘り込まれ半壊のまわっている。全体的に崩まりは被害で壁付近になる程度になる。はっきりとした掘り戻は伊達の北壁の一部でしか確認できなかった。

ピットは16基検出した。主軸向はP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>であると思われる。このうちP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>・P<sub>4</sub>・P<sub>5</sub>は南面壁が傾斜になっている。P<sub>6</sub>-P<sub>7</sub>は長さ約6m～7mで掘り戻はみられないが、伊達を掘むような位置となっているため本城は破壊されていることが考えられる。P<sub>8</sub>は位置的にみて25号住居址に併うものであると思われる。

伊達は石積伊達と思われ、住居址中央よりやや北側に位置している。東端からはんのかげ中に掘りほめたもので、断面とのレベル差はほとんどみられない。伊達の南側には土が空がっている。一部のみ掘り戻がみられることや、土手が傾斜していることから、伊達の一部は破壊されていることが考えられる。残存する伊達には部分的に大形の礫が認められる。遺物は少なく、扉道及び扉道直上よりの土は全く、掘土中層より土層群（図40-1・2）が露出しているのみである。本住居址の時期は遺物、発掘の状況と接り合い関係等から縄文時代中前期頃であると見られる。

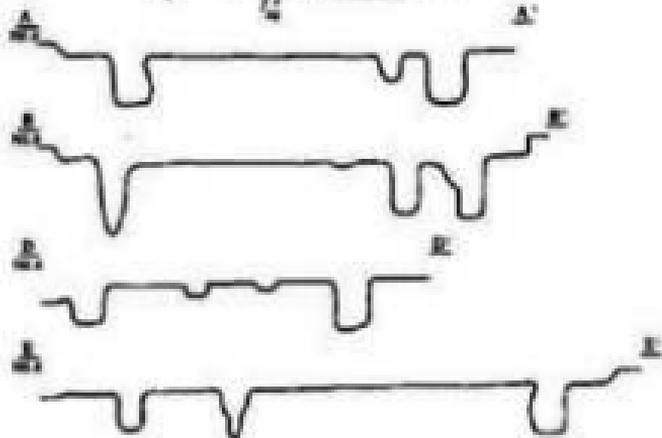
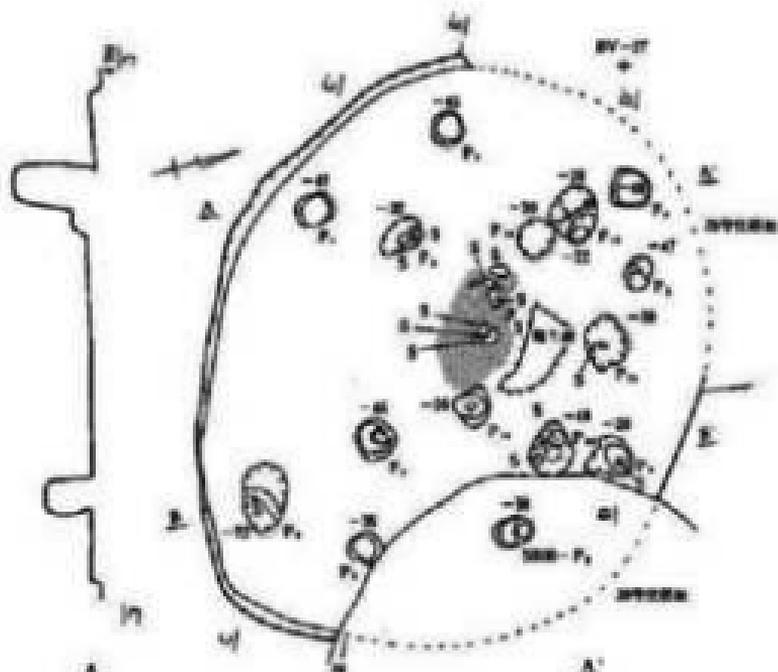
### 26号住居址（表25B・表25C）

表地区で発出した。26号住居址と土坑群に北東壁の一部と破壊されている。西端0.9m、東端1.8mの不等形内形を呈する。壁残高は4m～7mである。扉道は壁下よりの掘込はできなかったが、溝（ピット）を軸ぶ型で検出した。南北壁の一部と東壁で一部破壊されている。長さ6m～7m、幅は6m～12mである。

扉道はローム層まで掘り込まれ掘り戻のまわっており、崩まりは全体的にたいへん良好である。ピットは16基検出した。主軸向は東側の掘込位置から南側の傾斜があることとみられ、新しい主軸向はP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>、古い主軸向はP<sub>3</sub>-P<sub>4</sub>であると思われる。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>はそれぞれ、2つのピットが重畳していることが考えられ、住居址の中心に近いものが古い主軸向の1つになると考えられる。これらのピット内側壁面及び底面には小石が多くみられる。

伊達は土築積段伊達で、住居址中央よりやや西側に位置している。長約100m、幅約10mの不等形内形にはほぼ垂直に掘り込んだ長さ13m～15mの土坑群のくぼみに下壁を打ち付いた積段型土層（図40-1B）を構築している。住居址のプランに掘り戻がみられることから伊達においても掘り戻があるものと推測できるが、判断できるものがみられず推測としない。

遺物は住居址は掘土の中層よりまとまった状態で多数の土器（図40-1、図40-2・3、図40-4・7、図40-11～13、図40-14・15）と石器（図40-18～21、図40-24～25、石輪（図40-26・28）、石



END TITRATION



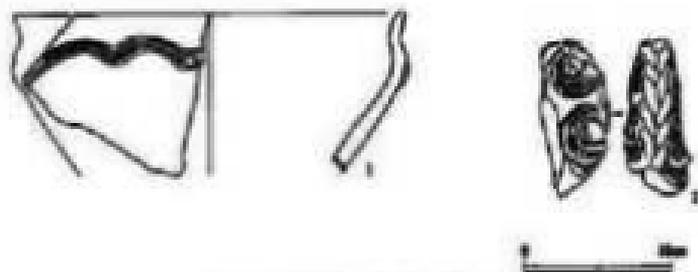


图4 王湾遗址出土的陶器残片



图5 王湾遗址出土的陶器残片

鐘 (図28-27)、鐘形型石器 (図28-28-29)、凹石 (図28-30) 等の石器、土器の碎屑 (図28-31-32) が出土している。厚層からは採った状態で出土しており、水上バーデン期の遺物と思われる。土器は定形品がなく、いずれかの部分が欠けている。出土した土器の断面はいずれも厚土層からの出土で、図28-33-34は粘土、粒成、文様から同一産物と考えられる。本住原址に伴うと思われる遺物はア、の厚土より出土した埴輪型土器 (図28-35) と厚層砂土より出土した土器破片 (図28-36)、伊勢の埴輪土器 (図28-37) がある。本住原址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると見られる。

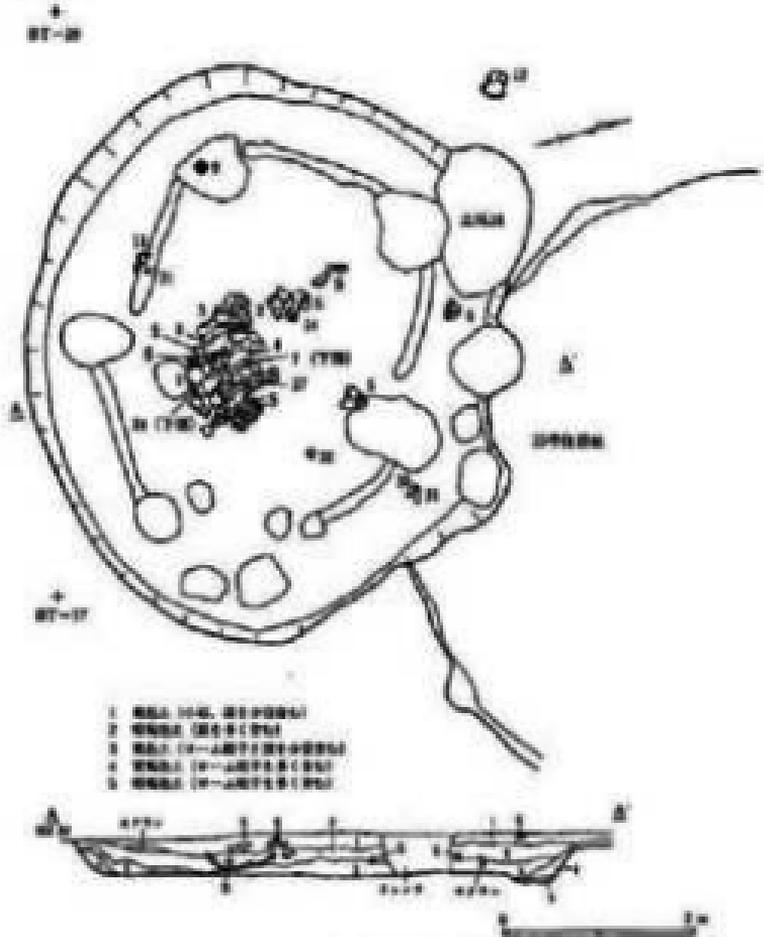


図28 20世紀遺跡出土遺物位置図

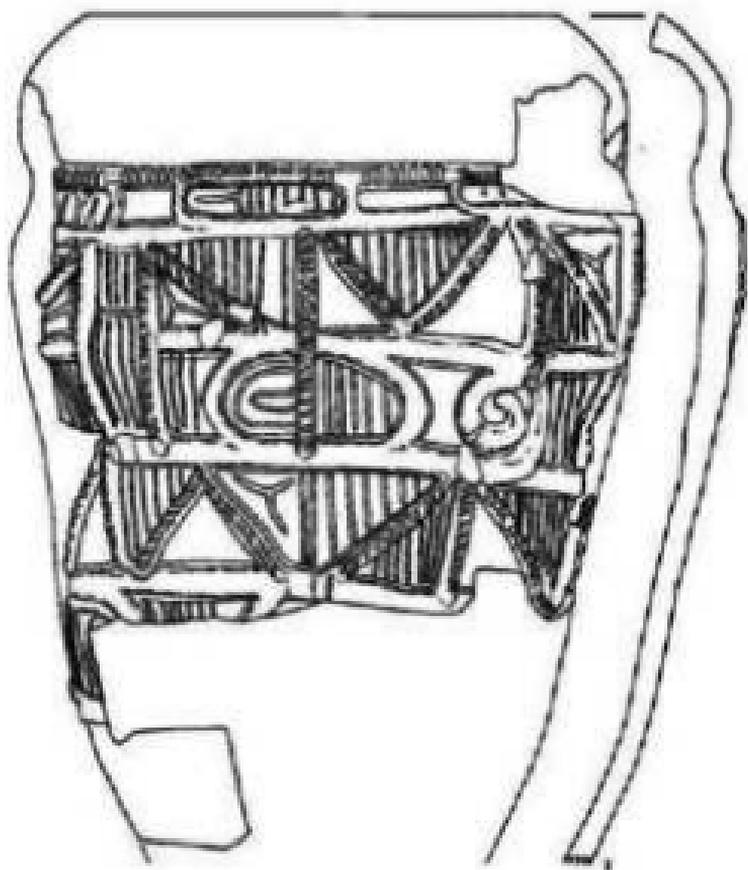
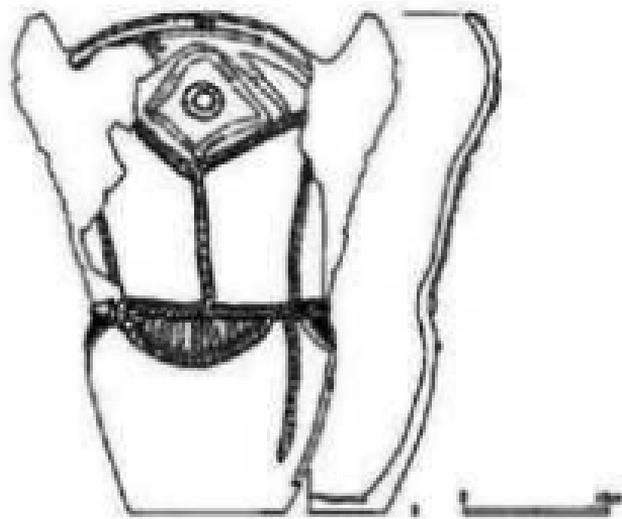
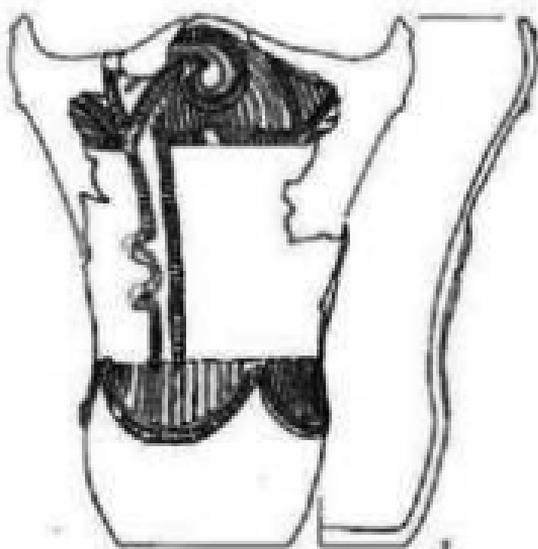
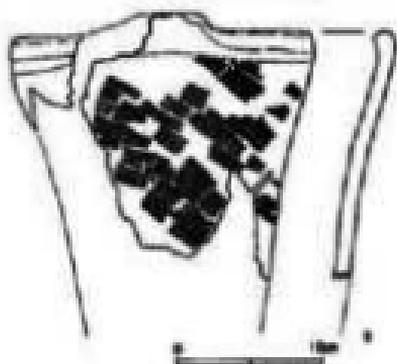
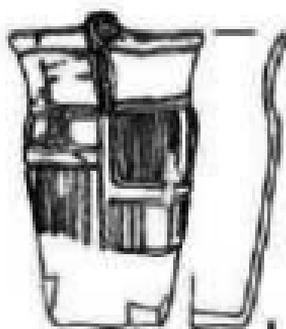
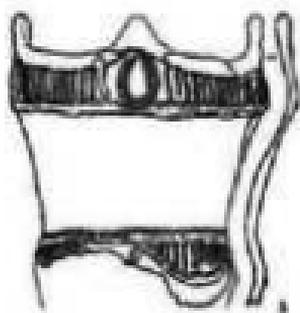
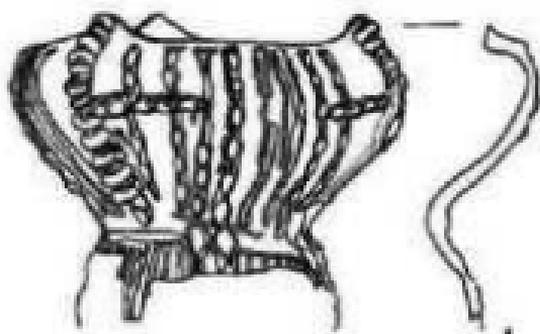


图 10 彩陶盆的剖面图





THE STERNAL ANGLE



COMPARATIVE DRAWING

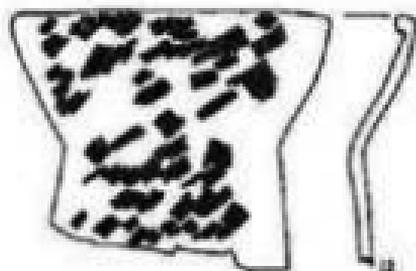
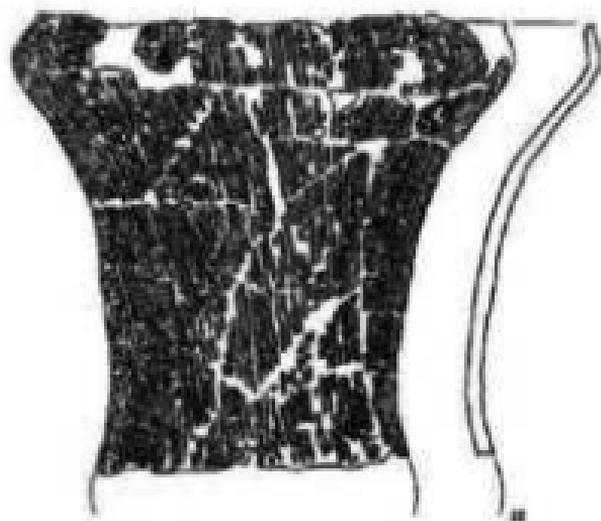


图 4 2 号化石的放大图

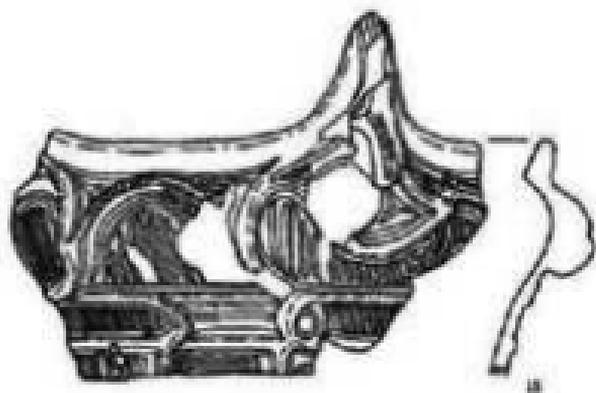
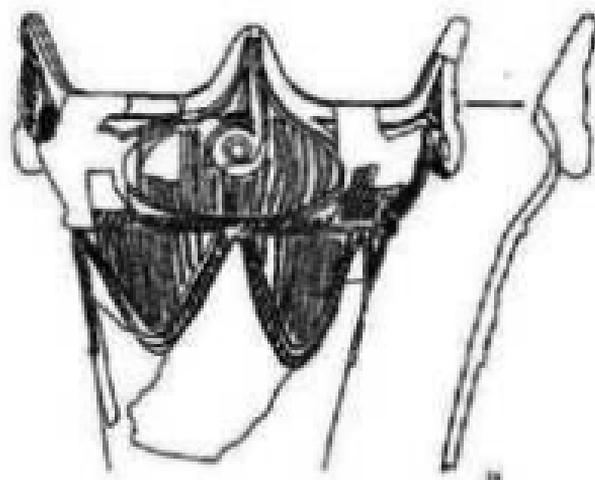
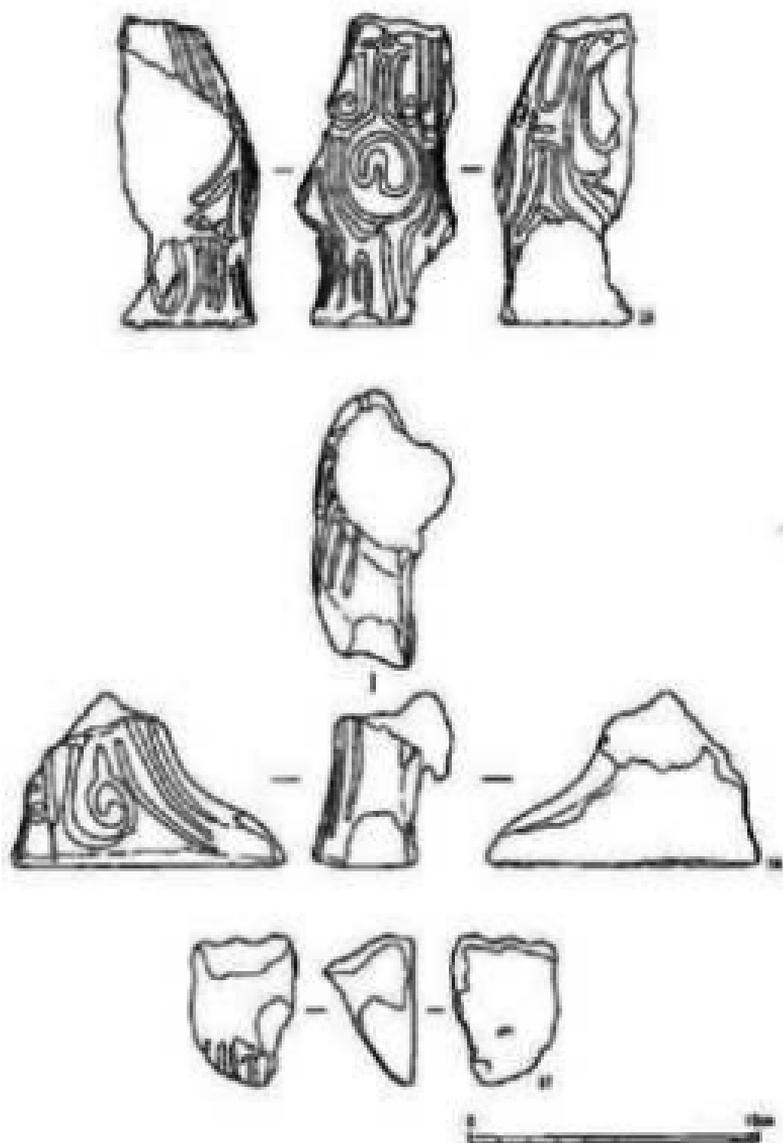


图42 1979年出土的青铜器



图一四 江苏六合县出土的铜器

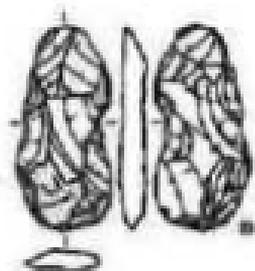
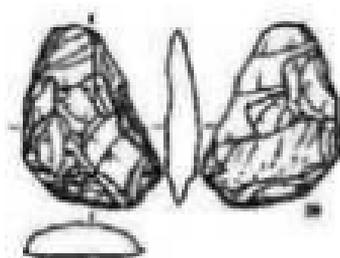
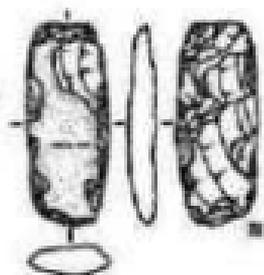
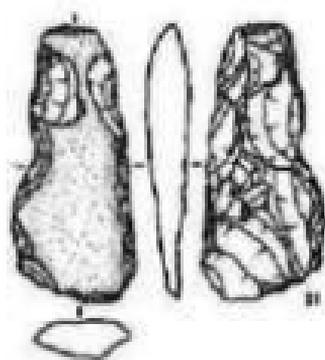
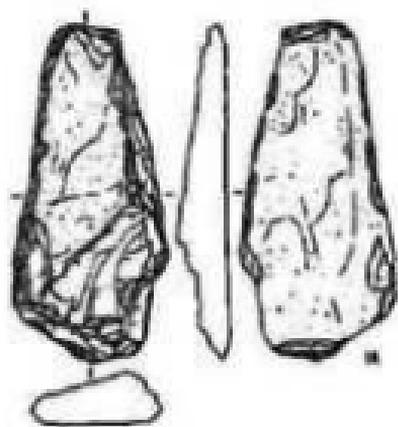


Figure 1-6

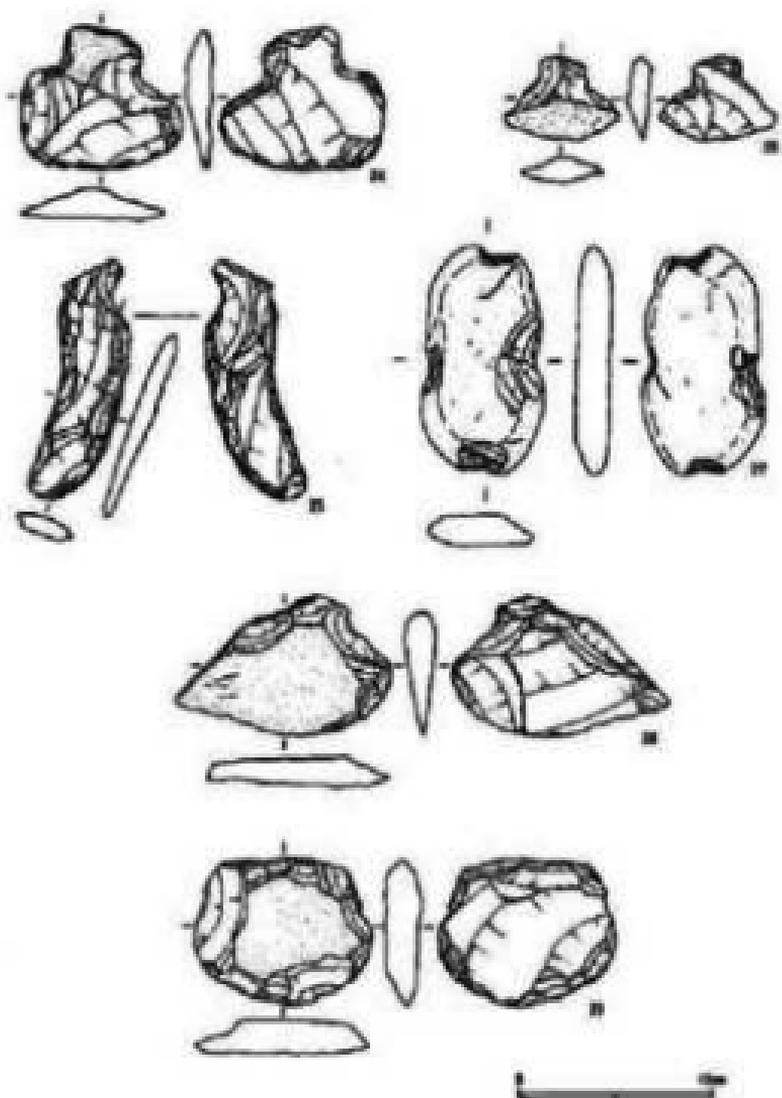


图33 20世纪以来出土的文物(3)

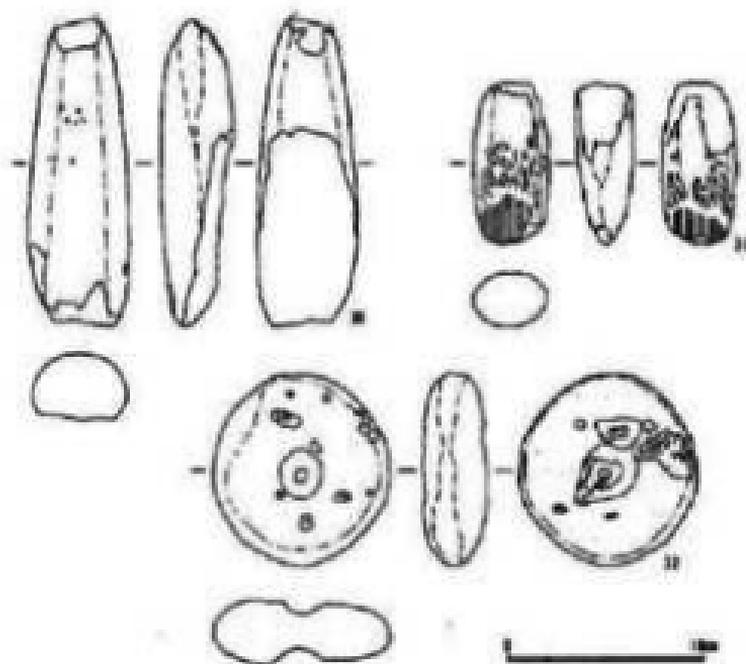


図12 22号住居址出土遺物(単位1cm)

### 22号住居址 (第12図)

居住区で発出した。22号住居址の北東部の一角を破壊している。また、22号住居址を築造する際に竈の壁と床の一部を破壊してしまった。住居址の2分の1程は調査区内になるため、プランは概略的でないが平塚地円形を呈するものと認められる。竈の直径は13cm～15cmである。遺物は数点で乏しかった。底面はローム層まで掘り込まれ、黒く厚く締められており壁よりは全体的に良好である。発出した遺物は中央より西側の壁面に散乱により破壊されていた。

ピットは1個検出した。北極内はP、P、であると思われる。P、とP、の間に遺物の6m、発掘1mの深んが平塚地円形の土塊がある。この土塊は新石器が混入している。また、P、P、も新石器が混入している。

竈は一角が調査区外に入るため全容は不明であるが、直径15cm程の掘り込みをしつた竈である。竈の位置及び竈より北西側の壁面に土塊がみられる。竈にはわずかに大形の礫が認められる。

遺物は土塊下の遺物より新石器土器(図12-1)と、竈壁下の床面直上よりほぼ定形で遺物に比類による黒色を帯びた文様が施された器(図12-2)が出土している。また、底土上層及び中層

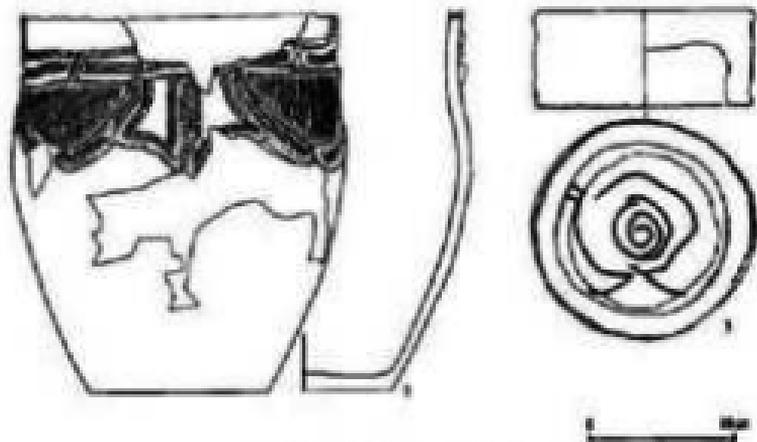
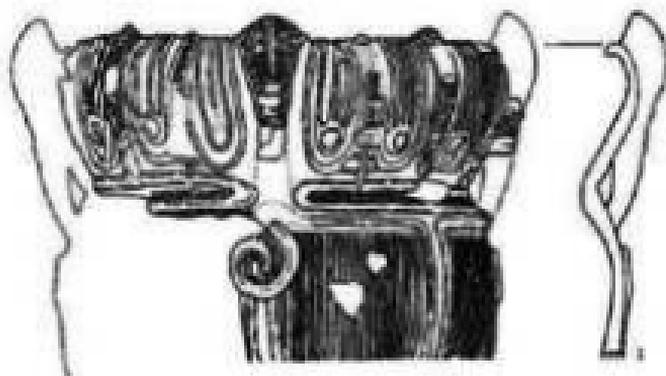
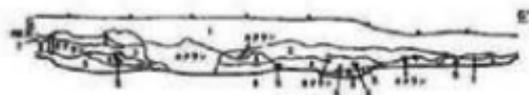
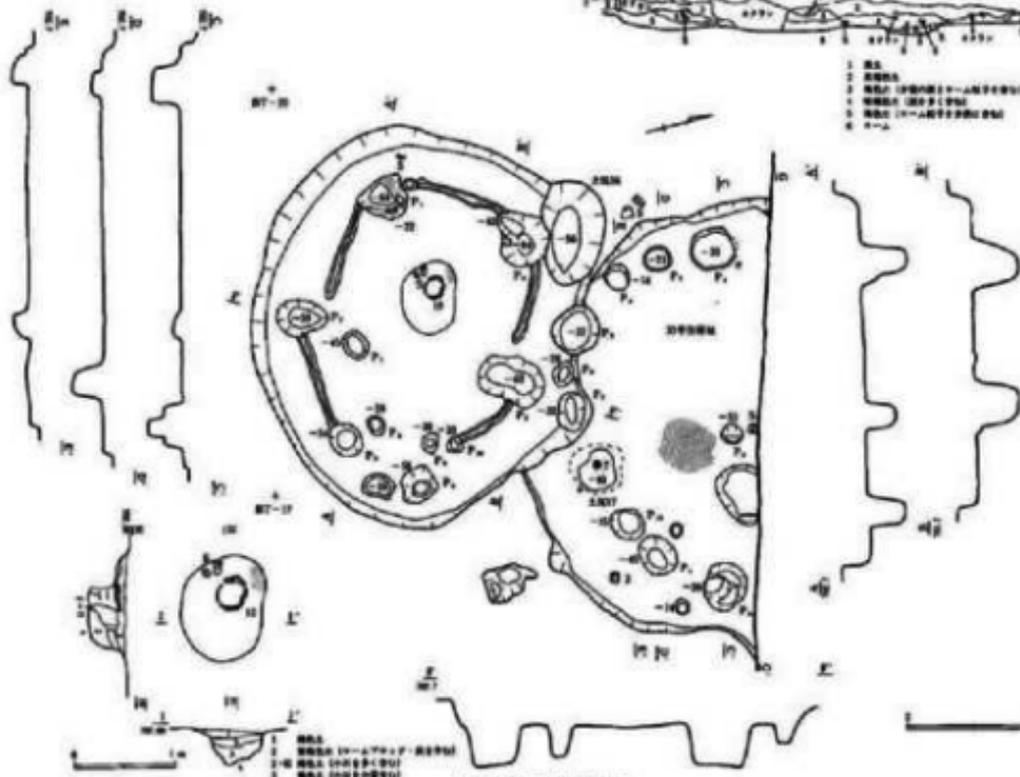


図42 20号石原山出土遺物(銅鏡)

より近世(図4-3・4)、石鏡(図4-5)、複列型石鏡(図4-6)が出土しているが、本誌に所  
 うものであるかは判断としない。本位原山の時期は遺物等から縄文時代中期後葉であると認めら  
 る。



- 1 髓 (Pith)
- 2 皮 (Cortex)
- 3 木質部 (Wood part)
- 4 木質部 (Wood part)
- 5 木質部 (Wood part)
- 6 髓 (Pith)



- 1 髓 (Pith)
- 2 皮 (Cortex)
- 3 木質部 (Wood part)
- 4 木質部 (Wood part)
- 5 木質部 (Wood part)
- 6 髓 (Pith)

圖 27-27 植物標本圖

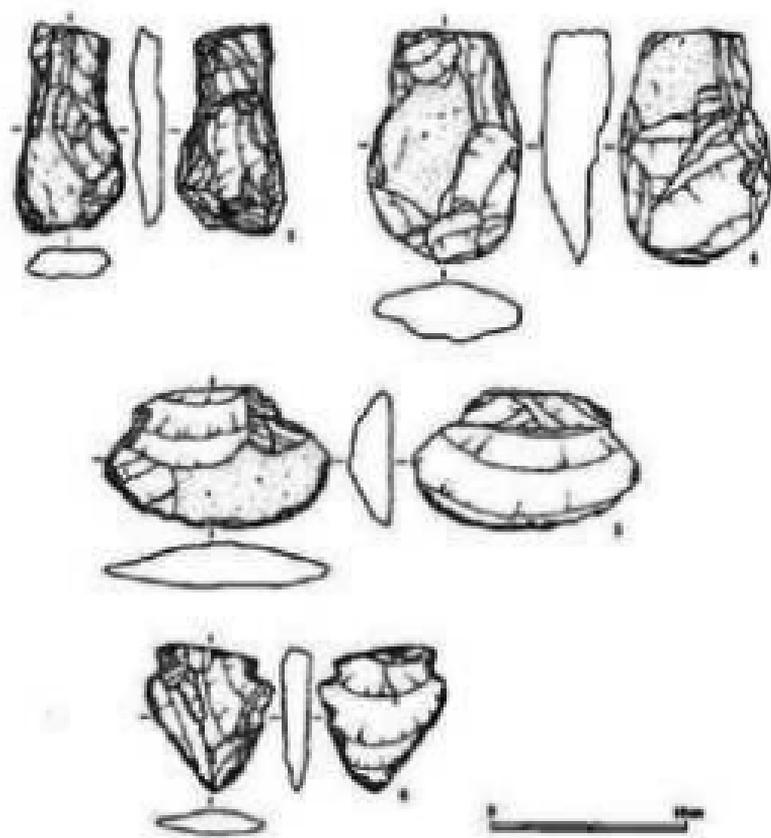


図34 34号住居出土遺物実測図

34号住居地（表17図）

居住区で出土した、長径6.3cm、短径5.3cmの板状物を呈する、土軸は7-26-10のす。全長は36-37cmのす。全長は36cm-37cmである。厚さは北西側の壁下にみられるので、後では認められなかった。表面はローム層まで掘り込まれ、掘り穿れられており跡まうは全体的にたいへん良好である。ピットにも遺物出土した。これらが土柱穴であると思われる。厚さは37cm-37cmで、P<sub>1</sub>とP<sub>2</sub>を軸山部を軸とした二面体の形状になっている。P<sub>1</sub>は断面形が扇形となっている。P<sub>2</sub>の断面は土柱1とP<sub>1</sub>と直交する際に土柱1がみられる。それぞれ平面形は不定形で、土柱1の厚さは12cm、土柱2の厚さは20cmであり、断面形は扇形的に扇形となっている。またP<sub>2</sub>と土柱2の間に厚さ約2cm程度の凹面に掘りくぼめた部分があり、内部に長さ約2cmの短長の棒状がみられるが、立石であ



PLATE 1

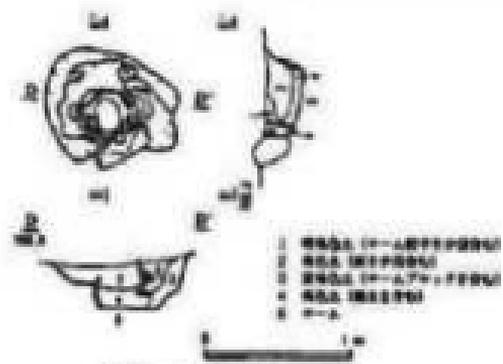
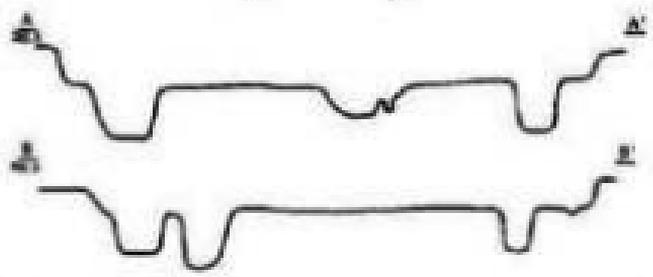
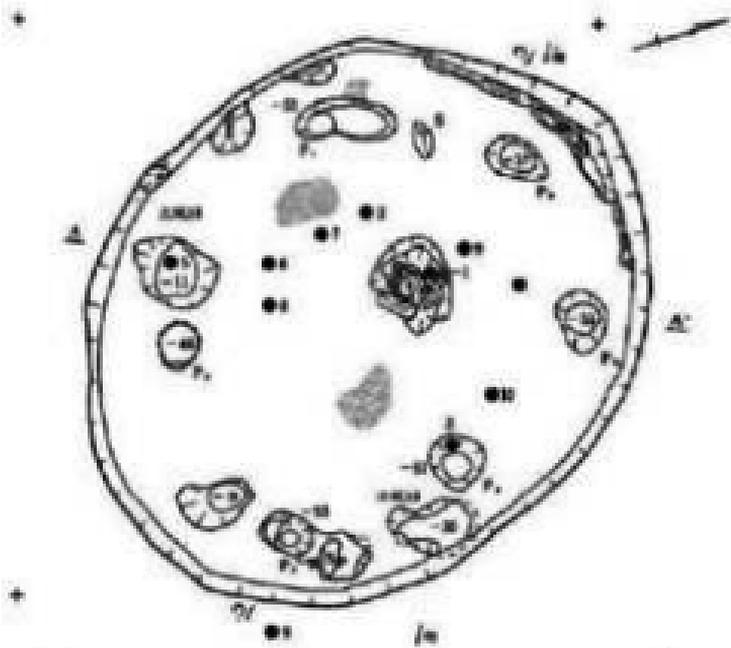


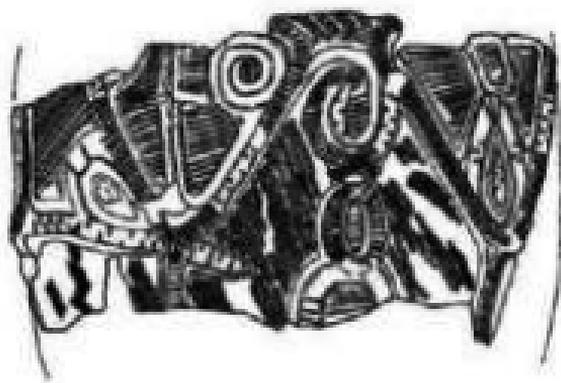
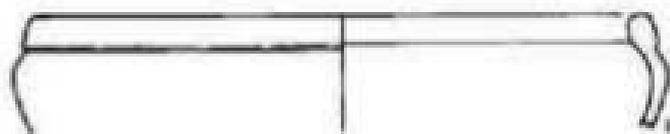
PLATE 2



- 1. 100x
- 2. 100x
- 3. 100x-ANTERIOR
- 4. 100x-ANTERIOR
- 5. 100x-ANTERIOR
- 6. 100x

BY I.A.





END OF THE WORLD

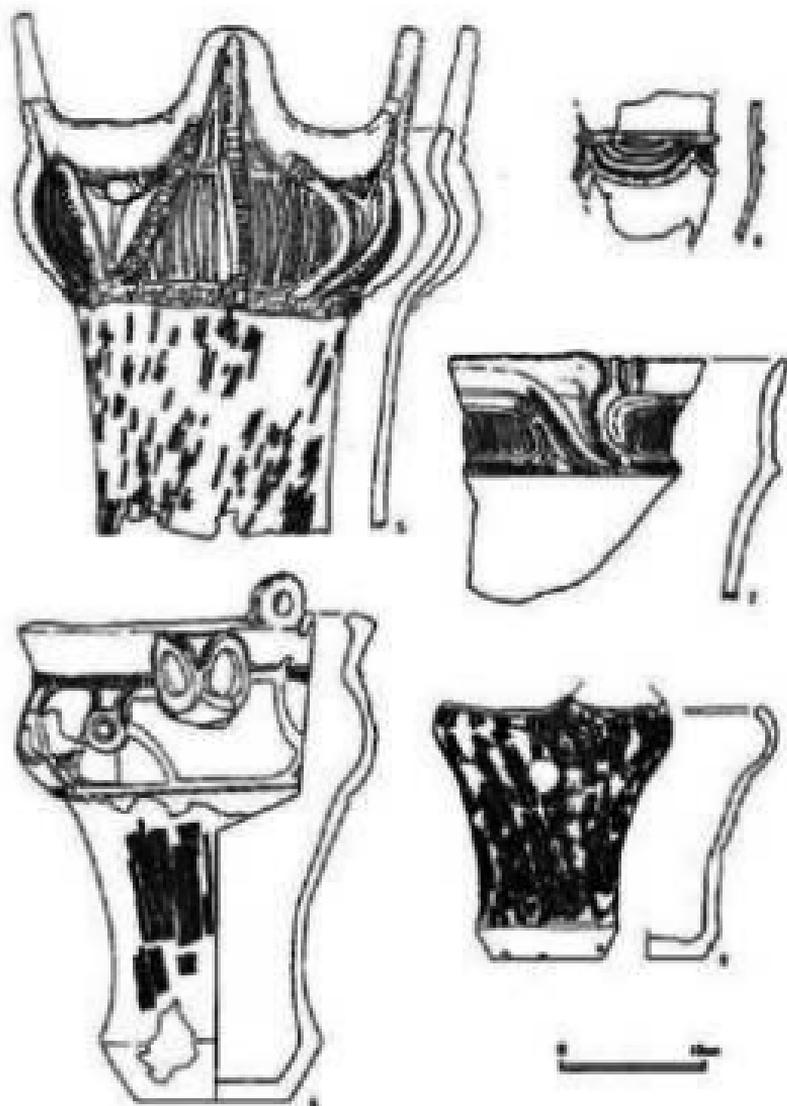


FIG. 10. — *DEUTEROPHYLLA*

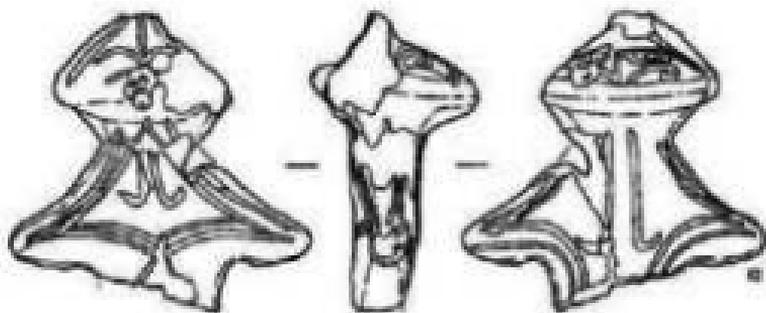
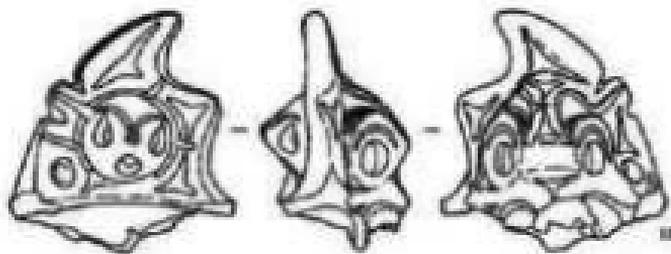
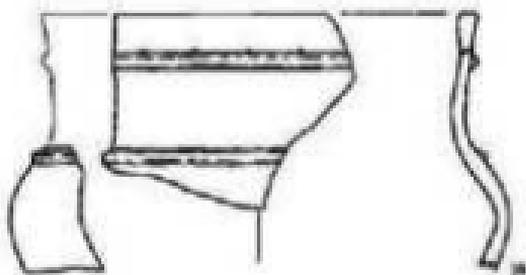


图 2 中世纪的陶器

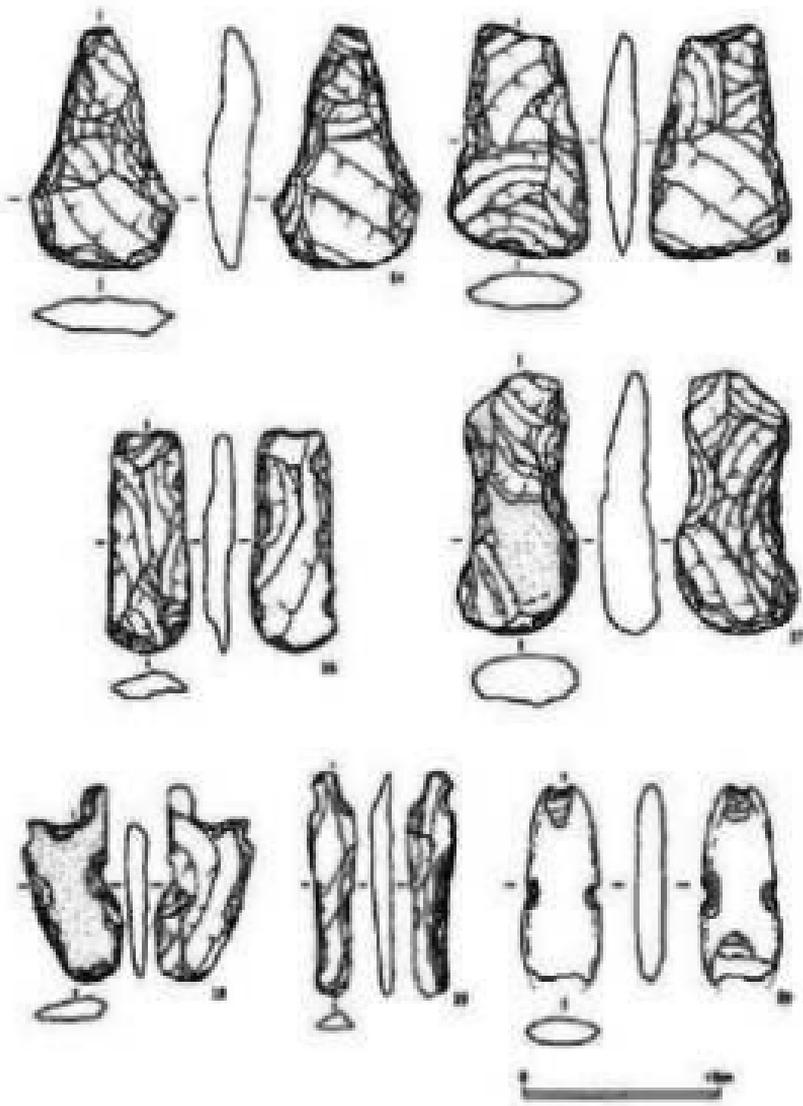


FIG. 10. STONE TOOLS.

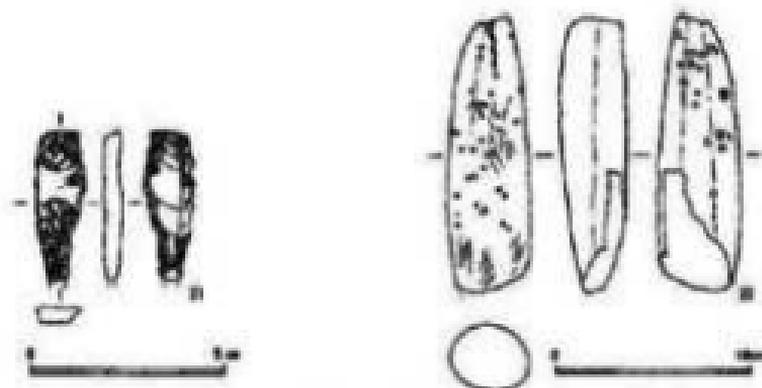


図2 伊予佐田出土土器の複製図

た可能性がある。

伊は伊石を有する粘土器で、佐田は中央よりやや北部に位置している。長約3cm、幅約1cmの平盤状断面を呈し、内部に上部と下部を区いた段状土器の断面(図2-1)を複製している。伊の断面は伊石が盛み取られた跡がみられる。伊及び複製土器の内部に埋着している土層にはあまり焼土はみられず、複製土器内部の焼土下部にわずかに認められる程度である。また、伊の複製の断面にも焼土が部分的にみられる。複製する伊には火焼の跡は認められない。

遺物は伊石内部より段状土器(図2-1)、伊石周囲の埋藏土より段状土器(図2-1、図2-2-1)、土佐川の焼土より段状土器(図2-3)、F<sub>1</sub>の焼土より段状土器(図2-1)が出土している。また佐田は焼土中層より土器(図2-1a-b)、有孔円柱土器片(図2-1c)、石甲(図2-1d-e、図2-2)、石鏡(図2-1f-g)、石匙(図2-2h)、石鏝(図2-2i)等の遺物が出土している。他に佐田以外であり、本誌に挙げるものが判別としないが、西宮副都府より藤原朝平村土器の形半部(図2-1)が出土している。

本誌の時期は遺物等から縄文時代中期中層であるとされる。

#### 2) 考古学館址(図3図)

佐田で出土した、伊予佐田に由緒の伊及び藤原朝平複製されており、一部調査区外になるもののプランは判別としないが、長約3cmの平盤状断面を呈していると思われる。複製は図2で2cm、実物でも2cmである。両端は複製土下の一帯と複製土下にみられる。ピットは3基出土した。土佐式は判別としないが、位置的にみてF<sub>1</sub>とF<sub>2</sub>のものであると思われる。F<sub>1</sub>は長さ4cmで、複製は判別としないが、本誌と同様のものであると思われる。

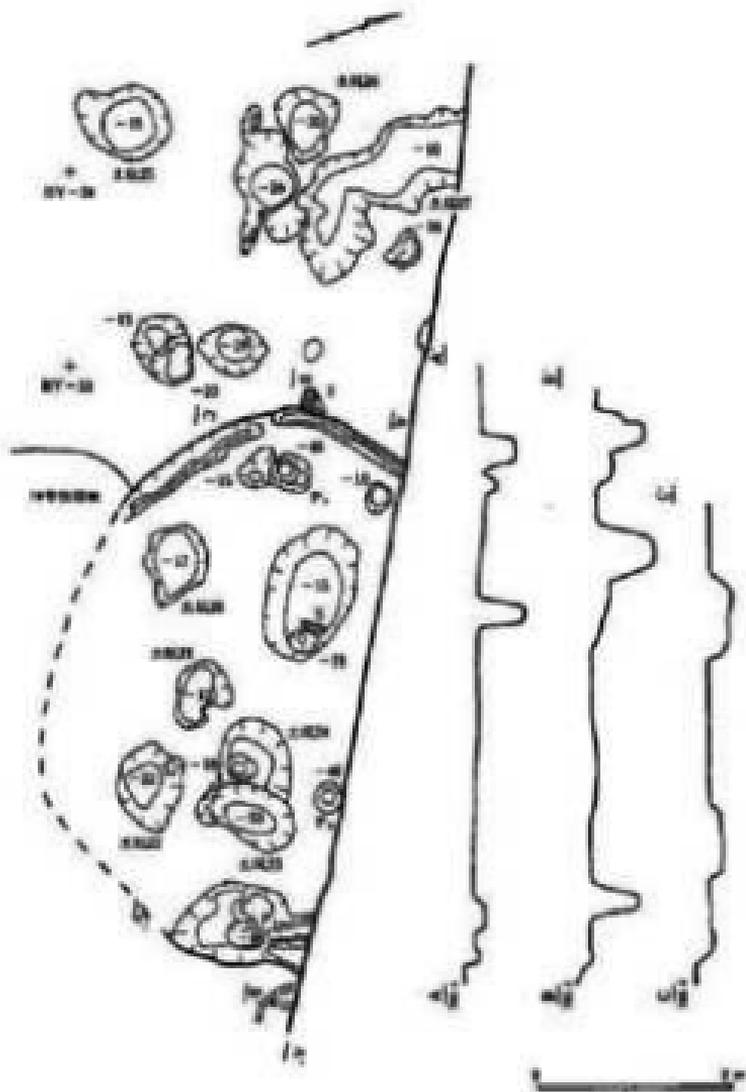


图 12 幼虫内部构造

伊豆ははっきりとした跡がみられないが、Fの東側に位置する土城の礎土中に少量ではあるが  
 灰が認められたため、これが伊式であった可能性がある。

遺物は礎土下層より須弥型土器 (図4-1-2)、瓦葺平盤土器の瓦葺平盤 (図4-3)、礎土上  
 層より土鍋 (図4-4)、礎土上層及び中層より石杵 (図5-2-7)、石臼 (図5-8) が出土して  
 いる。半住居址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると認められる。

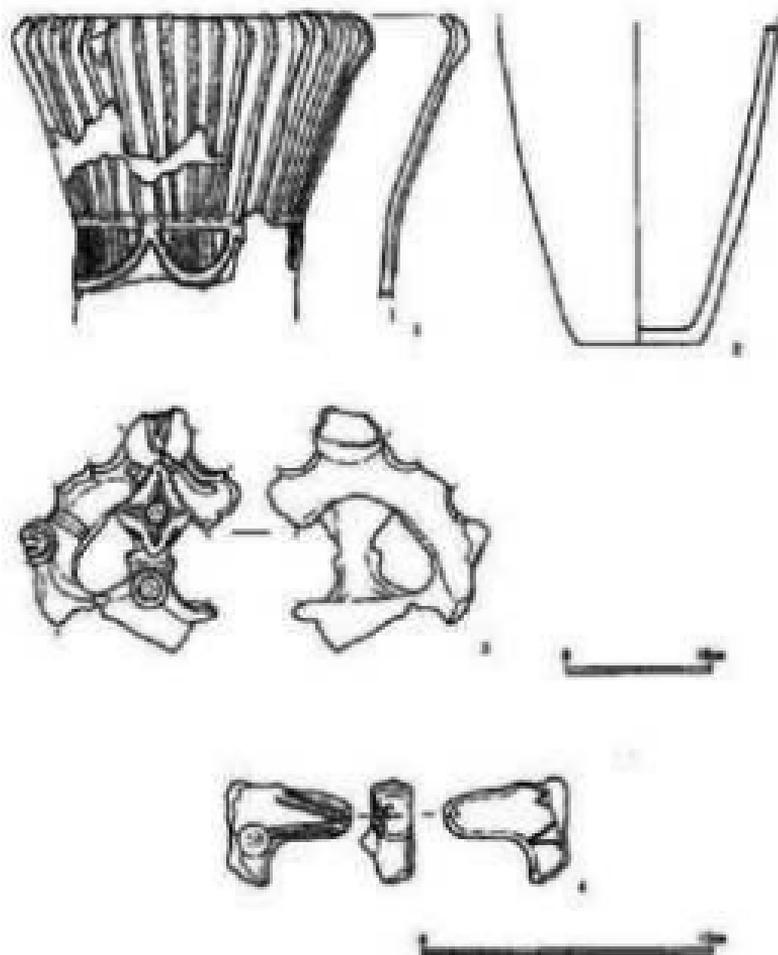


図4-2 25号住居址土上遺物実測図

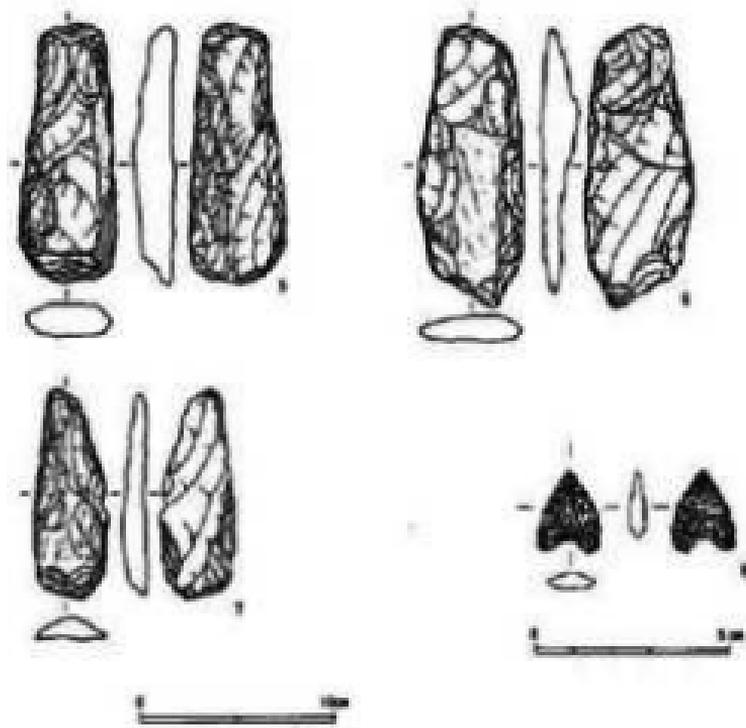


図10 20号住居出土植物化石標本

20号住居址 (第10図)

該地区で出土した、葉上及び葉面に葉上及び葉が多くみられることから、虫葉による腐葉となり腐食した虫葉であると考へる。20号住居址の地表部分の葉と葉面を採集しており、地表部の虫葉部分が腐食区片にはいるためブランチは判別しないが、平葉類同類を呈しているものと認められる。土層は同一部一層を示すものと思われ、葉長は約6cm-13cmである。葉身の縁は壊出でなかった。葉脈は葉面でもた葉下の虫葉にみられ、幅約1-2mm、葉身4-7mmである。葉脈はワーム層まで腐り込まれ強く平み残られており、葉よりは全体的にたいへん腐敗である。

ピットは打取標出した。全体的は判別しないが葉脈類縁のあることが考へられ、P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>・P<sub>4</sub>・P<sub>5</sub>・P<sub>6</sub>・P<sub>7</sub>・P<sub>8</sub>において葉脈がみられるため葉脈との行われた可能性が考へられる。P<sub>1</sub>とP<sub>2</sub>は葉脈脈が葉脈となっており、

葉脈は右側が住居址中央よりやや右側に位置している。葉幅約6cm、葉長約7cmの平葉類入方向で、長さ16cmに腐りくぼめた葉面に葉脈の分布を方向に配置している。P<sub>1</sub>の葉脈及びP<sub>2</sub>の葉脈

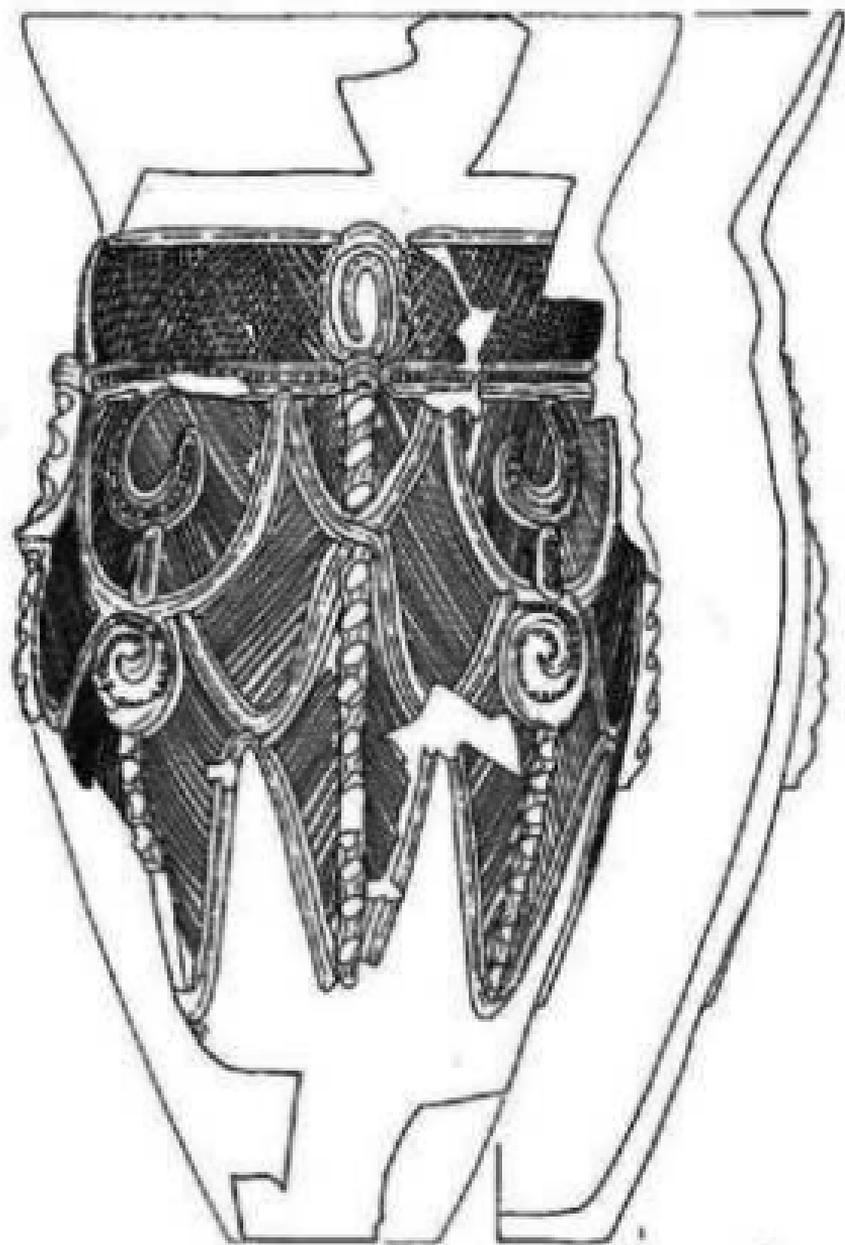


FIG. 1

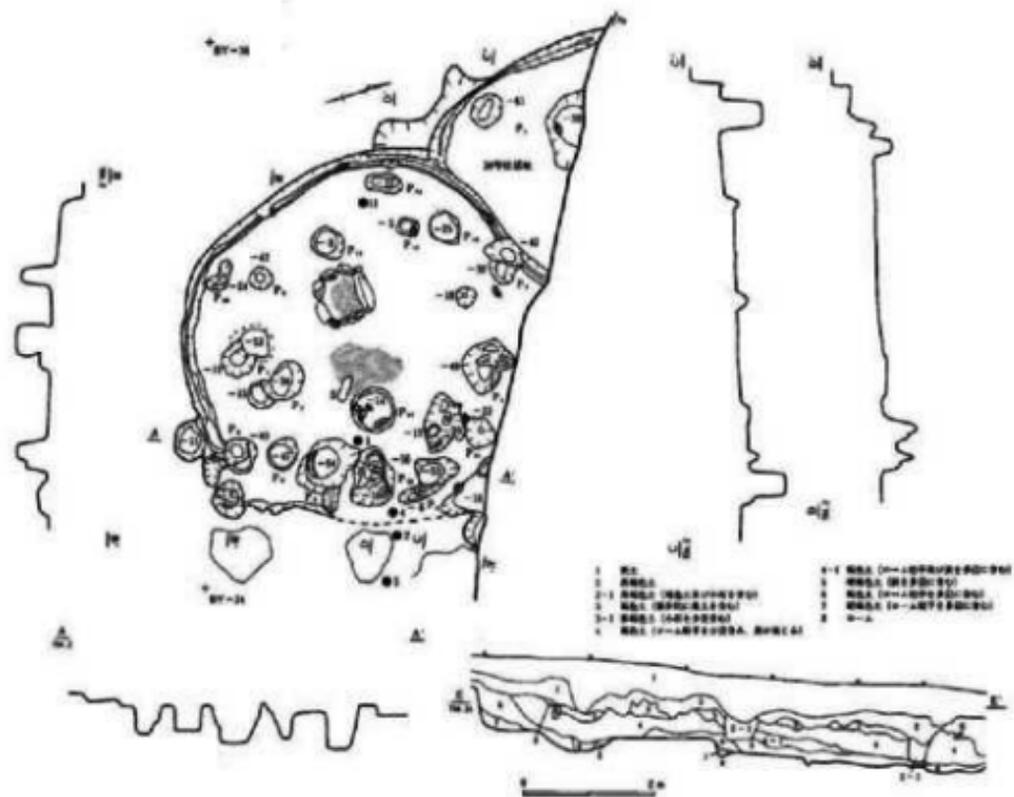


图37 37-39号植物茎横切面

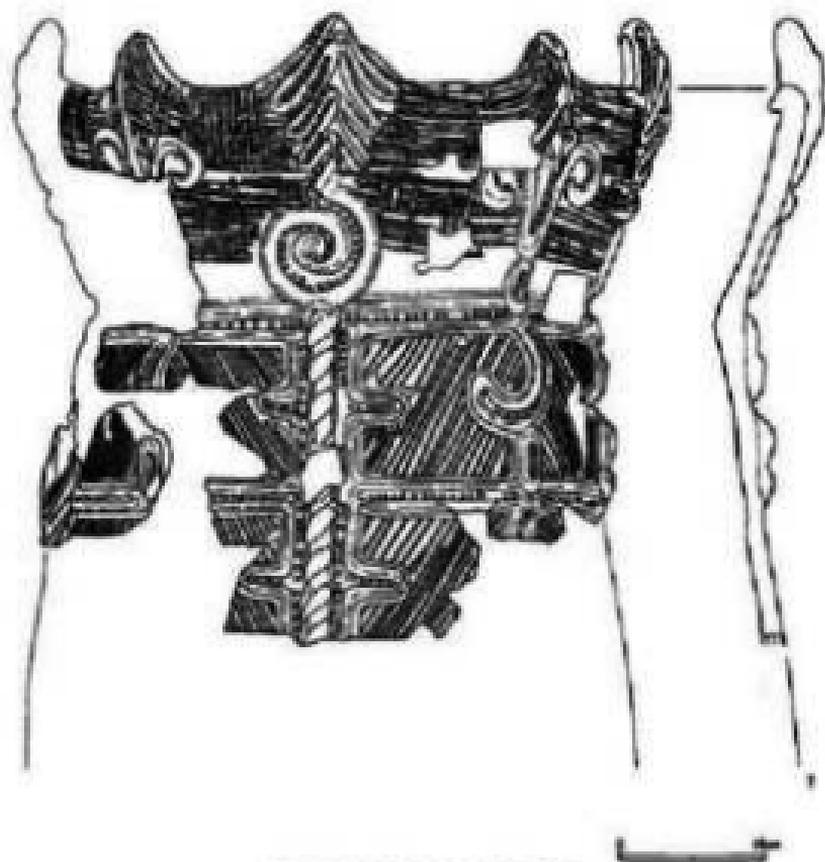
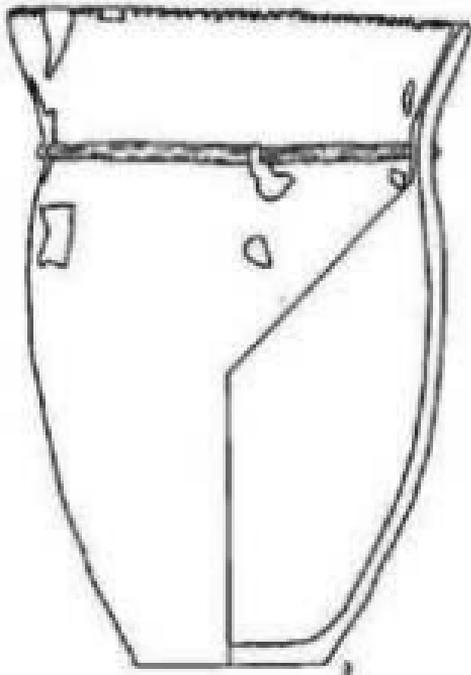


図40 古墳から出土した銅鏡の複製

の周囲には瓦土が認められる。中央には大鏡の形が認められる。

遺物は瓦土下層より鏡銅型土器（図31-1、図31-2、図31-3・4、図31-5・6、図31-7）、  
 鏡銅型土器（図31-8・9）、瓦器より鏡銅型土器（図31-10）、瓦土中層及び下層より、石片（図34-  
 16）、石匙（図34-15-17・18）、鏡型石匙（図34-19）、石匙（図34-20）、石片（図35-21・22）、  
 石匙（図35-24、図35-25）の他、多数の土器片（図37-1-13）が出土している。

本遺跡の時代は遺物などから西文時代中期後半であると思われる。



CHALCOPHANE VASE

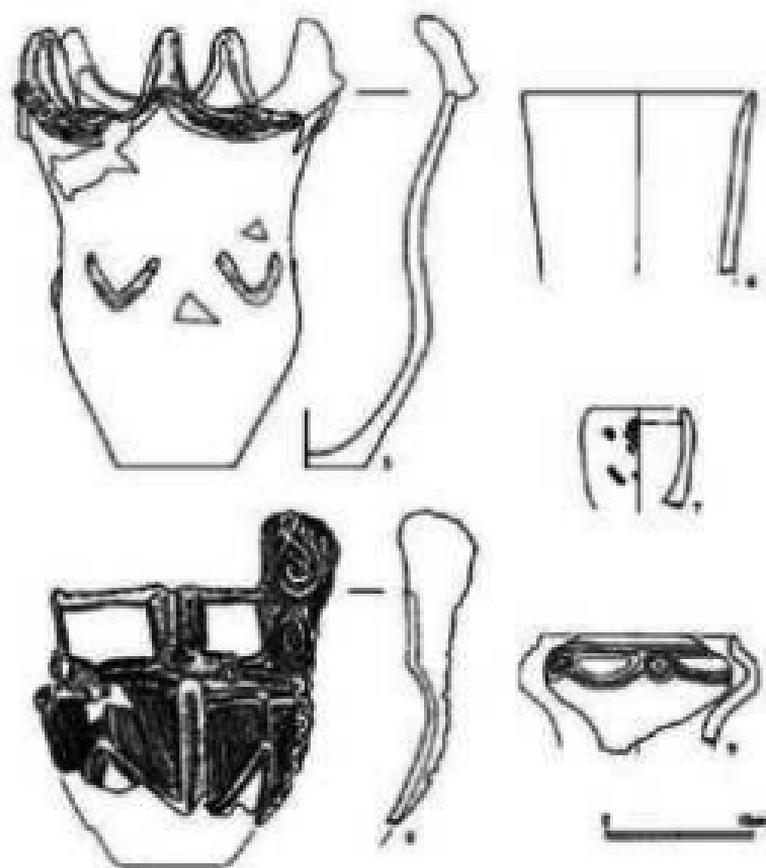
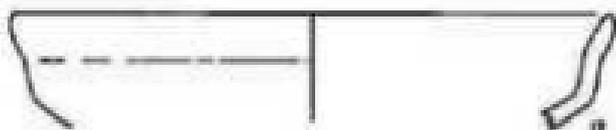
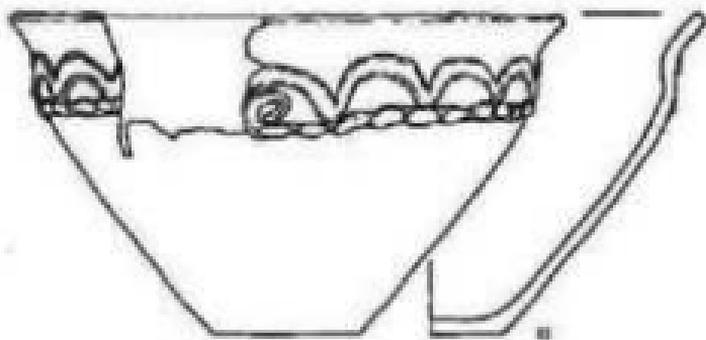
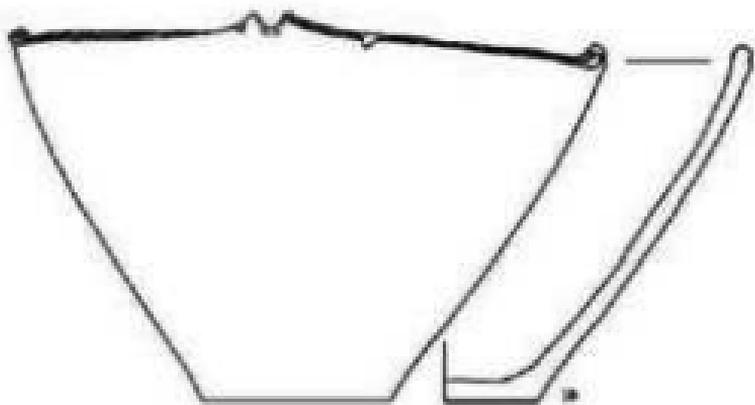


图100 三门峡虢国墓地出土的青铜器



图九 汉 晋 南北朝 陶瓷器 纹饰 图

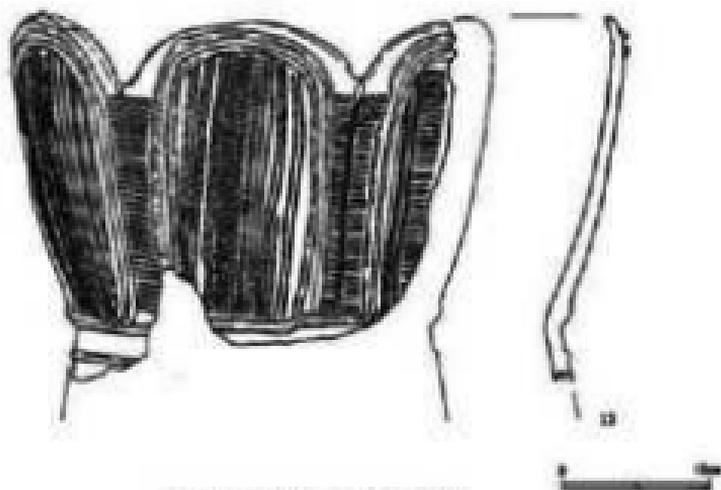


图12 浮游植物

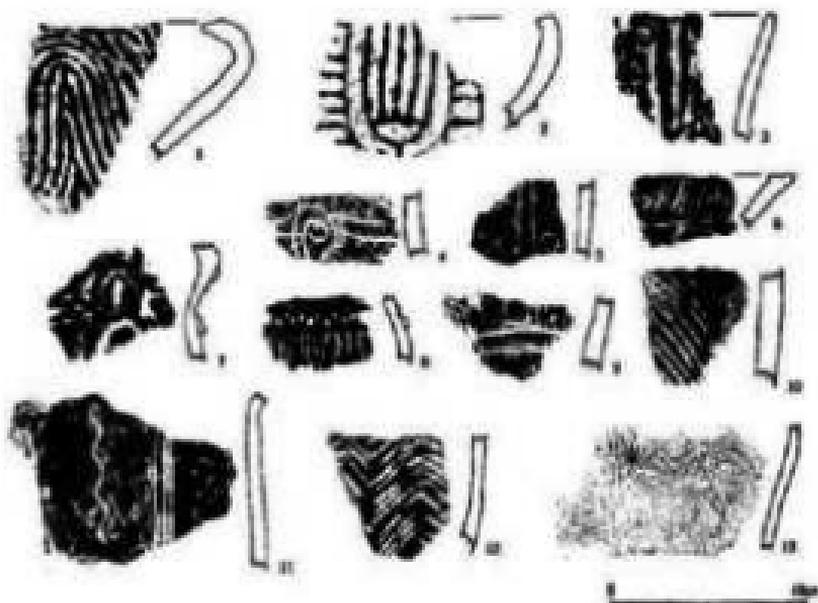


图13 浮游植物

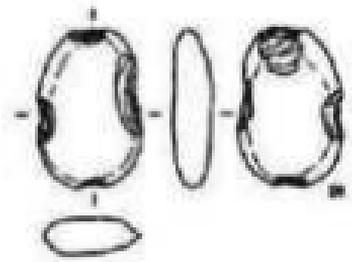
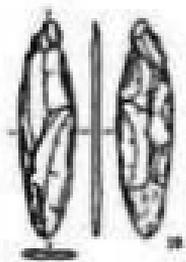
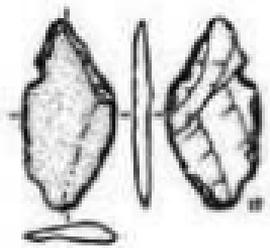
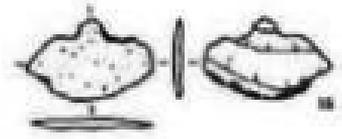
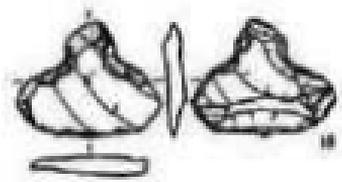
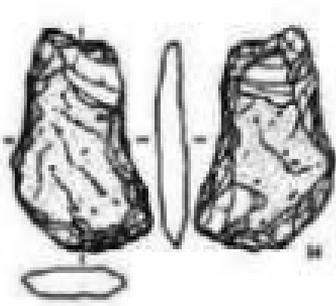


FIGURE 1-7

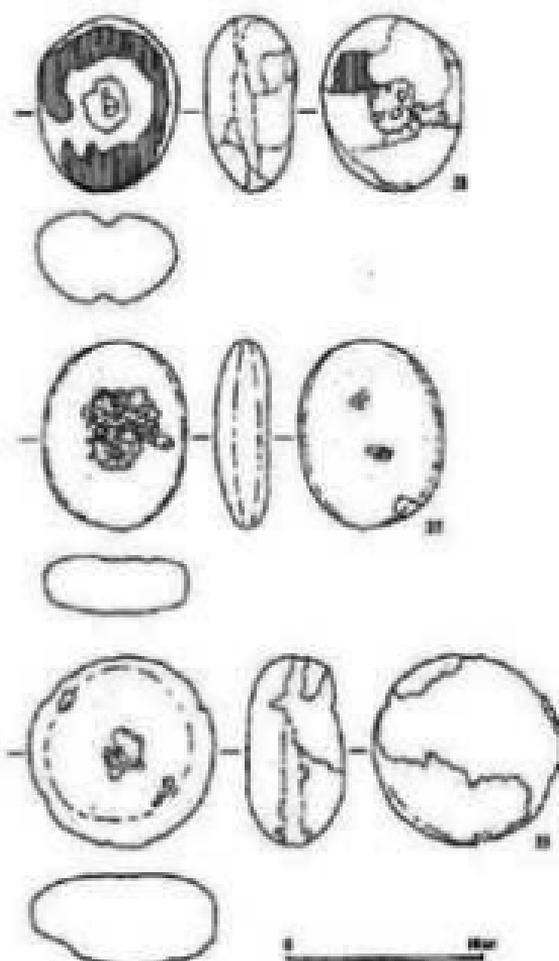
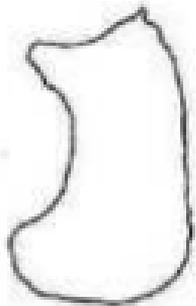
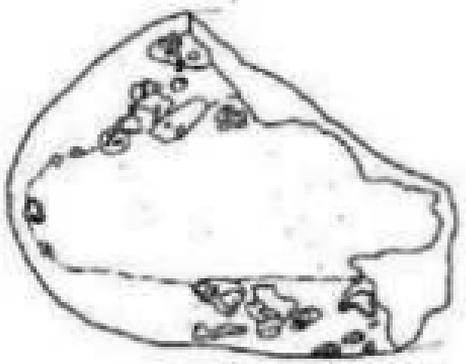
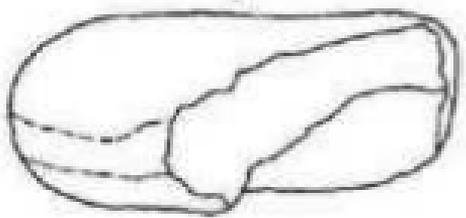
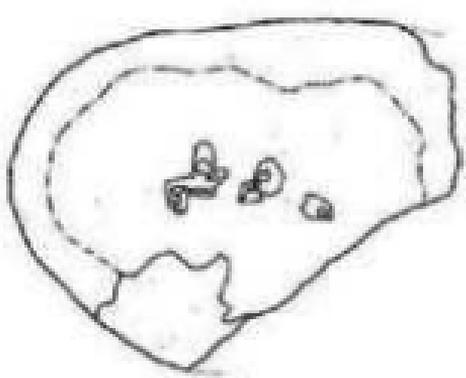


图10 幼虫发育各阶段的形态特征



Downloaded from www.nrjournals.com

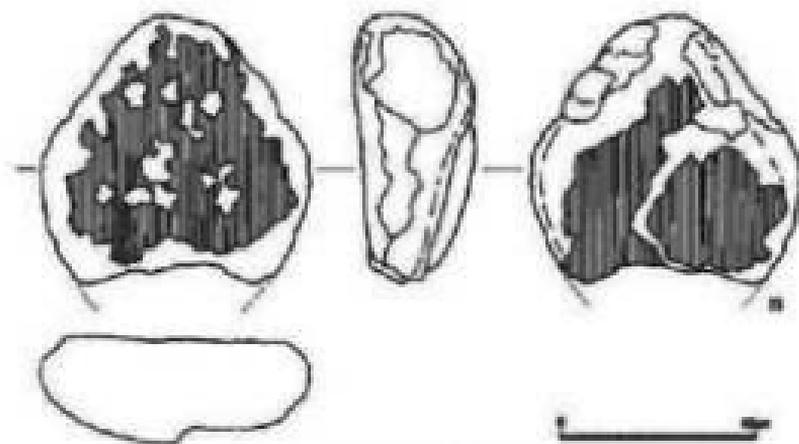


図27 27号住居出土の遺物(石製物)

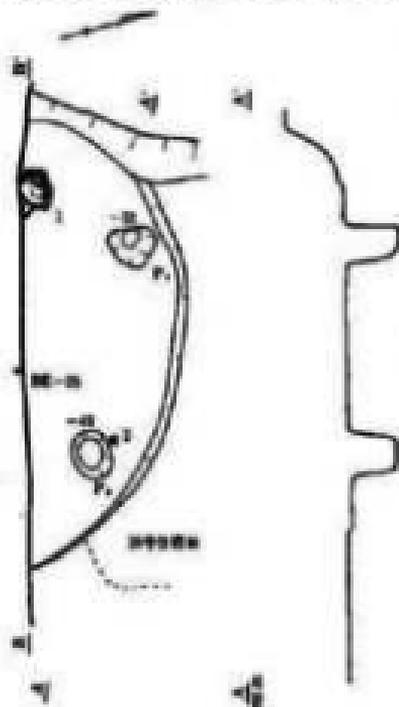
#### 28号住居址 (第27図)

東地区で出土した。27号住居址に表層部分の土及び石面を破壊されている。出土層位が必ずかであるためプランは不明である。壁幅は26cm—27cmである。周壁は敷いた土下全面に築かれた。幅3cm—1cm、厚さ14cm—15cmである。床層はソーム層まで掘り込まれ深く甲を掘められており、跡まりはたいへん良好である。ピットは1個出土したが、これが北柱穴の1つになると思われる。

遺物は認められなかった。年代層位の時期は判然としませんが、27号住居址との併り合ひ関係から、縄文時代中期後葉以前のものと見られる。

40号住居址（横切図）

耳地区で検出した。遺物層の一部が40号住居址に破壊されている。住居址のほとんどは調査区域外であり、検出された範囲はわずかであるためプランは不明である。壁高さは60cm—1.30mである。遺物の層の一部及び層間は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ深く甲子層のまわっており、掘り方は全体的にたいへん粗野である。住居址北東部では掘り出しは認められなかった。



ピットは3箇所検出した。厚さはP<sub>1</sub>で51cm、P<sub>2</sub>で43cmであり、これらは盗掘穴であると思われる。

遺物は西側壁下より人体の全身が出現された人体丈の付いた赤土層（図層-1）、P<sub>1</sub>の北側から赤土層の白層（図層-2）がわずれも表面より出土している。他に土器片・石器等の遺物は認められなかった。

本住居址の時期は出土遺物が少なく判断としないが、縄文時代中期中盤頃であると思われる。

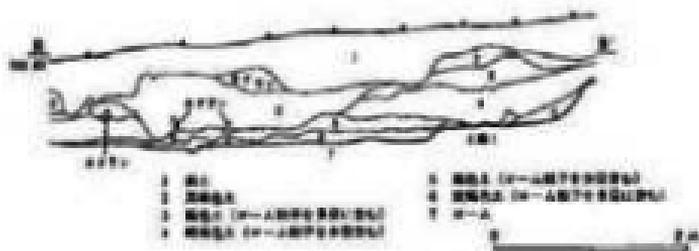


図76 40号住居址横切図

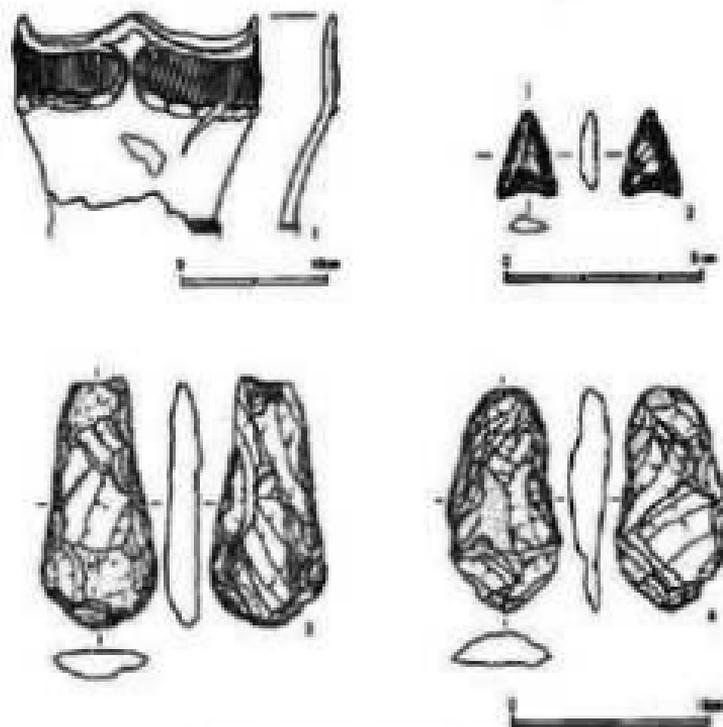


44号住居址（第2図）

居住区が中台居居址の東下より掘出した。長軸 $0.44m$ 、短軸 $0.07m$ の平面形状を示す。主軸は $N-47^{\circ}W$ を示す。壁高は西側壁で $0.10m$ 、東側壁で $0.06m$ である。両端は北東側壁下と北西側壁下で途切れるほかは、住居区壁下全周にめぐらされている。また、住居区内側の東壁を強く傷害するピットを軸山部で設置が認められており、この位置上部の一部に居り痕がみられたことから本住居址は拡張されたものであると思われる。南面はセーム層まで掘り込まれ強く傷害されており、残りは全体的にたいへん良好である。

ピットはほぼ垂直した。西側の構造位置から詳細関係のあることが考えられる。新しい土柱式は $P_1-P_2$ と思われ、主軸を中心とした3層の配置となっている。古い土柱式は $P_1-P_2-P_3$ が重複していることから、 $P_1-P_2-P_3$ であると思われる。

伊勢は地味灰で、住居址のはほぼ中央に位置している。長軸 $0.26m$ 、短軸 $0.06m$ の平面形状で、長さ $0.25m$ に掘りくぼめられている。伊勢直線にはわずかに風土が認められる。



第2図 44号住居址出土遺物関係図

遺物は少なく、伊勢内陸から海側に土器 (2000-11)、灰土上層及び中層より石鈿 (2000-2・4)、石鏝 (2000-11)、石瓦 (2000-5) が出土している。半田遺跡の時期は遺物などから縄文時代中期中期であると思われる。

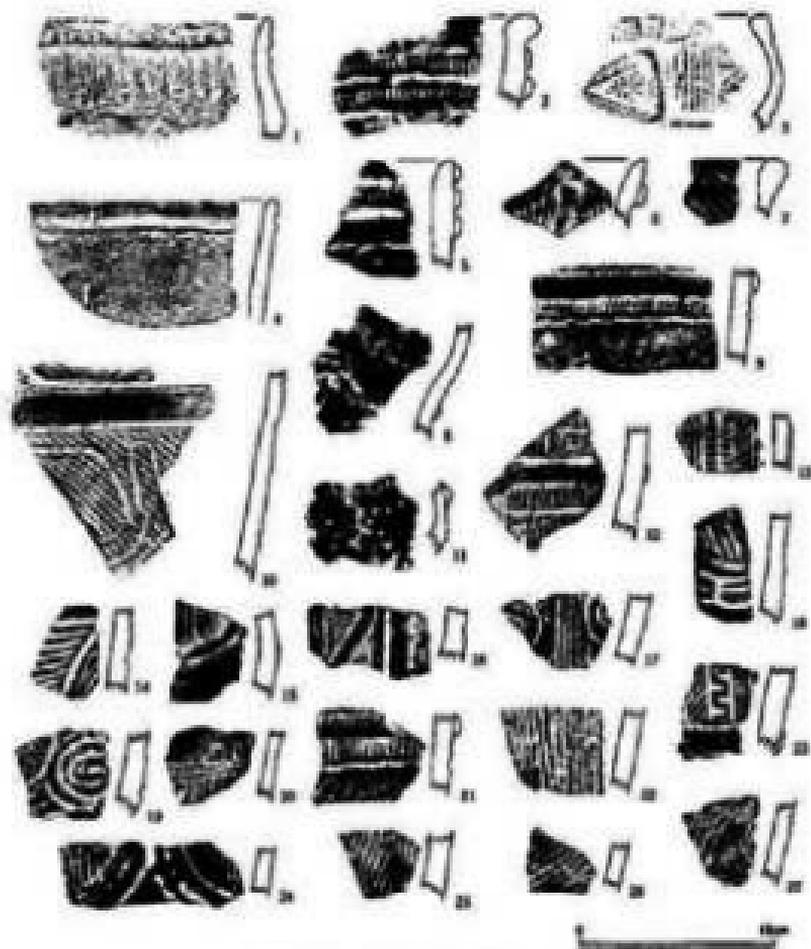


図20 伊勢内陸から海側に出土した土器等類

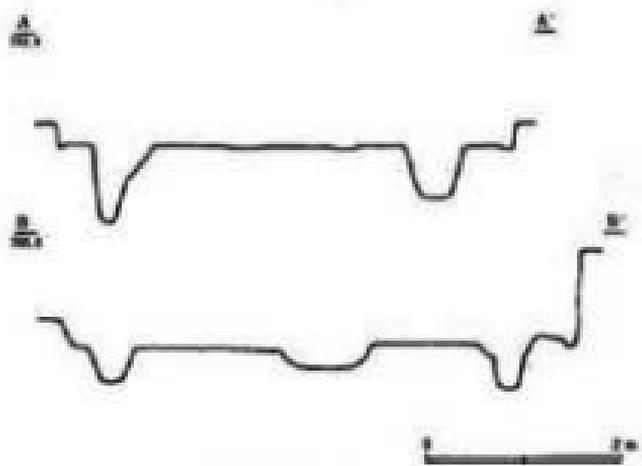
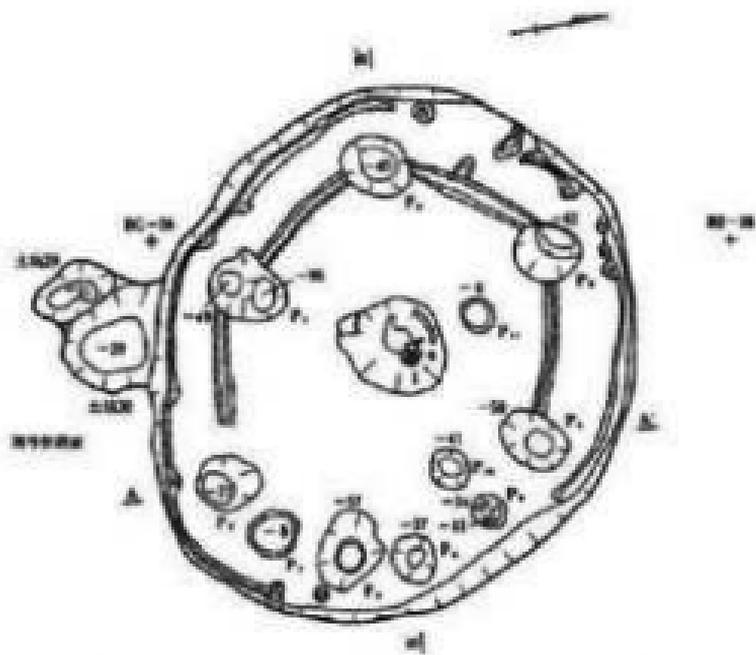
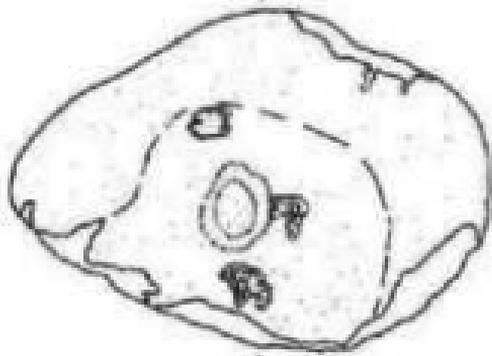
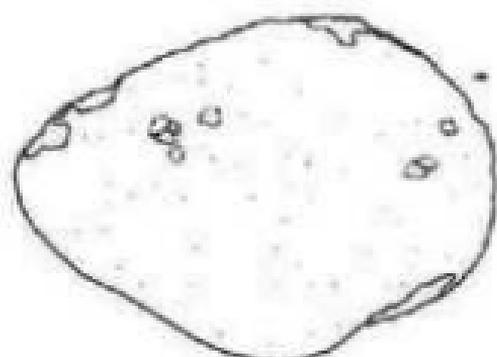


图 1 植物茎的横切面



Scale bar: 1 mm

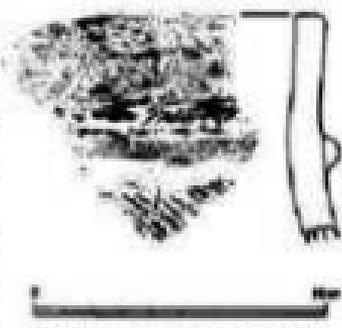
## ② 土器焼成場 (原町区)

原町区で発見した。土器焼成の際、暗褐色土層より多量の土器破片が出土したため、下部に灰層があることを想定してトレンチ調査を行ったが、遺構が認められなかったため土器焼成場であると判断した。検出及び取り上げは、 $2\text{m} \times 2\text{m}$ のグリッドを敷いて行った。

出土した土器片は縄文時代中期中葉のものが主体となっているが、中期後葉のものも少量認められた。また、これらの土器破片にはオーリングを付けた物は認められない。

土器焼成場からは土器破片の他に土器 図録-1-1、図録-1-2、図録-1-10、人の手と表現した土器片(図録-7)、瓦片(図録-1-1、図録-1-7、図録-13-10)、石 器(図録-1-8-12、図録-12-17-20)、石 錘(図録-12-10)、不定形器(図録-11)、磨り型石器(図録-13-10)、石 盤(図録-19-30)等が出土している。

焼成場より発見した土器片の形状と量を手録し表で示した。また、焼成場については原町区にあるため、出土した土器の量は特別遺構状況が異なり、また、17号住居跡の遺構(50-7-13-10)は掘り出しが済んでいるため、出土している土器の量は原町区と比較して少ないと思われる。



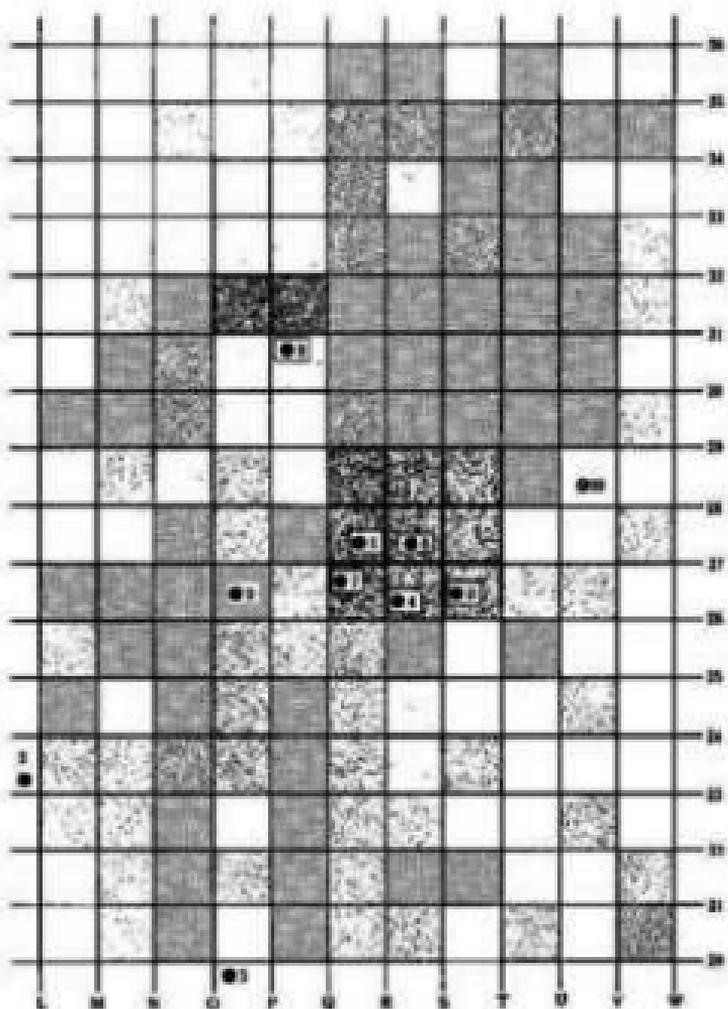
原町区 土器焼成場出土土器片と土器破片

## ③ 特殊遺構 (原町区・原町区)

原町区で発見した。土器焼成の際、暗褐色土層より多量の縄文土器片に混じって、原形保持で出土する縄文土器が認められた。当初、腐食土層または自然遺構に伴う遺物と判断したが、確認された倉付縄文土器(図録-1)とその筒形土器破片が出土し、原形保持の土器はその両面に集中していたこと、さらに筒形で出土した土器の断面及び下部において遺構にみられる腐食、ピット、壁、伊はなどの確認が認められたことから、原形遺構であると判断し、検出を行った。検出は $2\text{m} \times 2\text{m}$ のグリッドを敷いて4分割し、 $1\text{m} \times 1\text{m}$ のグリッドを敷いたに設定して記録を行った。

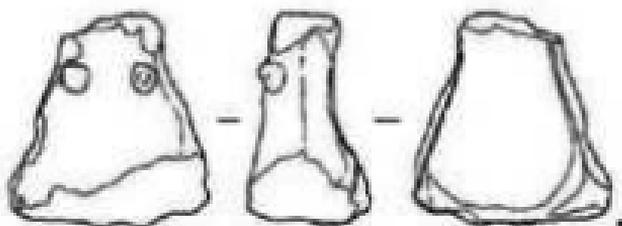
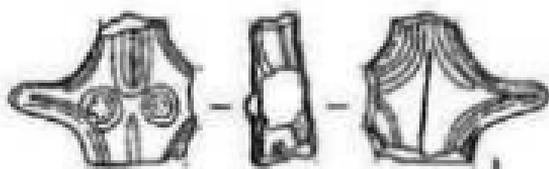
中央の中心部になると認められる倉付縄文土器は、遺構が穿孔され遺骨に設置された上に一様欠損した使用面のみみられる平底円形の器(図録-10)が表層を穿つような状態で出土した。土器の内面には、暗褐色土層が認められるのみでその他の遺物は認められなかった。その周囲には瓦等の破片が4個出土している。これらの石の一部には大角を受けた跡が認められるものがある。他に縄文土器の破片には平底を特徴がみられるが、形跡に共通性はみられない。

縄文土器を中心とした半径3.0m内からは原形土器(図録-1、図録-4-7、図録-1-9)が7個体出土している。このうち、図録-4-5と図録-1-9の土器は並列した状態で口縁が南方を向いており、同一の方向性をもっている。また、図録-1、図録-1-9の土器においても南方または南東方方向に口縁が向いている。配置されている土器の周辺には、これらと同種類の土器片が多く出土しているが、こ

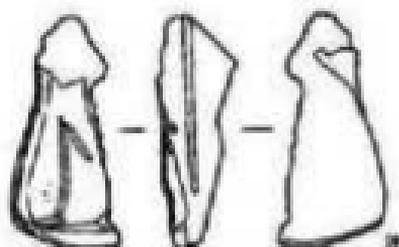
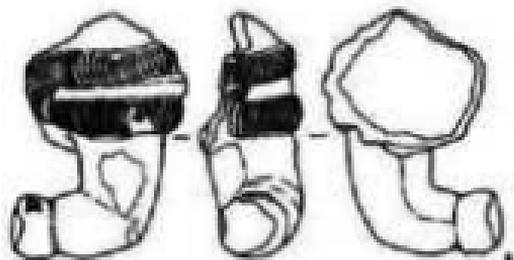
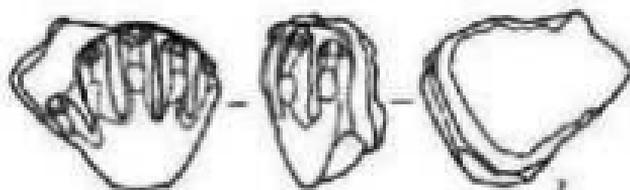


 1,000~	 1,000~1,000	 200~1,000	資料出典：土地調査局提供
 1,000~10,000	 1,000~1,000	 4~200	(単位：%)

圖 12 台北市地質分佈圖 (1 : 250)



SCALE BAR



BY THE LIBRARY OF THE UNIVERSITY OF CHICAGO

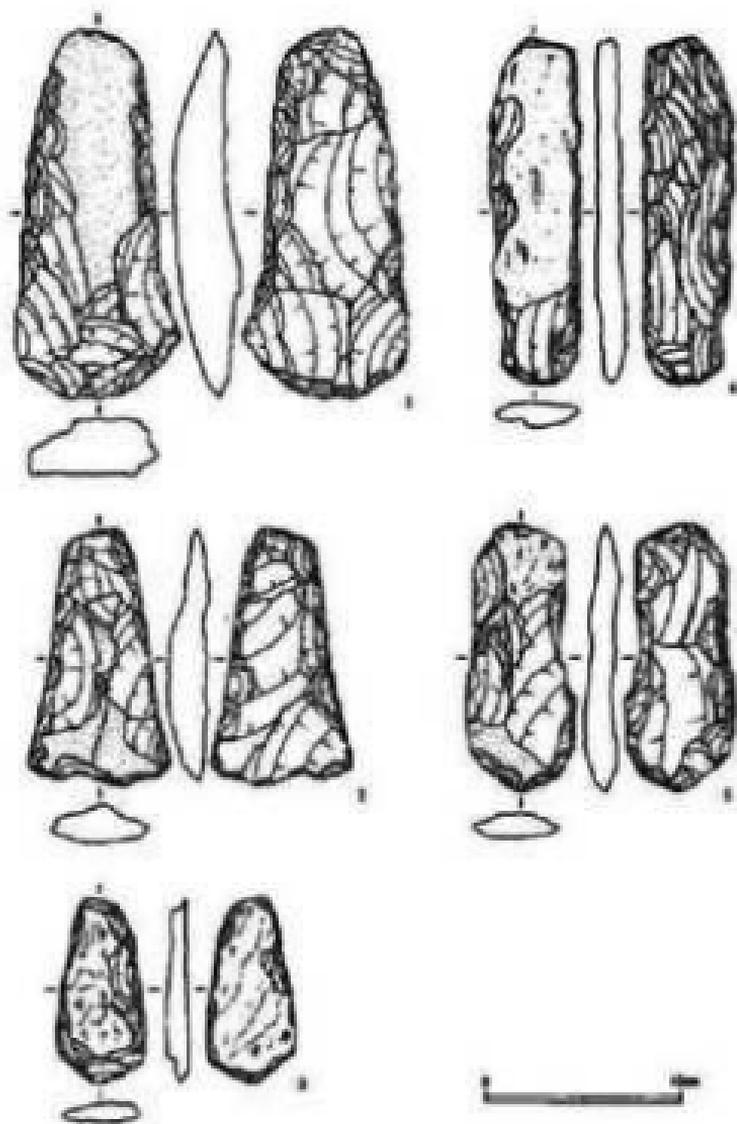


图 10 上白垩纪植物化石 (1-7)

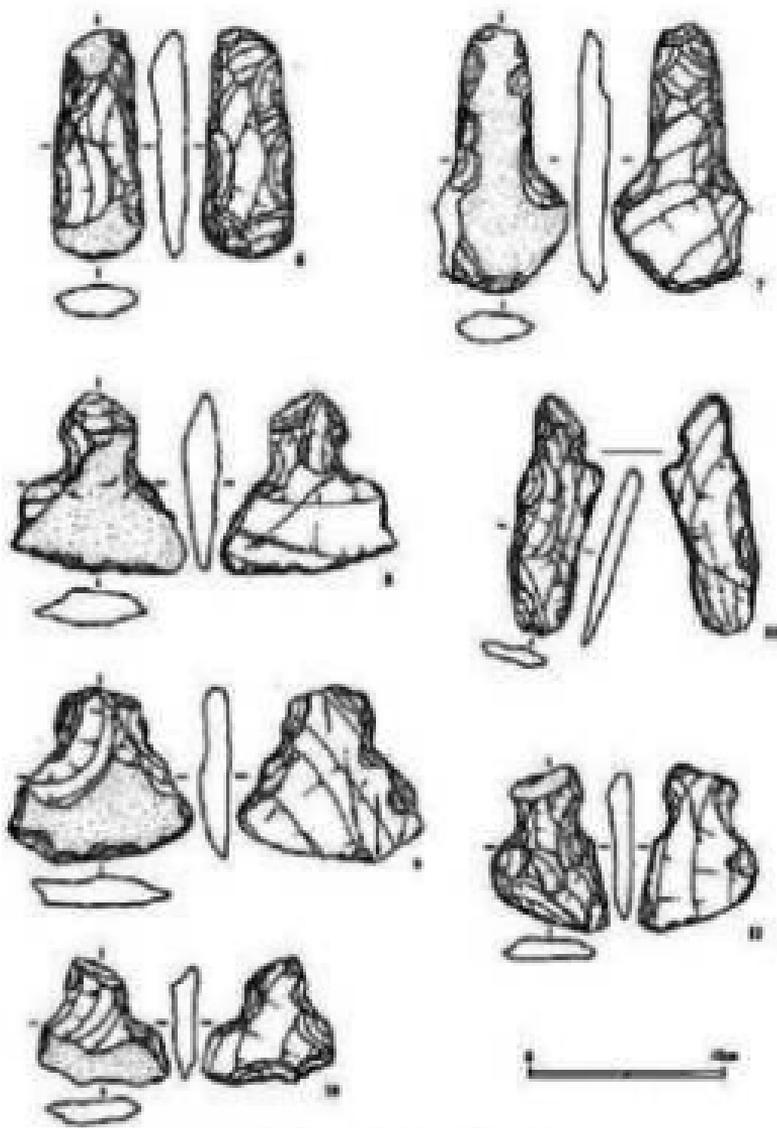
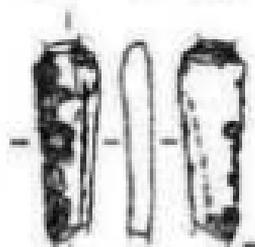
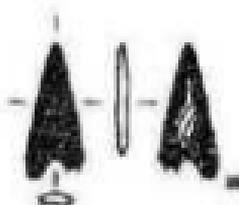
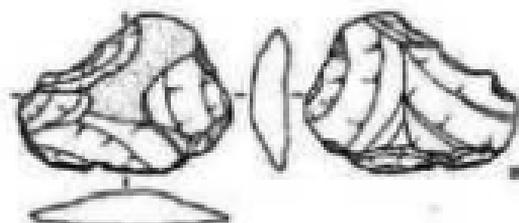
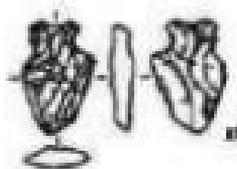
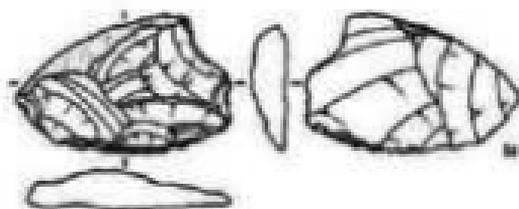


PLATE I. BRACHIOPODS.



СОВЕТСКИЙ МИН

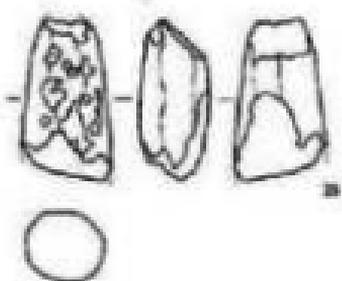
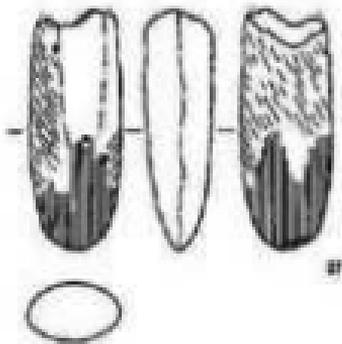
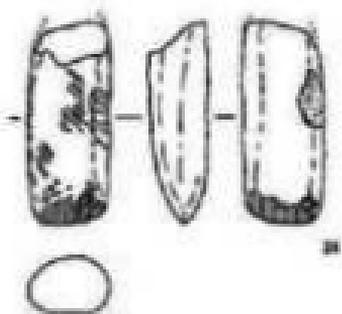
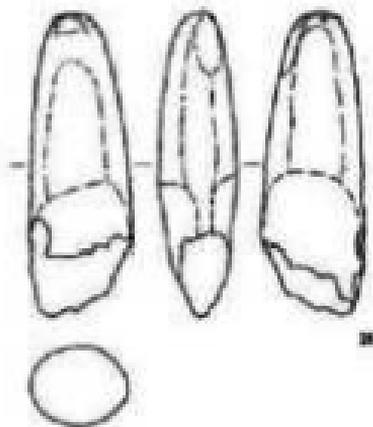
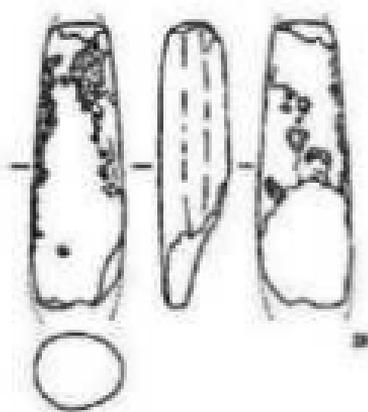


图 1 上野组化石的形态特征

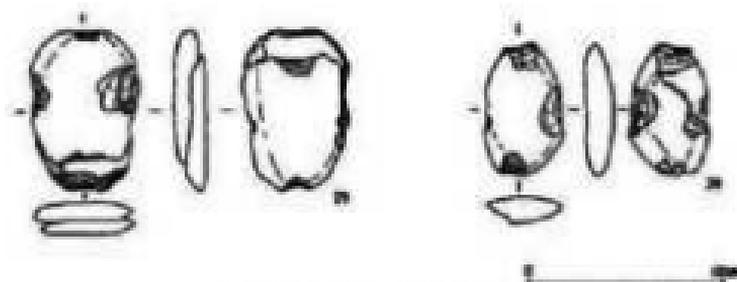


図1 土器埋藏地出土土器埋藏状況

れんの中の一層には、火熱により表面がラウジ状になった、赤がみのみられる土層が認められる。

埋蔵層間においては、灰化堆積物層土は認められなかった。図1-Bの土層層上から、5平の層に及ぶ埋蔵層が写真的に記録された人の手をモチーフにした土器片が出土しているが、本埋蔵層が土器埋蔵層になっているため、これが本層に由来するものかは判断できない。また、アライシ30-5-34-35より出土した土器(図1-2)は、口縁が前方を向いた状態で出土しているが、埋蔵型土器から離れた位置であり、埋蔵の新しいものであることから、本層に由来するものとは認められない。

本層の時期は遺物等から、縄文時代中期中葉であると認められる。

表1 土器埋藏地出土土器層一覧表(1)

アライシ	層	層上(尺)	層	層	アライシ	層	層上(尺)	層	層
30-5-30	1	25	1	1	30-5-30	1	25	1	1
30-5-30	2	25	2	2	30-5-30	2	25	2	2
30-5-30	3	25	3	3	30-5-30	3	25	3	3
30-5-30	4	25	4	4	30-5-30	4	25	4	4
30-5-30	5	25	5	5	30-5-30	5	25	5	5
30-5-30	6	25	6	6	30-5-30	6	25	6	6
30-5-30	7	25	7	7	30-5-30	7	25	7	7
30-5-30	8	25	8	8	30-5-30	8	25	8	8
30-5-30	9	25	9	9	30-5-30	9	25	9	9
30-5-30	10	25	10	10	30-5-30	10	25	10	10
30-5-30	11	25	11	11	30-5-30	11	25	11	11
30-5-30	12	25	12	12	30-5-30	12	25	12	12
30-5-30	13	25	13	13	30-5-30	13	25	13	13
30-5-30	14	25	14	14	30-5-30	14	25	14	14
30-5-30	15	25	15	15	30-5-30	15	25	15	15
30-5-30	16	25	16	16	30-5-30	16	25	16	16
30-5-30	17	25	17	17	30-5-30	17	25	17	17
30-5-30	18	25	18	18	30-5-30	18	25	18	18
30-5-30	19	25	19	19	30-5-30	19	25	19	19
30-5-30	20	25	20	20	30-5-30	20	25	20	20
30-5-30	21	25	21	21	30-5-30	21	25	21	21
30-5-30	22	25	22	22	30-5-30	22	25	22	22
30-5-30	23	25	23	23	30-5-30	23	25	23	23
30-5-30	24	25	24	24	30-5-30	24	25	24	24
30-5-30	25	25	25	25	30-5-30	25	25	25	25



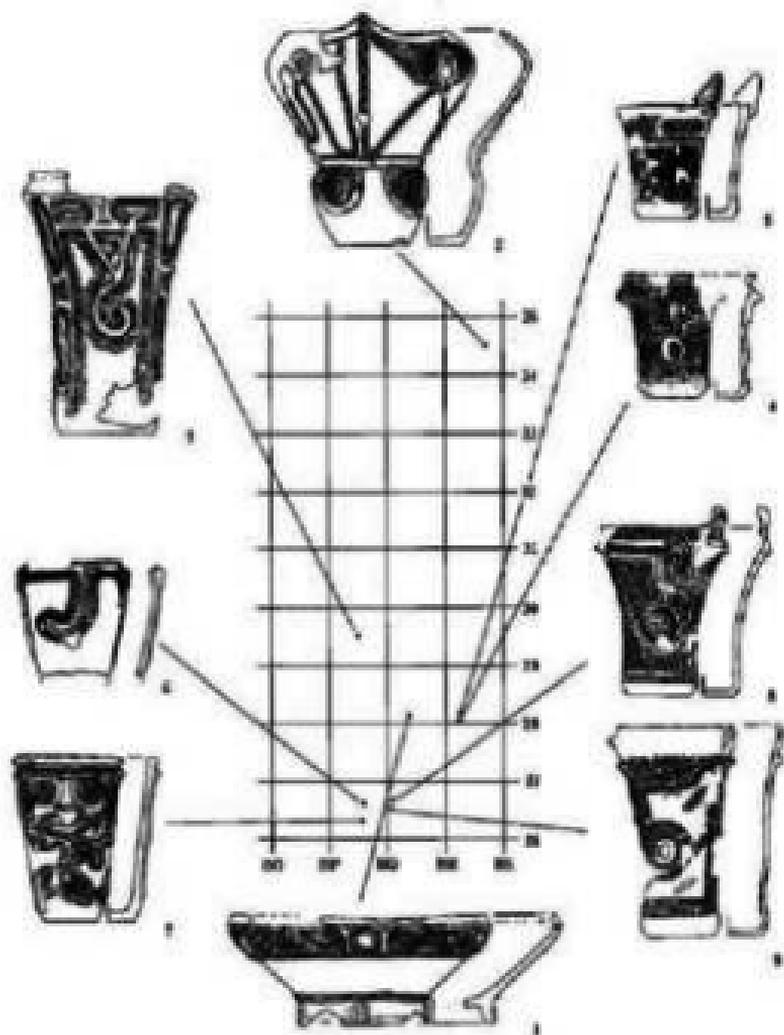
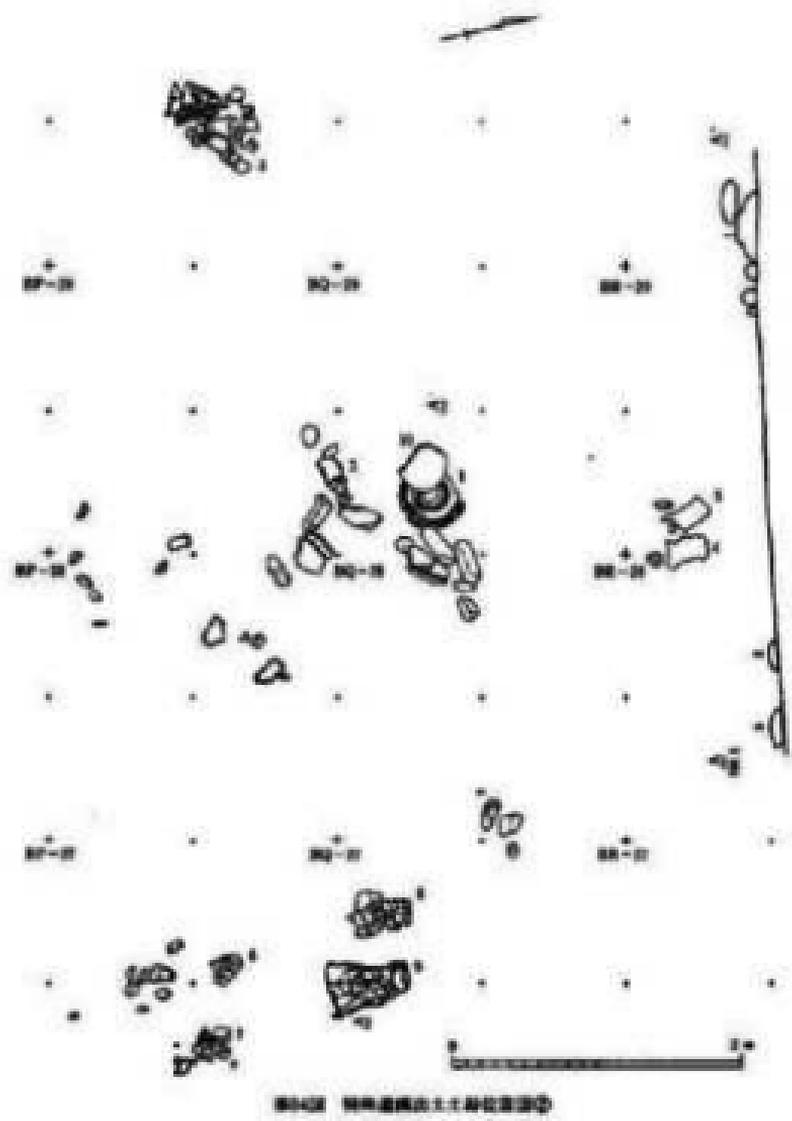


FIG. 1. (1:20)



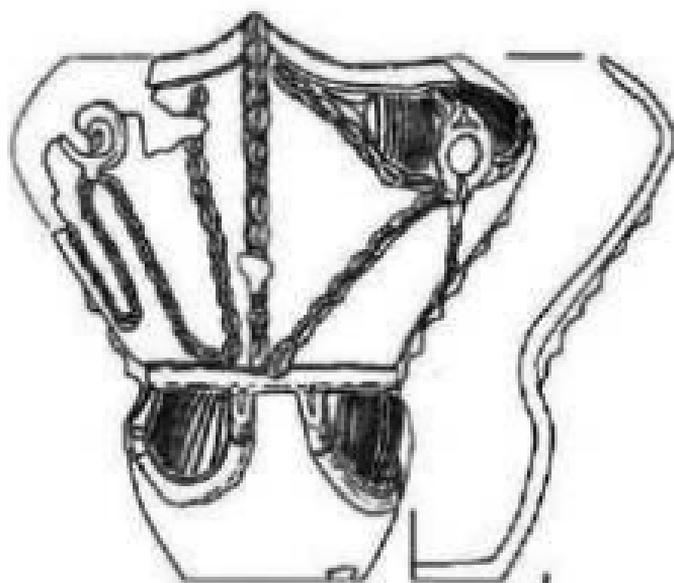
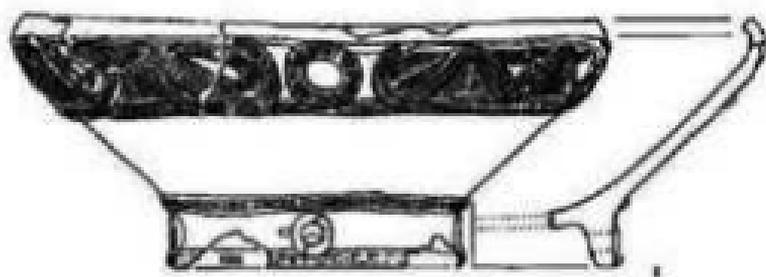


图 10 1000-10000

图 100 各种类型的上颌骨骨折

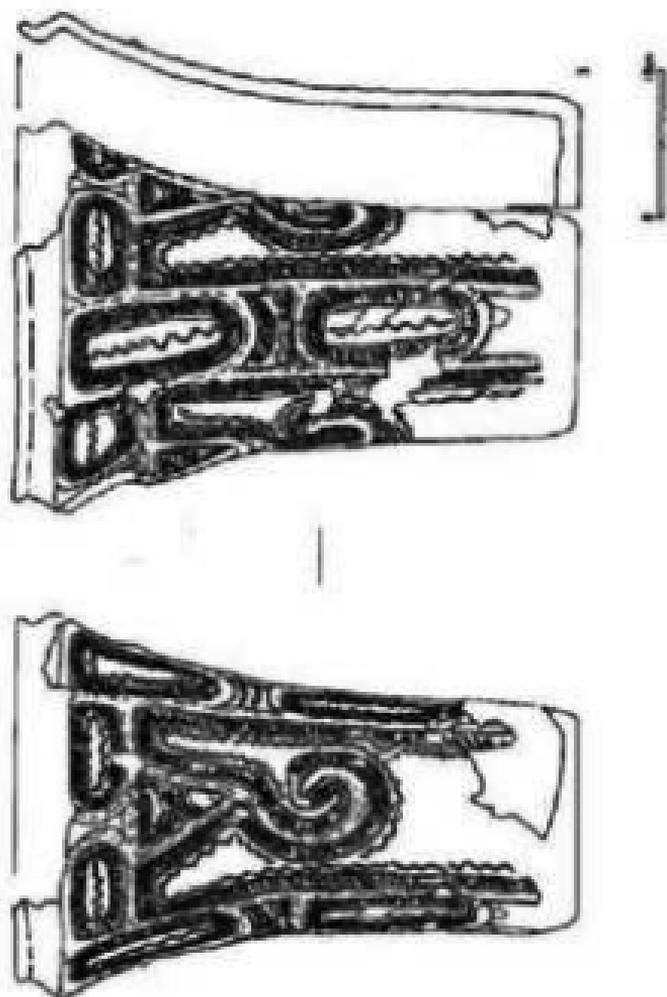
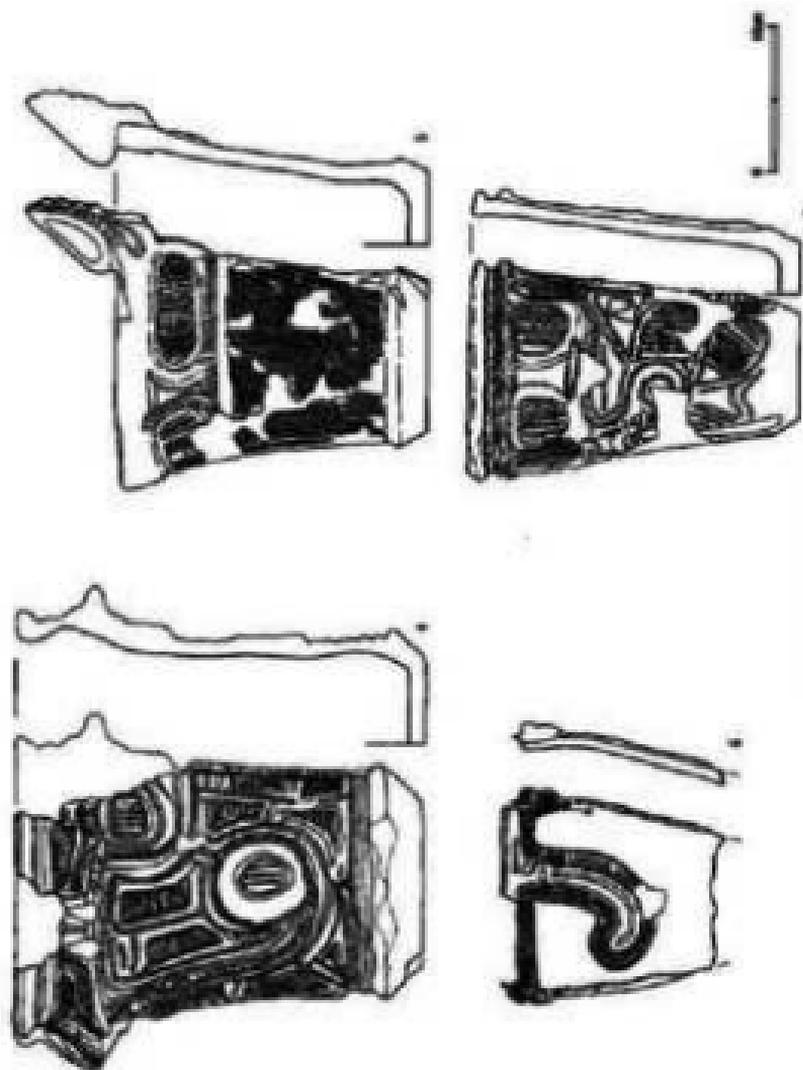
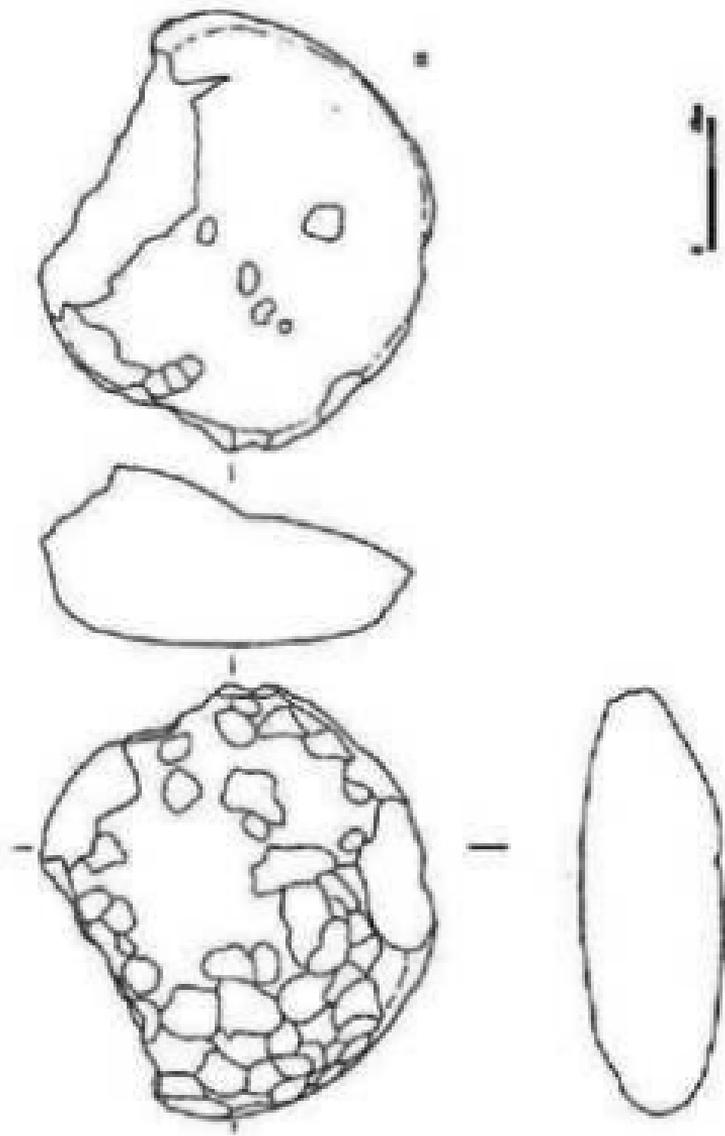


图 10 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.







LONG FRUITED FORM

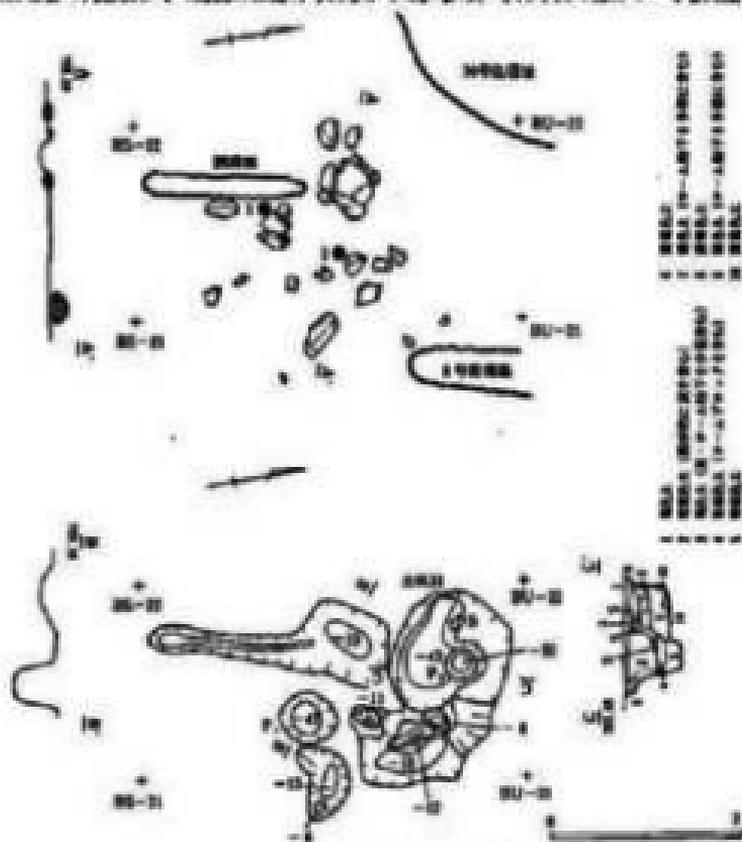
#### 14) 配石遺物 (第100図)

本地区で出土した、20号住居跡南東側に位置している。遺跡の上層にも号標遺品及び陶磁器が散見されていることから本址の一部は破壊されていることが考えられる。

本址は上層破壊を行っていた際、散見した状態で遺物が出土し、その西側から方形に配置された遺物を出土した。伊豆であることを想定して、調査を実施したが、取り壊は認められなかった。

本址の東側に東側の4号出土した20号住居跡が位置しているが、20号住居跡の東面とのレベルに差異があることから、これらは別々の遺構であると考えられる。

方形に配置された遺物は、長軸約2m、短軸約1.2m、深さ15cmの平盤状の方形に掘りこぼれた跡目に、東側に方形の砂笥をコの字型に平置に配し、西側と南側の砂笥で囲う形となっており、遺土は遺物の内部及びその周囲には認められなかった。また、それぞれの壁についても内面を受け



第100図 配石遺物南東部

た形はみられない。

方形坑に配置された遺物の周囲にある遺物は砂層とホルンフェルムで、大きき及び形状に異同性はみられない。また、方形坑に配置された遺物の周囲からは土坑②とビット②層を抽出した。これが本館に伴うものであるかは不明である。

遺物は、方形坑に配置された遺物の発露層よりリュチェア土器 (図30-1-1) が出土している。単はの時期は遺物が少なく例外的なものが、縄文時代中期中葉から後葉期であると思われる。



図30図 坂江遺跡出土遺物実測図

## ④ 土 坑

調査域内より2箇所の土坑を抽出した (図31表)。このうち佐原遺跡より抽出した土坑はいずれも、仰ぐ倉い-周縁、形態、土層から縄文時代のものと思われる。また、これらの土坑からは遺物の出土はほとんどみられないが、土坑①より陶製型土器 (図32-1・2) が出土している。

この土坑①は貯平佐原遺跡と貯平佐原遺跡の間に位置しており、周縁にビット②の盛りくぼみがみられることから、佐原館のあった可能性がある。

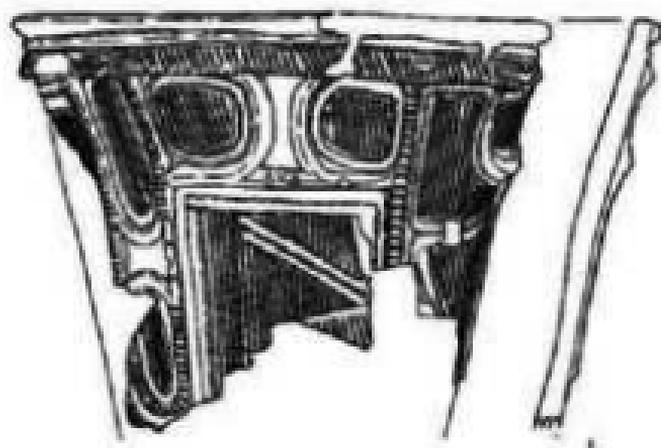


圖 100 圖 10027 出土遺物之剖面圖

## 第2節 弥生時代の遺構と遺物

### (1) 竪穴住居址

#### 4号住居址(図104図)

本地区で発出した、3号住居址に北壁から北東部隅を破壊されている。また、南壁と北壁の一部を後世の掘削により破壊されている。長軸5.9m、短軸5.2mの不等両方方形を呈する。土層はN-107-甲を示す。壁残高は27cm-40cmである。周溝は敷設できなかった。

床面はローム層まで掘り込まれ堅く平ら認められており、全体的に埋まりはたいへん良好である。土柱式はP-7、P-8と思われ、P-8は位置的にみて土柱式と関連のあることが考えられる。また、東壁に接するP-7、P-8は入口施設であることが考えられる。

P-8は石を有する土層埋没部でP-7、P-8の間の中央より西壁側に位置し、長軸3.0m、短軸4.0mの不等方形に掘りくぼめた内部に竪型土器(図104-1)の下部を欠いたものを埋設している。

遺物は少なく、東壁付近の床面上より小型竪型土器(図104-2)が出土している。本住居址の時期は遺物等から、弥生時代前期であると思われる。

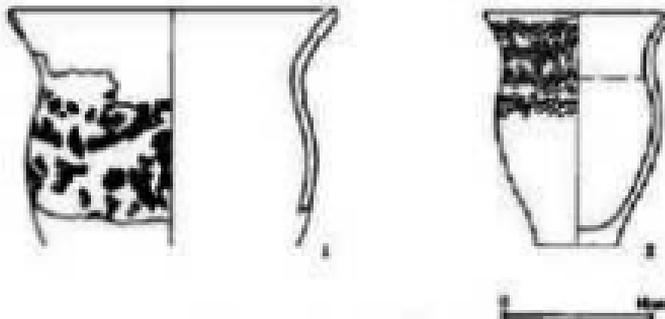
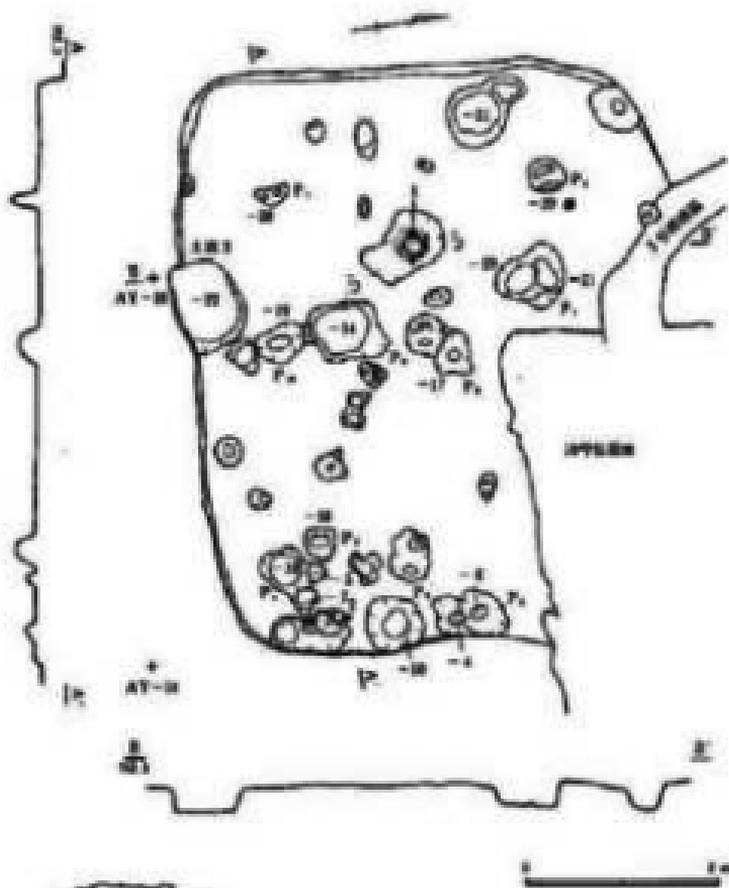


図104 4号住居址出土遺物状況

#### 10号住居址(図105図)

本地区で発出した、10号住居址の南壁の一部を破壊している。長軸5.6m、短軸5.1mの両方方形を呈する。土層はN-17-甲を示す。壁残高は45cm-55cmと異なる。周溝は敷設できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ堅く平ら認められており、埋まりは良好であるが住居址全域の壁下部には掘り跡は認められなかった。

ピットは3基発出した。土柱式はP-9、P-10と思われ、P-9、P-10の跡地から掘り跡を使用した様であったことが考えられる。土柱式と思われるピットのそれぞれの東西壁の隅には浅いピット状のくぼみがあり、同状であり得ることが考えられる。また、東壁下に位置するP-9、P-10は入口施設で



: 100 (100000000)  
 : 100  
 : 100

FIGURE 1 (continued)

あることが考えられる。

伊は長軸4.2m、短軸3.5mの平面形状で、長さ7mに達しくぼめた浅溝伊である。伊の周囲及び内部には泥土がわずかにみられる。

遺物は少なく、表面より壺形土器の破片（図107-1・2）、北壁付近の壺土中層より磁器片（図107-3）、壺土中層より石片（図107-4・7）が出土している。本住居址の時期は遺物等から、古生時代後期であると思われる。



図106 18号住居址土層断面図

#### 18号住居址（表106図）

表地区で検出した。長軸4.2m、短軸3.5mの隅丸方形を呈する。北端にN-12-Wを示す。壁断面は25cm-35cmである。表面は検出できなかった。表面はローム層まで掘り込まれ埋められている。おぼむおぼまうは良好であるが、断面全体の壁下は全体的に軟弱である。断面は西壁下の一部は、掘り戻はみられない。ピットは4基検出した。これらが竪穴であると思われる。いずれも長さ11cm-12mと近い。

伊は土器浅溝伊で、伊を穿れないが、伊は周囲の軟弱にみられる石が部分的に大崩を受けていることから、伊石であることが考えられる。泥土は伊の周囲及び埋戻土層内部の壺土上面にわずかに認められる。

遺物はP、Nの境より壺形土器（図108-1・2・4）、壺形土器の口縁部（図108-3）、石器（図108-6）等が出土している。本住居址の時期は遺物等から、古生時代後期であると思われる。

#### 19号住居址（表108図）

表区で検出した。長軸5.5m、短軸4.2mの隅丸方形を呈する。北端にN-12-Wを示す。壁断面は37cm-23cmである。表面はローム層まで掘り込まれ埋められ埋められており、埋まうは全体的に良好であるが、東壁周辺の一部には掘り戻はみられない。断面は西壁下、南壁下、北壁下に部分的に掘り込まれている。東壁下は検出できなかった。

ピットは4基検出した。竪穴はP、P、であると思われる。竪穴のそれぞれの部位から掘り戻を使用した柱であったことが考えられる。

伊は土器浅溝伊で、表地区中央より壺形土器のP、P、の間に位置している。伊の周囲および埋戻土層内部に埋められている土層上面に壺土がみられる。

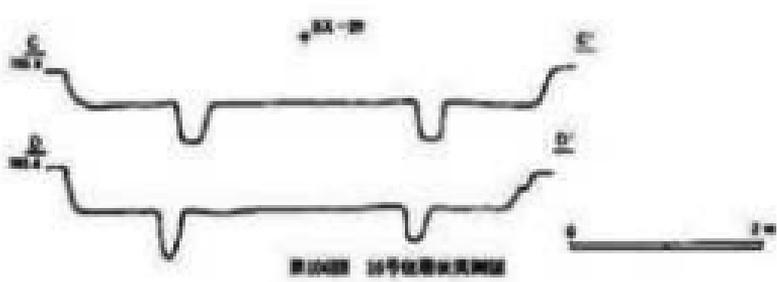
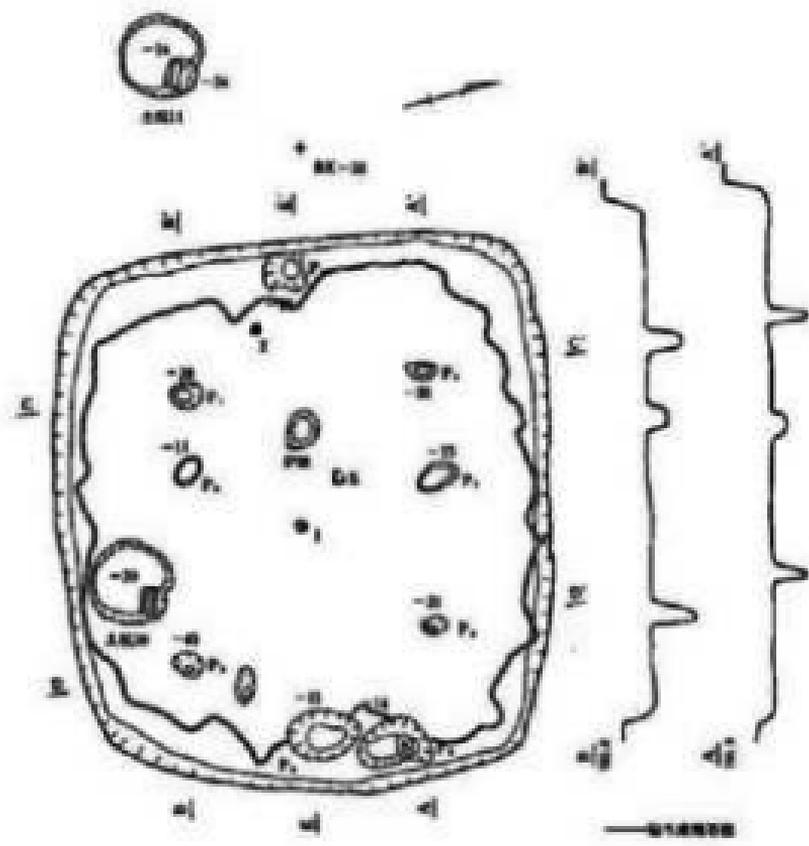


图 100 植物茎的横切面

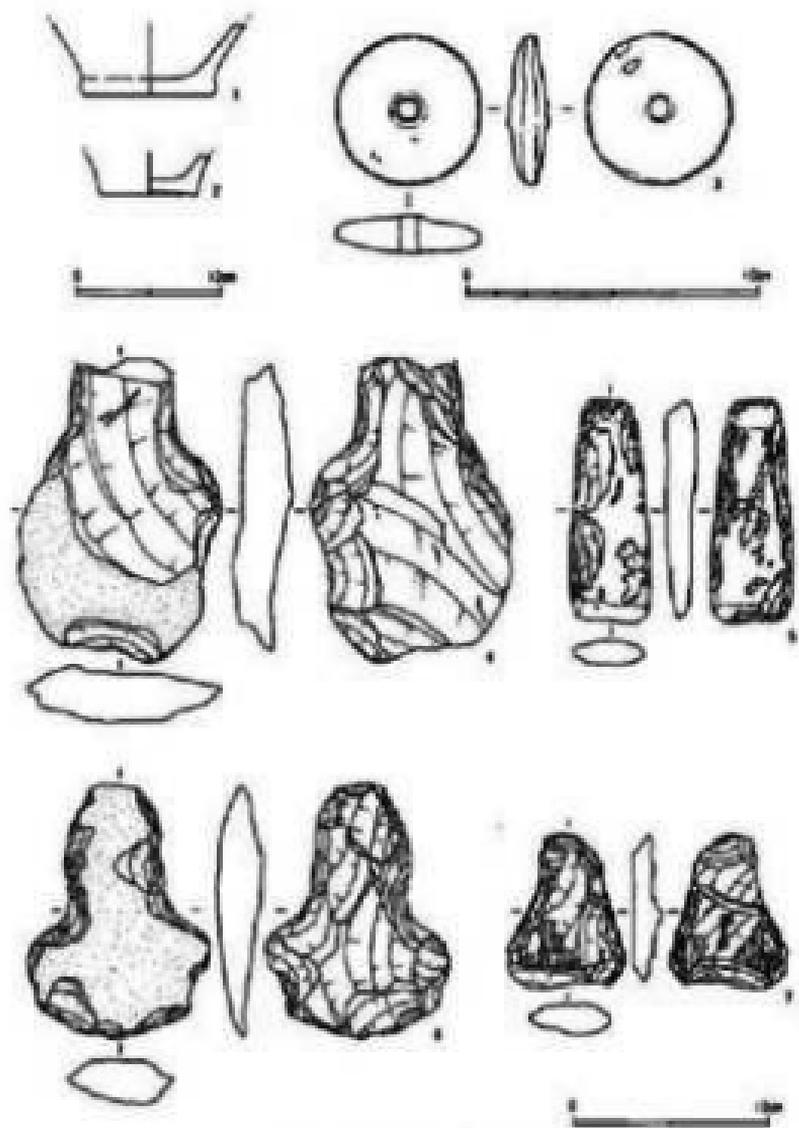
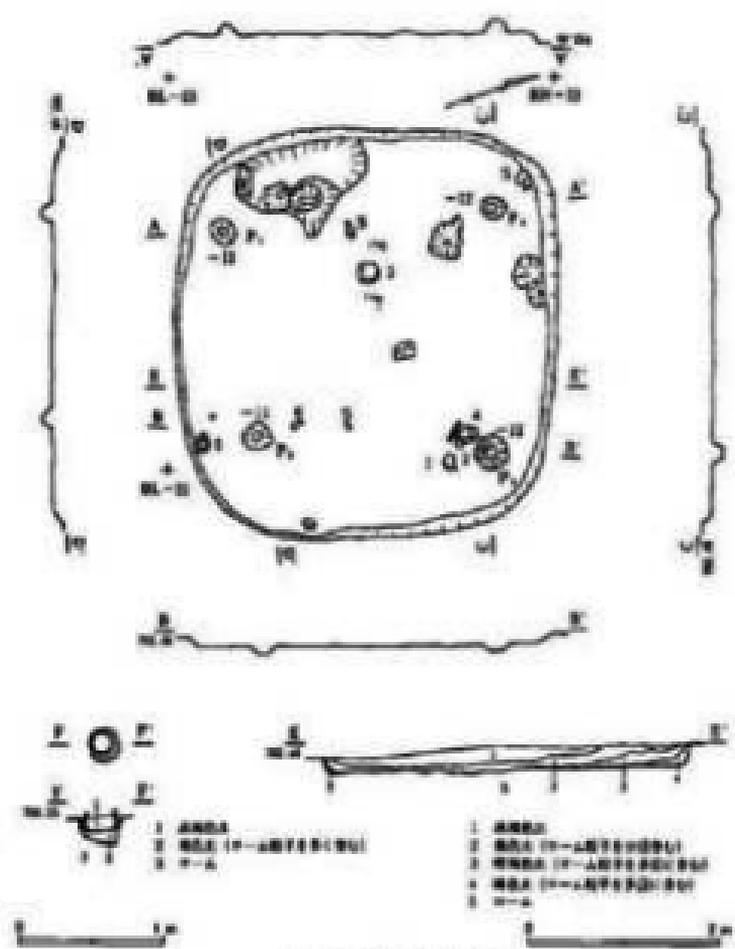


图 127 双公新石器时代遗址出土的文物

遺物は少なく、F、とF、附近の塚園より磨製石器（図11-3・4）、また本館に存するものか別所としないが遺土中層より磨製品（図11-2）が出土している。本館周辺の地層は遺物等から、新石器時代前期であると思われる。



遺11 中野山遺跡発掘図

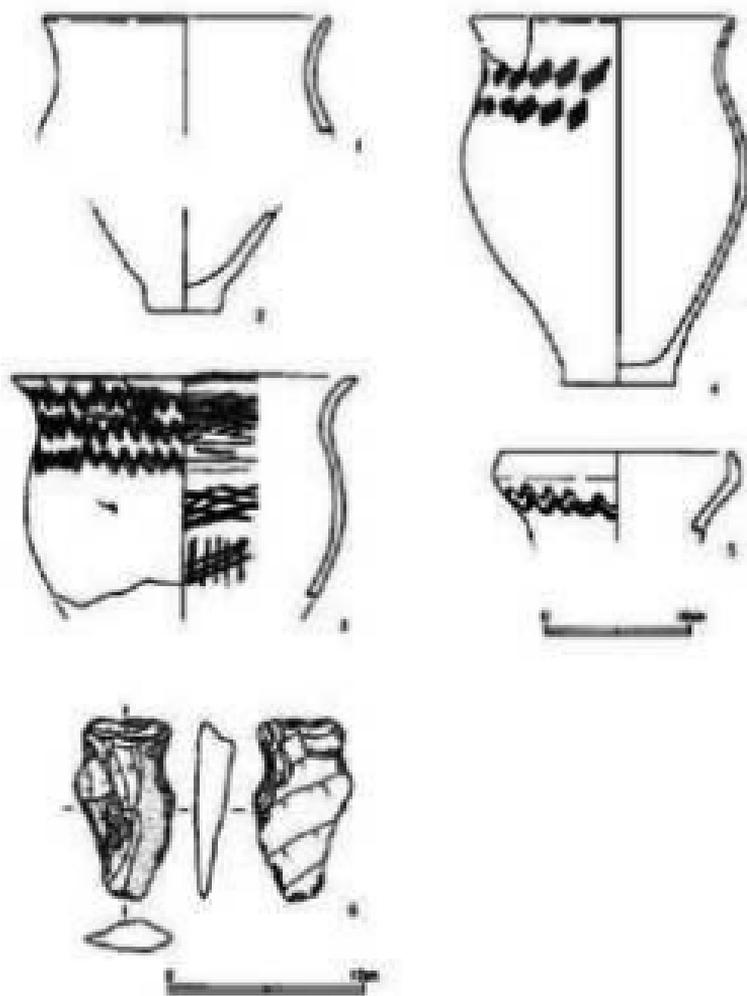


图104 20号位层出土器物简图

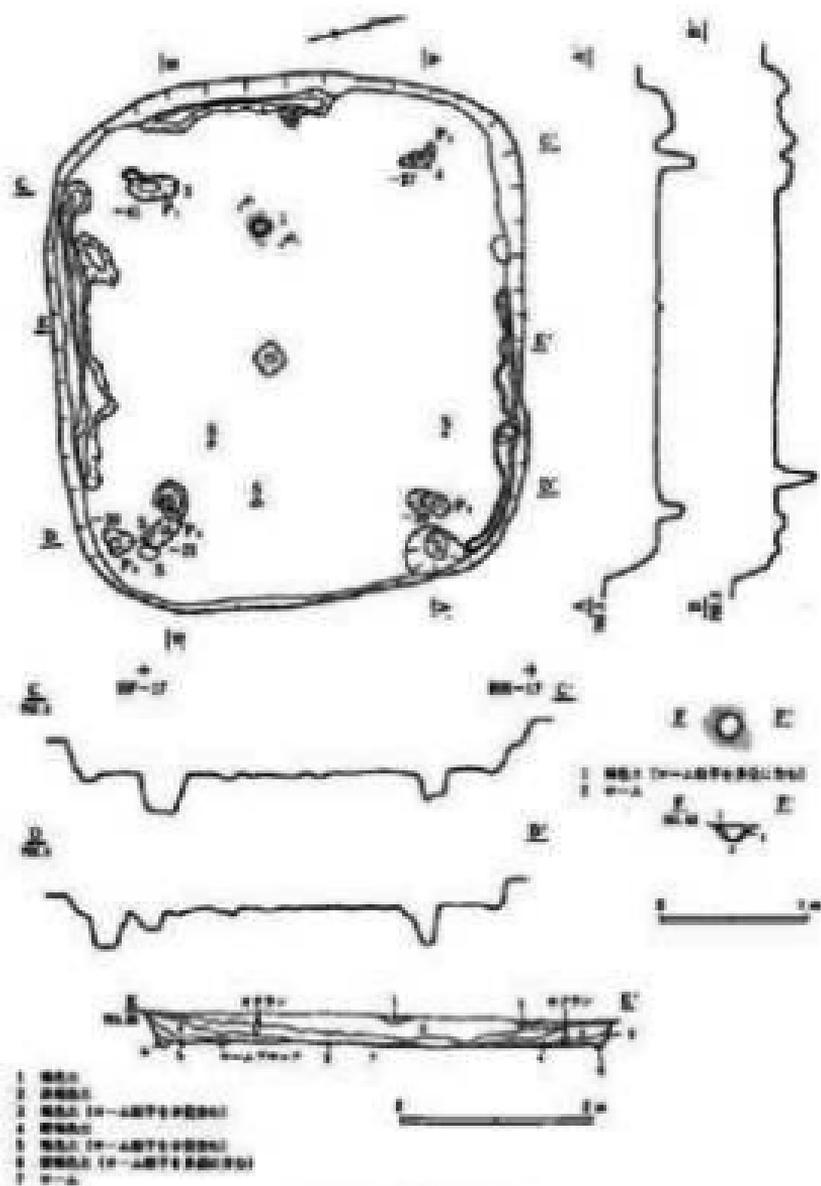
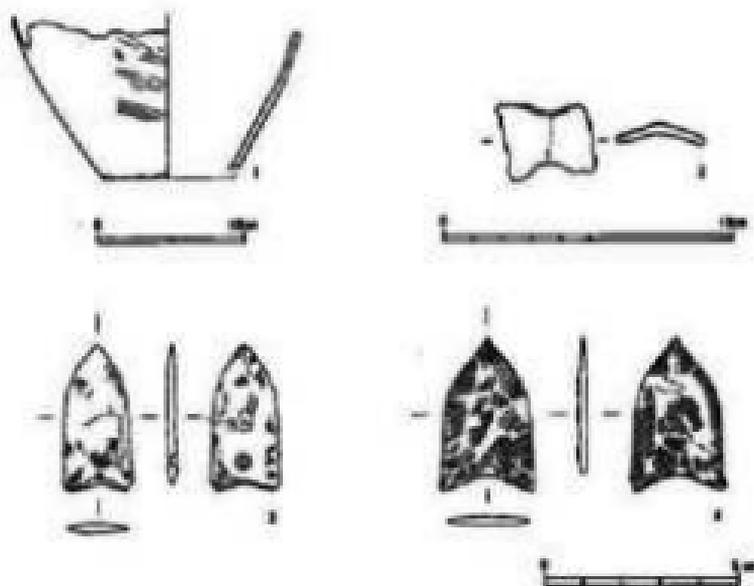


图1102 20号位植物茎横切面



第111図 20号住居址出土遺物写真図

20号住居址（第112図）

住居址で出土した。形状遺蹟に高型及び低型土器の壁の一部を破壊されている。長軸は2.4、短軸は1.8mであり、隅丸方形を呈する。土層はH-12が一部分を示す。壁高は27cm-35cmである。周壁は築成できなかった。扉部はローム層まで掘り込まれ、深く突き詰められており、跡まきは全体的にたいへん良好である。ピットは11基検出した。位置的にみて土柱式には扉の開口があると思われる。新しい土柱式はP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>、旧土柱式はP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>であると思われる。ピット、伊達の遺物から本址は破壊されたことが考えられる。また、南壁と北壁の間の中心と伊達を境に輪郭上に長さ22cm-25cmに掘りくぼめたピット状の痕跡があり、溝状切りであることが考えられる。

伊達は土器破片で、住居址中央より西壁側のP<sub>1</sub>とP<sub>2</sub>の間に位置している。伊達は長軸約5cm、短軸約2cmの平面形状に掘りくぼめた中に高型土器を7基に埋設している。高型土器の高型及び土器断面に黒土がみられる。伊達の掘り方が段になっていることから、伊達を再度利用し再構築されたことが考えられる。

遺物は南壁より高型土器（図112-1）、壁土中層より高型土器（図112-4）、高型土器（図112-5）、石匙（図112-6）が出土している。南壁直上より出土した黒曜石の黒曜石斧（図112-7）は本住居址に使うものか判然としない。本住居址の時期は遺物等から縄文時代後期であると思われる。



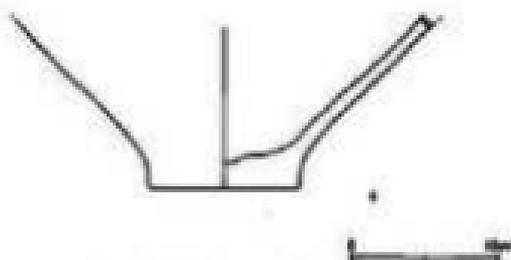
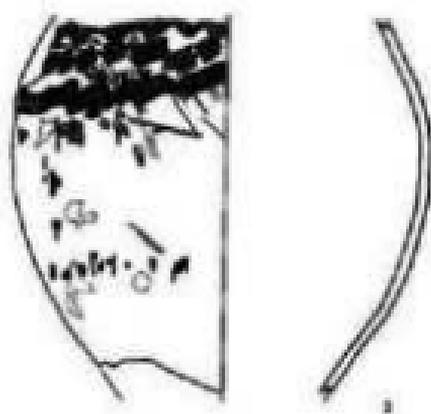
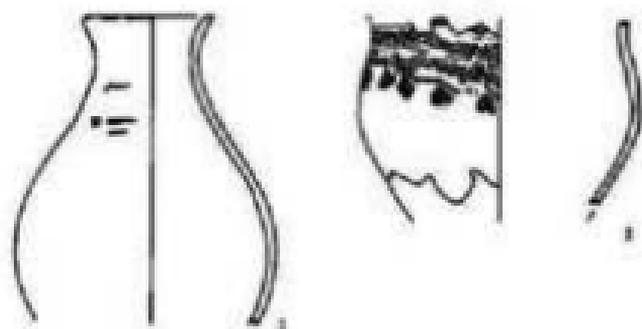


图112 20号灰陶器出土器物局部图

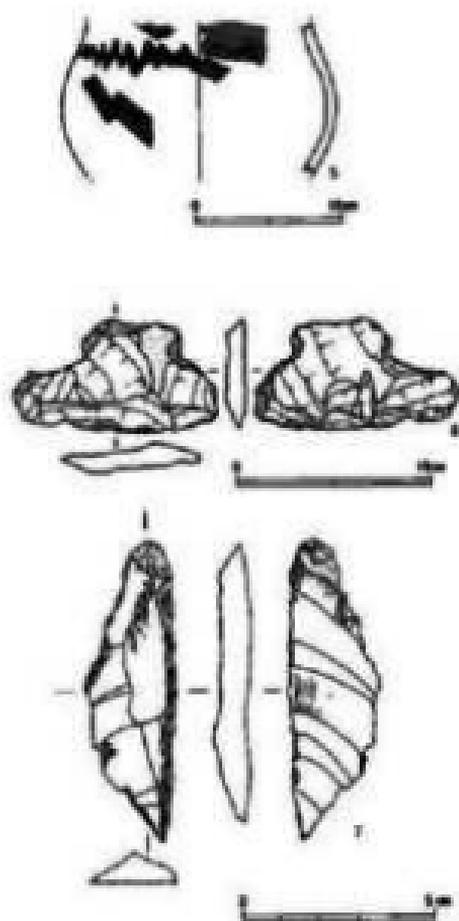


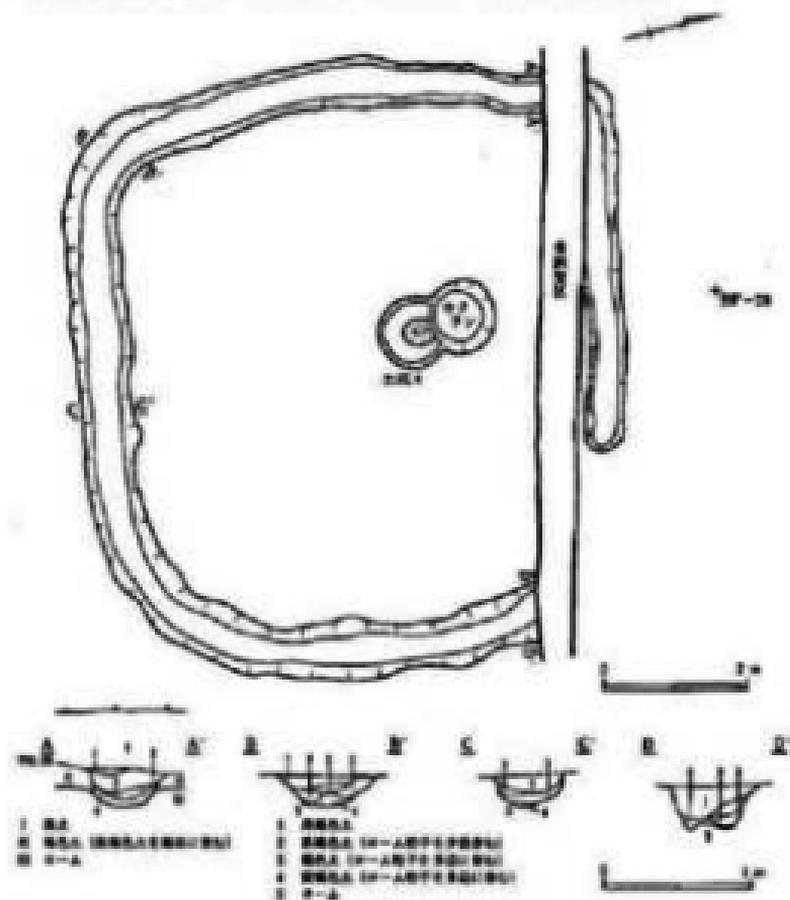
圖1142 江寧板橋新石器時代遺物(局部)

## ⑫岡崎遺跡

### 1号岡崎遺跡 (第1115図)

人地区及び墓地区で検出した。一部、調査区外に入る。プランは長軸8.7m、短軸7.5mの平面  
 方形に溝をめぐらしている。土物はN-30-Eを示す。周溝の幅は75cm-120cm、深きは20cm-30  
 cmである。溝まで掘り込まれており周溝底部は平坦でなく全体的に凹凸がみられる。土質  
 は北東側にあるものと思われる。土体部は検出できなかった。遺物は周溝東側の埋土中層より後  
 土器の破片が出土している。

本址の時期は遺物が少なく判断としないが、後土時代後期になるとと思われる。



第1115図 1号岡崎遺跡平面図

2号発掘遺 (開口部)

大断面で撮影した。プランは長軸 $1.15m$ 、短軸 $0.85m$ の不等長正方形に近きものを示している。定軸は $15-16-17$ を示す。周壁の幅は $65cm-75cm$ 、厚さは $25cm-35cm$ である。ローム層まで掘り込まれており周壁基部は平坦でなく、全体的に凹凸がみられる。土質は北東部にみられ、幅 $12cm$ である。この土質部分については掘削時に掘り過ぎてしまったため、正確なことは判別としない。主体部はほぼ中央にあり、長軸 $0.5m$ 、短軸 $0.35m$ 、厚さ $25cm$ の不等長正方形を示す。この主体部の西側に長軸 $1.05m$ 、短軸 $0.75m$ 、厚さ $25cm$ の不等長正方形を示す掘り込みがみられるが、断面に写すものは判別としない。遺物は周壁及び主体部内には認められなかった。本遺の時期は遺物が認められず判別としないが、弥生時代前期になると思われる。

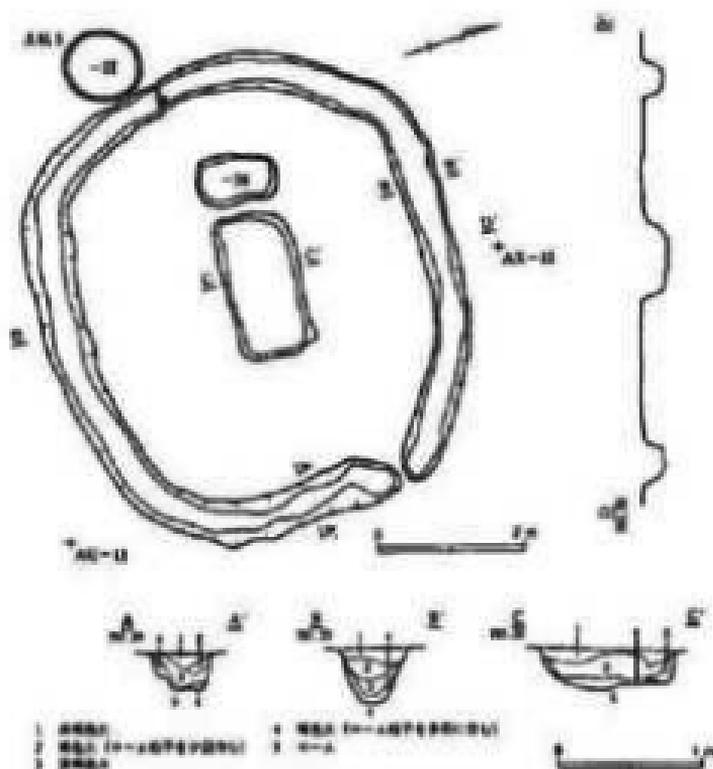


図162 2号発掘遺跡断面

### 3号縄文墓 (第117回)

本地区及び近地区より出土した。一長縄文区外にはいる。9号石室跡に南西西側と10号石室跡に南西南東側をそれぞれ延びられている。プランは長軸3.5m、短軸2.5mの平面隅丸方形を基本としている。主軸はN-10°-Wを示す。両端の幅は120cm-240cm、厚さは70cm-250cmである。ローム層まで掘り込まれており両端直線は全体的に平坦な状態であるが、部分的に凹凸がみられる。両端直線の一端は3号縄文墓の南西側の両端に接している。土壌は北東側にみられる。主体部は検出できず、遺物は認められなかった。

本墓の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代前期になると思われる。

### 4号縄文墓 (第118回)

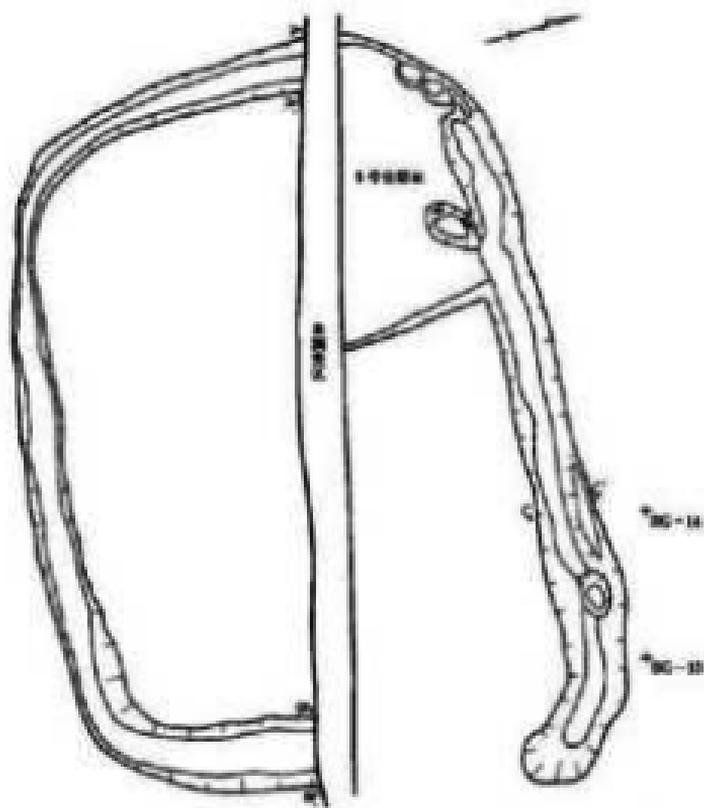
本地区で出土した。およそ2分の1程は調査区外になるため全容は不明であるが、隅丸方形に基本としているものと思われる。主軸はN-10°-Wを示すものと思われる。出土した両端の幅は120cm-180cm、厚さは140cm-250cmである。ローム層まで掘り込まれており両端直線はほぼ平坦である。調査直線の一端は3号縄文墓の北東側の両端に接している。土壌は南側にみられ、幅は50cmである。全体部は長軸3.2m、短軸2.5m、厚さ250cmの平面隅丸方形を基本とする。遺物は認められなかった。本墓の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代前期になると思われる。

### 5号縄文墓 (第119回)

本地区で出土した。遺物の大部分は調査区外にはいるため全容は不明であるが、隅丸方形に基本としているものと思われる。主軸はN-10°-Wを示すと思われる。出土した両端の幅は120cm-180cm、厚さは40cm-220cmである。ローム層まで掘り込まれており両端直線は両側の両端を除き、凹凸がみられる。土壌は南西側と北東側にみられ、南西側で幅は50cm、北東側で幅は80cmである。全体部は調査区外になると思われる。遺物は認められなかった。本墓の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代前期になると思われる。

### 6号縄文墓 (第120回)

本地区で出土した。遺物の大部分は調査区外になるため全容は不明である。出土した両端の幅は120cm-220cm、厚さは40cm-250cmである。ローム層まで掘り込まれており両端直線は全体的に平坦になっている。土壌及び全体部は検出できなかった。遺物は認められなかった。本墓の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代前期になると思われる。



- 1 颌骨
- 2 颌骨 (1/2—下颌骨)
- 3 颌骨 (1/2—下颌骨)
- 4 颌骨 (1/2—下颌骨)
- 5 颌骨 (1/2—下颌骨)
- 6 颌骨 (1/2—下颌骨)



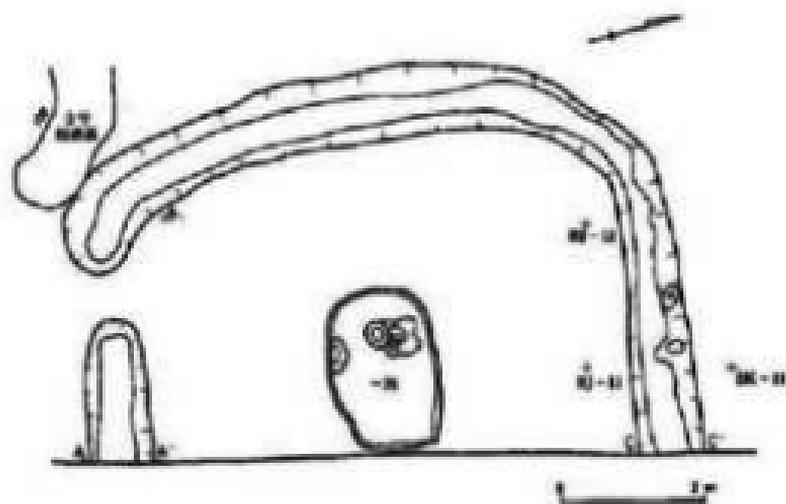
- 1 颌骨
- 2 颌骨
- 3 颌骨 (1/2—下颌骨)
- 4 颌骨 (1/2—下颌骨)



- 1 颌骨
- 2 颌骨
- 3 颌骨
- 4 颌骨
- 5 颌骨 (1/2—下颌骨)
- 6 颌骨
- 7 颌骨



图172 3号刺鱼颌骨构造



- 1 咽部 (口-咽部)
- 2 咽部 (口-咽部)
- 3 咽部 (口-咽部)



- 1 咽部 (口-咽部)
- 2 咽部 (口-咽部)
- 3 咽部 (口-咽部)
- 4 咽部 (口-咽部)
- 5 咽部 (口-咽部)
- 6 咽部 (口-咽部)



- 1 咽部 (口-咽部)
- 2 咽部 (口-咽部)
- 3 咽部 (口-咽部)

图11-14 秀丽线虫的解剖图

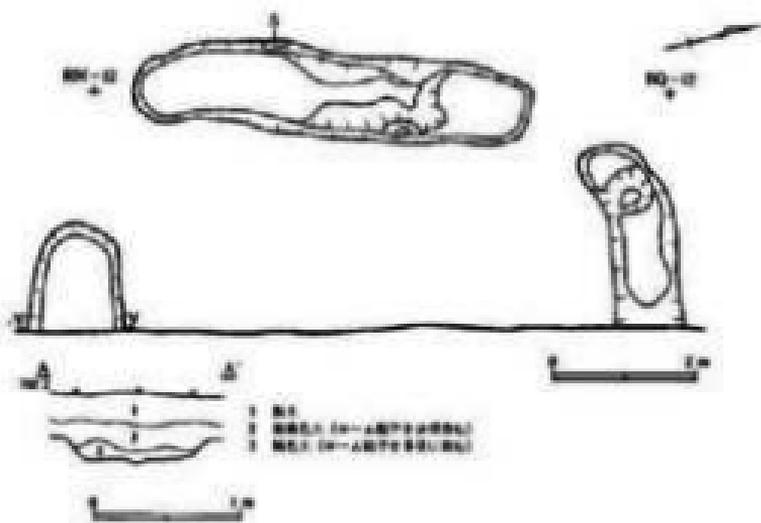


图119 5号层位地质剖面图

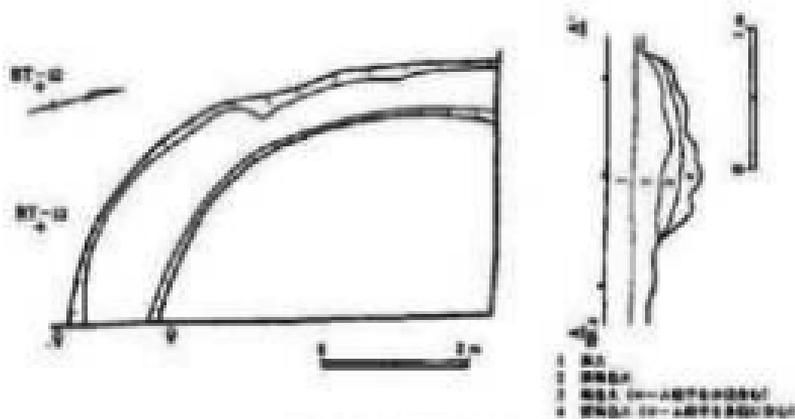


图120 6号层位地质剖面图

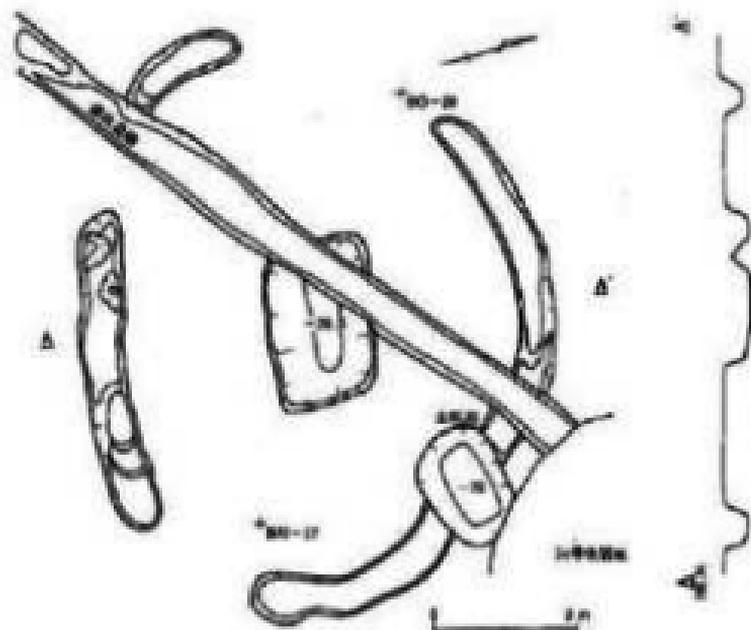
7号縄文遺 (第122図)

東地区で発見した。北東部の隅が土坑跡の壁を破壊し、北東部の遺及び全体部の北東隅が西に破断されている。プランは長軸3.3m、短軸2.6mの平面長円形に骨をのべている。西側部分と南西部分で遺物が部分的に透切れる。土層は片一層一層を示す。周溝の幅は30cm-44cm、深さは20cm-22cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝の底面はほぼ平直だが、南側の底面は凹凸がみられる。遺は西側で2箇所、南東部で1箇所透切れる部分があるが、土層であるか判断としない。遺物層の厚分で概1.42mである。

全体部はほぼ中央にあり、長軸2.25m、短軸1.45mの平面長円形を呈する。深さは25.5cmである。遺物は周溝壁土層より約厚12(10-1)が出土しているが、本誌に併うものであるか判断としない。土坑部からの遺物の出土は認められなかった。本誌の周溝は遺物がみられず判別としないが、後述時代法則になると思われる。



第122図 7号縄文遺  
土層透切状況



第122図 7号縄文遺内訳

3号縄文墓 (墓は330)

局部で検出された。副葬品の北側の墓の一部を破壊している。また、配石遺構の一部を破壊していると思われる。検出された副葬品は土器と玉類のみであり、陶器及び玉類では検出できなかったため全容は判明としない。玄輪は第一回一宮を示すと思われる。副葬の幅は22cm-23cm、厚さは22cm-23cmである。墓の底層は暗褐色土層まで掘り込まれており副葬品の底層はほぼ平直となっている。副葬品の一部が検出できなかったことから、部分的に暗褐色土層まで掘り込まれなかったところがあることが考えられる。土器は判明としない。

土器類はほぼ中央に位置すると思われ、長軸は20cm、短軸は12cmの平盤状の形を呈する。厚さは2cmである。遺物は玄輪側及び西側からの出土は認められなかった。平盤の時期は遺物がみられず判明としないが、弥生時代前期になるとと思われる。

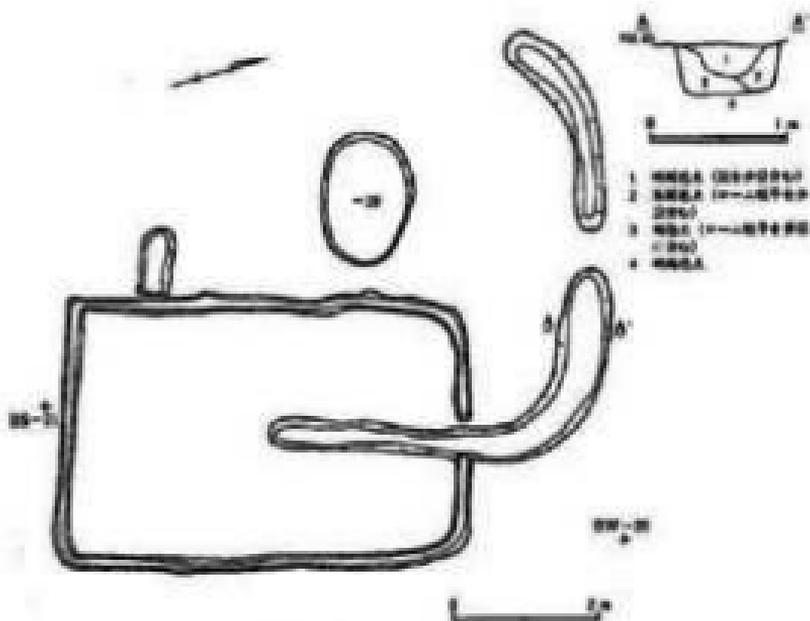


図1272 3号縄文墓・副葬品検出図

#### ③ 石号墓塚 (第120号)

同地区で検出した。プランは長軸9.3m、短軸6.5mの平面四角形に遺物をめぐらせている。遺物は1号一室を示す。遺物の幅は125cm～175cm、深さ64cm～81cmである。ローム層まで掘り込まれ遺物遺跡は全体的にはほぼ平面となっている。土質は北東部にみられ、幅は1.20mである。全体面はほぼ中央に位置し、長軸1.90m、短軸1.20mを軸とする平面四角形を示す。深さは60cmであり、遺跡には部分的に形迹がみられる。

遺物は全体面及び周溝からの出土は認められなかった。本址の時期は遺物がみられず判断できないが、弥生時代前期になると思われる。

#### ④ 圓溝址 (第121号)

同地区で検出した。石号墓塚に北側の溝の一部を破壊されている。長軸7.50m、短軸5.24mの四角形に遺物をめぐらせている。遺物の幅は125cm～175cm、ローム層まで掘り込まれた遺物の深さは125cm～175cmである。遺は北側の中央部で一部は認められる。溝で掘った内側及び、遺の外面においてピットは検出できなかった。また、遺物の出土もみられなかった。本址の時期は遺物がみられず判断できないが、石号墓塚との併り合い関係から弥生時代前期になると思われる。

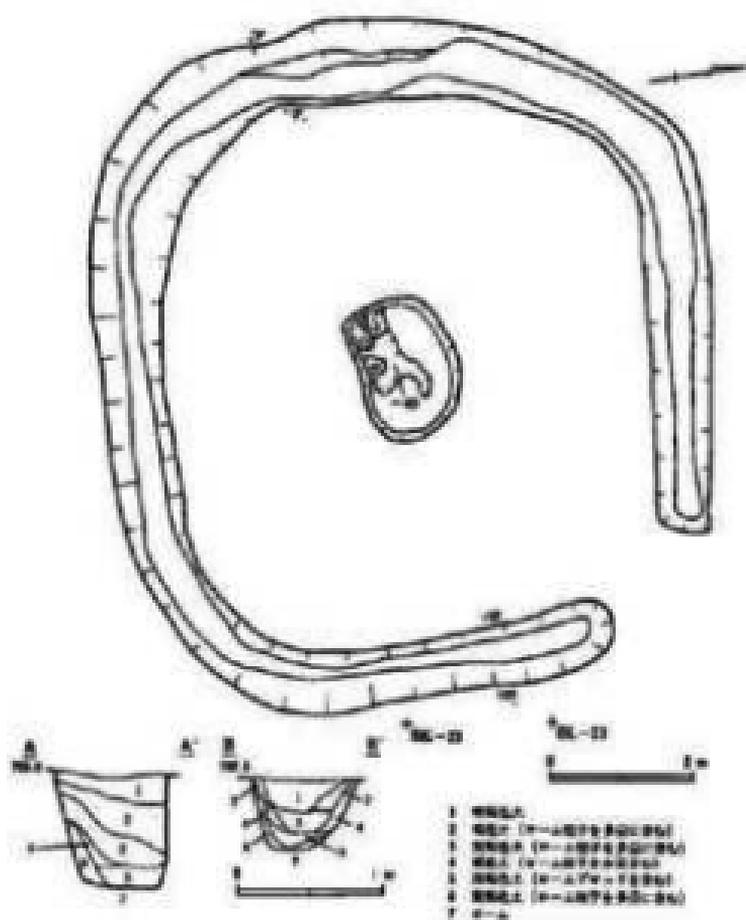


图1242 9号刺线虫的解剖图

### 第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物

#### (1) 野穴住居址

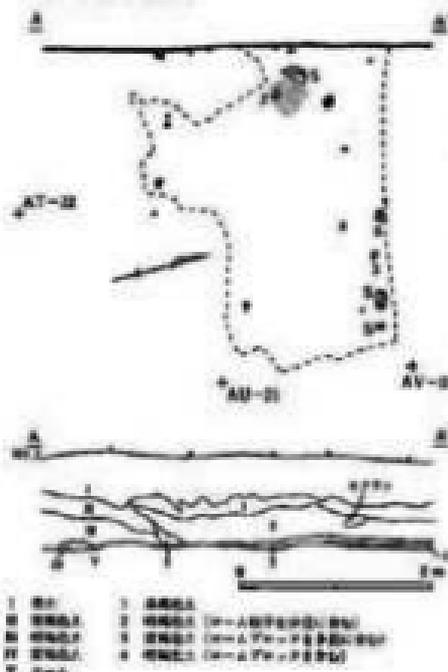


図125図 1号住居址平面図

#### 2号住居址 (図127図)

A区で検出した。住居址のはほとんどは調査区外になると思われる。遺構での表土層剥離時に溝を掘り崩してしまったため、プランは不明である。断面は埋藏色土層まで掘り込まれており、ウォームアップを食んだ埋藏色土による掘り戻り層となっている。跡まうは検出できなかった跡まで深く埋められており、跡まうは良好である。また、断面の一部に灰土及び埋藏色粘質土がみられる。ピット、クマアは検出できなかった。

遺物は少なく、床面より土層部(図127-1)、埋土中層より土層部内底(図127-1-2)、床(図127-4)が出土している。

本址の時期は遺物等から奈良時代末から平安時代前期であると思われる。

#### 1号住居址 (図125図)

A地区で検出した。遺構での表土層剥離時に溝を掘り崩してしまったため、プランは不明である。断面は埋藏色土層まで掘り込まれており、ウォームアップを食んだ埋藏色土による掘り戻り層となっている。この掘り戻り層は部分的にしか検出できなかったが、全体的に跡まうはあまり良くない。断面の一部にはみづかに灰土がみられる。ピット、クマアは検出できなかった。

遺物は土層部内底(図125-1)、埋藏部(図125-2)、小笠原(図125-3)、埋土中層より土層部内底(図125-1)、埋藏部(図125-4)、長尺(図125-5)が出土している。

本址の時期は遺物等から奈良時代末から平安時代前期であると思われる。

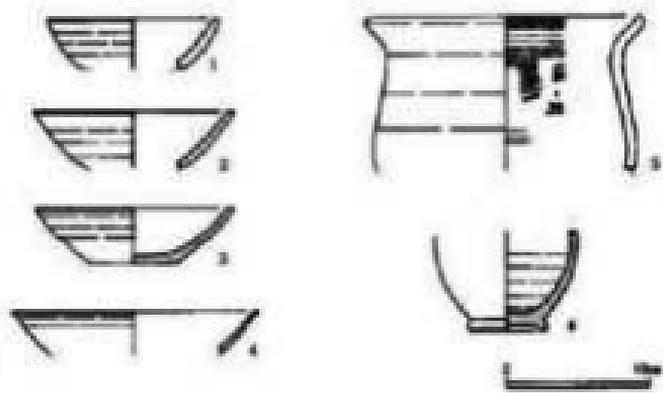


圖126 1等位級車內土遺物與測圖



圖127 2等位級車內測圖

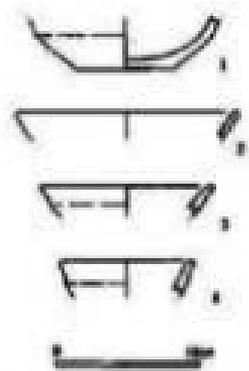


圖128 2等位級車內土遺物與測圖

6号住居址（図125B）

入区で検出した。敷土及び家屋敷上において多数の炭化物と焼土がみられたため、火災により焼屋となり、焼出した住居址と思われる。長軸5.5m、短軸3.2mの隅丸方形を呈する。

全輪はN-72°を示す。壁厚高は25cm-30cmである。周溝は認められなかった。南面はマーム層まで掘り込まれ黒く甲を認められており、埋まりは全体的に良好である。住居址南東部の一部の床面は焼瓦により覆われている。

ピットは多数検出し、そのうちP-7が主柱穴と思われる。南東部に主柱穴の存在が想定されたが、検出できなかった。西壁中央部のオマドのほぼ対角線上に長軸2.0m、短軸0.5m、深さ1.4mに掘り込まれた方形穴のくぼみがあり、入口施設であることが考えられる。この方形穴のくぼみ部分にはほとんど焼土と灰褐色粘質土がみられる。

オマドは東壁のほぼ中央に築造されているが、焼瓦により覆われているためオマド壁の一部と床面を掘りほとんど残っていない。オマド南面の敷土は厚く、オマドの使用が長期であったことが考えられる。

遺物は土師器長頸甕（図125-1-10）、土師器（図125-1-11）、瀬戸物平（図125-1-12）、平蓋（図125-1-13）のほか、鉄器（図125-11）、鉄片1個が家屋敷及び家屋敷上より出土している。

本址の時期は遺物等から平安時代前期であると思われる。

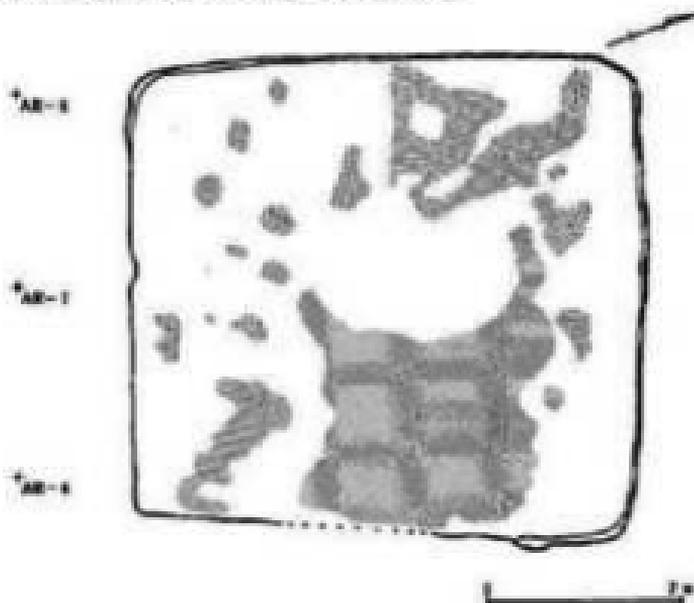


図125B 6号住居址出土遺物図

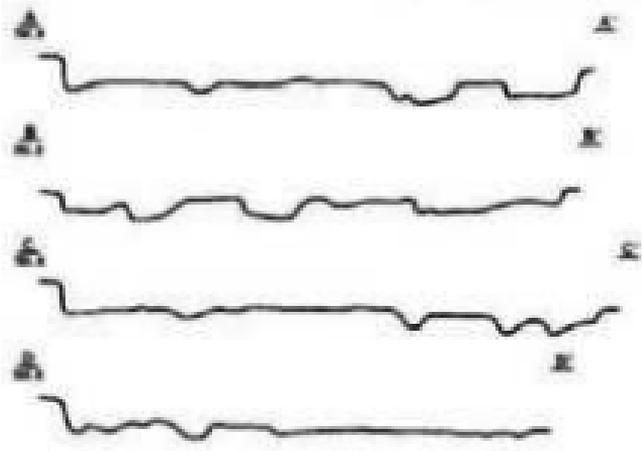
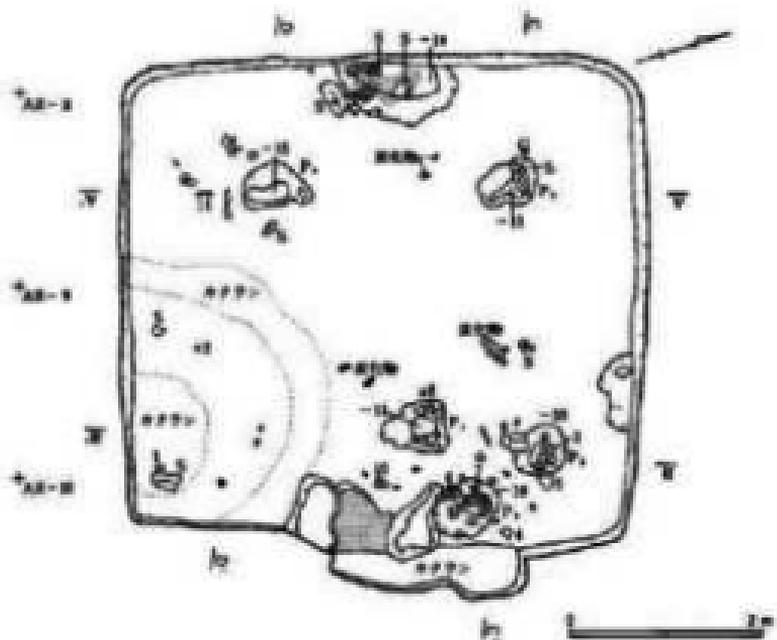


图1302 4号叶表皮细胞图

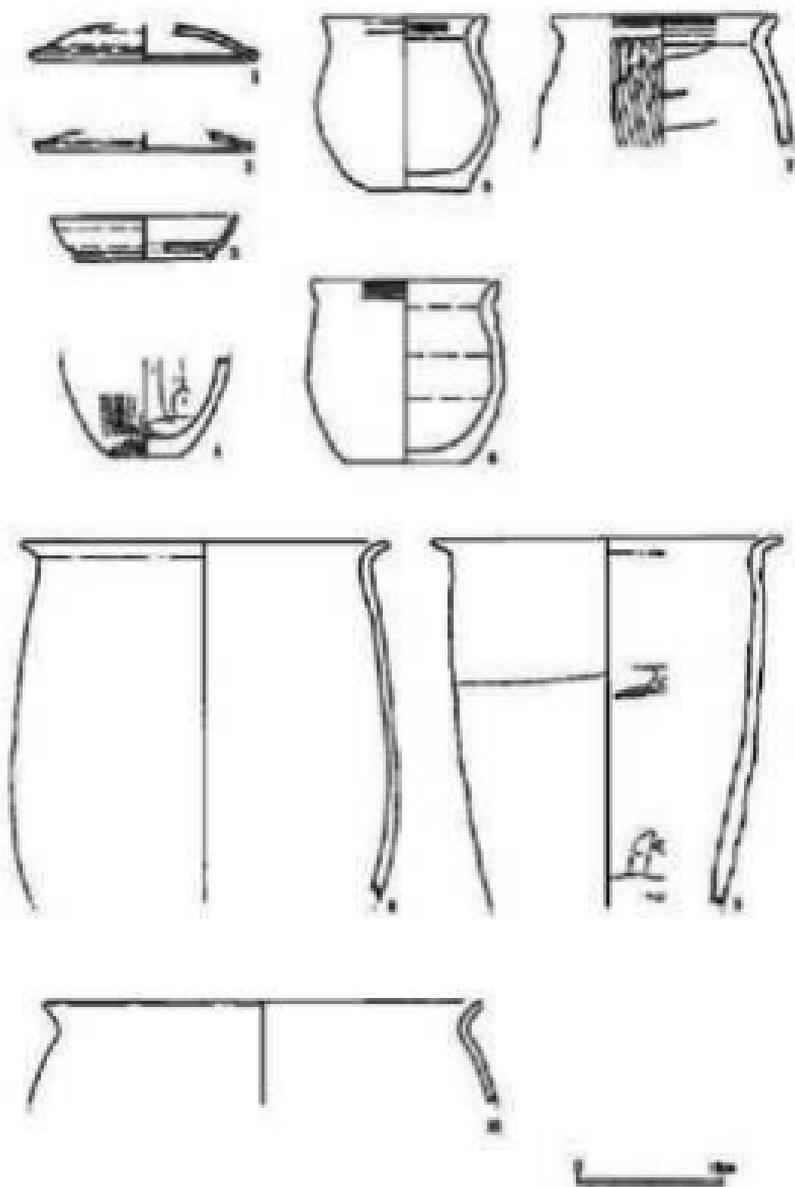


图1118 4号传统家具—圆木桌(局部)

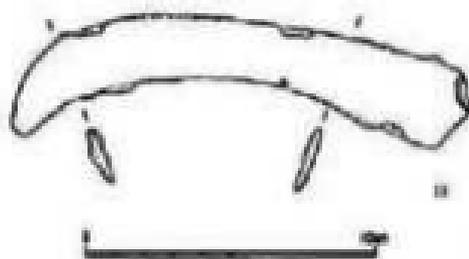


図100 1号住居はれ土遺物(北西面)

西端及びピットは認められなかった。住居は北西部分の床面より12cm程度上に盛り出し部分が見られる。この盛り出し部分において盛り床はみられないが、他の住居部が重複している可能性がある。北壁の外壁にピット状のくぼみが見られるが、本住居部に伴うものかは判別しない。

カマドは住居部分のみの出土で全容は不明である。カマド部分は民間色粘土で構築されている。遺物は東壁より土器碎片(図101-1)、内器片(図101-2・3)、骨刺(図101-11・12)、小

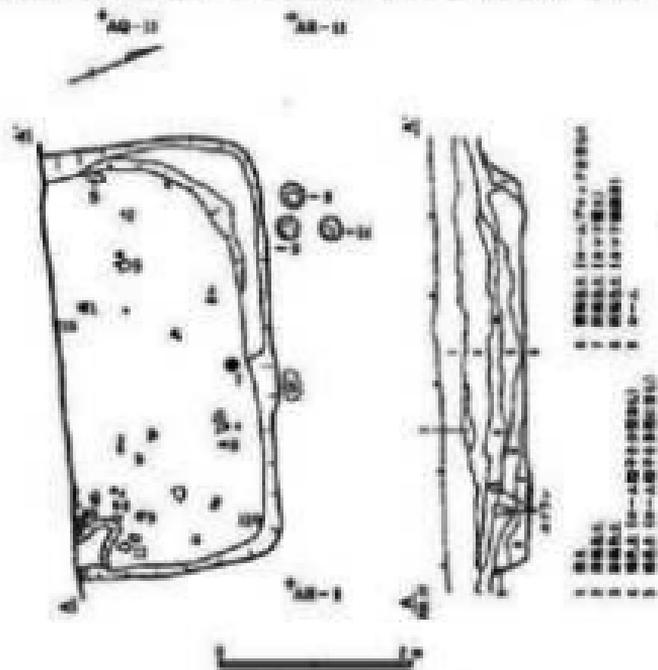


図101 1号住居はれ土遺物

8号住居址 (東120度)

A地区で検出した。住居址の2分の1程は調査区外になるためプランは判別しないが、長幅は2mの隅丸方形を呈していると思われる。土層はR-10-Wを示すとされる。壁高は44cm-50cmである。床面はローム層まで掘り込まれ厚く平ら敷められており、隅まりは全体的にたいへん良好である。

笠形 (図134-2・3・12)、筒形高脚 (図134-4-6)、瓢形碗 (図134-7) などか、種類より出土しているが、遺物の多くはオマド村近に集中している。

本化居館の時期は遺物等から平安時代前期であると思われる。

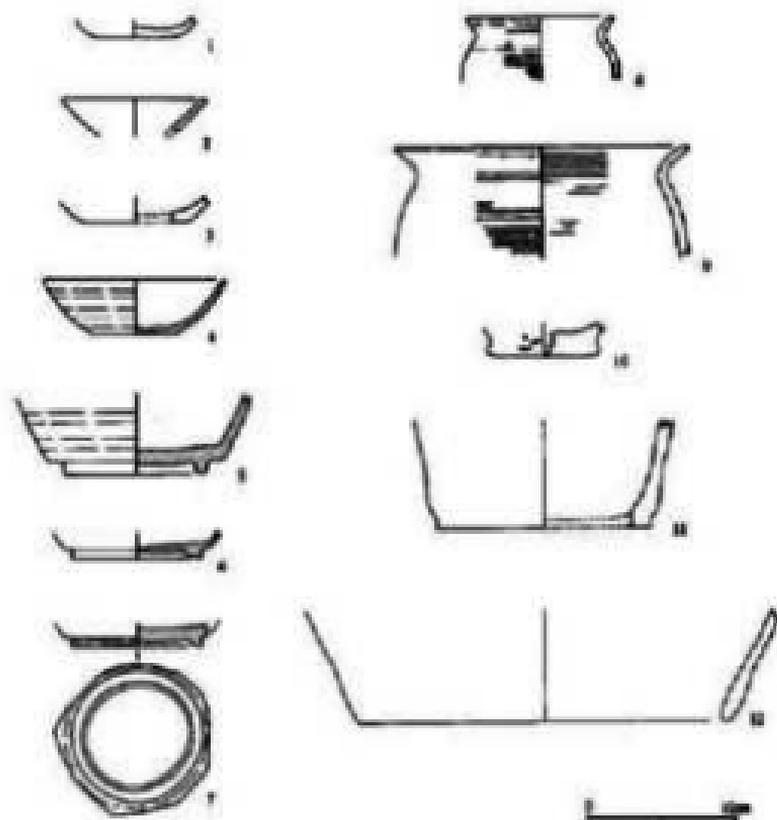


図134 1号館出土の土器類

### 3号住居址 (図1302)

A地区とB地区にかけて検出した。3号住居址は東壁及び西壁を破壊され、3号住居址の北側の南壁を破壊している。住居址の西壁及び北壁と東壁の一部のみが検出であるためプランは判然としないが、平面は正方形を呈しているものと思われる。壁高は西壁で2.5m、東壁で1.0mである。西壁は部分的にみて3号住居址の南壁の一部を再構築している可能性が考えられる。ピットは確認できなかった。カマドは西壁に構築されており、灰褐色粘質土と転石による灰芯粘土カマドであるが、そのほとんどは調査区域外になるため、全体は不明である。

出土遺物は瓦土上層より鉄押が1個、土師器内蓋片 (図130-1・2)、長胴壺 (図130-3-11)、須恵器破片 (図130-8)、埴 (図130-3・7) がカマド周辺の灰層及び調査直上より出土している。

本址の時期は遺物等から奈良時代末から平安時代前期であると思われる。

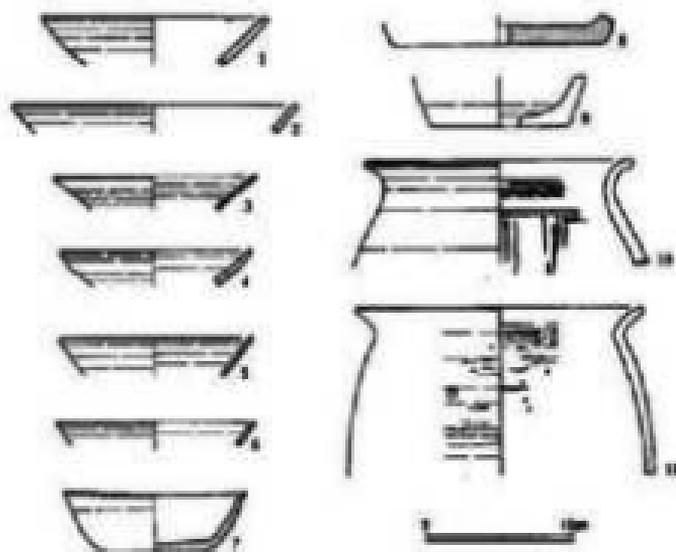


図1302 3号住居址出土遺物実測図

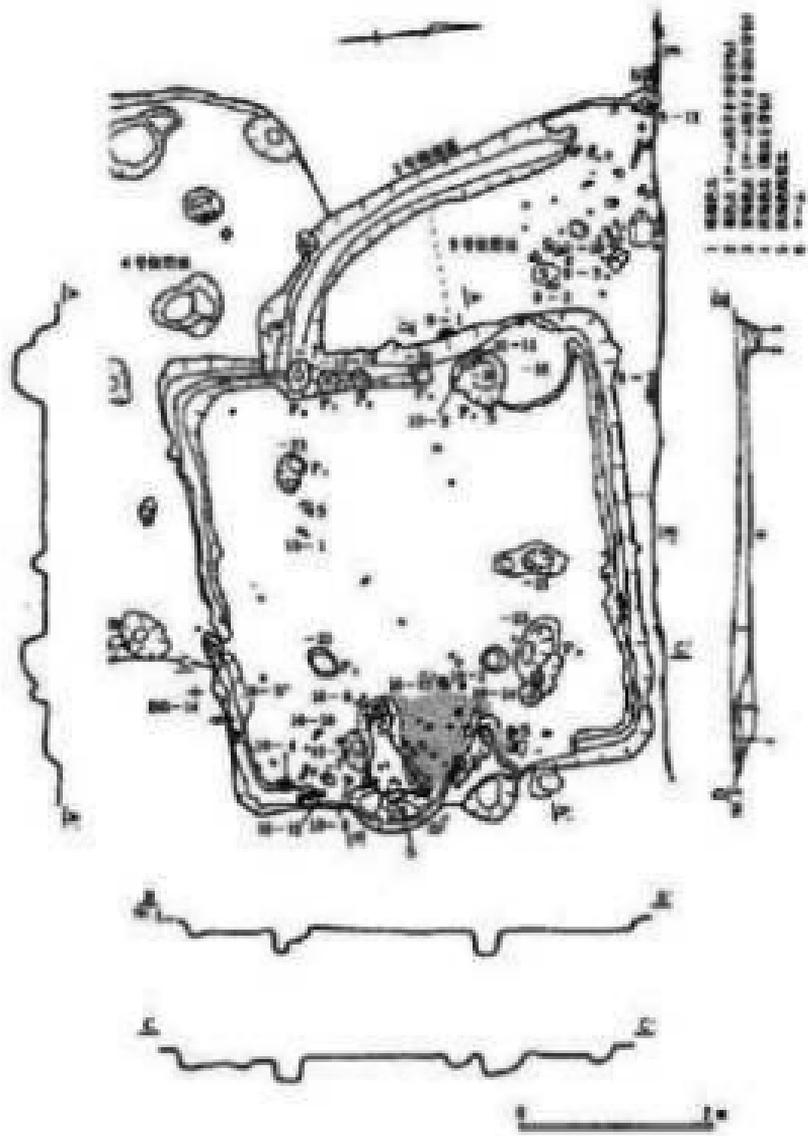
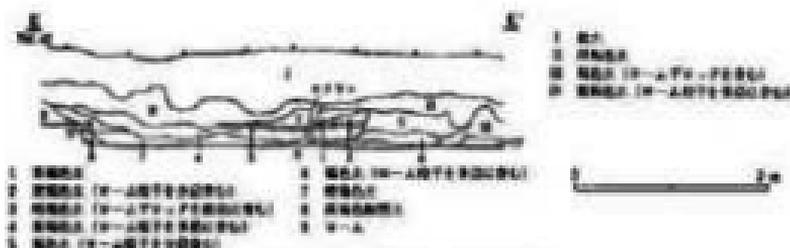


FIGURE 9 - 10 (continued)

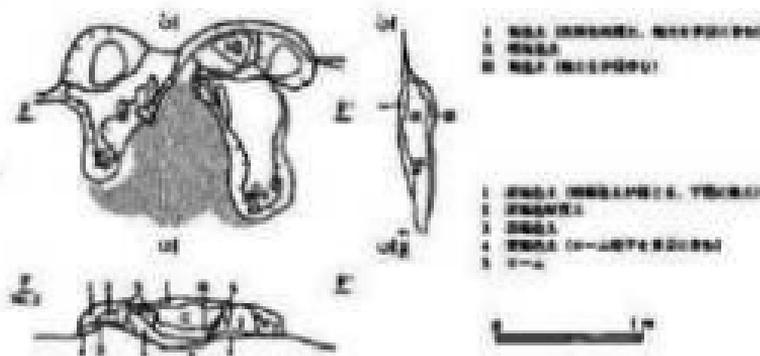


第1図 1号位遺址土層断面図

10号位遺址【第136頁】

大塚区で発出した。4号位遺址の北東部端と9号位遺址の高部及び南端を横断している。また、3号位遺址の南東部の礎土上に黒褐色土にロームブロックを少量含んだ砂り床を築いている。長軸4.8m、短軸3.2mの隅丸方形を呈する。土層はN-10-Nを穿す。埋藏層は15cm-3cmである。厚さは概し15cm-3cm、深さ15cm-7cmで、ホマド遺物を軸ぎ壁下全域にめぐらされている。床面はローム層まで掘り込まれ深く突き締められており、掘り方は全体的にたいへん良好である。ピットは多数検出した。土柱穴はF、F'であると思われる。北西壁下に長軸45cm、短軸40cm、深さ18cmの土柱穴の掘り込みがみられる。用途については判別としないが、貯蔵穴の可能性が考えられる。掘り下のF、F'は入り基礎になると思われる。また、ホマド東側にピット系の掘り（はみ）がみられるが、本柱室と併うものであるかは判別としない。ホマドは東壁のほぼ中央に構築されており、黒褐色粘質土と磁石による石芯粘土ホマドである。ホマド周囲の礎土は厚く、長方形穴状をうけていたことが考えられる。

出土遺物は、土器器内黒耳（図136-1）、長頸瓶（図136-2-3-4-5-6）、胴巻瓶（図136-7-8）が出土している。古にホマド周囲に集中しているが、礎土上層及び中層からの破片の出土も



第2図 10号位遺址ホマド発掘面図

242

本図の時期は遺物等から平安時代前期であると思われる。

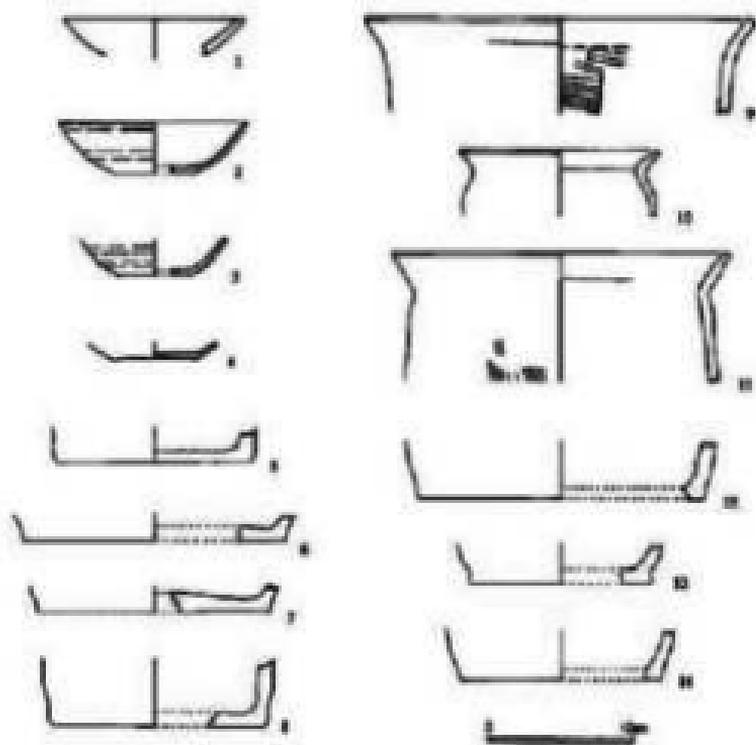


図128 平安時代前期の建築

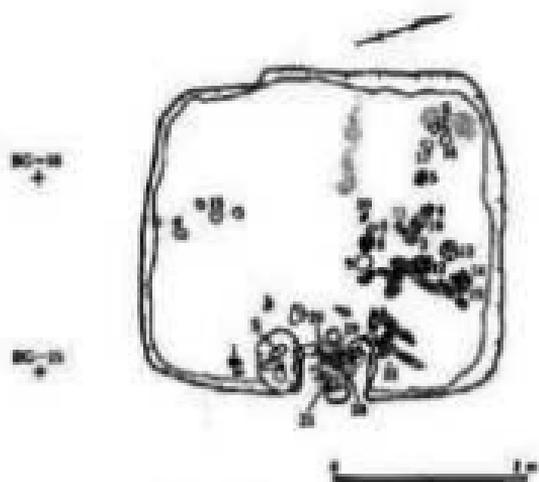
11号住居址 (第140図・第141図)

居住区で検出した。厚土及び厚面に多量の灰化物・焼土がみられることから、火災により焼損となり、崩壊した住居址であると考えられる。

長軸2.5m、短軸2.4mの隅丸方形を呈する比較的小型の住居址である。土軸はN-23°-Wを呈す。壁厚は25cm-120cmである。北壁下に幅20-22cm、厚さ4cmの掘り込みがみられるが、用途であるか判断としない。扉扉はコーム層まで掘り込まれ奥く甲子形のもられており、扉まうは全体的にたいへん良好である。ピットは4基検出したが、3柱穴は位置的にみてテ・ード、と考えられる。北西側に土柱穴の存在が想定されたが検出できなかった。住居址北西側の隅に長軸2.5m、短軸1.7m、厚さ20cmの土柱穴の掘り込みがみられる。用途は判断としないが貯蔵穴の可能性が考えられる。

キマアは東壁のはば中央に設置されている。保存状態は極めて良好で、灰褐色粘質土と磁石による石造焼土キマアである。保存状態の良きから支脚石は立った状態で出土した。支脚石は長さ42cmの短長の形を呈している。キマア周囲に焼土があまりみられず、焼土においても火傷の影響がほとんどみられないことから、使用期間の短かったことが考えられる。

遺物は本址が火災住居であることから、保存状態はたいへん良好で、土師器平 (第142-1-2) 小型甕 (第142-13、第142-20-22)、灰陶陶器類 (第142-3-10)、皿 (第142-16-17) と鉄器 (第142-24) がキマア周辺の床面及び灰層面上より出土している。本址の焼損は遺物等から、平安時代中期であると思われる。



第140図 11号住居址出土遺物位置図

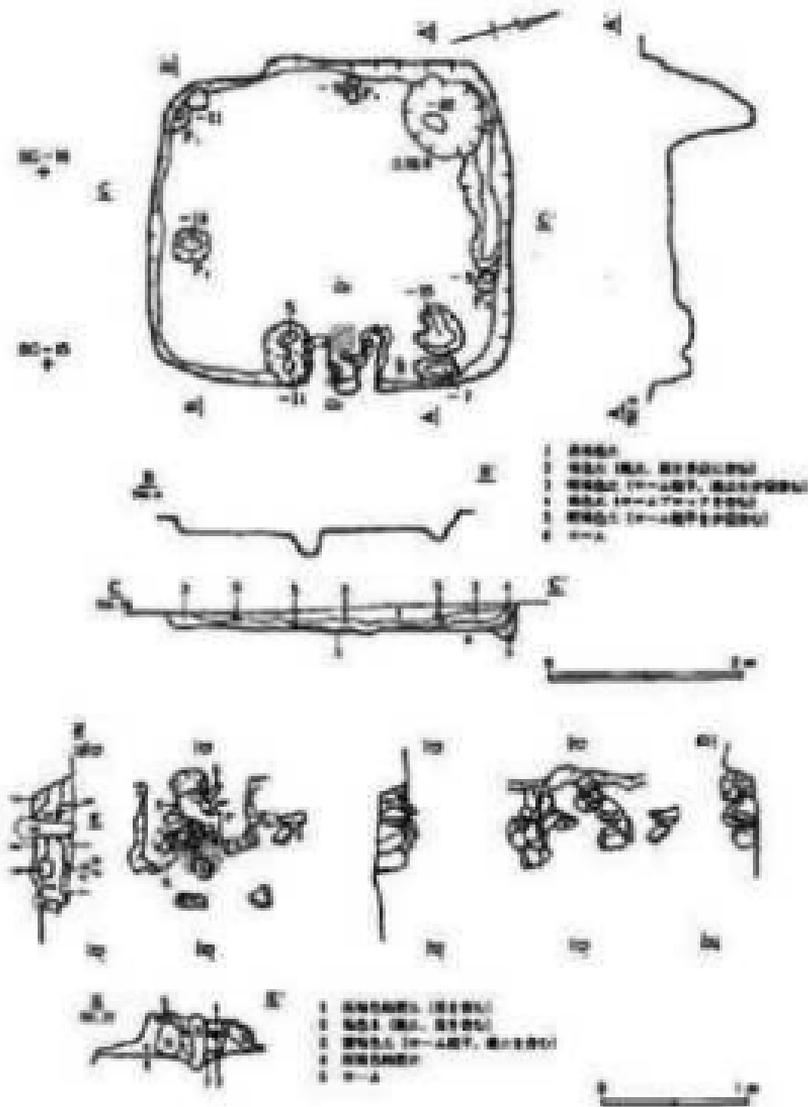


图11 11号蚌壳图

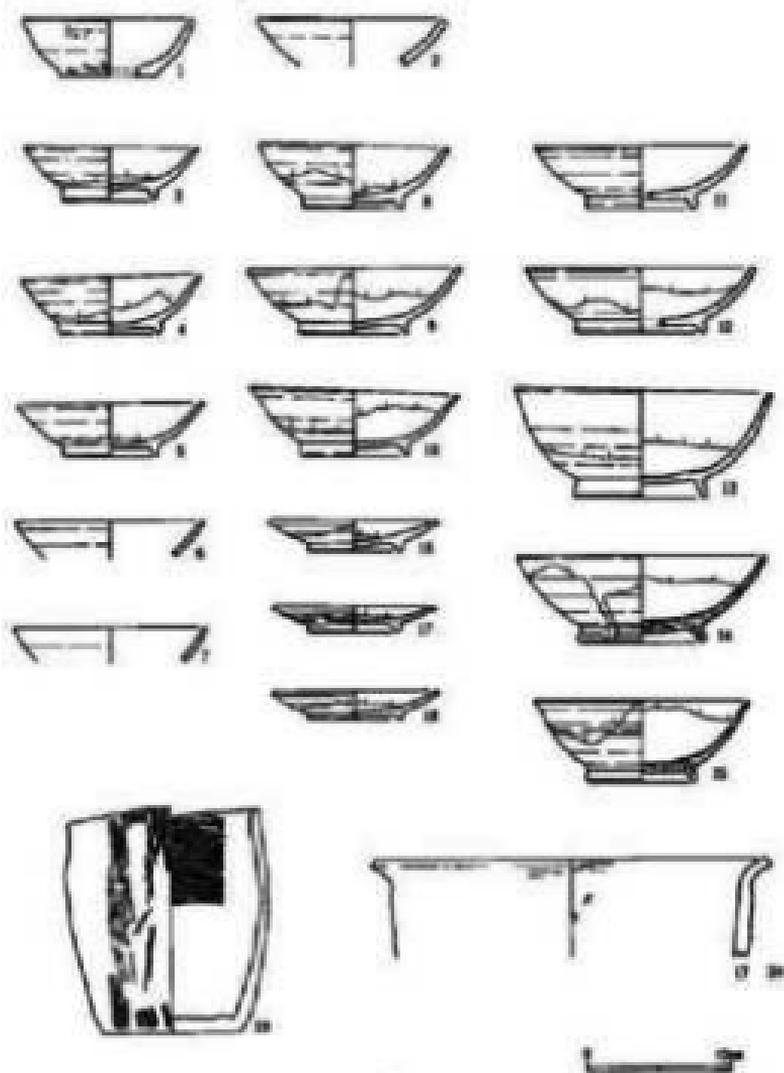


圖42 11世紀西夏出土器物線圖(續)

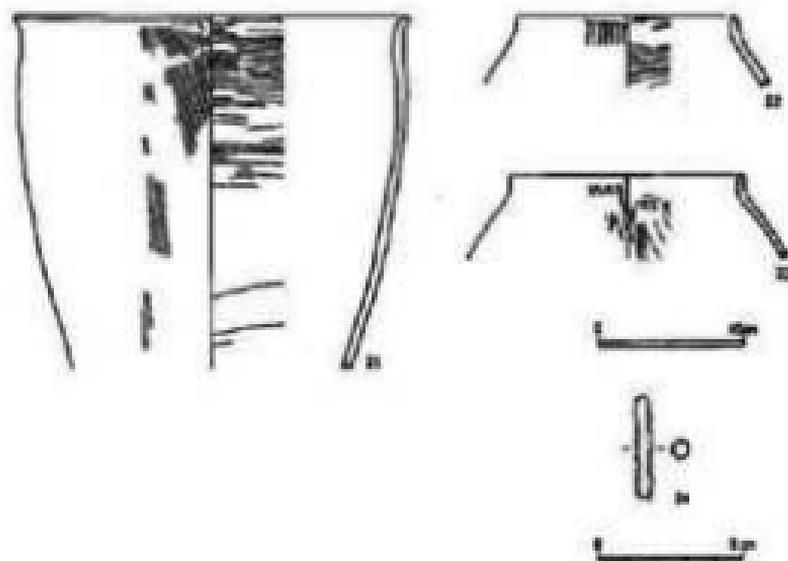


図10図 13号住居出土遺物埋納状況

#### 13号住居址 (図10図)

居住区で検出した。住居址のほとんどは調査区外に入っているため、4分の1図の検出となった。調査地区の北東部から南西に延びる溝状遺構に由緒室が埋納を被検されている。プランは矩形としなが、長軸4.7m程の開口方向を指すと思われる。使用高は140cm-120cmである。周壁は幅40cm-25cm、高さ120cm-80cmで、土壁付込を無く検出した範囲の地下全域にめぐらされている。床面はコーム層まで掘り込まれ堅く厚を認められており、掘まりは全体的に良好であるが、遺物では掘り崩れはみられない。セツトは1基検出した。位置的にみて土坑穴の1つになると思われる。

遺物は土師器片断群 (図10の9・10)、小豆甕 (図10の6・11)、炊釜破片 (図10の7・12)、杯蓋 (図10の1・2)、長頸壺口縁部 (図10の7)、餅 (図10の8)、刀子 (図10の13) が調査及び検出域より出土している。

本址の時期は遺物等から、弥生時代末から平安時代前期であると思われる。

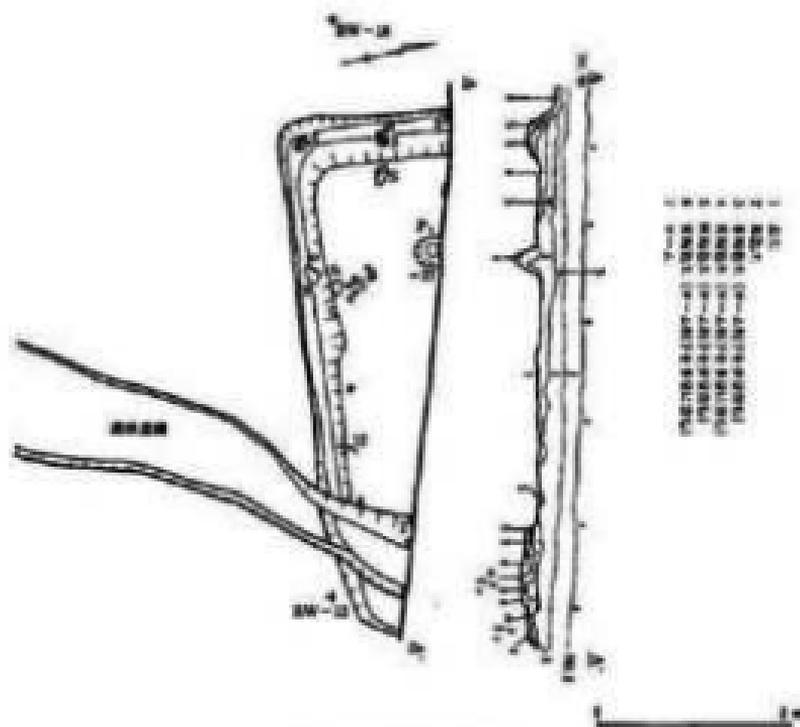


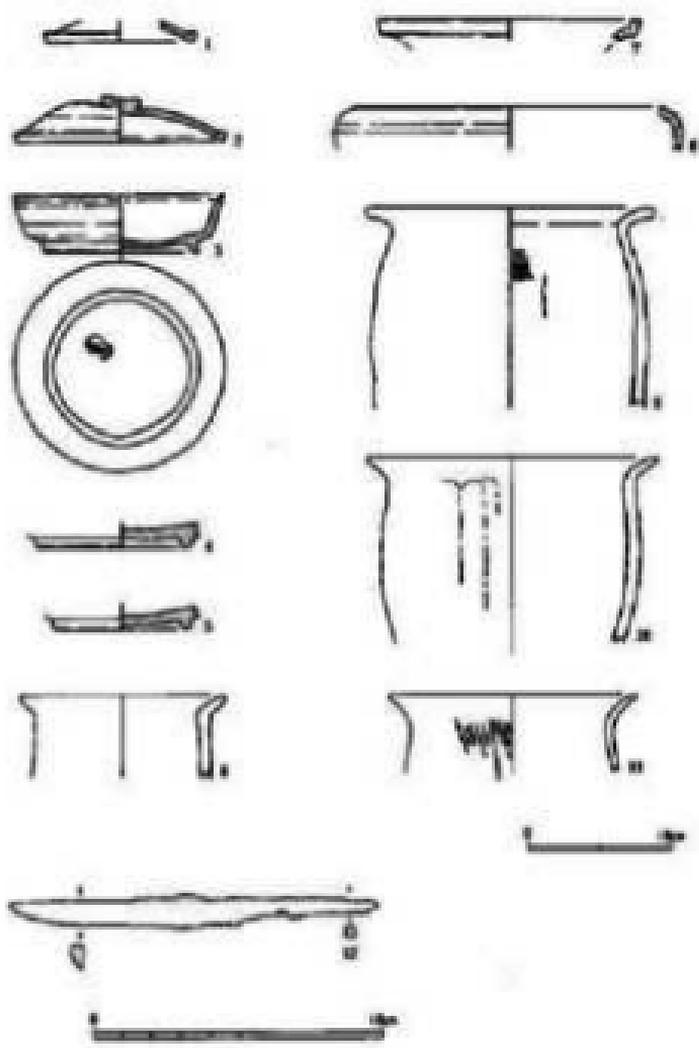
図144 15号住居は長岡

#### 15号住居址 (図144B)

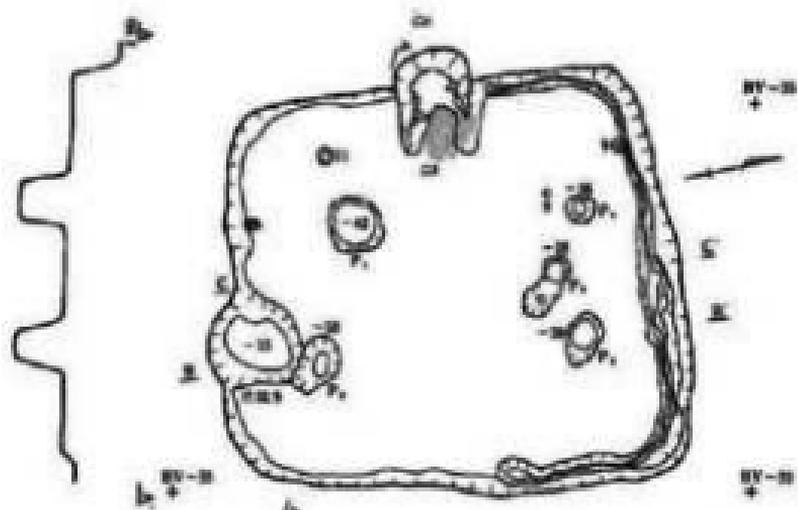
首尾区で検出した。長軸4.42m、短軸3.8mの平面四角形を呈する。土物は片一辺一軒を占す。壁高は首尾で54cm、東壁で70cmである。扉溝は住居址の主軸より北側部分の西壁キマド部分から北壁下全幅と東壁下のほぼ中央部の間にめぐらされている。幅は27cm-7.5cm、深さは15cm-4cmである。扉溝はセーム層まで掘り込まれ堅く甲を埋められており、溝よりは全体的に直井である。住居は東室側、南室側、北室側の一部で掘り込みがみられないところがある。ピットは5遺構出土した。土柱穴はP、P'であると思われる。P'と南壁の間に長軸約5m、短軸約3mの平面四角を呈する土柱穴の掘り込みがみられる。用途については判断としないが貯蔵穴の可能性が考えられる。

キマドは西壁のほぼ中央に構築されており、黄褐色粘質土と粘土による石葺板石キマドである。キマド扉面と軸部分には土がみられる。

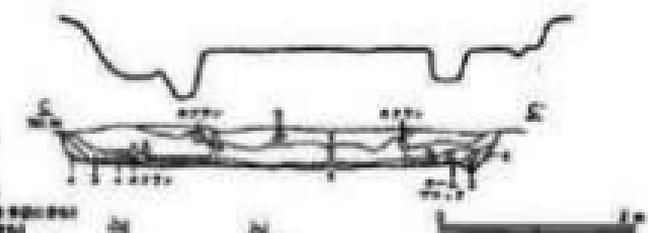
遺物は黄土中層及び下層からの出土が多く、土師器年(図147-1)、内丸年(図147-2)、灰土



БИБЛИОТЕКА



- 1 卵黄囊 (卵黄囊)
- 2 卵黄囊 (卵黄囊)
- 3 卵黄囊 (卵黄囊)
- 4 卵黄囊 (卵黄囊)
- 5 卵黄囊



- 1 卵黄囊 (卵黄囊)
- 2 卵黄囊 (卵黄囊)
- 3 卵黄囊 (卵黄囊)
- 4 卵黄囊 (卵黄囊)
- 5 卵黄囊 (卵黄囊)
- 6 卵黄囊

图14 15日龄鸡胚观

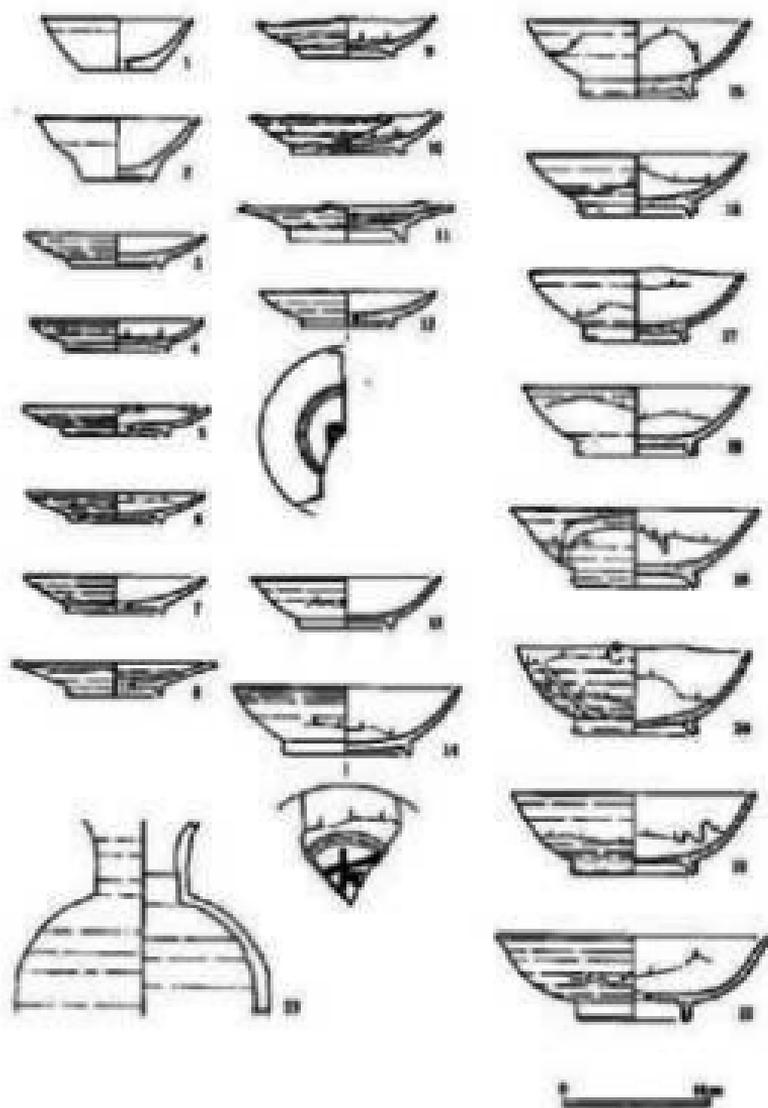


图147 15号古窑出土器物线形图

陶器類 (図147-12~22)、瓦 (図147-3~8・10・12)、瓦葺遺物 (図147-23) が出土している。カマド周辺の床面及び埋戻土より出土している遺物は灰燼陶器類 (図147-1・13) がある。

本址の時期は出土遺物等から、平安時代中期であると思われる。

#### 17号住居址 (第148図)

B区で検出した、縄文時代の土器発掘場内に構築されているため、覆土より大量の縄文土器片が出土している。長軸4.37m、短軸3.89mの不規則な方形を呈する北朝的大型の住居址である。主軸はN-20°Wを示す。壁残高は27cm~31cmである。周溝は検出できなかった。床面は暗褐色土層まで掘り込まれ、ロームブロックを並べた暗褐色土を厚さ約10cm敷きつめた土間となっているが、概まりは全体的に敷居である。ピットは1基検出した。主柱穴はP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>であると思われる。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は東面関係があると思われるため、本址は拡張された住居址である可能性がある。

カマドは東壁のほぼ中央に構築されているが、断面により完全に構築されている。カマド周辺の床面にはカマドを構築していたと思われる灰褐色粘質土が観察される。

遺物は覆土中層及び下層より土器類内黒環 (図148-1~3)、内黒輪 (図148-4)、小笠筒 (図148-11~12)、灰燼器類 (図148-7~10)、埴土 (図148-12・13・16)、カマド実用断面より灰燼器片類等の遺物 (図148-14) の他、覆土上層及び中層より鉄滓が4箇所出土している。また、覆土中より出土している遺物の中で、灰燼器類の出土量は特に多い。

本住居址の時期は遺物等から、奈良時代末から平安時代前期であると思われる。

#### 20号住居址 (第150図)

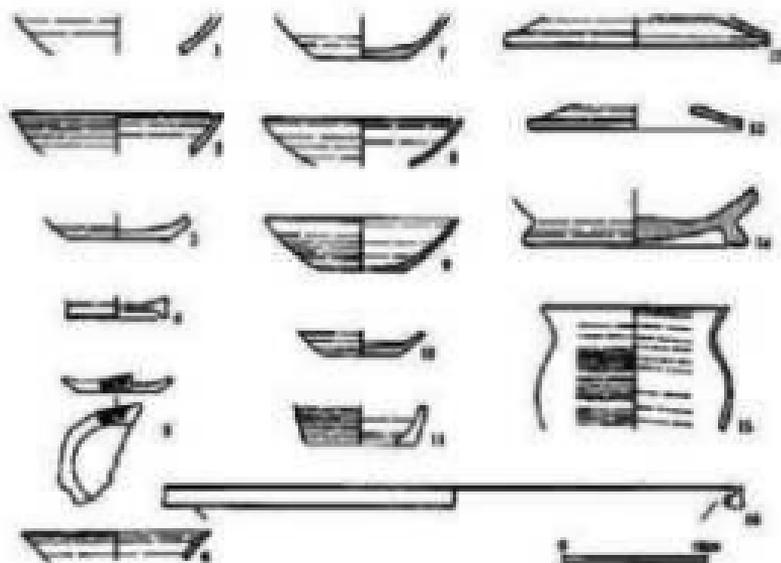
B地区で検出した、20号住居址の東側の壁と床面の一部を破壊している。長軸4.89m、短軸4.80mの不規則な方形を呈する。主軸はS-10°Wを示す。壁残高は25cm~27cmである。周溝は敷居は西側壁から東壁下にかけてのみ掘り込まれている。幅は25.5cm、厚さは12~15cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く厚さ約10cm敷きつめた土間となっているが、概まりは全体的にたいへん良好である。ピットは4基検出した。これらが主柱穴と思われる。西壁下に長さ1m~1.2mの溝のくぼみがみられるが、入口施設の可能性が考えられる。

カマドは東壁の中央よりやや北側に構築されているが、残存している部分はおらずであり、断面がわずかにみられる。カマド付近の床面からはカマドを構築していたと思われる灰褐色及び灰褐色粘質土が出土していることから石室版土カマドと考える。カマド断面には厚さ3cmの焼土がみられる。

遺物はカマド周辺より土器類小笠筒 (図150-2・3)、敷居址中央の床面より灰燼器類 (図150-1)、北壁は曲西隅の床面直上より鉄滓 (図150-4) が出土している。

本址の時期は遺物等から奈良時代末から平安時代であると思われる。





第14の図 27号古墳出土の船模型図

#### 27号古墳址 (第133図)

古墳区で検出した、27号古墳址の北東部部分を縮減している。西壁の一部と南壁を撤去できなかったためプランは別図としなが、長軸は20m、短軸は10mの隅丸方形を呈していると思われ、主軸はN—W—Eを示す。壁厚約は25cm—35cmである。南壁はオマド部分を除く西壁下と北壁及び東壁下間にのみ残されており、幅20—25m、高さ15mである。また南壁の位置すると思われる部分に長さ1.5m、幅20—25m、高さ10mの溝状の遺り込みがみられ、中に作り物と見られる。東壁はホーム層まで掘り込まれ強く朽き腐められており、跡まうは全体的にたいへん良好である。ピットは検出できなかった。

オマドは西壁のはほぼ中央に構築されており、灰褐色粘質土と磁石による石室粘土オマドである。オマドを構築している磁石は多く密に敷き詰められている。これらはすべて移骨である。オマドの主軸は南東方向へ傾く形となっている。オマドの南壁とその南壁及び、東壁下の一部に瓦土がみられる。

遺物はオマド内部より土師器片類 (第134—13—13—14)、内黒平 (第134—1—3—3—8)、オマド南壁撤去付近より内黒器 (第134—4)、オマド北壁の南壁より灰土器片類 (第134—11) が出土している。

本墳の時期は遺物などから平安時代前期であると思われる。

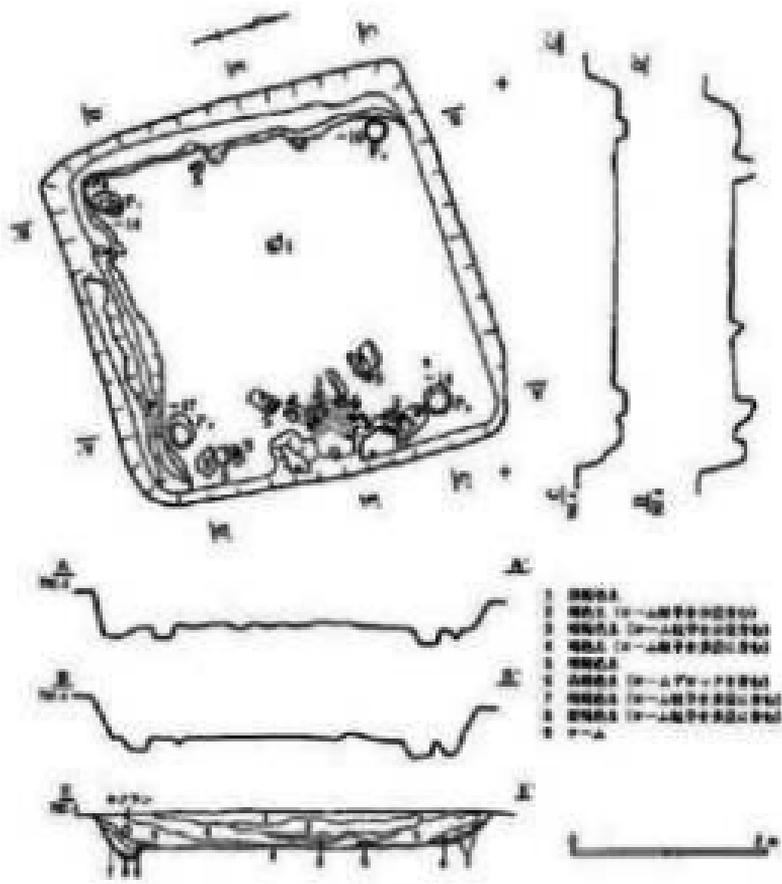


圖150 門廳佈局圖



図121 21号住居出土の遺物(複製)

### 21号住居址 (第120図)

居住区で検出した、21号住居址に北東部部分を破壊されているためプランは原則としてないが、平盤陶瓦断面を基としていると思われる。土壁は約一坪一坪を測すと思われる。壁高は20cm—24cmである。遺物は検出した壁の裏面下を掘り全境にわたって見られる。竈は約一坪、深さは11—12cmである。床面はローム層まで掘り込まれている。掘り戻はローム層を突き破りたものであるが、住居址や井より西側の一部にしかみられない。ピットは検出できなかった。

キヤブは東壁下にあずかであるが地土と河原色粘質土が認められたことから、東壁に構築されていたと思われるが、破壊しているため確認できなかった。21号住居址が破壊された際に破壊されたものと思われる。

遺物は床面及び床面直上より土器器片 (図125—9)。

瓦片類 (図126—12・13)、小形壺 (図126—12・14・15)、横置器片 (図126—1—8)、鉢 (図126—16) の他、粘土上層より鉄片が3個出土している。

本址の時期は遺物などから平安時代前期であると思われる。

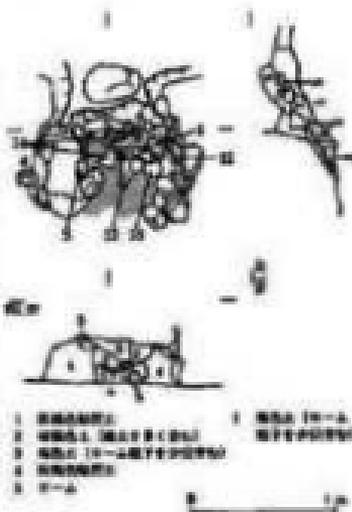


図122 21号住居址キヤブ瓦片類



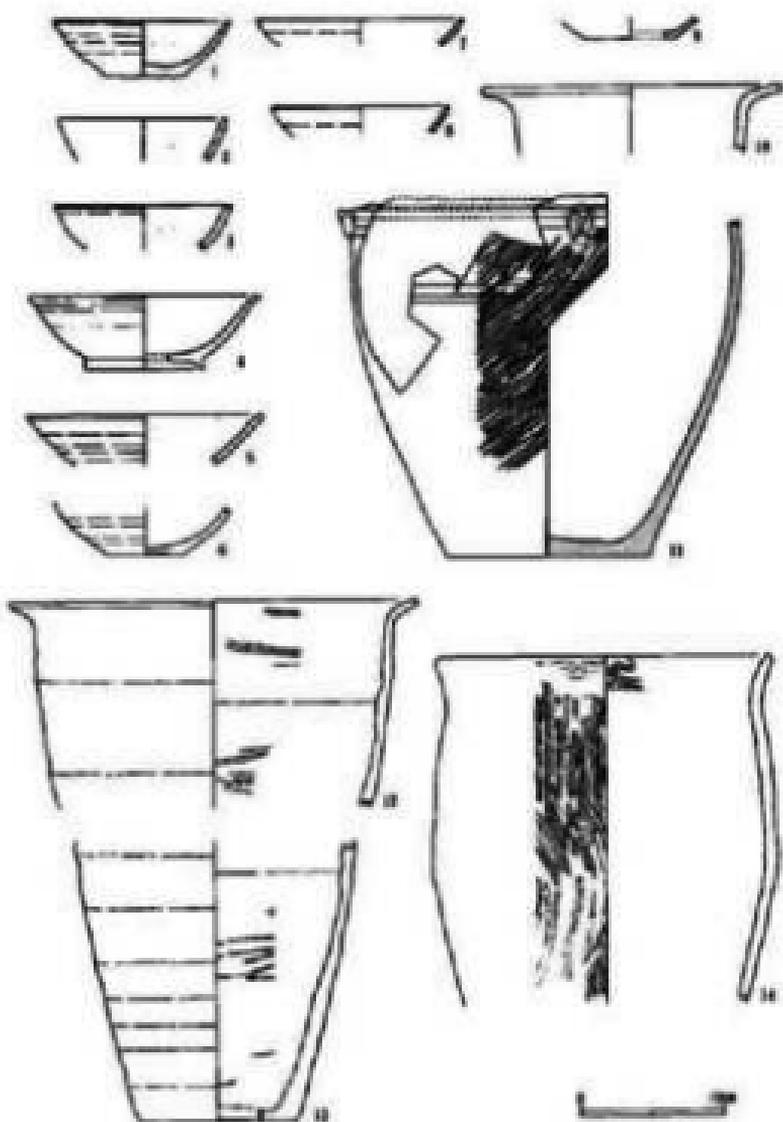
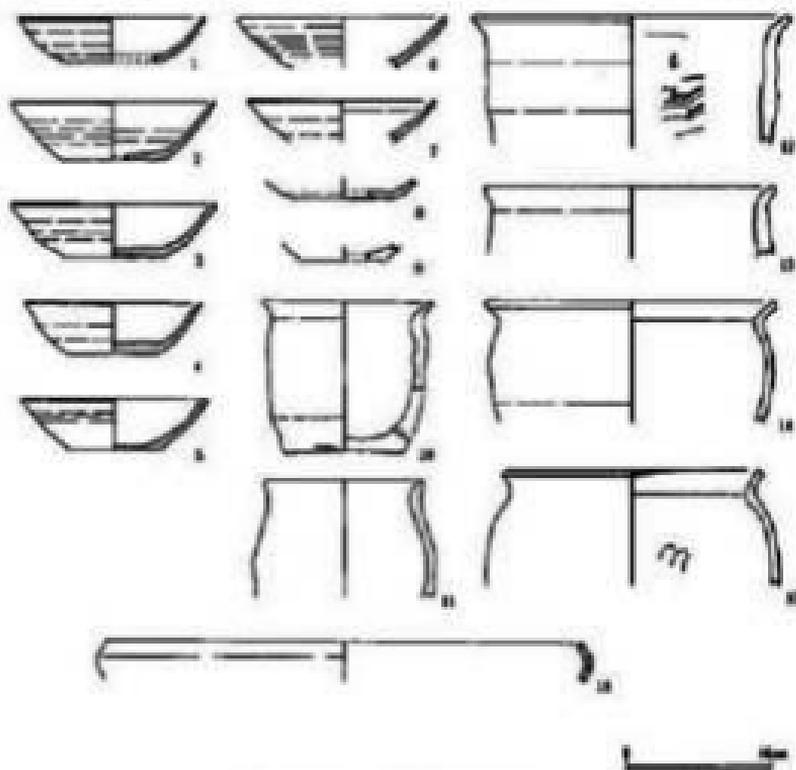


图 14 西 14 号 14 号

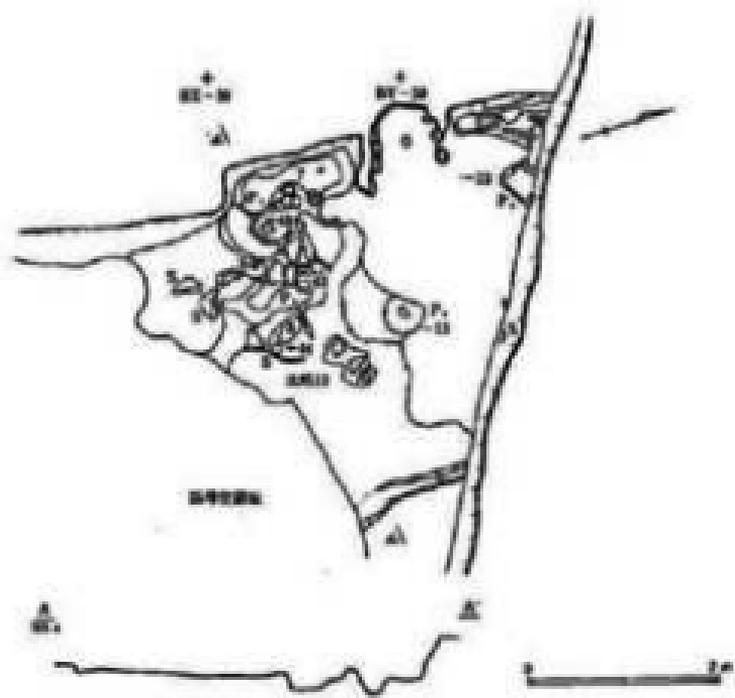
20号住居址 (第154図)

居住区で発見した。住居址の南壁の一部は20号住居址の礎石上に構築されている。住居は北壁が調査区外に入る。20号住居址を築出する際、南壁を撤去してしまったためプランは明瞭としないが、長軸0.93mの隅丸方形を呈しているものと思われる。玄軸は21-04一写を準ずると思われる。住居高は西壁で17cm、東壁で15cmである。南壁は西壁下及び東壁下より築出した。西壁で幅15cm-8cm、高さ15cm、東壁で幅21cm-15cm、高さ4cmである。棟筋はローム層まで掘り込まれ、深く穿れ認められており、床まわりは全体的に良好であるが、東壁付近には焼り跡はみられない。ピットは4基発見した。玄柱穴はP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>になるとと思われる。ホヤドは西壁に構築されており、灰褐色粘質土と磁石による灰褐色土ホヤドである。ホヤド床面及び輪郭中には焼土はあまりみられない。

遺物は灰土中層より土師器片断類 (図12-1-3-4)、赤土及びホヤド内部より土師器片断類



第154図 20号住居址の土器片断類



- I. 果核 (核仁) 的横切面
- II. 果核 (核仁) 的纵切面
- III. 果核 (核仁) 的横切面
- IV. 果核 (核仁) 的纵切面
- V. 果核 (核仁) 的横切面



图14 果核的横切面

(図247-1・3・4)、調査結果報告書(図247-7)が出土している。

本址の時期は遺物などから平安時代前期であると思われる。

#### 26号住居址(第156図)

畠地区で検出した。26号住居址の大部分を破壊している。また、31号住居址の礎石上に構築されている。長約4.1m、短約5.7mの平型長方形を呈する。土輪は3×1の1室を示す。壁高は約1m-2mである。南壁は検出できなかった。また、南壁は認められなかった。床面は暗褐色土層まで掘り込まれているが、北側壁の北側一面はローム層まで掘り込まれている。掘り方はコマドから北側部分はロームブロックを多数に含んだ暗褐色土を穿り破る。掘り方は単純であるが、コマドから南側部分は掘り穿れがみられない。ピットは4基検出した。これらが土坑穴であると思われる。配置的にみて全体的に北側によった形となっている。コマドは西側の中央よりやや北側によったところに構築されており、両褐色粘質土と磁器による瓦形粘土コマドである。コマドの土輪は北側壁中央を向くように斜めに構築されている。コマド周囲の敷土は厚く、長期間火熱を受けていたことが考えられる。

遺物は黒土中層及び下層から土師器内流坪(図248-1-1)、長瀬器(図248-21-21)、小炊器(図248-11-16、図248-17-16)、瓦形粘質土(図248-3-10)が出土している。また、コマド瓦形粘質土より瓦形粘質土(図248-4)が完形で出土している他、刀子(図248-24)が出土している。

本址の時期は遺物などから平安時代中期であると思われる。

#### 29号住居址(第157図)

畠地区で検出した。29号住居址の北側壁を破壊している。また、29号住居址にその大部分を破壊される。検出できた壁は西側の一面のみであるためプランは判然としない。壁間の標準高は2.6mである。南壁は検出できなかった。床面は暗褐色土層まで掘り込まれ、ロームブロックを多く含んだ暗褐色土を穿り破られているが、掘り方は全体的に単純である。ピットは検出できなかった。コマドは29号住居址にはほとんどが破壊される。西壁下に掘り込まれ、西壁下からわずかながら検出されるが、両褐色粘質土と磁器による瓦形粘土コマドであると思われる。磁器の下層には必ずかた土が認められた。

遺物は黒土中層より土師器内流坪(図249-1)、長瀬器(図249-4-7)、調査結果報告書(図249-1)、研石(図249-2)、刀子(図249-3・9)が出土している。

本址の時期は遺物などから奈良時代末から平安時代前期であると思われる。

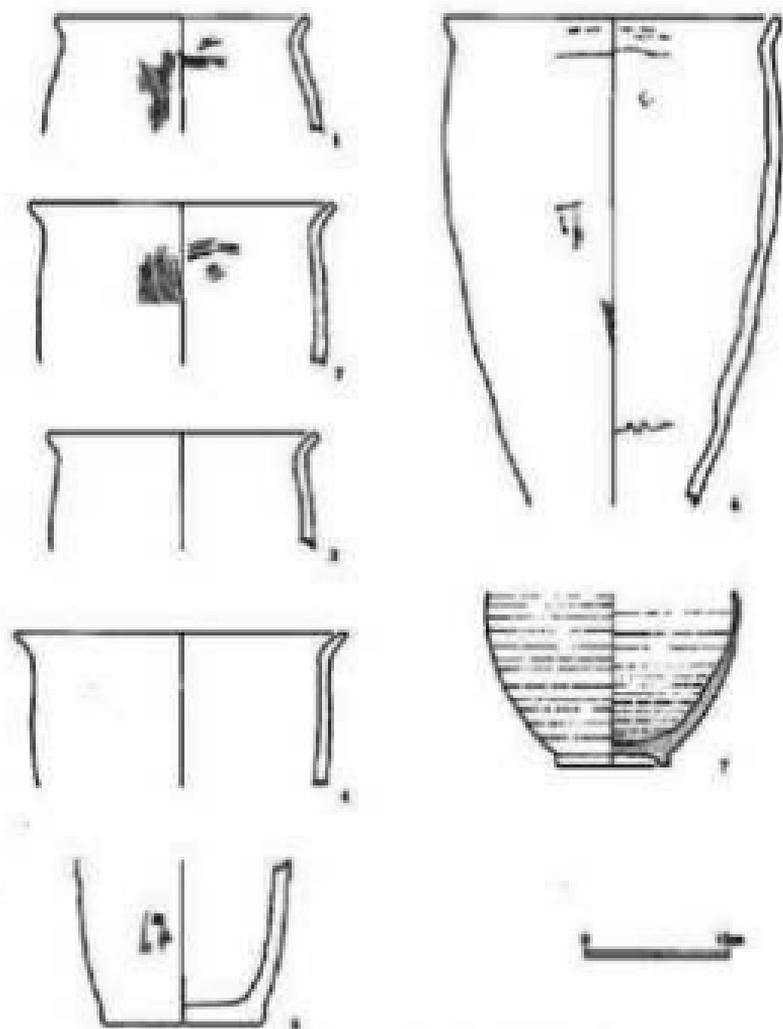


图137 20世纪50年代出土的青铜器

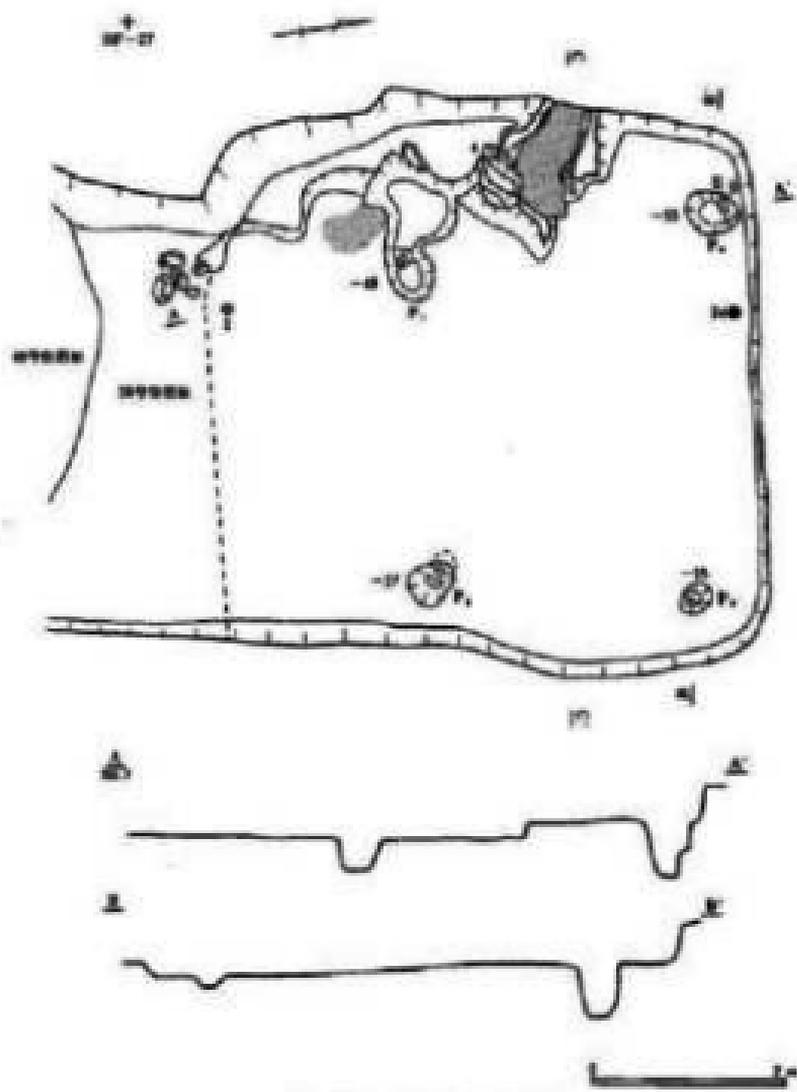
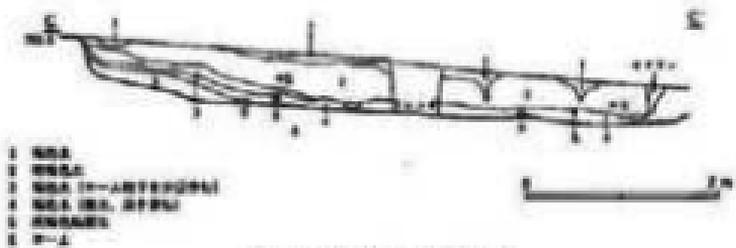
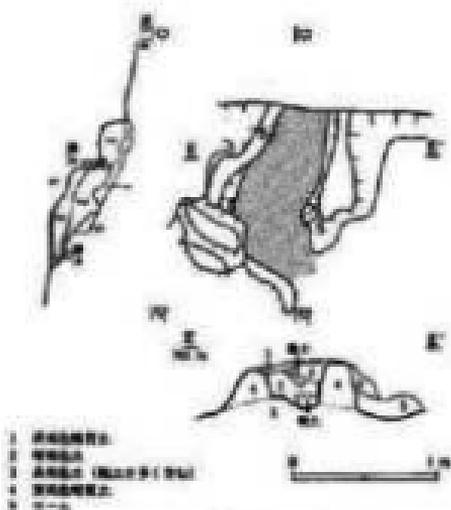


图156 34 - 20个位相的生理记录



- 1 吻囊
- 2 咽囊
- 3 咽囊 (1-4) (咽囊)
- 4 咽囊 (咽囊, 咽囊)
- 5 咽囊
- 6 咽囊

图12 蛔虫前部上唇部结构



- 1 咽囊
- 2 咽囊
- 3 咽囊 (咽囊) (咽囊)
- 4 咽囊
- 5 咽囊
- 6 咽囊

图13 蛔虫前部下唇部结构

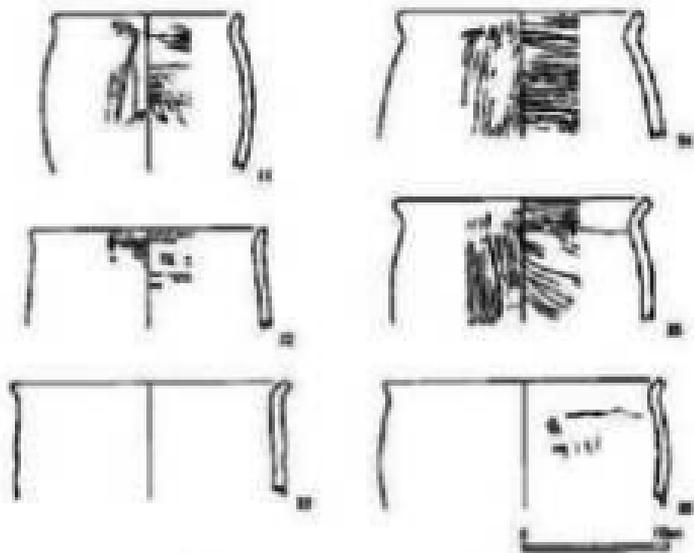
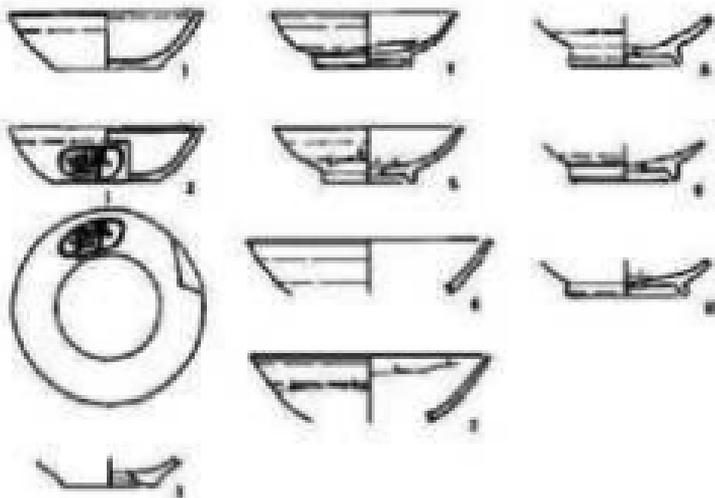


Figure 10. (Caption text, oriented vertically)

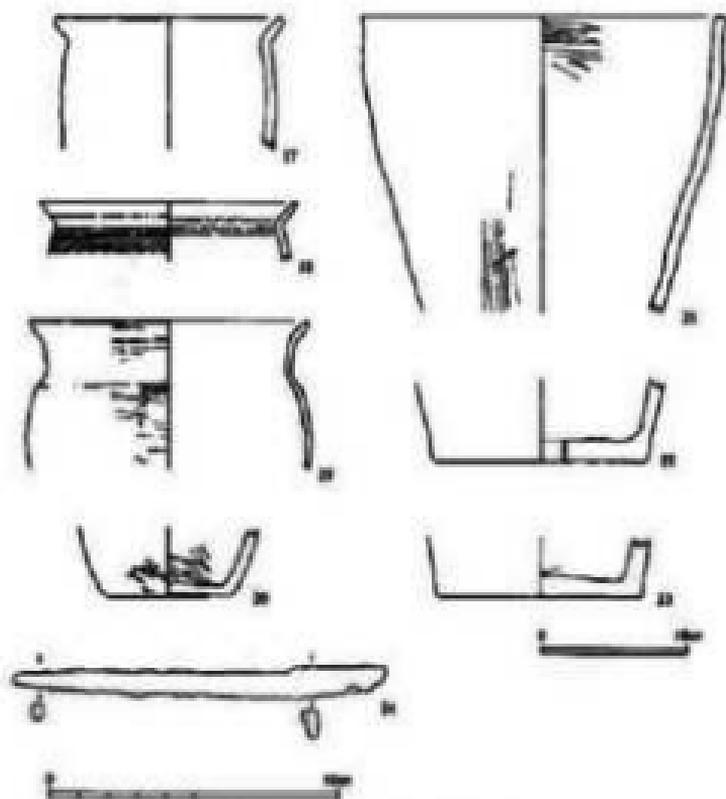


图 100 仰光地区出土的陶器(部分)

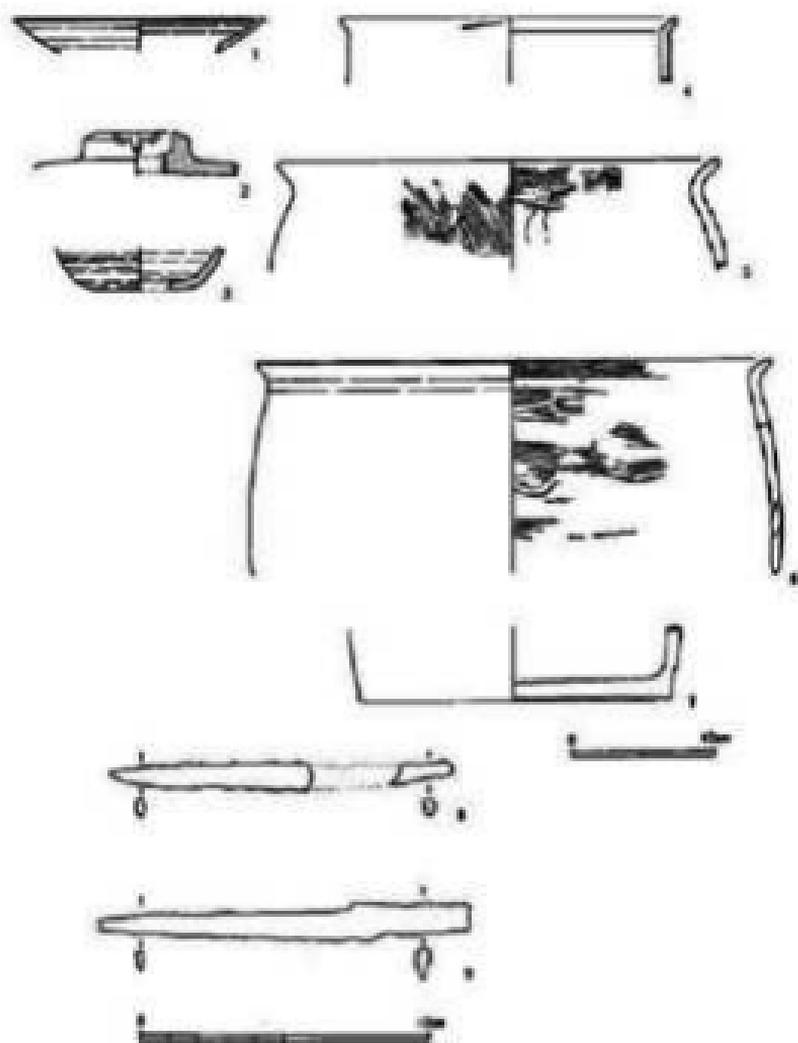


图162图 29号铁器出土之器物线图

## 第4節 その他の遺構と遺物

### (1) 竪穴住居址

#### 7号住居址 (第137図)

A地区で検出した。A地区南で検出した9号住居址竪土においてわずかに痕跡を確認した。プランは遺土を掘削する際に崩壊してしまったため不明である。土層断面では遺構の立ち上がりは確認できたが、西壁は確認できなかった。これは近傍の掘削により破壊されていることが考えられる。また、B地区南東での9号住居址竪土の土層断面では取り戻は認められなかった。取り戻は黒褐色土にロームブロックが少量混入したものである。

出土遺物がみられず、時期は推定できないが平安時代前期以降の住居址であると思われる。

#### 14号住居址

B地区北西部の調査区外との地で検出した。取り戻の一部を検出したのみであるため、プランは不明である。壁・ピット・炉またはカマド等は確認できず、遺物の出土もなかったため本址の時期は不明である。

### (2) 竪立柱建遺址

#### 1号竪立柱建遺址 (第144図)

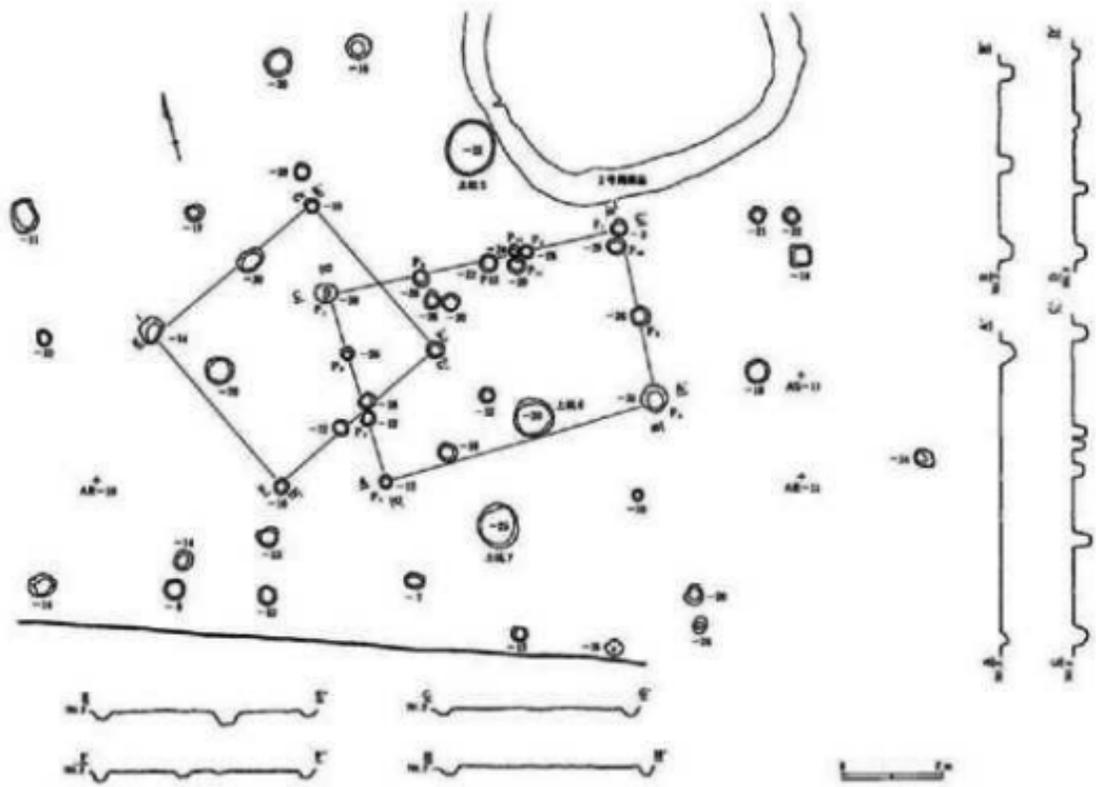
A地区で検出した。1号調査基の南側に位置する。長軸3.3m、短軸2.1mの長方形を呈し、長軸方向はN-60°-Wを示す。柱式は平截錐台構造となっており、F<sub>1</sub>は北側へずれている。また、西側においても東列を挟んで平截錐台、東列で北方向から180m-180m、西列で北方向より116m-113m-113m、東列で94m、北列で西方向より176m-215m-180mである。規模はおよそ2間×2間である。F<sub>1</sub>-F<sub>2</sub>は簡易的な文様であることが考えられる。

柱式の平面形は円形を呈し、壁土は黒褐色土とローム結子を多量に含む褐色土の2層を基準としている。遺物は柱式内及びその周辺からの出土はみられなかった。本址の時期は、判断する材料が乏しいため不明である。

#### 2号竪立柱建遺址 (第144図)

A地区で検出した。1号調査基の西側に位置する。長軸4.0m、短軸3.3mの長方形を呈し、長軸方向はN-60°-Eを示す。柱式は東列で3.8m、西列で3.5m、南北列で西方向より244m-244mを呈する。規模はおよそ2間×2間となる。

柱式の平面形は円形を呈し、壁土は黒褐色土とローム結子を多量に含む褐色土の2層を基準としている。遺物は柱式内及びその周辺からの出土はみられなかった。本址の時期は、判断する材料



图例 1-1 比例尺 1:50,000 地质图例

が乏しいため不明である。

### (3) 柱穴遺構 (第164区)

A地区で検出した。竪立柱遺構の範囲及び内部に20個を数える。全体的に竪立柱遺構の西側と南側に集中している。全てローム層まで掘り込まれているが、平面形状及び造りの掘り方、置きなど共通性はみられない。覆土は黒褐色土とローム砂子を多量に含む褐色土の2層を基本としている。遺物は出土しておらず、本柱の用途・時期等は不明である。

### (4) 溝状遺構 (第6区)

B地区で検出した。12号住居北東第一区、23号住居北の高壁及び北壁の一部、24号住居北の高壁及び北壁の一部、7号住居南の高壁及び北壁の一部をそれぞれ破壊している。掘出した溝の長さは17.3m、幅は120cm～125cmであり、西～東一方向に延びている。遺物は覆土上面より掘入した黒土土器片がわずかに出土している。本柱の時期は遺構に伴う遺物がみられず判断としないが、12号住居北との切り合い関係から、平安時代前期以降のものであると見られる。

### (5) 遺構外出土遺物

トレンチ調査及び上空探査を実施した際、出土した遺物のなかで本遺跡より検出した遺構の時期に該当しないもの、または特徴的なものをまとめた。

縄文時代では調査に器具のあるものの、調査地北端より縄文中期中葉から後期にかけての土器片が出土しているが、1点のみ磁器の土器片(図169-1)が認められた。また、磨製石斧(図169-5-7)、燧石(図169-1-2)、燧石(図169-4)、黒曜石のチップ等が出土している。

平安時代のは遺構片より遺物の出土は認められなかった。そのほか、時代は判断としないが、鉄器(図169-1-8)・鉄器(図170)が出土している。

中世以降では遺跡・遺構内の小遺等、陶磁器の破片が少量出土している。



図169 遺構外出土土器検出図

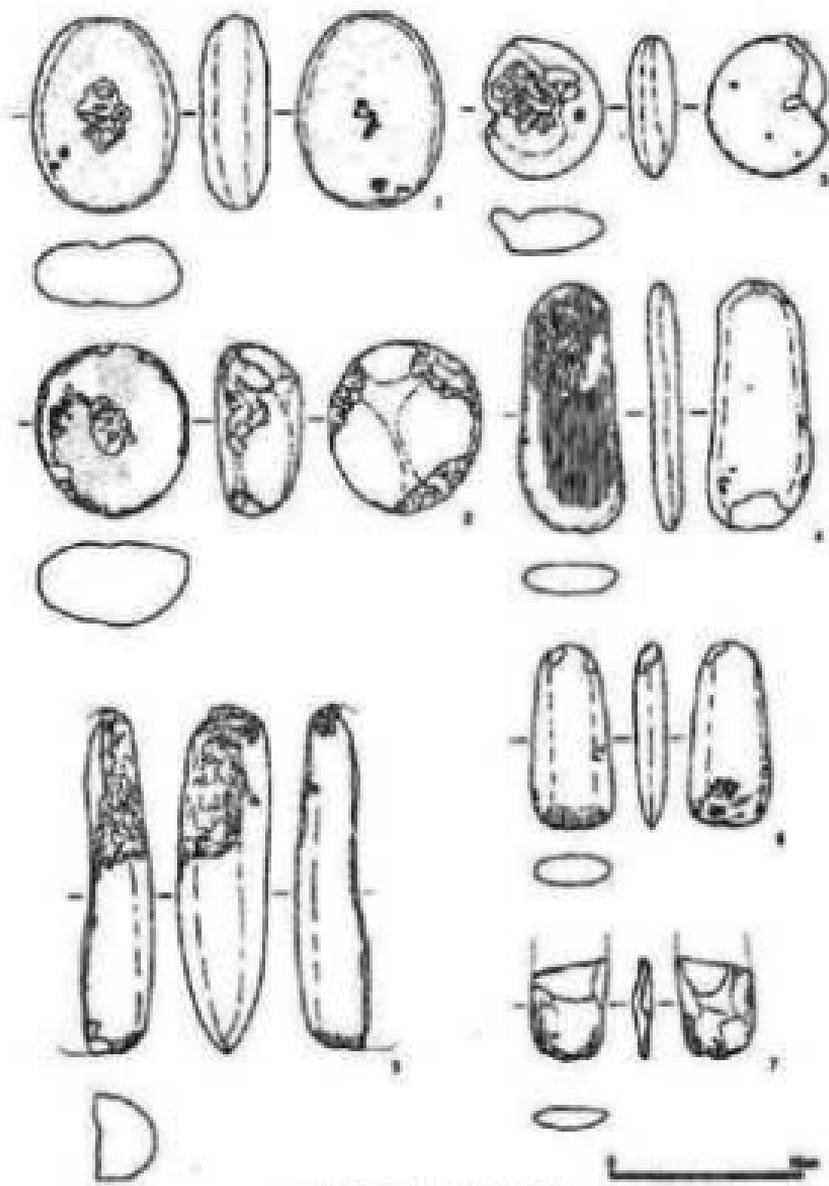


FIG. 100

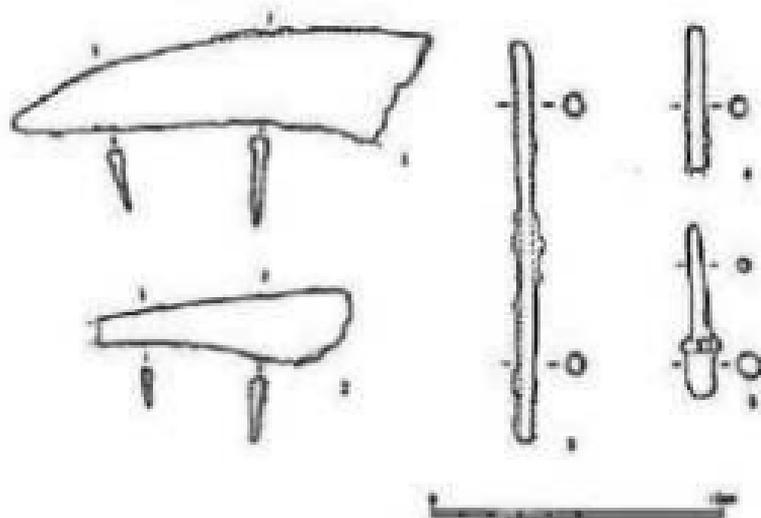


图147 透射电镜扫描电镜图

## 第4章 総 括

今回の調査は予想を遥かに上回る業績、遺物の量と内容であり、国々の事情によりこれらを完全に整理、発掘を加えることはできなかったため本報告書では資料の提供を主とするにとどまったが、現段階での成果と、今後の課題を上げてみたい。

縄文時代では、中部・中部から北部にかけての住居は円形と土器製陶場、土器分配所と特殊遺構、配石は帯を敷出した。住居は調査区の北側に集中していることから、集落の中心は調査地北側になると思われる。中期・中期の住居地の配置は全体的に偏在となっていることから、現状ないし再集約の集落構造となっていることが考えられる。住居地の偏在としても比較的大型のものより小型のものがあることに留意をしなければならない。

中期後半になると偏在ないし再集約の集落形態から次第に均等に分散していく傾向になると思われるが、調査範囲外の発出した住居地のみでは把握をすすめるには不十分である。

土器製陶場は時間的な制約によりその範囲を示すのみとなってしまった。調査土器が特殊遺構の周辺に集中していることから、土器の配所から集落行へへと変化していったことが考えられるが、調査された土器片の分級整理が不完全であるため、はっきりとこの流れをつかむことは現時点ではできない。今後の課題として取り組んでいきたい。

土器分配所と特殊遺構の発出は、今回の調査の中で大きな成果の一つであったといえる。古付浅鉢型土器を取り巻くように半月状に配置された土器はいずれも口縁が南方を向いており、正っていたものが自然に傾れたとは考えられず、意図的に方向性を示させて使用しにしたものと思われる。同時に配置された土器についても「個々のもの」と「群衆のもの」がみられ、「個々のもの」はいずれも変形した状態であり、なんらかの意味をもつものと考えられる。古付浅鉢型土器の設置状況及び周囲の土器の配置からみて、明らかに祭祀的行為が行われたことが想定されるが、それがどのような意味をもつものかははっきりしない。配置された土器の周囲から大粒を受けた石及び土器片が出土していることから、何らかの形で火を扱うものであったことが想定される。

配石帯は調査対象があまり良好でなかったことから、焼土時間・厚さなど測定と整理が多く残るものである。

遺物では人骨文の付いた骨孔焼付土器、3半の形に赤・黒褐色が塗られた土器破片、型に両面赤色の文様をもつ器底など特異なものがあり、集落を構成していた集団の特色を表すものであると思われる。特に人骨文付骨孔焼付土器は阿蘇の形より先が欠落しているものの、人体の正位がはっきりと表現されており、阿蘇から運ばれて付けられている赤褐色を表現された面など骨孔焼付土器だけでなく、集落を構成していた人々の精神性を考察する上でたいへん重要な大きなものと考ええる。土器類では祭祀色の強いものが多く見られるのに対し、石器類では石製の土器がまったくみられなかったことは異例と考えらるべきであろうか。

今回の調査では集落の一部の発出であったため全体像ははっきりとしないものの、その規模、

内容ともに遺跡の遺構を反映するものである。久保上ノ平遺跡の南に位置する天宮遺跡の調査においても、量的にみて中層中室の遺構、遺物が多いことから、この周辺に幾つかの集落が連続して存在し、その中でも平遺跡が拠点的な役割を果たしていたことが推察されるが、村内での天宮川右岸段丘上の縄文前期の遺構調査は今回が3件目であり、絶対資料が不十分であるため、今後の資料の追加を待ちたい。

弥生時代では、前期の住居は3軒と遺構遺り高を調査した。4号住居は1号号房遺構の切り欠き関係が判明としなかったため住居と両遺構との前後関係ははっきりとしないが、居住域から墓域に移行していったと考えた方が妥当と思われる。段丘下に広がる沖積地には本相遺跡である箕輪遺跡がひろがっており、沖積地に接する段丘上に位置する住居はこれを生息基盤に構成されていたことが考えられ、沖積地の利用範囲の広がりとともに墓場もより墓域に近い、広い段丘面に移行していったことが考えられる。また、出土した副葬品には比較的小型の陶器が圧倒的に多いものがあることから古野原遺跡との造営時期等、遺具の供給を要するところである。両遺跡の敷面は村内輪の集落であり、その集落域から本遺跡より下の段丘面、もしくはその周辺にさらに大規模な集落が形成されていることが予想される。

奈良・平安時代では住居は1軒を調査した。調査対象が良好であったことから敷石版、遺物土器のほか、大瓦住居形より出土した瓦葺陶器類の遺物の出土があり、良好な集落となった。

本遺跡の集落の性格は、各住居の明確な時期区分ができなかったため不明だが、奈良時代末から平安時代前期にかけての住居集落には比較的大型の住居がみられることから、ある程度まとまりのある集落を形成していたと思われる。周辺で出土した縄文遺構物においてもこれに付随していたものであることが考えられる。

また、中層では瓦葺陶器の出土がみられた住居は3軒で、これらはいずれも比較的小型の住居であり、それぞれの住居集落には墓場があることからみて、この頃になると居住域が拡散し、散在の住居が点状化するようになったものと思われるが、集落形成の進展及び集落については不明な点が多く、今後の周辺の調査による資料の追加を必要とする。

以上、調査の結果と課題・問題を述べたが、調査地の地形がほぼ自然の状態に近く、遺跡の保存状態が良好であること、また遺跡の調査及び内部から、周辺一帯においても同様の状態で遺跡が埋没されている可能性が無く、今後の保存対策が大きな課題になると考える。

なお、最後に思ったのが調査及び本遺跡の作成にあたり、ご理解と多大なご尽力を頂いた関係者諸君をはじめ、調査調査関係の皆様、ご指導、ご協力を頂いた先賢諸氏に深く感謝するとともに、ご指導を頂きながら担当者の方不足によりそれを生かしきれなかったことをお詫びしてまとのしたいと思います。

引用参考文献

- 長野県教育委員会 1972 『長野県中央遺跡園文化財包遺跡発掘調査報告  
上伊那郡高箕輪村その1・その2』
- 長野県教育委員会 1970 『中央信越平遠長野県遺文化財発掘調査報告（一般市民  
内その1）— 墓跡編』
- 長野県史学会 1981 『長野県史 考古資料編 金』巻3 遺跡・遺物』
- 国土建設院 1975 『大宅川上流域調査図』
- 日本遺跡公開記念事業委員会 1970 『中央信越平遠長野県遺文化財発掘調査報告（一般市民  
内その2）— 古銅河内遺跡』
- 長野県歴史文化センター
- 岡谷市教育委員会 1976 『久保遺跡 —中郡山内町の縄文時代集落址—久保遺跡第  
3次—第13次発掘調査報告書』
- 岡谷市教育委員会 1975 『定知中遺跡 —平成4—6年度発掘調査報告書—土地改良事  
業伊那郡地区縄文文化財発掘調査報告書—』
- 駒ヶ丘市教育委員会 1970 『灰目・遺光・駒村・小林遺跡』
- 諏訪市教育委員会 1976 『河内遺跡群 —發掘調査2号南光寺バイパス用地内縄文文化  
財発掘調査報告書—』
- 諏訪市教育委員会 1977 『敷原遺跡 —發掘調査2号南光寺バイパス（1工区）用地内縄  
文文化財発掘調査報告書—』
- 高箕輪村村誌編纂委員会 1970 『高箕輪村誌 上巻 自然編・遺跡編・信仰生活編民謡編』
- 高箕輪村村誌編纂委員会 1970 『高箕輪村誌 下巻 歴史編』
- 高箕輪村教育委員会 1977 『穴形遺跡調査発掘調査報告書』
- 高箕輪村教育委員会 1979 『種子形遺跡調査発掘調査報告書（第3次発掘調査）』
- 高箕輪村教育委員会 1977 『高箕輪遺跡』
- 高箕輪村教育委員会 1975 『人工瓦遺跡』
- 高箕輪村教育委員会 1973 『北越外遺跡 宅地造成事業に伴う縄文文化財緊急発掘調査報  
告書』
- 高箕輪村教育委員会 1973 『高箕輪遺跡 上伊那郡高箕輪村住ノ井中井地区』
- 高箕輪村教育委員会 1974 『宮ノ上遺基 宮ノ上遺跡発掘調査報告書』

表 3 表 土質一覧表

No.	位 置	風 速 (m/s)			平 面 形	傾 斜 形	出 水 通 路	備 考
		最高	平均	最小				
1	AY-23	288.0	85.0	43.0	平盤傾内形	直 形	—	
2	1号牧草場	175.0	148.7	58.0	*	*	扇形(直)	扇形下り傾斜
3	4号牧草場	213.3	66.0	33.0	平盤傾外方形	*	—	
4	1号牧草場	—	79.0	34.0	平盤内形	*	—	近所の傾斜が下り傾斜
5	AY-14	187.0	56.0	22.0	傾内形	*	—	
6	AY・E-13・14	86.0	75.0	39.0	平盤内形	*	—	
7	AY・E-14	75.0	75.0	35.0	*	*	—	
8	11号牧草場	85.0	77.4	33.0	平盤傾内形	*	—	
9	11号牧草場	86.1	86.0	35.0	*	*	—	
10	14号牧草場	83.0	87.0	39.0	平盤内形	*	—	
11	新野・E-13・14	84.0	87.0	34.0	*	*	—	
12	新野・E-19	79.0	86.4	46.0	平盤傾外方形	*	—	12号牧草場北側の一段下傾斜
13	24号牧草場	67.0	61.3	19.0	平盤内形	*	扇形(直)	
14	27号牧草場	66.0	61.7	23.0	平盤傾内形	*	扇形傾上形(直)	
15	*	75.8	66.0	24.0	*	*	—	一段下り上置
16	22号牧草場	113.9	87.0	36.0	*	*	—	22号牧草場北側の一段下傾斜
17	23号牧草場	61.0	56.4	16.0	*	傾 形	扇形傾上形(直)	
18	24号牧草場	65.7	65.7	11.0	*	直 形	*	
19	*	67.0	67.4	26.0	*	傾 形	—	
20	26号牧草場	66.0	67.7	17.0	*	直 形	—	
21	*	75.0	69.3	19.0	*	*	—	
22	*	66.0	66.0	21.0	*	*	—	
23	*	61.6	67.6	13.4	*	傾 形	—	
24	*	66.8	73.0	16.6	*	直 形	—	土砂の上置
25	新Y・CA-34	102.0	77.0	33.0	*	*	—	
26	CA・B-34・35	79.0	66.0	35.0	*	*	—	
27	CA・C-34	—	—	16.0	*	*	傾斜上置(直)	1号牧草場へ?
28	7号牧草場	123.0	84.0	39.0	平盤傾外方形	*	—	14号牧草場、1号牧草場と直線
29	新Y・C-25・26	86.0	—	31.0	平盤傾内形	*	—	土砂の上置
30	*	—	—	29	*	*	—	14号牧草場と直線
31	7号牧草場	107.0	100	70	平盤傾外方形	*	—	7号牧草場へ傾上置及び傾斜下り一段下傾斜あり、土
32	新Y・E	121.5	75.0	40	平盤傾内形	*	—	傾上置Y、上置する

















表 1-1 自由・平等時代の選出士と投票率(%)

年	選挙	選挙区	投票率	自由	平等	投票率													
1870年代	第1回	第1区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第2回	第2区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第3回	第3区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第4回	第4区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第5回	第5区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第6回	第6区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
	第7回	第7区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第8回	第8区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第9回	第9区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第10回	第10区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
1880年代	第11回	第11区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第12回	第12区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第13回	第13区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第14回	第14区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第15回	第15区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第16回	第16区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第17回	第17区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第18回	第18区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第19回	第19区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第20回	第20区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
1890年代	第21回	第21区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第22回	第22区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第23回	第23区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第24回	第24区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第25回	第25区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第26回	第26区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第27回	第27区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第28回	第28区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第29回	第29区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	第30回	第30区	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	

表7-5 土質検査結果

区 画	図面No	検査箇所	深 (cm)			調査(打)	土 上 記 置	備 考
			深 3	深 6	深 9			
20号住	48-15	南	18.6	4.9	5.6	200	粘土上層	つぎ表層の性状
+	48-16	北	6.9	9.5	4.9	190	粘土中層	+
+	48-17	+	3.2	3.7	3.2	90	+	つぎ表層の性状
20号住	48-12	上中層	18.6	19.5	5.9	180	+	調査一部欠損、調査結果に反映あり
+	48-13	北	3.5	3.7	2.8	10	+	
20号住	50-4	南	3.8	4.4	1.8	30	+	調査部に反映あり
土質検査場	48-1	南	4.45	4.4	3.1	40	+	一部欠損、調査結果に反映あり
+	48-2	南	6.3	6.9	2.4	10	+	一部欠損、調査結果に反映あり
+	48-4	+	7.4	6.9	4.3	100	+	調査終了直前までの調査が行われていた
+	48-5	北	3.85	3.85	12.85	10	+	
+	47-8	北	6.45	5.8	1.0	110	+	調査部に反映あり
+	47-10	南	6.2	3.8	2.9	90	+	+

表7-6 その他の土質品

区 画	図面No	検査箇所	深 (cm)			調査(打)	土 上 記 置	備 考
			深 3	深 6	深 9			
土質検査場	48-1	調査部中	1.95	1.45	6.7	21	第4層 暗褐色土層中	
+	47-7	中層	6.8	7.2	6.95	70	第4層 暗褐色土層中	中央土質が土質の一部が不明
+	47-8	+	6.4	6.1	1.95	90	+	中央土質が土質の一部が不明、47-7と類似・構成が類似、調査終了
20号住	48-1	調査部	5.2	4.95	1.1	37	粘土中層	泥層

表 1-10 國土時代の遺跡出土の調査年度別

遺 跡	調査年	出 発 地	種 類	敷 地 (m <sup>2</sup> )			調査日	調査内容	備 考
				長	幅	面積			
1号墳	昭和3	伊賀町	古墳(古墳)	18.5	9.5	1.8	1965	遺跡	内宮一帯調査、中核部付近で出土している
	昭和4	伊賀町	古墳(古墳)	13.8	9.4	1.3	1965	伊賀町	伊賀一帯調査
	昭和4	伊賀町	古墳(古墳)	18.2	9.2	1.7	1965	伊賀町	伊賀町、伊賀一帯調査
	昭和4	伊賀町	古墳(古墳)	9.4	4.15	1.3	79	伊賀町	伊賀一帯調査
	昭和5	伊賀町	古墳(古墳)	11.8	9.9	1.2	80	伊賀町	内宮一帯調査、伊賀一帯調査
	昭和7	伊賀町	古墳(古墳)	13.25	4.5	0.6	79	伊賀町	伊賀一帯調査
2号墳	昭和8	伊賀町	古墳(古墳)	9.4	4.9	1.45	1965	伊賀町	伊賀一帯調査
	昭和8	伊賀町	古墳(古墳)	7.8	9.8	1.3	80	伊賀町	伊賀一帯調査
3号墳	昭和15	伊賀町	古墳(古墳)	11.5	6.4	0.7	1969	伊賀町	伊賀一帯調査
	昭和16	伊賀町	古墳(古墳)	11.8	9.9	0.7	80	伊賀町	伊賀町、伊賀一帯調査
	昭和17	伊賀町	古墳(古墳)	11.5	9.9	0.2	1978	伊賀町	伊賀一帯調査
	昭和18	伊賀町	古墳(古墳)	9.5	9.9	0.78	81	伊賀町	伊賀一帯調査
	昭和19	伊賀町	古墳(古墳)	12.2	9.4	0.8	1979	伊賀町	伊賀一帯調査
	昭和24	伊賀町	古墳(古墳)	11.9	4.7	1.3	88	伊賀町	伊賀町、伊賀一帯調査、伊賀一帯調査
4号墳	昭和22	伊賀町	古墳(古墳)	9.25	11.5	1.28	1981	伊賀町	伊賀町調査
	昭和25	伊賀町	古墳(古墳)	11.8	4.5	0.8	79	伊賀町	伊賀町調査
5号墳	昭和14	伊賀町	古墳(古墳)	9.4	1.4	0.44	7	伊賀町	伊賀町
	昭和8	伊賀町	古墳(古墳)	12.2	9.1	0.8	79	伊賀町	伊賀町、伊賀一帯調査
6号墳	昭和4	伊賀町	古墳(古墳)	12.7	3.75	0.7	79	伊賀町	伊賀町調査、伊賀町調査
	昭和4	伊賀町	古墳(古墳)	11.8	3.1	1.8	79	伊賀町	伊賀町調査
7号墳	昭和8	伊賀町	古墳(古墳)	1.89	1.45	0.25	7	伊賀町	伊賀町
	昭和6	伊賀町	古墳(古墳)	11.8	6.2	0.2	489	伊賀町	伊賀町調査
8号墳	昭和7	伊賀町	古墳(古墳)	102.10	9.9	0.1	1963	伊賀町	伊賀町、伊賀町調査
	昭和8	伊賀町	古墳(古墳)	11.25	7.8	4.45	1979	伊賀町	伊賀町調査
	昭和8	伊賀町	古墳(古墳)	13.11	3.1	1.3	1.8	伊賀町	伊賀町調査、伊賀町調査、伊賀町調査
9号墳	昭和15	伊賀町	古墳(古墳)	17.9	9.1	0.7	433	伊賀町	伊賀町調査
	昭和18	伊賀町	古墳(古墳)	11.8	6.2	1.3	138	伊賀町	伊賀町調査、伊賀町調査
	昭和20	伊賀町	古墳(古墳)	9.9	7.9	1.9	114	伊賀町	伊賀町調査
	昭和21	伊賀町	古墳(古墳)	14.2	9.8	1.8	1968	伊賀町	伊賀町調査
	昭和22	伊賀町	古墳(古墳)	12.7	4.1	1.4	87	伊賀町	伊賀町調査
	昭和22	伊賀町	古墳(古墳)	12.2	4.8	1.1	87	伊賀町	伊賀町調査
	昭和24	伊賀町	古墳(古墳)	7.1	9.5	1.3	86	伊賀町	伊賀町調査
	昭和25	伊賀町	古墳(古墳)	11.8	9.2	0.9	88	伊賀町	伊賀町調査
	昭和26	伊賀町	古墳(古墳)	4.2	9.9	1.3	79	伊賀町	伊賀町調査
	昭和27	伊賀町	古墳(古墳)	11.8	9.4	1.1	1981	伊賀町	伊賀町調査、伊賀町調査、伊賀町調査
	昭和28	伊賀町	古墳(古墳)	7.3	12.3	1.3	198	伊賀町	伊賀町調査
	昭和28	伊賀町	古墳(古墳)	1.2	9.3	1.1	199	伊賀町	伊賀町調査
	昭和28	伊賀町	古墳(古墳)	11.15	5.17	11.15	1983	伊賀町	伊賀町調査、伊賀町調査
	昭和28	伊賀町	古墳(古墳)	11.15	9.3	1.8	1983	伊賀町	伊賀町調査、伊賀町調査、伊賀町調査
	昭和28	伊賀町	古墳(古墳)	11.1	11.15	0.3	198	伊賀町	伊賀町調査

表1-10 南北朝時代の遺構および重要建造物表

遺 構	遺構名	所在地	面 積(m <sup>2</sup> )			建造年	所在施設	備 考	
			敷 地	幅 員	建 坪				
石塔	34-1	行願石塔	6.0×7.0(石塔)	42.0	7.2	1.2	120	龍王寺塔	遺跡・石塔
	34-2	+	+	42.0	7.2	1.2	120	+	西条一徳坊
	34-3	遺跡石塔	跡 遺	7.4	11.2	2.1	120	+	
	34-4	石 塔	6.0×7.0(石塔)	7.2	6.8	1.2	80	+	
石塔	34-5a	行願石塔	跡 遺	42.6	7.8	1.8	120	+	西条一徳坊、中層に遺構
	34-5b	+	+	42.1	7.8	1.8	120	龍王寺塔	遺跡・石塔、中層に遺構
	34-5c	+	6.0×7.0(石塔)	11.7	4.2	1.4	80	+	西条一徳坊、中層に遺構
	34-6	+	跡 遺	11.7	6.1	2.1	120	龍王寺塔	西条一徳坊、中層に遺構
	34-7	遺 跡	+	18.2	9.1	1.8	80	+	
	34-8	+	6.0×7.0(石塔)	11.8	3.4	0.8	80	+	龍崎、中層に遺構
	34-9	遺 跡	6.0×7.0(石塔)	18.2	4.4	1.2	120	龍王寺塔	一徳石塔
	34-10	+	遺跡	1.8	1.2	0.6	2	龍王寺塔	龍崎遺跡
	34-11	遺跡石塔	6.0×7.0(石塔)	14.2	4.2	1.4	80	+	龍崎、中層に遺
	石塔	34-12	行願石塔	+	42.3	6.8	2.1	120	龍崎遺跡
34-13		+	+	44.7	9.2	2.5	120	+	龍崎一徳坊
34-14		+	+	11.8	3.4	1.2	80	龍王寺塔	龍崎一徳坊
34-15		石 塔	遺跡	2.12	1.8	0.4	2	+	龍崎
石塔	74-1a	行願石塔	6.0×7.0(石塔)	11.5	7.2	1.4	120	+	遺跡・石塔
	74-1b	石 塔	跡 遺	4.8	7.4	0.8	80	龍王寺塔	
	74-1c	+	6.0×7.0(石塔)	4.2	6.4	0.8	12	+	
	74-1d	+	跡 遺	3.8	4.3	0.8	80	龍王寺塔	
	74-1e	遺跡石塔	+	4.8	6.8	1.2	74	龍王寺塔	
	74-2	石 塔	6.0×7.0(石塔)	11.2	2.8	0.4	120	龍王寺塔	龍崎遺跡
	74-3	石 塔	6.0×7.0(石塔)	6.8	6.8	1.4	120	+	
	74-4	遺 跡	跡 遺	6.1	7.8	0.8	80	+	龍崎遺跡
	74-5	+	遺跡	6.8	7.4	1.1	120	龍王寺塔	
	74-6	+	遺跡	16.8	6.7	0.8	80	+	一徳石塔
	74-7	石 塔	遺跡	12.2	11.4	16.1	1,400	龍王寺塔	西条一徳坊、龍王遺跡
	74-8	遺 跡	遺跡	12.8	11.8	6.1	1,400	龍王寺塔	西条一徳坊
	石塔	84-1	石 塔	遺跡	1.15	1.3	0.4	2	+
84-2		行願石塔	6.0×7.0(石塔)	11.8	6.4	1.4	120	龍王寺塔	
84-3		+	跡 遺	11.4	3.4	1.4	120	龍王寺塔	遺跡・石塔
石塔	84-4	+	+	16.1	6.4	0.8	80	龍王寺塔	西条一徳坊
	84-5	+	+	11.2	7.1	0.8	80	龍王寺塔	遺跡・石塔
	84-6	+	6.0×7.0(石塔)	6.7	4.2	1.2	80	龍王寺塔	遺跡・石塔
	84-7	+	+	17.8	6.2	1.2	120	龍王寺塔	西条一徳坊
	84-8	+	6.0×7.0(石塔)	11.8	3.7	1.2	120	龍王寺塔	遺跡・石塔
	84-9	+	跡 遺	11.7	4.8	1.8	120	龍王寺塔	西条一徳坊
	84-10	+	+	16.7	6.4	1.4	120	龍王寺塔	一徳石塔
	84-11	遺 跡	+	6.2	6.8	1.4	118	龍王寺塔	
	84-12	+	+	4.8	6.4	1.2	120	龍王寺塔	
	84-13	+	+	6.3	6.8	1.1	80	龍王寺塔	
	84-14	+	+	12.1	4.8	0.8	84	龍王寺塔	遺跡

図10 縄文時代の遺跡出土品種類別表

遺 跡	埋蔵品	分 類	形 質	容 積(ml)			埋蔵(年)	出土位置	備 考
				高 さ	幅	厚 さ			
縄文期	跡-17	土 器	壺 形	6.7	4.0	0.85	44	跡-17	
	跡-17	土 器	?	6.7	10.2	1.5	100	跡-17	
	跡-24	?	?	7.1	11.4	1.9	131	跡-17	
	跡-25	?	?	6.2	11.0	1.8	139	跡-17	
	跡-14	土 器	丸型(丸型)	5.8	5.5	0.76	31	跡-14	
	跡-17	?	丸型(丸型)	6.8	2.7	1.1	39	跡-17	
	跡-18	土 器	溝 形	2.2	1.9	0.3	1	跡-18	埋蔵品、灰層
	跡-18	?	?	3.4	1.45	0.3	2	跡-17	埋蔵
	跡-19	?	平 形	2.47	1.3	0.24	121	跡-17	埋蔵、一般土器
	跡-22	土 器	溝 形	1.22	0.75	0.45	0.4	跡-18	
	跡-22	土 器	?	3.2	1.7	0.8	101	跡-18	一般土器
	跡-22	土 器	丸型(丸型)	14.45	4.7	1.6	160	跡-18	埋蔵品、埋蔵品埋蔵品
	跡-24	?	?	12.46	5.86	4.75	140	跡-18	?
	跡-25	?	?	16.46	4.7	1.7	130	跡-18	埋蔵、埋蔵品
	跡-25	?	?	16.22	4.22	1.1	110	跡-18	埋蔵品
	跡-27	?	?	12.47	4.7	1.24	120	跡-18	埋蔵品、埋蔵品埋蔵品
	跡-28	?	?	16.22	4.22	1.1	110	跡-18	?
	跡-28	土 器	丸型(丸型)	6.28	3.2	1.2	100	跡-18	二分型したものをまたが埋蔵物として出土品埋蔵品
	跡-29	?	丸型(丸型)	6.7	3.1	1.25	42	跡-18	

図11 縄文時代の遺跡出土品種類別表

遺 跡	埋蔵品	分 類	形 質	容 積(ml)			埋蔵(年)	出土位置	備 考
				高 さ	幅	厚 さ			
縄文期	跡-4	土 器	壺 形	13.8	12.4	2.4	106	跡-4中層	埋蔵品埋蔵品埋蔵品
	跡-5	?	丸型(丸型)	11.6	4.2	1.2	119	?	埋蔵品埋蔵品
	跡-6	?	壺 形	11.2	9.4	2.1	109	?	
	跡-7	?	?	8.26	6.0	1.2	70	?	埋蔵品埋蔵品
縄文期	跡-8	土 器	?	6.2	6.4	1.22	66	?	埋蔵品埋蔵品
縄文期	跡-2	土 器	丸型(丸型)	3.8	1.7	0.2	1	埋蔵	
	跡-4	?	?	3.26	2.5	0.2	4	?	埋蔵品埋蔵品
縄文期	跡-8	土 器	壺 形	1.7	12.4	0.9	70	埋蔵品上	埋蔵品埋蔵品
	跡-7	土 器	溝 形	1.8	2.9	0.36	54	?	?

図12 縄文時代の遺跡出土品種類別表

遺 跡	埋蔵品	分 類	容 積(ml)			埋蔵(年)	出土位置	備 考
			高 さ	幅	厚 さ			
縄文期	跡-2	土 器	3.8	1.7	0.2	1	埋蔵品中層	埋蔵品埋蔵品
縄文期	跡-2	土 器	3.8			4	埋蔵品中層	埋蔵品埋蔵品

表12: 奈良-平史時代の遺跡出土品目録表

遺 跡	遺 跡 名	分 類	遺 跡 (m)		遺跡(㎡)	出土位置	備 考	
			遺 跡	遺 跡				
1号墳	遺-11	壙	10.1	2.1	6.4	34.8	遺跡出土	安部:「遺」, 平史
2号墳	遺-24	平 壙	3.05	0.6	—	3.8	中々	
3号墳	遺-12	周 子	12.8	1.8	6.3	7.8	中壙	
4号墳	遺-4	壙	14.7	3.05	6.3	30.8	遺跡出土	
5号墳	遺-24	周 子	12.8	1.1	6.3	8	壙上中壙	
6号墳	遺-8	*	—	1.8	6.45	12	*	一箇方壙
	遺-9	*	12.2	1.2	6.3	8	*	

表13: 出土品目録一覧表

No	遺 跡 (m)		遺跡(㎡)	出 土 位 置	備 考	
	遺 跡	遺 跡				
1	2.8	1.1	1.7	9	4号墳遺跡上	
2	2.8	5.6	2.8	100	1号墳土 (L)	
3	2.7	2.6	2.8	11	1号墳土 (L)	
4	2.2	6.5	3.6	100	*	
5	4.8	5.1	3.7	34	*	
6	5.8	5.9	4.4	104	*	
7	5.8	5.8	4.1	102	遺-10	1号墳壙
8	6.8	6.7	3.7	48	遺-10	1号墳壙
9	6.5	4.6	3.5	138	2号墳土 (L)	
10	1.1	4.9	1.4	35	*	
11	5.5	5.1	3.8	88	*	
12	3.4	3.8	1.2	34	遺-7-F-10-10	

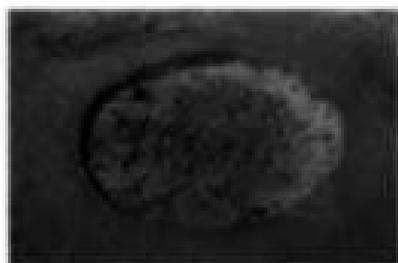
表14: 遺跡外出土品目録表

遺跡No	分 類	部 位	遺 跡 (m)		遺跡(㎡)	出 土 位 置	備 考	
			遺 跡	遺 跡				
遺-1	壙 子	壙 子	6.8	7.4	2.75	204	遺跡-10	
遺-2	*	*	6.8	6.2	24.4	206	遺跡-10	
遺-3	*	*	7.45	17.15	3.4	1060	遺跡-10	一箇方壙
遺-4	壙 子	壙 子(壙)壙	12.8	5.25	1.85	1000	遺跡-10	*
遺-5	壙 子(壙)壙	壙 子(壙)壙	15.1	12.75	4.4	1040	遺跡-10	1号墳外, 1号墳壙土?
遺-6	*	*	6.85	4.1	1.35	1110	遺跡-10	遺跡-10外, 1号墳壙土?
遺-7	*	*	14.25	14.15	11.25	1240	遺跡-10	遺跡-10外, 1号墳壙土?

表15: 遺跡外出土品目録表

遺跡No	分 類	遺 跡 (m)		遺跡(㎡)	出 土 位 置	備 考	
		遺 跡	遺 跡				
遺-1	壙	14.4	4.1	6.3	43	遺-10-F-10-10	
遺-2	*	6.8	3.8	9.4	10	遺-10-F-10-11	「遺」, 平史
遺-3	壙 壙	12.85	6.4	—	14	遺-10-F-10-15	
遺-4	*	5.1	6.5	—	4	遺-10-F-10-15	
遺-5	*	6.8	1.5	—	5	遺-10-F-7-8	

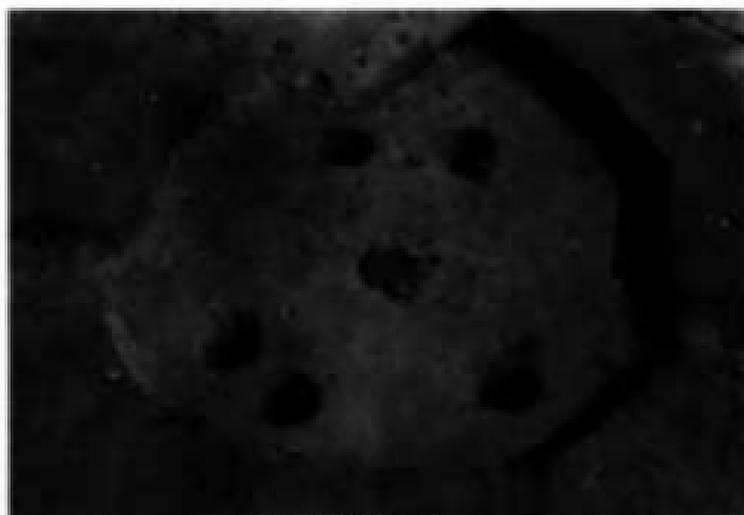
# 圖 版



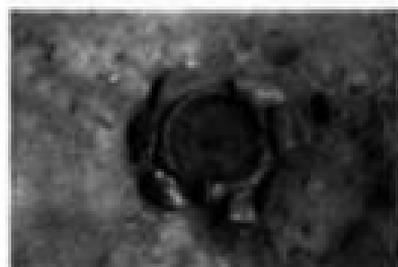
2000X (0.25)



2000X (0.25)



2000X (0.25)



2000X (0.25)



2000X (0.25)

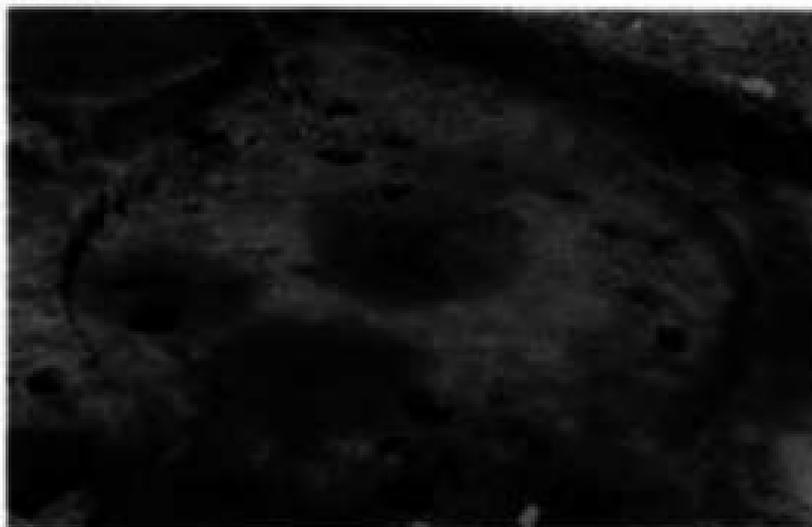


Figure 1



Figure 2



Figure 3



Figure 4

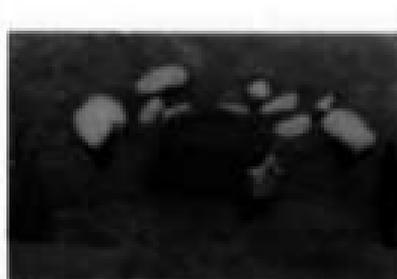


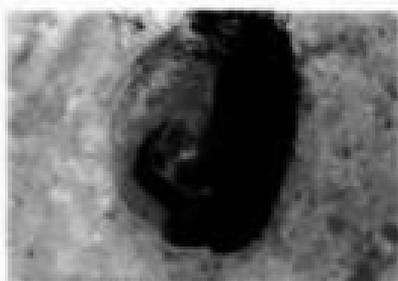
Figure 5



图版 3 图 1



图版 3 图 2



图版 3 图 3



图版 3 图 4



图版 3 图 5

圖 4



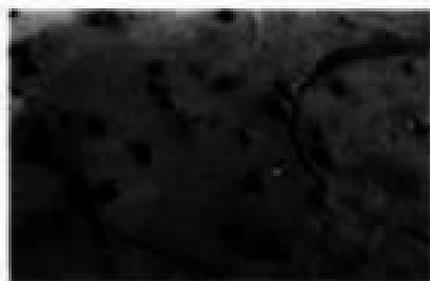
圓形殼類 (橫切面)



圓形殼類 (切面)



圓形殼類 (縱切面)



圓形殼類 (橫切面)



圓形殼類 (切面)



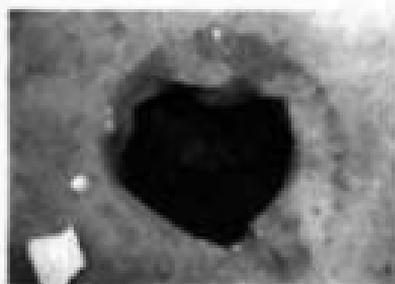
圖・加野作田圃 (攝於2月)



加野作田圃 草履



加野作田圃 遺物の土貝類



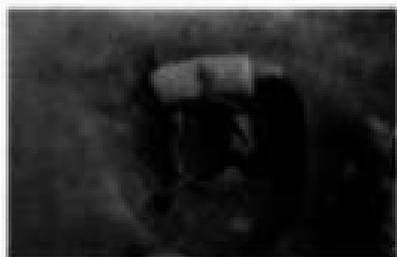
加野作田圃 土坑に遺物の土貝類



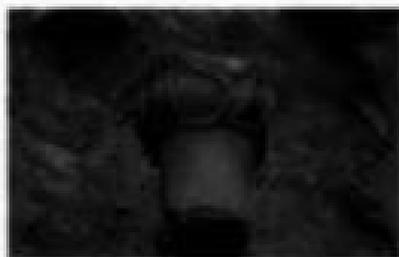
加野作田圃 遺物の土貝類



24号包埋物 (東方2号)



24号包埋物, 中央部

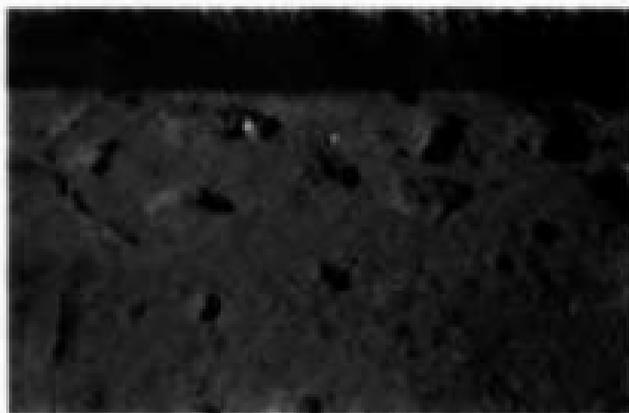


24号包埋物, 埋物内上部部



24号包埋物, 埋物内上部部





STATION 18649



STATION 18649



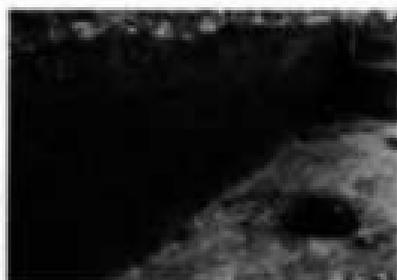
STATION 18649



圖·38·40号化石標本 (標本27)



40号化石標本 腹節以上部分



40号化石標本 上層腹節



40号化石標本 (標本27)

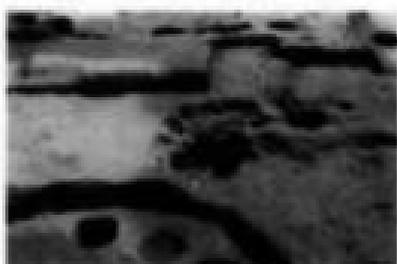


新地遺址 (攝於2/5)

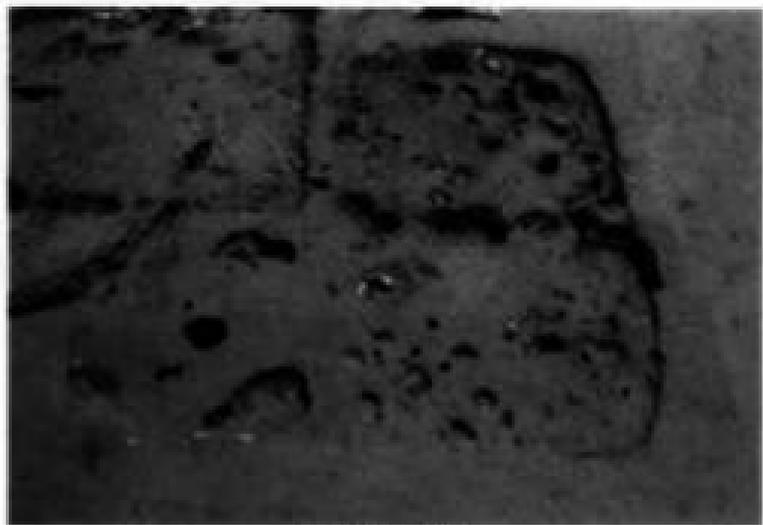


新地遺址 (攝於1/10)

圖 10



200X



400X (圖 10.2.1)



400X (圖 10.2.2)



400X (圖 10.2.3)



1950000 (19529)



1950000 (19531)



1950000 (19532)



200倍視野 植物の上皮部



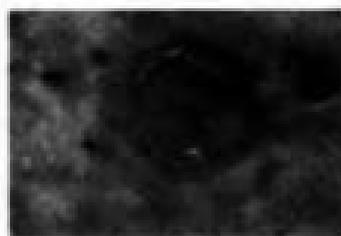
200倍視野 (植物の上皮)



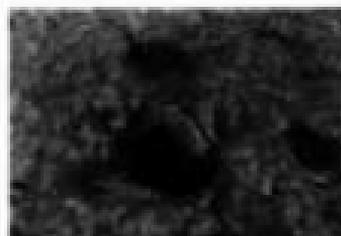
200倍視野 呼吸



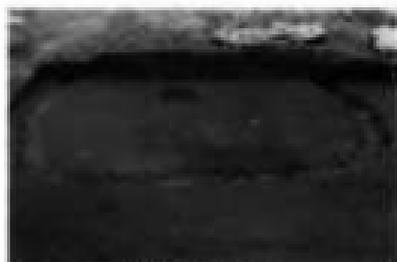
200倍視野 (植物の上皮)



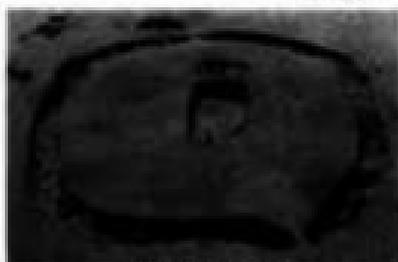
200倍視野 呼吸



200倍視野 植物の上皮部



1 号植物標本 (標本 2 号)



2 号植物標本 (標本 2 号)



3 号植物標本 (A 標本 2 号)



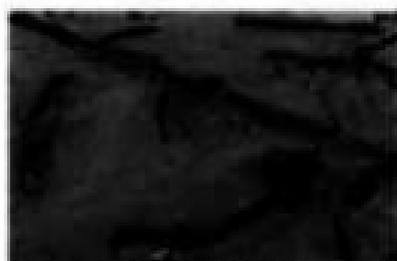
4 号植物標本



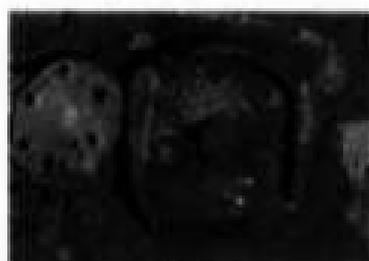
5 号植物標本 (標本 2 号)



6 号植物標本 (標本 2 号)



7 号植物標本 (標本 2 号)



8 号植物標本



1 号位照相 (放大100倍)



2 号位照相 (放大100倍)



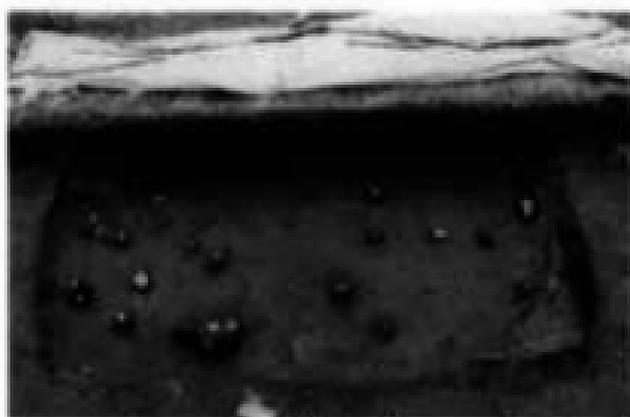
3 号位照相 (放大100倍)



4 号位照相 2000 (放大 1000 倍) (放大100倍)



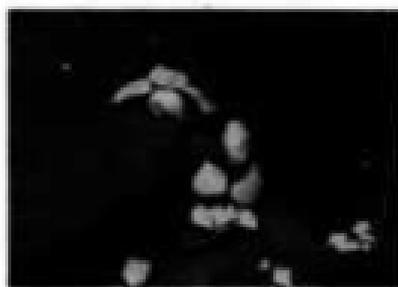
5 号位照相 2000 (放大 1000 倍)



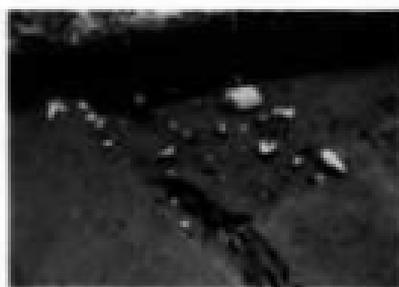
⑧号標本(北平2ノ1)



⑧号標本(西平2ノ1)



⑧号標本(オマド標本)



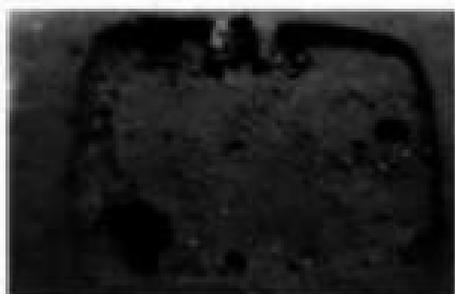
⑧号標本(瀧物標本)



11510000 (65121)



11510000 497



11510000 (65121)



11510000 497



11510000 20001000



11510000 497



11510000 497 (10121)



11999号 腹壳(正)



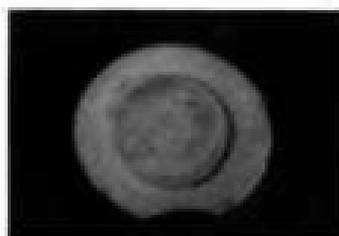
11999号 腹壳(正)



11999号 壳+P



11999号 壳+P(腹面)



11999号 腹壳(正)壳面



11999号 腹壳(正)壳面



12号植物体 (西条山等)



17号植物体 果+子



18号植物体 (西条山等)



20号植物体 果+子



21・22号植物体 (西条山等)



23号植物体 植物体+果體



25号植物体 植物体+果體



27号植物体 果+子



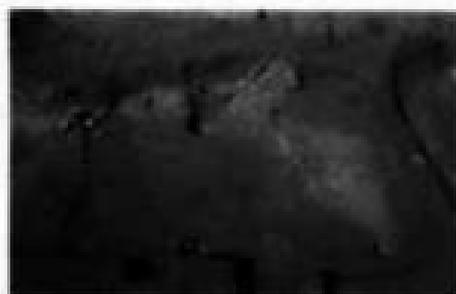
圖中位號 4-77



圖中位號 (集方17)



圖中位號 4-77



圖中位號 (集方17)



圖中位號 4-77



圖中位號 4-77



圖中位號 遺物上100



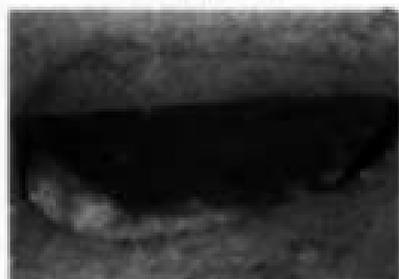
2020年10月 2020年10月



2020年10月 2020年10月



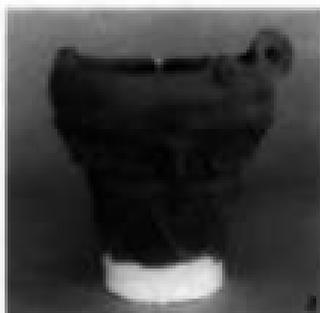
2020年10月



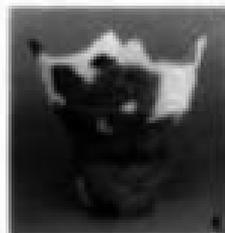
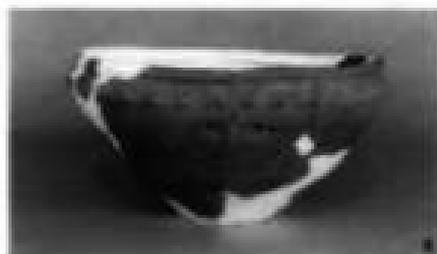
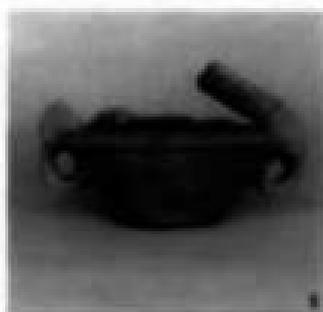
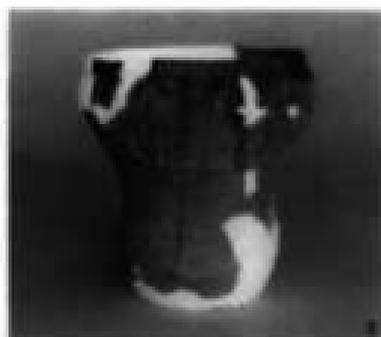
2020年10月



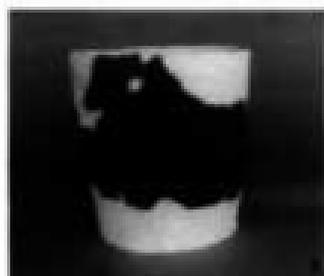
2020年10月 2020年10月



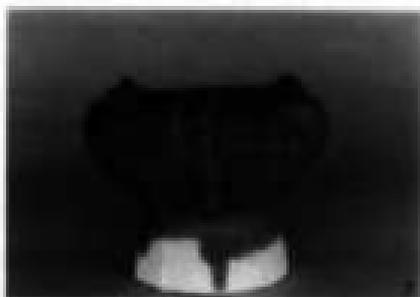
1. 13号石室の土土器 2. 24号石室の土土器  
3. 25号石室の土土器 4-6. 26号石室の土土器  
7. 27号石室の土土器 8. 28号石室の土土器



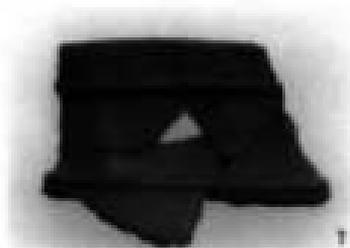
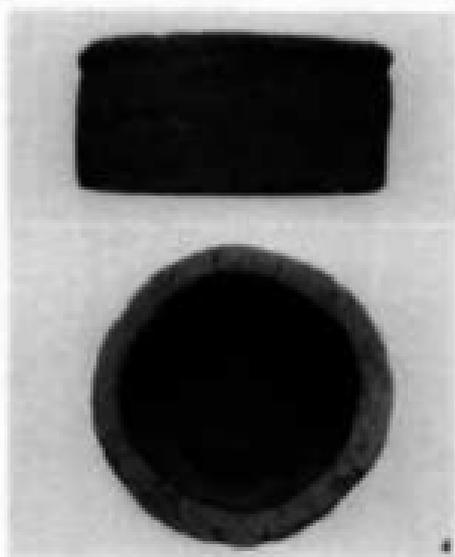
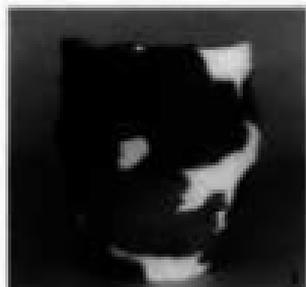
1-4, 27004 B.L. 5-8, 27005 B.L.



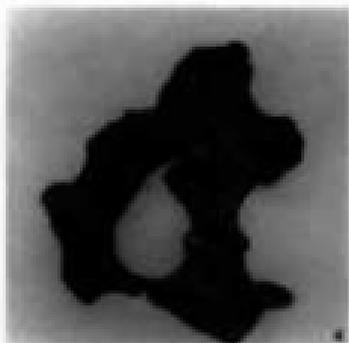
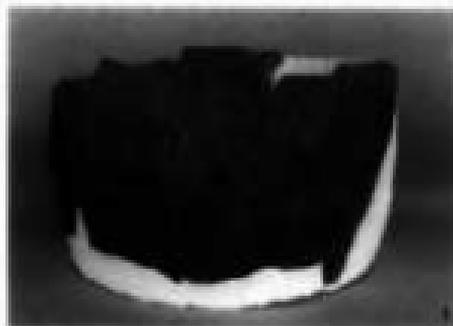
1—3, 设计模型图 正视图 4, 设计模型图 俯视图 5—6, 设计模型图 侧视图



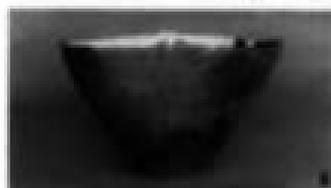
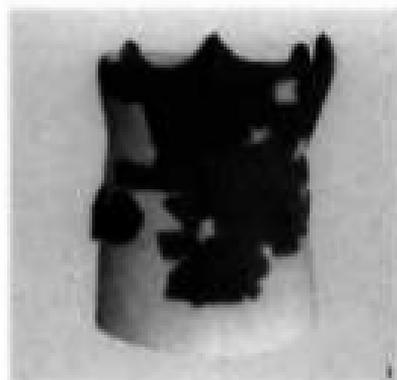
1-8. SPONGE BLENDS & SPONGE FIBRILS



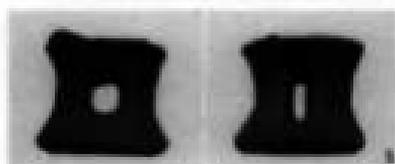
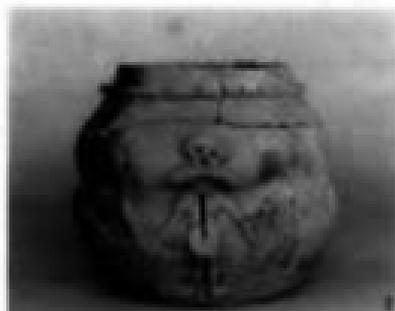
1、22号纹瓦片 西土土器 2、3、22号纹瓦片 西土土器  
4、22号纹瓦片 西土土器 5、6、24号纹瓦片 西土土器



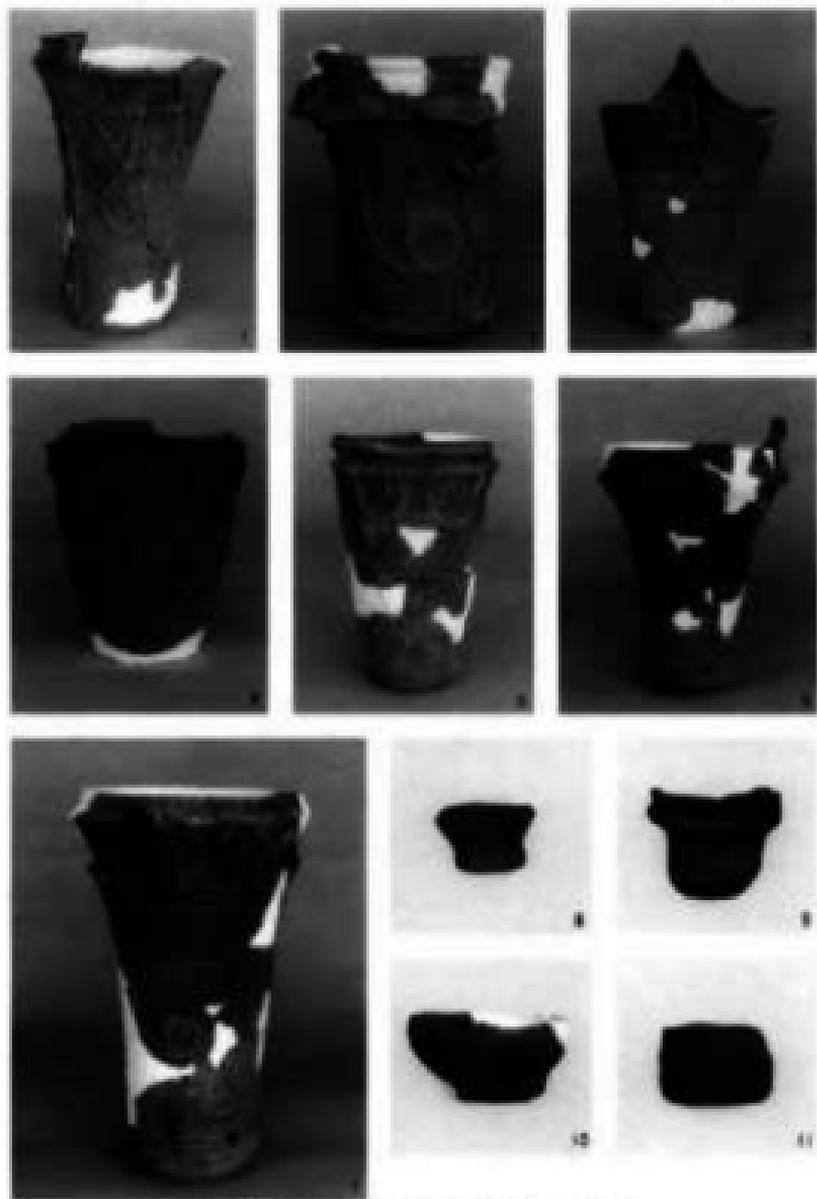
1. 200倍倍率の 浮遊体観察写真 2-6. 200倍倍率の 透視写真  
 7-8. 200倍倍率の 透視写真 9. 200倍倍率の 透視写真



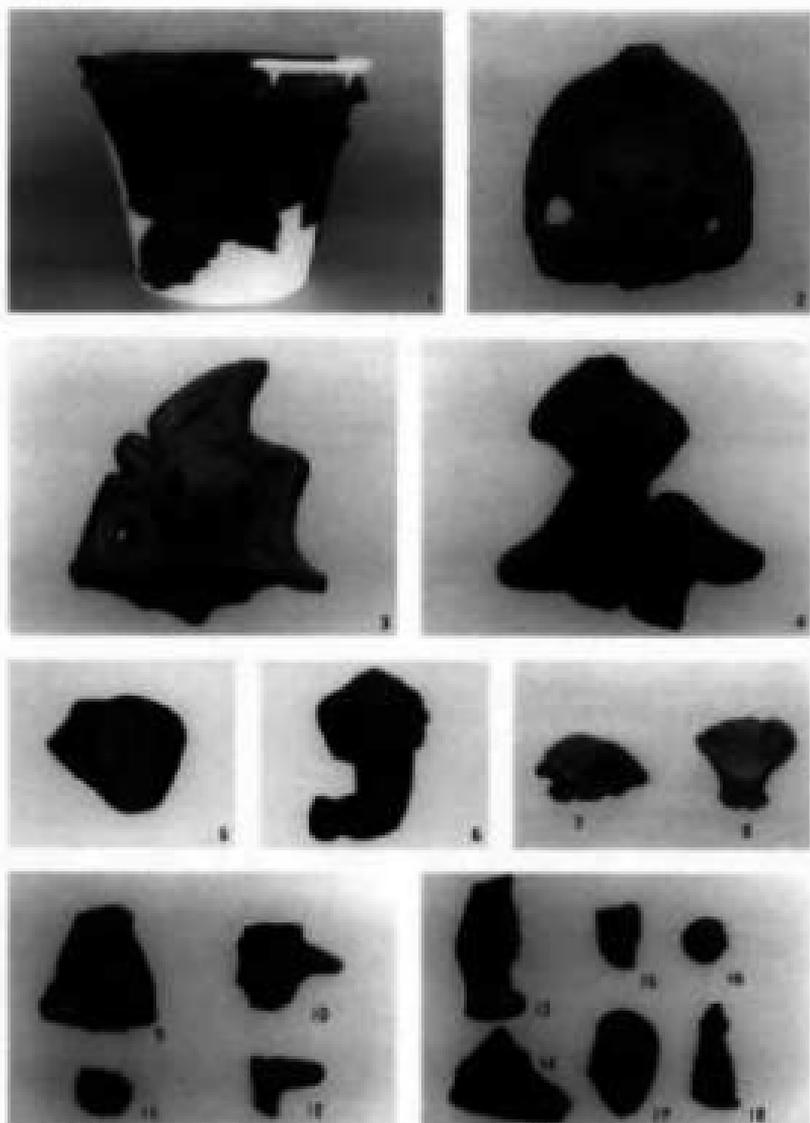
1-8. 27°N 135°E. 25.1.120



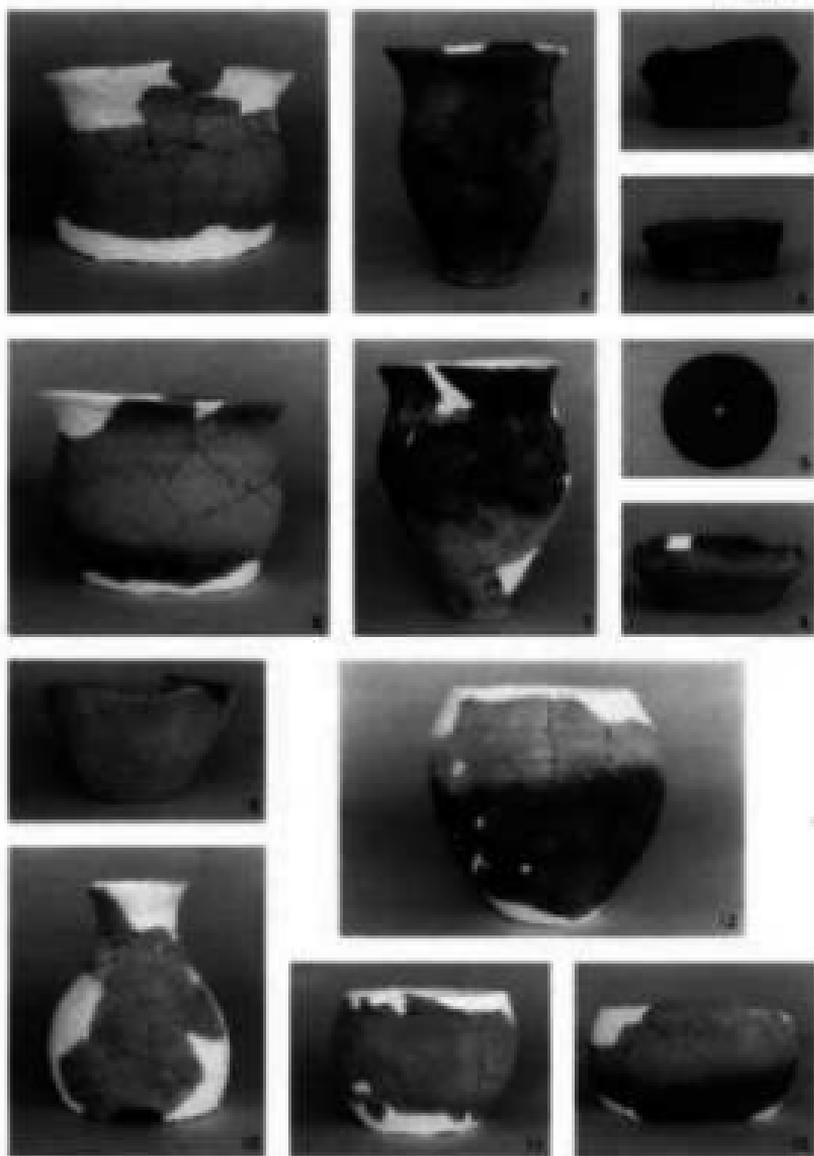
1-5, 湖南长沙出土陶器 6, 湖南长沙出土陶器 7-8, 湖南长沙出土陶器



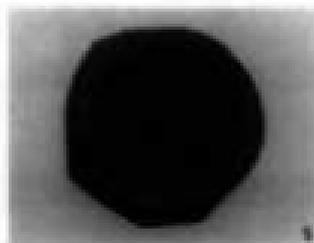
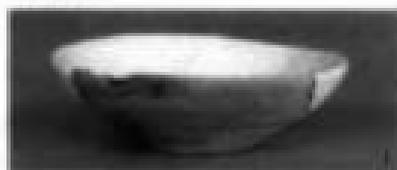
1-7, 特等薄层 西上石层 8-11, 西石层 西上石层



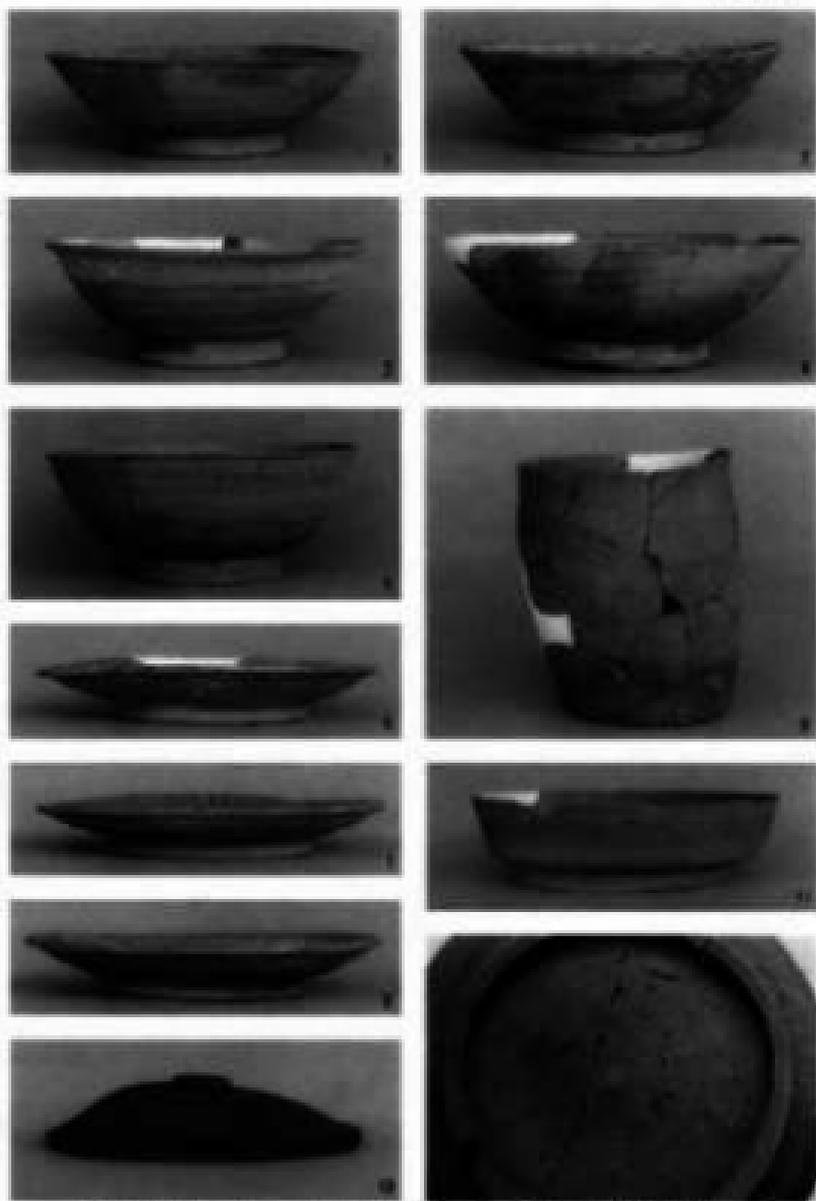
1. 25号位所産 壳上土質品 2. 25号位所産 壳上土質品(肥子) 3. 24号位所産 細肋肥子 4. 24号位所産 壳上土質品 5-6. 25号位所産 壳上土質品 7-8. 25号位所産 壳上土質品(細肋) 9-11. 25号位所産 壳上土質品(細肋) 12. 26号位所産 壳上土質品(細肋) 13-14. 26号位所産 壳上土質品(細肋) 15. 24号位所産 壳上土質品(細肋) 17-18. 25号位所産 壳上土質品(細肋)



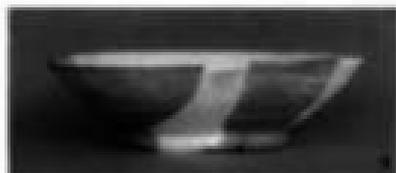
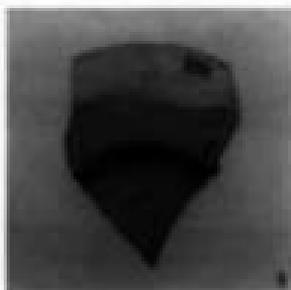
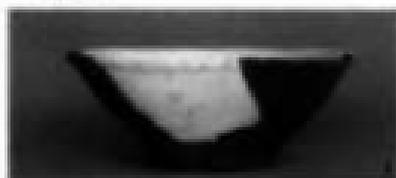
1. 19号作器用 中級埋設土器 2. 19号作器用 高土土器 3-4. 19号作器用 高土土器 5. 19号作器用 高土土器 6. 19号作器用 中級埋設土器 7-8. 19号作器用 高土土器 9. 19号作器用 中級埋設土器 10-11. 23号作器用 高土土器 12-13. 23号作器用 中級埋設土器



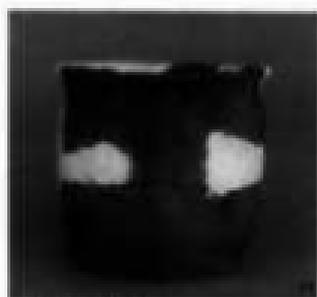
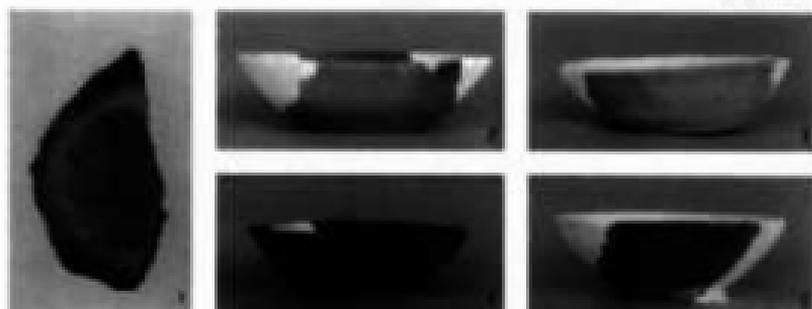
1. 1世纪铜器 出土于图 2-3. 6世纪铜器 出土于图 4. 6世纪铜器 出土于图 5. 6世纪铜器 出土于图 6. 6世纪铜器 出土于图 7. 11世纪铜器 出土于图 8-9. 11世纪铜器 出土于图 10.



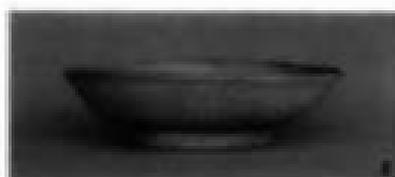
1—7, 11号窑址出 曲阳陶器。8, 12号窑址出 曲阳土器。9—14, 13号窑址出 曲阳土器。



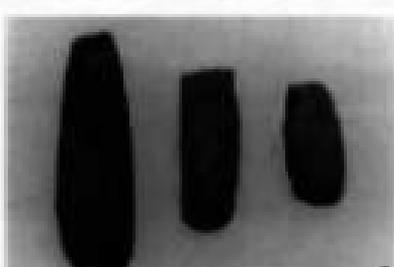
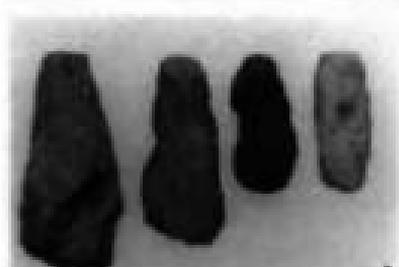
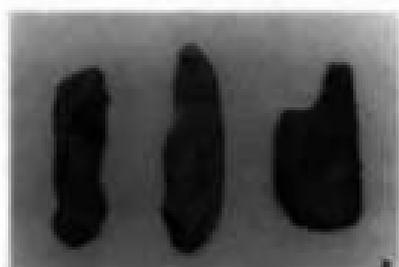
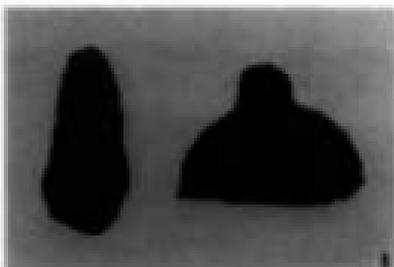
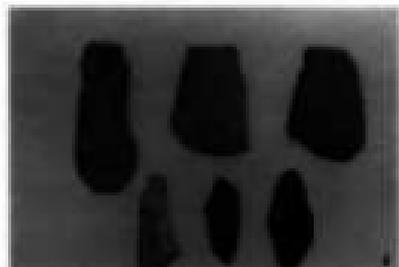
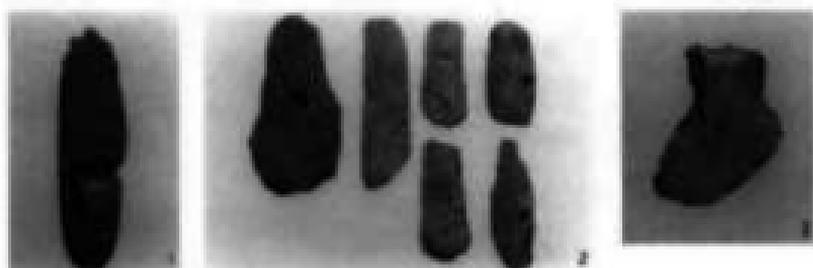
1, 1999R 311B 2-11, 1999R 311B



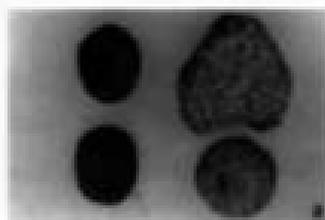
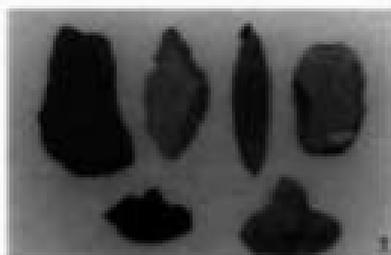
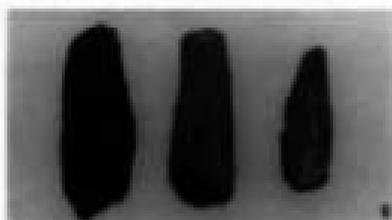
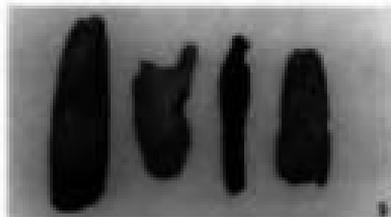
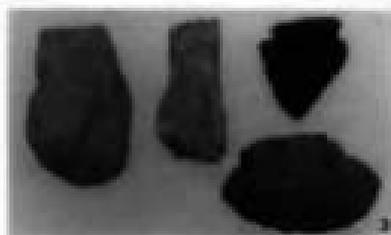
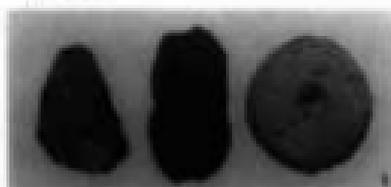
1-2, 170000 0000 3, 00000 0000  
 4-5, 00000 0000 6-10, 00000 0000



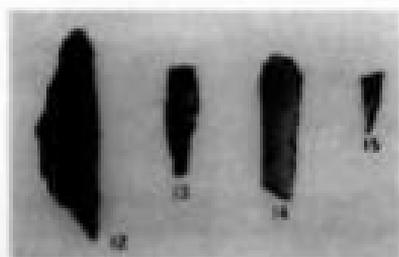
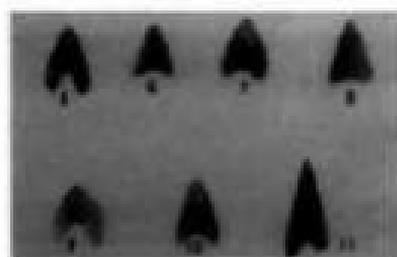
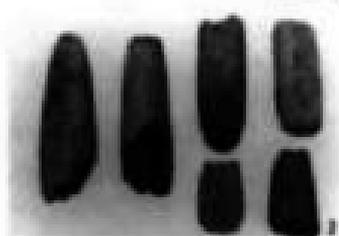
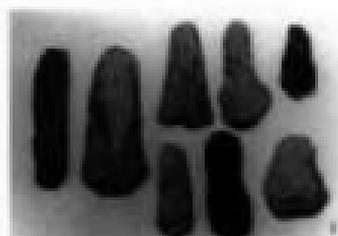
0-2. WOODEN BOWL & WOODEN BOWL 4-6. WOODEN BOWL



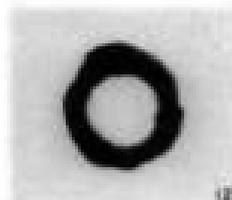
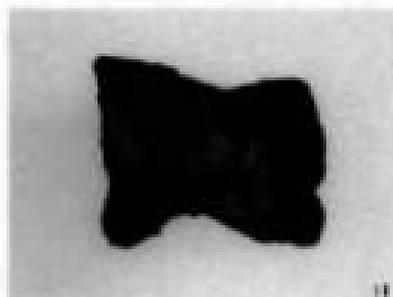
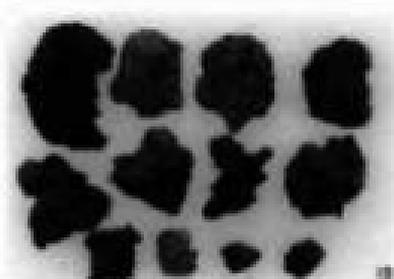
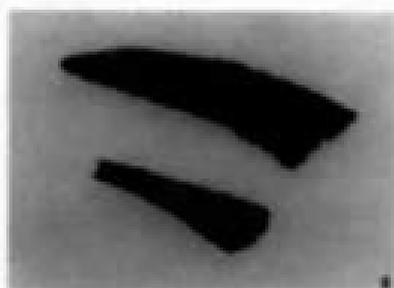
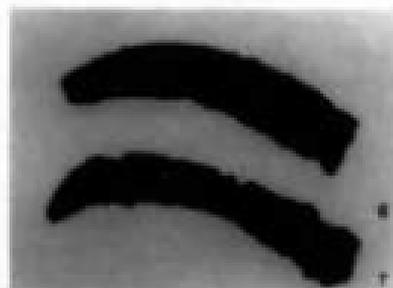
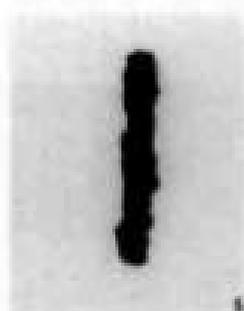
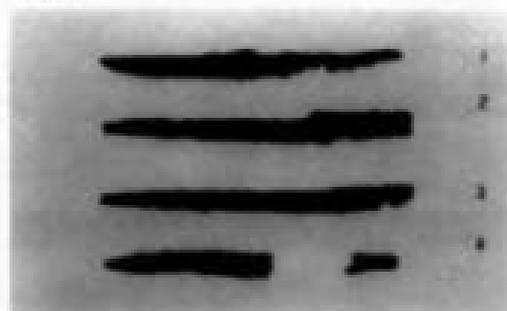
1. SPERM BLOOD 2. SPERM BLOOD 3. SPERM BLOOD  
 4. SPERM BLOOD 5. SPERM BLOOD 6. SPERM BLOOD  
 7. SPERM BLOOD 8-8. SPERM BLOOD



1-2, 20号位层组 压土石层 3, 20号位层组 压土石层 4-6, 20号位层组 压土石层  
 7, 20号位层组 压土石层 7-8, 20号位层组 压土石层 9-10, 20号位层组 压土石层



1—4, 上藤城遺跡 出土石器 5, 27号古墳跡 出土石器 6, 28号古墳跡 出土石器 7, 野宮古墳跡 出土石器 8—11, 上藤城遺跡 出土石器 12, 29号古墳跡 出土不定形石器 13, 30号古墳跡 出土石器 14, 上藤城遺跡 出土石器 15, 上藤城遺跡 出土不定形石器 16, 16号古墳跡 出土石器 17, 28号古墳跡 出土石器 18, 18号古墳跡 出土石器 19, 22号古墳跡 出土石器



1, 2号竹节虫的 前上肢制品 3-5, 同种竹节虫的 后上肢制品 6, 同种竹节虫的 后上肢制品 7, 11号竹节虫的 后上肢制品 8, 20号竹节虫的 后上肢制品 9, 4号竹节虫的 后上肢制品 10-11, 雄蝉的 后上肢制品 12, 雌蝉的 后上肢制品 13, 20号竹节虫的 后上肢制品 14, 2号竹节虫的 后上肢制品



---

国公立大学入学者選考（理）試験問題作成委員会

文係上ノ平漢語

平成十一年五月一日 発行

編 者 長野県上伊那郡高岡村教育委員会

発 行 長野県上伊那郡高岡村教育委員会

印 刷 信友印刷製本株式会社

---

